令和7年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証
工業系分野における高専連携の5年一貫教育プログラム開発・実証

成果報告書

学校法人小山学園 専門学校東京工科自動車大学校

はじめに

本書は、文部科学省が委託した「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の一環である「専門学校と高等学校、教育委員会、企業が協働して教育プログラムを開発するモデル構築事業」の成果報告書です。

この事業の目的は、高校生の進路意識や職業観を育てることと、専門学校生の実践的な学びの質を高めることです。これにより、意欲とスキルの高い人材を育成し、地域産業の中核を担う人材の育成に貢献したいと考えています。

本校は、1969 年に開校した自動車整備士養成の工業系専門学校で、２万人以上の卒業生を自動車業界に送り出しています。また、同法人内には「建築・インテリア」、「情報・IT・Web」、「AI・IoT・データサイエンス」、「バイオテクノロジー」、「環境」の分野を持つ専門学校、東京テクニカルカレッジ（東中野）を設置しており、日本の基幹産業を網羅しています。さらに、125 社（2026 年 2 月現在）の企業が加盟する「後援会」組織があり、就職や教育課程編成委員会などの活動で学園を支援いただいています。

近年、Society5.0 や SDGs、DX、GX など、社会的インフラや未来の就業環境が大きく変わろうとしています。本事業でも、高校の３年間と専門学校の２年から４年間をカバーするため、時代のニーズに対応した教育プログラムの開発が求められました。

今年度は事業の 5 年目にあたり、主に「専門学校 1 年生」を対象とした教育プログラムの開発・実証を行いました。本校の教育ノウハウや後援会企業の協力を得て、「専門的な学びの意味付け」につながる実習プログラムや体験学習を盛り込みました。実証授業の成果や課題は本編で紹介しますが、昨年度まで実証をしてきた高校生への実践プログラムとの接続の上に、職業観の育成やキャリア形成に大きく貢献すると確信しています。

今後は、各分野の職業体験コンテンツを増やし、PDCA サイクルを用いつつ教育コンテンツの質を向上させていきます。また、高専連携の認知拡大、汎用化のため、高校生のキャリア形成に欠かせない高校教員や保護者の理解を深め、サポート体制を構築していきます。

最後に、この報告書が多くの高校、専門学校、企業にとって、今後の教育の指針となることを願っています。

事業責任者
学校法人小山学園　専門学校東京工科自動車大学校
運営本部長　兼　中野校・世田谷校校長　佐藤　康夫

目 次

はじめに

第１章 令和７年度事業概要

１．事業の趣旨・目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

２．事業の背景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

３．開発する教育プログラムの概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

４．実施体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

５．学習ターゲット・目指すべき人材像 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

６．具体的なとりくみ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

（１）ヒアリング ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

（２）実証実験概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

（３）診断アプリ開発 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

７．構成機関・構成委員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

（１）高等学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

（２）行政機関 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

（３）専門学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

（４）企業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

（５）コーディネーター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９

（６）企画推進委員会の構成員（委員） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

（７）プログラム開発ＷＧの構成員（委員） ・・・・・・・・・・・・・・・・２２

（８）課題・分析ＷＧの構成員（委員） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

（９）実証実験ＷＧの構成員（委員） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５

８．会議開催実績 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５

（１）第１回プログラム開発ＷＧ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

（２）第１回企画推進委員会会議 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

（３）第２回プログラム開発ＷＧ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

（４）第３回プログラム開発ＷＧ・第１回実証実験ＷＧ合同会議 ・・・・・・２６

第２章 令和７年度活動詳細

１．企業・高等学校ヒアリング実施内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

（１）実施期間 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
（２）実施先担当部署 等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
（３）手　法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
（４）ヒアリング項目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０
（５）実施件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
２．企業ヒアリング結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
（１）自動車分野 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
（２）建築分野 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４
（３）インテリア分野 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
（４）情報（ＩＴ／ＩｏＴ）分野 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９
（５）ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）分野 ・・・・・・・・・・・・・・４１
（６）環境分野 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４
３．高等学校ヒアリング結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６
４．ヒアリングまとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５３
（１）企業評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５３
（２）高等学校評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５４
５．実証実験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５６
（１）実証実験概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５６
（２）実証実験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５７
５．実証実験アンケート結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６９
（１）自動車分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６９
（２）建築分野 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８８
（３）インテリア分野 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０４
（４）情報（ＩＴ／ＩｏＴ）分野 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１９
（５）ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）分野 ・・・・・・・・・・・・・・１３３
（６）環境分野 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４９
（７）８分ローテーション型業界研究授業 ・・・・・・・・・・・・・・・１６２
６．診断アプリ開発 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６８

第３章 本年度のまとめと次年度へ向けて
１．本年度の取り組み概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７１
（１）企業・高等学校ヒアリング考察 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７１

（２）実証実験受講前と受講後の比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７３
（３）診断アプリの開発 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９５
２．本年度の取り組み結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９５
（１）企業・高等学校ヒアリング結果から見出した評価 ・・・・・・・・・・・１９５
（２）実証実験の実施 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９９
（３）診断アプリ開発 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２００
３．本年度のまとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０１
４．次年度へ向けて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０１

第４章 参考資料
会議録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０５

第１章

令和７年度事業概要

第１章 令和７年度事業概要

１．事業の趣旨・目的

工業高校生の学びの目的意識（キャリア観）やモチベーションには学びが就職につながるというイメージが希薄であり、課題として浮き彫りとなってきている状況であると議論されている（東京都教育庁参考：当該教育プログラムが必要な背景に記載）。そこで、本事業では、高校生時点から具体的な社会のニーズ（＝活躍イメージ）と技術職の魅力を生徒に正しく伝え、職業教育を標榜する教育機関同士が相互の「教育連携」を図ることにより、高校生が具体的な活躍のイメージを持つことで視野を広げ、職業意識の醸成と進路に対する意識や学習意欲を高めることを目指す。魅力ある高等学校教育、専門学校教育の充実を図ることを目的として、「高専一貫教育」のプログラム開発・実証を行う。

日本の基幹産業の自動車や建築、情報、環境等の技術者養成の工業系専門学校「東京工科自動車大学校」と「東京テクニカルカレッジ」が実践している企業連携手法を参考に６職業分野（自動車・情報（ＩＴ／ＩｏＴ）・ＩＴ／ＤＸ・建築・インテリア・環境）において先端技術者養成のプログラムのノウハウを提供して、様々な分野で社会の変化に対応できる「職業人」のキャリア形成を図る。

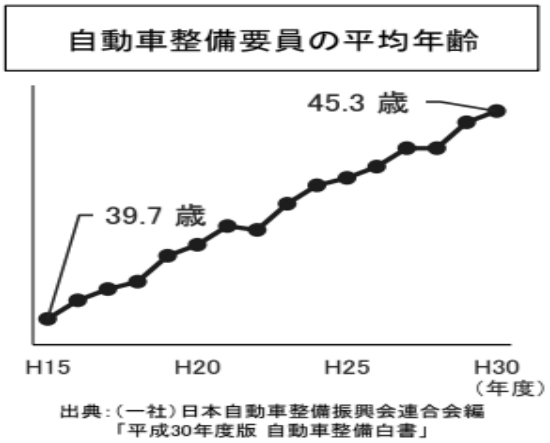
プログラム開発の過程においては、企業・行政の協力を得て、「企業連携授業」を取り入れていくことにより、最先端でリアルな職業体験を取り入れ具体的な活躍イメージの定着を目指す。

本事業で開発した教育プログラムの成果物であるカリキュラムやシラバス・コマシラバス、スキルマップ等はその作成プロセスを含めて対外発信し、他校への普及を図る。

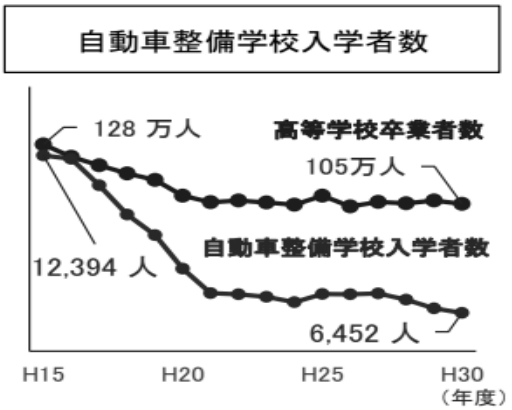
２．事業の背景

人工知能やＩｏＴ等のテクノロジーの急速な発達により、実業高校および工業系専門学校において育成する「職業人」の必要要件も変化の中にある。一方で、テクノロジーが発達すればするほど、製品を安全・安定的に「動かす」ための現場技術者ニーズはより一層高まることが予想され、「未来の人材ニーズ」「技術者として普遍的な能力スキル」の育成を不易流行のスタンスでバランスよく育成することが求められる。それには、業種毎の魅力を正しく伝えることが必要である。

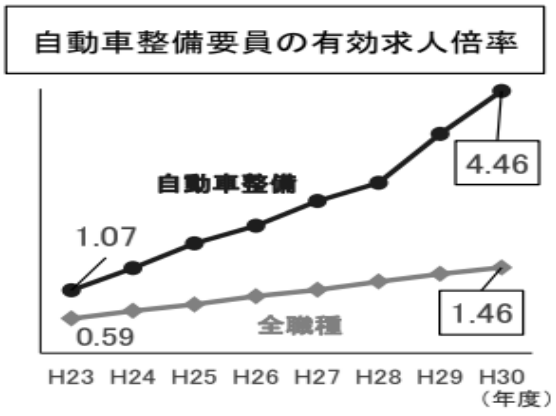
＜例：自動車整備人材を取り巻く環境＞



出典：（一社）日本自動車整備振興会連合会編
「平成30年度版 自動車整備白書」



出典：全国自動車大学校・整備専門学校協会調べ



出典：厚生労働省「職業安定業務統計」

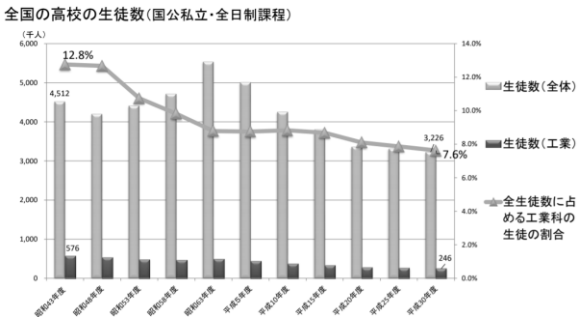
※日本の自動車の保有台数８０００万台はほぼ横ばいなのに対して、自動車の使用年数は約１０年となり、長く使用する分、途中のメンテナンスの仕事量は増加している。

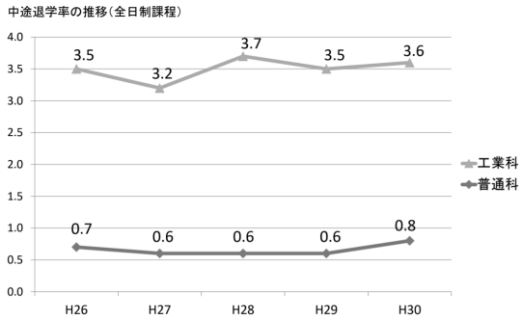
しかし、自動車整備士の平均年齢は上昇の一途で世代交代が行われず人材不足が加速している。整備士の需要に対し、この数が伸びていない背景には、少子化および若者の自動車離れや大学進学率の上昇などの要因がある。自動車整備士資格者を輩出する国土交通省指定の整備専門学校の入学者もここ１５年で半減している。

高校生時点からＣＧを活用した映像などで最新技術紹介を取り入れた具体的な社会ニーズ（＝活躍イメージ）と技術職の魅力を生徒に正しく伝え、学びへの動機付けを行う。動機付けができた生徒に専門学校でより専門的な技術者育成を行うことで、技術者不足という未来の社会課題仮説の解決によって本教育プログラムを通して担っていく。

工業高校における生徒数の減少、および中途退学率も普通科と比較して高い状況があり、この分野においての生徒・学生の学びの目的意識（キャリア観）やモチベーションには課題があると考えられる。またその背景として、「工業高校・専門学校での学びが社会（就職）につながる」イメージが希薄になっているとう課題仮説がある。

＜工業高校の生徒数推移、中途退学率の状況＞





出典：「高度 IT 社会の工業高校に関する有識者会議（第１回）」東京都教育庁事務局説明資料より抜粋

高校時点から「出口（就職）を見据えたキャリア教育」「最先端の技術を実体験する」ことで生徒のモチベートを、専門学校では具体的な目標を掲げた「技術力向上」「資格取得」「就職」を一貫したプログラムとして提供する。
クリアする目標（積み上げるべきもの）を段階的にポイントとなる部分に最先端技術の体験などを取り入れることで生徒の意欲・技術力双方を向上させ、今後も渇望される専門技術者人材育成に寄与する。

職業教育を標榜する教育機関同士が相互の「教育連携」を図ることにより、高校生が具体的な活躍のイメージを持つことで視野が広がり、職業意識の醸成と進路に対する意識や学習意欲を高める有効な手段と考えられる。魅力ある高等学校教育、専門学校教育の充実を図るべく、「高専一貫教育」のプログラム開発・実証を行う。

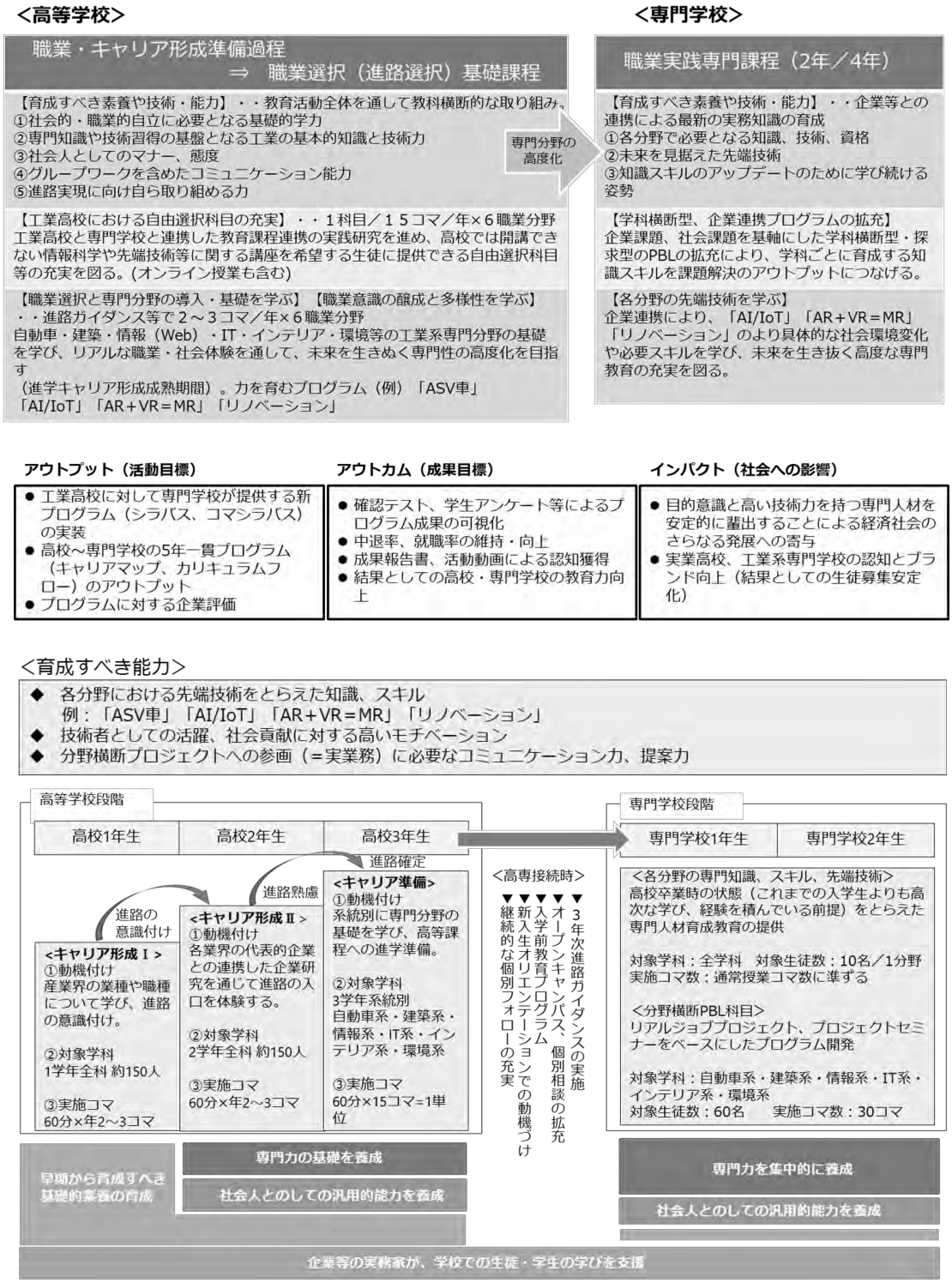
３．開発する教育プログラムの概要

【開発する教育プログラムの概要】

（１）名称：工業系分野における高専連携の５年一貫教育プログラム開発・実証

（２）内容：開発する高・専一貫の教育プログラムの取組み概要図

本事業の取組は、下記概要図に示された内容で行う（高校入学～専門学校卒業）。



４．実施体制



【企画推進委員会の役割】

▸事業方針・スケジュール管理／事業全体の運営・管理・予算管理／成果検証、成果報告書の編集・まとめ／対外広報　等

【プログラム開発ＷＧの役割】

▸高専連携カリキュラム開発／高・専一貫教育プログラム開発における高等学校で導入したいが難しい科目の抽出・分析／科目開発（シラバス・コマシラバス）／教材・テキスト・ＧＰＡ開発　等

【課題・分析ＷＧの役割】

▸企業実態調査…アウトプットニーズ調査分析項目の検討（６職業分野）／高・専一貫教育プログラム開発における既存科目課題抽出（高専連携授業に最適なコマ・時間等）／職業意識の醸成方法の検討　等

【実証実験ＷＧの役割】

▸実証講座の実施及び効果検証（オンライン含む）／学生アンケート実施・分析／受講者の募集・講座準備・講座運営管理　等

５．学習ターゲット、目指すべき人材像

【育成すべき能力】

■各分野における先端技術をとらえた知識、スキル
　例：「ＡＳＶ車」「ＡＩ／ＩｏＴ」「ＡＲ＋ＶＲ＝ＭＲ」「リノベーション」

■技術者としての活躍、社会貢献に対する高いモチベーション

■分野横断プロジェクトへの参画（＝実業務）に必要なコミュニケーション力、提案力

６．具体的な取り組み

（１）ヒアリング

◆目　的

企業のヒアリングでは、採用目線で企業が求めている学生の素養を調査。人工知能やＩｏＴ等のテクノロジーの急速な発達により、実業高校および工業系専門学校において育成する「職業人」の必要要件も変化している。その中で「未来の人材ニーズ」

「技術者として普遍的な能力スキル」の育成を不易流行のスタンスでバランスよく育成することが求められる。そのため、６職業分野毎にどのような学習内容を企業が要望しているのか、教育機関に何を求めているのかの調査を行う。高等学校１年生～３年生向けに開発した体験主体の実証授業内容、メタバース空間内による動画視聴、今年度開発を予定しているプログラムなどに関して率直な意見を整理する。

高等学校のヒアリングでは、進学や進路状況の課題をはじめ、本事業の取り組みに対しての意見、高等学校１年生～３年生向けに開発した体験主体の実証授業内容、メタバース空間内による動画視聴、今年度開発を予定しているプログラムなどに関して率直な意見や取り入れてほしい内容、どのような形の授業内容を欲しているかなどを把握することを目的とした。

◆調査対象

・企業：自動車整備分野、建築分野、インテリア分野、情報分野（ＩＴ／ＩｏT）、ＩＴ／ＤＸ分野、環境分野の６職業分野
・高等学校：工業系、普通科、商業

◆調査件数

・企業：自動車整備分野　２件、建築分野　２件、インテリア分野　２件、情報分野（ＩＴ／ＩｏT）　２件、ＩＴ／ＤＸ分野　１件、環境分野　１件　合計１０件
・高等学校：工業高等学校　４件、普通科高等学校　１２校　合計１６校

◆手　法

受託機関である当校が調査目的、調査対象、調査内容を調査会社に示した上で、対象となる一覧表を調査会社が作成する。受託機関である当校は一覧表を確認し、優先順位を決めて調査会社へオンライン中心のヒアリングでアポイントを依頼する。

ヒアリングは基本的に受託機関である当校委員と本事業の外部委員で行うこととする。受託機関である当校委員と本事業の外部委員の企業ヒアリング調査はあっても、調査会社のみで企業ヒアリング調査は行わない。等

◆調査項目

・企業：①採用状況、②採用において課題であると感じている点、③入社５年目までに大学卒、専門学校卒、高校卒の社員が、同じ職種や役割に就くことがあるか、④５年一貫教育プログラム自体の感想、⑤分野の魅力を伝える動機づけとしての『メタバース』の取り組み、⑥分野の魅力を伝える動機づけとしての『イメージ動画』の取り組み、⑦高校１年生を対象に実施した授業内容、⑧高校２年生を対象に実施した授業内容、⑨高校３年生を対象に実施した授業内容、⑩専門学校１年生を対象に実施予定の授業内容、⑪専門学校に進学したＯＢ・ＯＧと高校生の交流機会を設けること、⑫貴社に入社したいと考えている学生に「これだけは身に付けていてほしい」こと、⑬これからの専門学校教育に求めること、⑭その他意見。等

・高等学校：①進路の状況、②進路への課題、③５年一貫教育プログラム自体の感想、④分野の魅力を伝える動機づけとしての『メタバース』の取り組み、⑤分野の魅力を伝える動機づけとしての『イメージ動画』の取り組み、⑥高校１年生を対象に実施した授業内容、⑦高校２年生を対象に実施した授業内容、⑧高校３年生を対象に実施した授業内容、⑨専門学校１年生を対象に実施予定の授業内容、⑩専門学校に進学したＯＢ・ＯＧと高校生の交流機会を設けること、⑪貴校で同様の高専連携授業を実施するとなった場合の課題（ハードル）、⑫貴校で同様の高専連携授業を実施するとなった場合、教育プログラムに取り入れてほしい内容、⑬貴校に通う生徒に「これだけは身に付けていてほしい」こと、⑭専門学校教育に求めること、⑮その他意見。等

◆分析内容

・企業：①５年一貫教育プログラムについて、②段階的に分野の魅力を発信する手法について、③実証実験について、④専門学校に求めること。等

・高校：①５年一貫教育プログラムについて、②段階的に分野の魅力を発信する手法について､③実証実験について､④教育プログラムに取り入れてほしい内容、⑤高専連携授業実施の際の課題。等

◆調査結果反映（次年度以降反映含む）

①コンテンツ利活用（６職業分野）、②シラバス・コマシラバス（６職業分野）、③実証実験環境整備（６職業分野）、テキスト開発（６職業分野）、④６職業分野プログラム開発への情報提供　等

【高校ヒアリング用アンケート】

【貴校のご状況について】
- 貴校の生徒の皆さまの進路のご状況（大学進学/専門学校･短大進学/就職　それぞれの割合など）
（　　）
- 貴校の生徒の皆さまの進路について、課題であると感じている点
（　　）

【本事業での取り組みに関するご意見のお伺い】
- 『５年一貫教育プログラム』というもの自体についてのご意見
（　　）
- 分野の魅力を伝える動機づけとしての『メタバース』の取り組みについてのご意見
（　　）
- 分野の魅力を伝える動機づけとしての『イメージ動画』の取り組みについてのご意見
（　　）
- 高校１年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和４年度実証
『ワクワク』をテーマにした、分野に興味･関心を抱かせることを目的とした体験授業
（　　）
- 高校２年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和５年度実証
『リアル』をテーマにした、職業の具体的イメージや期待感を醸成できる体験授業
（　　）
- 高校３年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和６年度実証
『学びの動機づけ』をテーマにした、推し授業動画視聴＋ワークシートでの学習
（　　）
- 専門学校１年生を対象に実施予定の授業内容についてのご意見　＊令和７年度実証予定
『学びの意味づけ』をテーマにした、各分野の課題に合わせてプログラムした体験授業
（　　）

【企業ヒアリング用アンケート】

【貴社での採用のご状況について】
- 採用状況（人材が不足している/専門学校からの入社割合/新卒と中途の割合 など）
（　　）
- 採用において課題であると感じている点
（　　）
- 入社から５年目までに大学卒、専門学校卒、高校卒の社員が、同じ職種や役割に就くことはありますか
（　ある　・　ない　）
- 上記の設問で、「ある」と回答した方への質問です。
大学卒や高校卒で入社した社員の方と比較して、専門学校卒で入社した社員の、
強みや共通点、課題は何ですか？（様々な観点からご意見をいただけますと幸いです）
（　　）

【本事業での取り組みに関するご意見のお伺い】
- 『５年一貫教育プログラム』というもの自体についてのご意見
（　　）
- 分野の魅力を伝える動機づけとしての『メタバース』の取り組みについてのご意見
（　　）
- 分野の魅力を伝える動機づけとしての『イメージ動画』の取り組みについてのご意見
（　　）
- 高校１年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和４年度実証
『ワクワク』をテーマにした、分野に興味・関心を抱かせることを目的とした体験授業
（　　）
- 高校２年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和５年度実証
『リアル』をテーマにした、職業の具体的イメージや期待感を醸成できる体験授業
（　　）

（２）実証実験概要

令和７年度は、専門学校の学びの意味付けとして、自分が成長している実感や今学んでいることがどのように仕事に活かせるのか、将来的な貢献度や実際に働く職場環境などをイメージさせることを目的に、各分野テーマを掲げ実施した。

■実施期間：令和７年１１月１２日（水）～１２月２２日（月）

【実証実験テーマ一覧】

体験分野	テーマ	受講人数
自動車整備士	専門学校１年生が、これまでに学んだ基礎知識・技能を整理し、高校生にわかりやすく説明・指導できる力（伝える力）を養う講師体験 タイヤ交換およびタイヤローテーション	専門学校生 ４名 高校生 １５名
建築	①建築科のＯＢが登壇して現職の仕事の話やこれまでの経験談を話してもらう。 ②インテリア分野と８分ローテーション型業界研究授業に参加。人事から仕事の内容と、企業の強み・得意なことを紹介。	５４名
インテリア	①インテリア科のＯＢ・ＯＧが登壇して現職の仕事の話をしてもらう。 ②建築分野とともに外部企業による８分ローテーション型業界研究授業に参加。人事から仕事の内容と、企業の強み・得意なことを紹介。	２４名
情報（ＩＴ／ＩｏＴ）	最新のデジタルアートがどのようにテクノロジー（ＩｏＴ・ＡＩ・センシング・ネットワーク）と結びついているかを体験的に学ぶ	２８名
ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）	①職場見学・体験：ＡＩサービスを運営する企業オフィスの見学とそこで働く社員の話を聞く事で将来自分が働くイメージを具体的に想像させる。 ②データサイエンティスト協会シンポジウム参加：実際のデータサイエンティストの生の声を聴く機会を与える事で、将来行う業務を具体的にイメージする事を目指す。	２３名

環境	「ＳＤＧｓ　ｄｅ地方創生」カードゲームを通じて、ＳＤＧｓ理解、地方創生、対話と協働の重要性を体験的に学ぶ	１３名

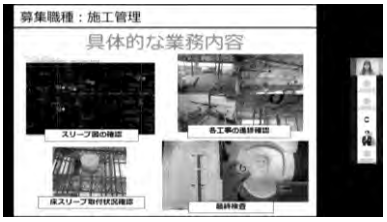
■各分野の実証実験授業概要

①自動車整備分野

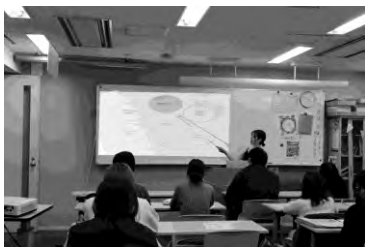
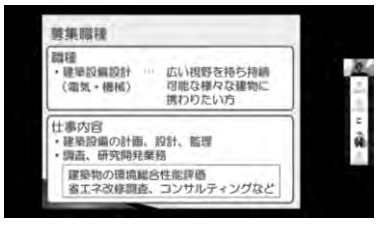
概要 目的・ねらい	専門学校１年生が、これまでに学んだ基礎知識・技能を整理し、高校生にわかりやすく説明・指導できる力（伝える力）を養う。 タイヤ交換およびタイヤローテーションの必要性について、安全面・走行性能・タイヤ寿命の観点から理解させ、正しい知識を身につけさせる。 実習を通して、整備作業に求められる「安全意識」「段取り」「確認の習慣」を体験的に学び、整備士としての基本姿勢を形成する。 専門学校生自身が、教える立場を経験することで「自分がどこまで理解できているか」「どこまで成長できているか」を客観的に確認し、次の学習課題を明確にする。
授業詳細	実車を使用し、ジャッキアップからタイヤ脱着、規定トルクでの締め付け確認まで、一連の作業を実践形式で行う。 タイヤローテーションの目的（偏摩耗防止・寿命延長・安定した走行性能の維持）を理解し、正しい手順で実施できる技能を習得する。 危険予知（ＫＹ）・保護具の着用・車両固定・指差呼称などを徹底し、安全作業の重要性を強く意識させる。 高校生に向けて、作業の意味やポイントを説明しながら進めることで、自動車整備の楽しさ・達成感を伝え、進路選択への動機づけにつなげる。 ■実証実験風景  

②建築分野

概要 目的・ねらい	建築・インテリア分野での学びをとおして、「自分が今学んでいることを、将来どのような仕事に活かせるかを具体的にイメージできるようにする」ことを目的に、建築科のＯＢ・ＯＧが登壇して現職の仕

	事の話をしてもらう。また、外部企業による８分ローテーション型業界研究授業に参加。
授業詳細	①ＯＢ・ＯＧ座談会 建築科ＯＢ・ＯＧより、これまでのキャリアや就職活動に関する経験談、現在の仕事内容を語ってもらう。また、専門学校生への応援メッセージとして学生中に取り組んでおくと良いことも伝えてもらい、学びがどこで役に立つのかのイメージを強める。 ②８分ローテーション型業界研究授業（インテリア分野と合同開催） 【授業目的】「１コマ（９０分間）で建設業界の全体像を把握する」 【特徴】 登壇者：現場社員／講演内容：募集職種別の仕事紹介が中心／参加企業：事業領域の異なる８社 【講演内容の構成例】 事業概要と自社の強み（１分）／仕事紹介（６分）／専門学校生への応援メッセージ（１分） 建設業界の中で業種の異なる８社にオンライン上にて、自社の強みと共に、その業種の仕事のリアルを伝えてもらう。 ■ＯＢ・ＯＧ座談会風景   ■８分ローテーション型業界研究授業風景    

③インテリア分野

概要 目的・ねらい	建築・インテリア分野での学びをとおして、「自分が今学んでいることを、将来どのような仕事に活かせるかを具体的にイメージできるようにする」ことを目的に、インテリア科のＯＢ・ＯＧが登壇して現職の仕事の話をしてもらう。また、外部企業による８分ローテーション型業界研究授業に参加。
授業詳細	①ＯＢ・ＯＧ座談会 インテリア科ＯＢ・ＯＧより、これまでのキャリアや就職活動に関する経験談、現在の仕事内容を語ってもらう。また、専門学校生への応援メッセージとして学生中に取り組んでおくと良いことも伝えてもらい、学びがどこで役に立つのかのイメージを強める。 ②８分ローテーション型業界研究授業（建築分野と合同開催） 【授業目的】「１コマ（９０分間）で建設業界の全体像を把握する」 【特徴】 登壇者：現場社員／講演内容：募集職種別の仕事紹介が中心／参加企業：事業領域の異なる８社 【講演内容の構成例】 事業概要と自社の強み（１分）／仕事紹介（６分）／専門学校生への応援メッセージ（１分） 建設業界の中で業種の異なる８社にオンライン上にて、自社の強みと共に、その業種の仕事のリアルを伝えてもらう。 ■ＯＢ・ＯＧ座談会風景   ■８分ローテーション型業界研究授業風景  

④情報（ＩＴ／ＩｏＴ）分野

概要 目的・ねらい	【概要】 本授業では、チームラボの展示を見学しながら、最新のデジタルアートがどのようにテクノロジー（ＩｏＴ・ＡＩ・センシング・ネットワーク）と結びついているかを体験的に学ぶ。 【目的・ねらい】 ①ＩｏＴやＡＩ技術がアート、エンターテインメント、社会の中でどのように活用されているかを理解する。②デジタルアート体験を通じて、インタラクティブシステムの仕組みを考察する。③１年生が取り組むプロジェクトの「発想のヒント」「着想の幅」を広げる。④“技術　×　創造性”の視点を体験し、学びの意義や将来像を具体的にイメージする。⑤チームでの観察・対話を通じて、コミュニケーション力と気づきを深める。
授業詳細	対象：ＩｏＴ＋ＡＩ科　１年生 内容：チームラボ見学（インタラクティブアート体験学習） 学習ポイント ①ＩｏＴ関連の視点 A）センサー（カメラ、深度、モーション、タッチ検知）の使われ方／B）ネットワークでのデータ連携やリアルタイム制御／C）ライト・音・映像の同期システム ②ＡＩ関連の視点 A）画像認識・姿勢推定・物体追跡などの活用がどこに潜んでいるか気づく／B）ユーザー行動に応じた動きの変化から「ＡＩによる推論」を想像する／C）インタラクション設計とデータ処理の関係性を理解する ②学びの意義 A）自分のプロジェクト制作に応用できる「体験的インスピレーション」を得る／B）ＩｏＴとＡＩが社会やアートにどう実装されているかを、教室外でリアルに感じられる／C）技術を「作る側」の視点で鑑賞し、仕組みを分解して考える力が身につく／D）将来の就職進路を考える際の参考となる

	■実証実験風景  

⑤ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）分野

概要 目的・ねらい	①職場見学・体験：ＡＩサービスを運営する民間企業のオフィスを見学し、社員の話を聞く事で将来自分が働くイメージを具体的に想像させ、学習意欲を向上させる。 ②データサイエンティスト協会シンポジウム参加：データサイエンティスト協会シンポジウムに参加し、実際のデータサイエンティストの生の声を聴く機会を与える事で、将来行う業務を具体的にイメージする事を目指す。
授業詳細	①ＡＩ電話応答サービスを運営する企業オフィスにて、社員から業務紹介を聞く。オフィスは執務スペースと発表場所の仕切りが無いため、実際の業務風景も見る事ができる。 ■実証実験風景   ②データサイエンティスト協会１２ｔｈシンポジウムにて、発表される各講演を学生の興味に応じて選択し、聴講する。出席管理はシンポジウム開始前の９：５０と正規授業終了時刻の１６：４０に行う。 ■実証実験風景  

⑥環境分野

概要 目的・ねらい	■授業概要 「ＳＤＧｓ　ｄｅ地方創生」カードゲームを通じて、ＳＤＧｓ理解、地方創生、対話と協働の重要性を体験的に学ぶアクティブラーニング形式の授業である。 ■到達目標 １．ＳＤＧｓの本質理解 ２．バックキャスティング思考の習得 ３．対話と協働スキルの体験 ４．地方創生の基礎理解 ５．主体的な学びと行動変容 ■授業時間：５時間 ■学習上の注意 ゲームは“現実を模した仮想地域”である。交渉・協働を積極的に行う。正解のない学びであり、自分の価値観や行動を振り返る姿勢を重視する。ＳＤＧｓは「知識」より「行動」「対話」が重要である。 ■ねらい（想定される学習成果） ①ＳＤＧｓ・地方創生を“自分事化”できる、②対話・協働の難しさと価値を理解する、③社会課題を構造的に捉える思考が育つ、④自己のキャリアと社会への貢献を結びつけて考えられる
授業詳細	■授業構成 ＜前半：導入講義（９０分）＞ 講師紹介／ＳＤＧｓ基礎講義／地方創生講義 ＜中盤：カードゲーム（１８０分）＞ ルール説明／チェックイン／ゲームプレイ（４ターン）／中間発表／最終発表 ＜後半：振り返り：９０分＞ グループワーク／対話の重要性講義／ケース学習／最終ワーク ■評価方法 授業参加度、グループ発表、レポート（事前・事後アンケート）による ■教材 ・ＳＤＧｓ　ｄｅ　地方創生カードゲーム ・授業資料（ＰＤＦ）※配布資料 ■実証実験風景

（３）診断アプリ開発

高校生の興味・関心に応じて、おすすめの体験メニューが選定される診断アプリを開発。分野にとらわれず、様々なメニューを体験することを可能とする。知らない分野への興味を促すことが見込める。

【トップ画面】



７．構成機関・構成委員

（１）高等学校

【役 割】

職業意識の醸成と進路に対する意識や学習意欲を高めるため、高・専一貫教育プログラム開発における最適な内容とするため、先端技術者養成のプログラムのノウハウを提供して、様々な分野で社会の変化に対応できる「職業人」のキャリア形成を担う。等

【協力事項】

高・専一貫教育プログラム開発における課題抽出・分析協力／カリキュラム開発の提案・検討。等

名称		役割等	都道府県名
1	東京都立練馬工科高等学校	調査・研究、カリキュラム開発、実証実験、普及検討	東京都
2	東京都立六郷工科高等学校	調査・研究、カリキュラム開発、実証実験、普及検討	東京都

3	東京都立多摩工科高等学校	調査・研究、カリキュラム開発、実証実験、普及検討	東京都
4	学校法人堀越学園堀越高等学校	調査・研究、カリキュラム開発、実証実験、普及検討	東京都
5	東京都立蔵前工科高等学校	調査・研究、カリキュラム開発、実証実験、普及検討	東京都

（２）行政機関

【役　割】

開発する高・専一貫教育プログラムの評価。等

【協力事項】

開発した教育プログラムの授業導入の妥当性等について評価。等

名称		役割等	都道府県名
1	東京都教育庁都立学校教育部	カリキュラム開発、評価	東京都

（３）専門学校

【役 割】

職業意識の醸成と進路に対する意識や学習意欲を高めるため、高・専一貫教育プログラム開発における最適な内容とするため、先端技術者養成のプログラムのノウハウを提供して様々な分野で社会の変化に対応できる「職業人」のキャリア形成を担う。等

【協力事項】

アウトプットニーズ調査・分析に関する手法・検討協力／カリキュラム開発の提案・検討／プログラム構成（テキスト内容構成や実証講座実施）に対するアドバイス(オンライン授業も含む)／ＧＰＡ開発協力／最新情報を含めた資料提供や普及に関するアドバイス　等

名称		役割等	都道府県名
1	専門学校東京工科自動車大学校	調査・研究、カリキュラム開発、実証実験、普及検討	東京都
2	専門学校東京テクニカルカレッジ	調査・研究、カリキュラム開発、実証実験、普及検討	東京都
3	専門学校ＹＩＣグループ	調査・研究、カリキュラム開発、実証実験、普及検討	山口県

（４）企業

【役 割】

高・専一貫教育プログラム開発のバックアップ。等

【協力事項】

テキスト・実証講座開発協力（内容の精査、最新情報提供、その他アドバイス等）／ＡＲ・ＶＲなどの先端技術教材開発のアドバイス／カリキュラム開発におけるアドバイス（企業ニーズに応えられたものになっているか等）／知的財産（主に著作権）侵害有無のチェックやアドバイス／実証講座講師・技術協力／汎用性の妥当等の評価・アドバイス。等

名称		役割等	都道府県名
1	東京商工会議所中野支部	情報提供・評価	東京都
2	全国専修学校各種学校総連合会	情報提供・評価	東京都
3	ウエインズトヨタ神奈川株式会社	情報提供・評価・企業連携	神奈川県
4	東京スバル株式会社	情報提供・評価・企業連携	神奈川県
5	株式会社ケーユーホールディングス	情報提供・評価・企業連携	東京都
6	ソフトヒューベリオン株式会社	情報提供・評価・企業連携	東京都
7	特定非営利活動法人ＮＰＯフュージョン長池	情報提供・評価・企業連携	東京都
8	一般社団法人Ｇｌｏｂａｌ　Ｌａｎｇｕａｇｅ	情報提供・評価	東京都
9	合同会社ｐｅｅｒ　Ｑｕｅｓｔ	情報提供・評価・普及	東京都

（５）コーディネーター

【役 割】

高・専一貫教育プログラム開発のバックアップ。等

【協力事項】

カリキュラム開発における最新情報提供をはじめとするアドバイス　等

名称	役割等	都道府県名
株式会社リクルート	コーディネーター、情報提供、汎用・普及	東京都

（６）企画推進委員会の構成員（委員）

【目的・役割】

事業全体の計画・スケジュール等の策定と進捗管理を行う全体会。

・各WGの事業計画・スケジュールの調整機関／各WGの会議の調整と事業・ＫＰＩの進捗管理／第三者評価の設計

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学校 理事・校長	事業責任者	東京都
2	影山 裕介	学校法人小山学園　成長戦略推進本部長	事務局統括、汎用性、普及検討	東京都
3	三浦 勝寛	株式会社リクルート まなび進学情報Ｄｉｖｉｓｉｏｎリクルート進学総研	コーディネーター、情報提供、汎用・普及	東京都
4	岡村 慎一	専門学校ＹＩＣグループ統括本部 理事・統括本部長	情報提供・評価、普及検討	山口県
5	長谷 克己	東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育担当課長	情報提供・評価、普及検討	東京都
6	林 努	東京都立練馬工科高等学校 校長	カリキュラム開発、実証実験	東京都
7	釼持 利治	東京都立六郷工科高等学校 校長	カリキュラム開発、実証実験	東京都
8	坂田 安永	東京都立多摩工科高等学校 校長	カリキュラム開発、実証実験	東京都
9	掛本 寿雄	学校法人堀越学園堀越高等学校 校長	カリキュラム開発、実証実験	東京都

10	古藤 一弘	東京都立蔵前工科高等学校 校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
11	安部 泰起	東京商工会議所中野支部 事務局長	情報提供・評価、普 及検討	東京都
12	山崎 年雄	ウエインズトヨタ神奈川株式 会社サービス部サービス技術 室　室長	情報提供・評価・企 業連携	神奈川 県
13	嶋田 章二	東京スバル株式会社 総務部 人事課 課長	情報提供・評価・企 業連携	神奈川 県
14	藤澤 洋平	株式会社ケーユーホールディ ングス 採用推進部長	情報提供・評価・企 業連携	東京都
15	経塚 真裕	ソフトヒューベリオン株式会 社 代表取締役	情報提供・評価・企 業連携	東京都
16	小林 健人	特定非営利活動法人ＮＰＯフ ュージョン長池 理事	情報提供・評価・企 業連携	東京都
17	久保 正仁	一般社団法人Ｇｌｏｂａｌ Ｌ ａｎｇｕａｇｅ 代表取締役	情報提供・評価	東京都
18	浪川 舞	合同会社ｐｅｅｒ Ｑｕｅｓｔ 代表兼ＣＥＯ	情報提供・評価・普 及	東京都
19	原田 大五郎	全国専修学校各種学校総連合 会 一般財団法人職業教育・キ ャリア教育財団 事務局長	情報提供・評価・普 及	東京都
20	白井 雅哲	専門学校東京テクニカルカレ ッジ 校長	カリキュラム開発、 実証実験、普及検討	東京都
21	井上 真一	専門学校東京工科自動車大学校 世田谷校 副校長	カリキュラム開発、 汎用化【自動車】	東京都
22	園田 幸祐	専門学校東京工科自動車大学校 副校長	カリキュラム開発、 汎用化【自動車】	東京都
23	井坂 昭司	専門学校東京テクニカルカレ ッジ 副校長 情報処理科科長	カリキュラム開発、 汎用化【情報・ＩＴ】	東京都
24	今野 祐二	専門学校東京テクニカルカレ ッジ 環境テクノロジー科教員	カリキュラム開発、 汎用化【環境】	東京都
25	髙山 寿一郎	専門学校東京テクニカルカレ ッジ インテリア科科長	カリキュラム開発、 汎用化【インテリ ア】	東京都

26	野上 和裕	専門学校東京テクニカルカレッジ建築科科長	カリキュラム開発、汎用化【建築】	東京都
27	金井 伸也	専門学校東京テクニカルカレッジ データサイエンス+ＡＩ科科長	カリキュラム開発、汎用化【ＩＴ／ＤＸ】	東京都
28	藤原 瑞卿	専門学校東京テクニカルカレッジ　ＩｏＴ＋ＡＩ科科長	カリキュラム開発、汎用化【情報（ＩＴ・ＩｏＴ】	東京都
29	二ノ宮 健志	学校法人小山学園 成長戦略推進本部 副本部長	事務局	東京都
30	村山 健	学校法人小山学園 成長戦略推進本部 ＨＲＤ事業部 部長	事務局	東京都
31	鈴木 遼介	学校法人小山学園 成長戦略推進本部 高専連携入学相談部部長	事務局	東京都
32	都留 菜々子	学校法人小山学園 成長戦略推進本部	事務局	東京都

（７）プログラム開発ＷＧの構成員（委員）

【目的・役割】

各分野の高・専一貫教育プログラム開発に必要な素材（撮影・ソフト）の骨子をつくる。

・コンテンツの抽出（開発ツール・素材等）：本事業協力の高等学校と当校は、各分野の教員レベルで事業開始と同時に取り組む体制を整えている。

・カリキュラムの作成と時間数…１科目３０時限（２単位）

・科目の作成…受講前の前提とする修了科目の設定（カリキュラム・フロー）

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学校 理事・校長	事業責任者	東京都
2	影山 裕介	学校法人小山学園 成長戦略推進本部 本部長	事務局統括、汎用性、普及検討	東京都
3	三浦 勝寛	株式会社リクルート まなび進学情報Ｄｉｖｉｓｉｏｎリクルート進学総研	コーディネーター、情報提供、汎用・普及	東京都
4	岡村 慎一	専門学校ＹＩＣグループ統括本部 理事・統括本部長	情報提供・評価、普及検討	山口県

5	林 努	東京都立練馬工科高等学校 校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
6	釼持 利治	東京都立六郷工科高等学校 校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
7	坂田 安永	東京都立多摩工科高等学校 校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
8	掛本 寿雄	学校法人堀越学園堀越高等学校 校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
9	古藤 一弘	東京都立蔵前工科高等学校 校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
10	山崎 年雄	ウエインズトヨタ神奈川株式会社サービス部サービス技術室　室長	情報提供・評価・企業連携	東京都
11	嶋田 章二	東京スバル株式会社 総務部 人事課 課長	情報提供・評価・企業連携	東京都
12	藤澤 洋平	株式会社ケーユーホールディングス 採用推進部長	情報提供・評価・企業連携	神奈川県
13	経塚 真裕	ソフトヒューベリオン株式会社 代表取締役	情報提供・評価・企業連携	神奈川県
14	小林 健人	特定非営利活動法人ＮＰＯフュージョン長池 理事	情報提供・評価・企業連携	東京都
15	白井 雅哲	専門学校東京テクニカルカレッジ 校長	カリキュラム開発、 実証実験、普及検討	東京都
16	井上 真一	専門学校東京工科自動車大学校世田谷校 副校長	カリキュラム開発、 汎用化【自動車】	東京都
17	園田 幸祐	専門学校東京工科自動車大学校副校長	カリキュラム開発、 汎用化【自動車】	東京都
18	井坂 昭司	専門学校東京テクニカルカレッジ 副校長 情報処理科科長	カリキュラム開発、 汎用化【情報・ＩＴ】	東京都
19	今野 祐二	専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科教員	カリキュラム開発、 汎用化【環境】	東京都
20	髙山 寿一郎	専門学校東京テクニカルカレッジ インテリア科科長	カリキュラム開発、 汎用化【インテリア】	東京都
21	野上 和裕	専門学校東京テクニカルカレッジ建築科科長	カリキュラム開発、 汎用化【建築】	東京都

22	金井 伸也	専門学校東京テクニカルカレッジ データサイエンス+ＡＩ科科長	カリキュラム開発、汎用化【ＩＴ／ＤＸ】	東京都
23	藤原 瑞卿	専門学校東京テクニカルカレッジ　ＩｏＴ＋ＡＩ科科長	カリキュラム開発、汎用化【情報（ＩＴ／ＩｏＴ)】	東京都
24	二ノ宮 健志	学校法人小山学園 成長戦略推進本部 副本部長	事務局	東京都
25	都留 菜々子	学校法人小山学園成長戦略推進本部	事務局	東京都

（８）課題・分析ＷＧの構成員（委員）

【目的・役割】

各分野における人材ニーズ調査（タイトル）

・調査対象：連携企業

・調査名：科目特性（シラバス・コマシラバス調査）

・調査項目：コンテンツニーズ／必要な環境・設備(オンライン含む)／ツール／開発ソフト　等

・調査手法：インタビュー形式（ヒアリング調査）

・調査結果反映：実証講座の環境整備／プログラム開発項目への情報提供　等

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学校　理事・校長	事業責任者	東京都
2	影山 裕介	学校法人小山学園 成長戦略推進本部 本部長	事務局統括、汎用性、普及検討	東京都
3	三浦 勝寛	株式会社リクルート まなび進学情報Ｄｉｖｉｓｉｏｎリクルート進学総研	コーディネーター、情報提供、汎用・普及	東京都
4	長谷 克己	東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育担当課長	情報提供・評価、普及検討	東京都
5	安部 泰起	東京商工会議所中野支部 事務局長	情報提供・評価、普及検討	東京都
6	原田 大五郎	全国専修学校各種学校総連合会 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 事務局長	情報提供・評価・普及	東京都

7	都留 菜々子	学校法人小山学園 成長戦略推進本部	事務局	東京都

（９）実証実験ＷＧの構成員（委員）

【目的・役割】

実証講座の地域・教育機関・時期等の選定のため。

・実証講座の可能な対象機関の選定（専門学校）：環境・設備(オンライン含む)、既存カリキュラム（受講の前提）、学事日程調整、受講対象者の履修状況、地域特性等

・時間割の仮設定

・受講対象者の仮設定

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学校 理事・校長	事業責任者	東京都
2	影山 裕介	学校法人小山学園 成長戦略推進本部 本部長	事務局統括、汎用性、普及検討	東京都
3	林 努	東京都立練馬工科高等学校 校長	カリキュラム開発、実証実験	東京都
4	釼持 利治	東京都立六郷工科高等学校 校長	カリキュラム開発、実証実験	東京都
5	坂田 安永	東京都立多摩工科高等学校 校長	カリキュラム開発、実証実験	東京都
6	掛本 寿雄	学校法人堀越学園堀越高等学校 校長	カリキュラム開発、実証実験	東京都
7	古藤 一弘	東京都立蔵前工科高等学校 校長	カリキュラム開発、実証実験	東京都
8	白井 雅哲	専門学校東京テクニカルカレッジ 校長	カリキュラム開発、実証実験、普及検討	東京都
9	園田 幸祐	専門学校東京工科自動車大学校 副校長	カリキュラム開発、汎用化【自動車】	東京都
10	二ノ宮 健志	学校法人小山学園 成長戦略推進本部 副本部長	事務局	東京都
11	都留 菜々子	学校法人小山学園 成長戦略推進本部	事務局	東京都

８．会議開催実績

（１）第１回プログラム開発ＷＧ会議

・会議日時：令和７年７月７日（月）１３：００～１５：００
・会議形式：オンライン会議（ホスト：専門学校東京工科自動車大学校）
・出 席 者：１２名
・会議次第：１．開会／２．議　事（１）令和６年度の振り返りと今年度開発の方向性について、（２）実証授業の時期について、（３）今年度のテーマと方向性について／３．その他（連絡事項等）

（２）第１回企画推進委員会会議

・会議日時：令和７年７月１１日（金）　１０：００～１２：００
・会議形式：オンライン会議（ホスト：専門学校東京工科自動車大学校）
・出 席 者：１４名
・会議次第：１．開　会／２．委員自己紹介／３．議　事（１）令和６年度までの取り組み共有、（２）令和７年度の計画共有／４．その他（連絡事項等）

（３）第２回プログラム開発ＷＧ会議

・会議日時：令和７年８月２０日（月）１０：００～１１：３０
・会議形式：オンライン会議（ホスト：専門学校東京工科自動車大学校）
・出 席 者：７名
・会議次第：１．開会／２．議　事（１）建築・インテリア分野の実証実験の方向性について意見交換（２）データサイエンス・ＩｏＴ分野の実証実験の方向性について意見交換／３．その他（連絡事項等）

（４）第３回プログラム開発ＷＧ・第１回実証実験ＷＧ合同会議

・会議日時：令和７年９月３日（水）１０：００～１１：３０
・会議形式：オンライン会議（ホスト：専門学校東京工科自動車大学校）
・出 席 者：６名
・会議次第：１．開会／２．議　事（１）自動車整備分野の実証実験の方向性について意見交換（２）環境分野の実証実験の方向性について意見交換／３．その他（連絡事項等）

第２章

令和７年度活動詳細

第２章 令和７年度活動詳細

１．企業・高等学校ヒアリング実施内容

（１）実施期間

◆令和７年１１月２５日～令和８年１月２３日

（２）実施先担当部署 等

◆企　業：人事関係・採用担当者 等

◆高等学校：校長、進路指導担当、学科主任クラス 等

（３）手　法

①当校の役割

・調査会社から作成された企業と高等学校の一覧表の中からヒアリング先企業と高等学校の選定を行う

・趣意書（事業概要）の作成をする

・企業と高等学校へのヒアリングを行う

②調査会社の役割

・調査先企業と高等学校の一覧表の作成

・当校が一覧表の中から選定した企業と高等学校に電話、もしくはＥメールで連絡を取っていく。ヒアリングに掛かる時間は３０分をベースに連絡を取っていく

・ヒアリング快諾企業や高等学校と検討企業や高等学校に趣意書（事業概要）を送付し、その後説明を行う（必要であれば協力先に出向いて事前説明をする）

・ヒアリングの同意を結び付けた企業と高等学校の連絡先を当校へ連絡し、その後スケジュール調整を行い実施していく

・調査会社は、ヒアリングに必要であれば同行する。ヒアリング終了後にヒアリングコメントの整理を行い、当校へ送付する

・議事進行のサポートを行う　等

③ヒアリング実施手法

・企業や高等学校へ直接訪問、もしくはオンラインで実施

・オンラインの場合は、基本的には調査会社がホストとなる

（４）ヒアリング項目

【企業ヒアリング項目】

■採用状況
■採用において課題であると感じている点
■入社５年目までに大学卒、専門学校卒、高校卒の社員が、同じ職種や役割に就くことがあるか
■５年一貫教育プログラム自体の感想
■分野の魅力を伝える動機づけとしての『メタバース』の取り組み
■分野の魅力を伝える動機づけとしての『イメージ動画』の取り組み
■高校１年生を対象に実施した授業内容
■高校２年生を対象に実施した授業内容
■高校３年生を対象に実施した授業内容
■専門学校１年生を対象に実施予定の授業内容
■専門学校に進学したＯＢ・ＯＧと高校生の交流機会を設けること
■貴社に入社したいと考えている学生に「これだけは身につけていてほしい」こと
■これからの専門学校教育に求めること
■その他

【高等学校ヒアリング項目】

■進路の状況
■進路への課題
■５年一貫教育プログラム自体の感想
■分野の魅力を伝える動機づけとしての『メタバース』の取り組み
■分野の魅力を伝える動機づけとしての『イメージ動画』の取り組み
■高校１年生を対象に実施した授業内容
■高校２年生を対象に実施した授業内容
■高校３年生を対象に実施した授業内容
■専門学校１年生を対象に実施予定の授業内容
■専門学校に進学したＯＢ・ＯＧと高校生の交流機会を設けること
■貴校で同様の高専連携授業を実施するとなった場合の課題（ハードル）
■貴校で同様の高専連携授業を実施するとなった場合、教育プログラムに取り入れてほしい内容
■貴校に通う生徒に「これだけは身につけていてほしい」こと
■専門学校教育に求めること
■その他

（５）実施件数

分　野	連絡件数	実施件数	実施割合（%）
自動車整備	１２	２件	１６．７%
建築	１６	２件	１２．５%
インテリア	１１	２件	１８．２%
情報（ＩＴ／ＩｏＴ）	２０	２件	１０%
ＩＴ／ＤＸ（ＡＩ系）	１５	１件	６．７%
環境	１１	１件	９．１%
高等学校	４０	１６件	４０%
合計	１２５	１７件	２０%

２．企業ヒアリング回答結果

（※回答が複数ある場合は一つで表示しています）

（１）自動車分野

【貴社での採用のご状況について】

■採用状況（人材が不足している/専門学校からの入社割合/新卒と中途の割合 など）

・人材不足である。約６０%（２０%程度日本人、４０%程度留学生）が専門学校からの入社。中途は１０%程度

・人材不足である。新卒採用は年々厳しくなっている。サービスは専門学校を中心にしているが、高校卒も１～２人いる。自動車に興味がある子がほとんどであったが、無い子の比率が高くなってきている。留学生採用をし始めた

■採用において課題であると感じている点

・留学生とのコミュニケーション。言葉と文化的なもの

・外国籍社員とのコミュニケーション

■入社から５年目までに大学卒、専門学校卒、高校卒の社員が、同じ職種や役割に就くことはありますか（　ある　・ない　）

ある：２社、ない：０社

上記の設問で、「ある」と回答した方への質問です。
大学卒や高校卒で入社した社員の方と比較して、専門学校卒で入社した社員の、強みや共通点、課題は何ですか？（様々な観点からご意見をいただけますと幸いです）

・専門学校卒業生は比較的素直な方が多い。留学生とのコミュニケーションで現場指導員が板挟み状態になっていてかなりのストレスがかかっている
・外国籍の方を採用しているが、言葉によるコミュニケーションが難しい。指導者が現場と外国籍社員との板挟みになっている

【本事業での取り組みに関するご意見のお伺い】

■『５年一貫教育プログラム』というもの自体についてのご意見

・メリットはかなり大きいと思う。様々な分野を体験することで視野も広くなると思う
・車に興味はないが職業の一つとして選択する人たちが多くなってきているため、色々な体験をしてその中で自動車分野を選んでもらった方が、定着すると思うので、学生の内に様々な分野を体験できるのは良いと思う

■分野の魅力を伝える動機づけとしての『メタバース』の取り組みについてご意見

・目にする機会が減っているが、若い方には好奇心が生まれるきっかけがあると感じる有効な手段と思う
・色んな角度で体験できる機会があることは良いことと思う

■分野の魅力を伝える動機づけとしての『イメージ動画』の取り組みについてご意見

・構えず、仕事のイメージができるもので良い取り組みと思う
・興味を持たせるものとして良いと思う

■高校１年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和４年度実証『ワクワク』をテーマにした、分野に興味・関心を抱かせることを目的とした体験授業

・仕事をする意味や自分の将来像を考えることにつながりそうだと思う
・実際に触れたり、手を動かしたりする体験型の授業中心は良いと思う

■高校２年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和５年度実証『リアル』をテーマにした、職業の具体的イメージや期待感を醸成できる体験授業
・自分がどの分野で活躍できるのか想像できそうである。自分の未来像につながると思う ・整備の入り口としては良いと思う。実際に触れて機会いじは楽しいことになってくれると良い

■高校３年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和６年度実証『学びの動機づけ』をテーマにした、推し授業動画視聴＋ワークシートでの学習
・専門学校に進学すると専門性が身に付く事を体験授業や先輩の講話で気付いてもらうのは大変良いと思うが、高卒の方々への配慮をどのように考えるのかが必要と思う ・そんなに年齢が離れていない方からの発信は、仕事の具体的なイメージができると思う、分野の魅力発信になると思う

■専門学校１年生を対象に実施予定の授業内容についてのご意見　＊令和７年度実証予定『学びの意味づけ』をテーマにした、各分野の課題に合わせてプログラムした体験授業
・自分の成長が感じられるのは自信に結びつくので良いと思う

■専門学校生が母校で高校生と一緒に授業を実施するプログラムも今後の実施を検討中です。こういった、ＯＢ・ＯＧと高校生の交流機会を設けることについて率直な意見をお願いします。（高校生へのメリット・デメリット/逆に専門学校生へのメリット・デメリット など）
・良いことと思う。専門学校生のＯＢ・ＯＧは成長している実感や姿勢を正すきっかけとなると思う。また、高校生にとっては年齢が近いので、自分の将来像をイメージできるきっかけづくりとなって興味が出て前向きに学んでいこうという気持ちが生まれると思う。お互いメリットは大きいと思う ・良いことと思う。ＯＢ・ＯＧと高校生にとってお互いメリットは大きいと思う

【その他】

■貴社に入社したいと考えている学生に、「これだけは身につけていてほしい」と思うこと
・自動車整備士の資格取得、車の構造、電気の基礎はしっかりと理解していてほしい

■これからの専門学校教育に求めること
・体験を積み重ねて知識の幅を広げてほしい

■その他のご意見や伝えておきたいことなど
・特になし

【ヒアリング結果から本事業の取り組みに関する考察】

学生が様々な分野をメタバースやイメージ動画を通じて体験しながら自動車整備の入り口から段階的に将来像を具体的にイメージできる流れは、視野の拡大や進路選択の納得感、興味・関心を高めていく、また、専門学校１年生においては、成長の実感や自身につながるとともに、学習の姿勢を見直す機会となることができる。

さらに、高校生にとっては年齢の近い先輩や実体験に触れることで自身の将来像を具体的にイメージしやすくなり、ＯＢ・ＯＧとの交流を含めた取り組みは双方にとってメリットが大きい。

（２）建築分野

【貴社での採用のご状況について】

■採用状況（人材が不足している/専門学校からの入社割合/新卒と中途の割合 など）
・募集しているが、いい人材がいない ・人材は不足している。グループ全体で専門学校採用枠を増やしているが、新卒となると様々な職種があるため、全体の５％程度。新卒と中途の割合は、８：２ぐらい

■採用において課題であると感じている点
・社員高齢化に伴い平均年齢が高いので、あまり若い方が続かない ・技術職の有資格者が少ない

■入社から５年目までに大学卒、専門学校卒、高校卒の社員が、同じ職種や役割に就くことはありますか（　ある　・ない　）
ある：２社、ない：０社

上記の設問で、「ある」と回答した方への質問です。 大学卒や高校卒で入社した社員の方と比較して、専門学校卒で入社した社員の、強みや共通点、課題は何ですか？（様々な観点からご意見をいただけますと幸いです）
・わからないが、年齢差によるコミュニケーションの課題はあると思う ・中途では実務経験を判断基準にしているので、実務経験ではあまりないと感じる

【本事業での取り組みに関するご意見のお伺い】

■『５年一貫教育プログラム』というもの自体についてのご意見
・興味がある。ムダなものを楽しめる暮らしの提案などあると良い ・きっかけづくりとしては、意味があると思う

■分野の魅力を伝える動機づけとしての『メタバース』の取り組みについてご意見
・よくわからない ・メタバースは、同じ空間内でチャットできたり、動画が見られたりするのはおもしろいと思う

■分野の魅力を伝える動機づけとしての『イメージ動画』の取り組みについてご意見
・暮らしに合った建物のイメージがあるのが良い ・良いと思うが、定期的に内容を変えてほしい

■高校１年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和４年度実証『ワクワク』をテーマにした、分野に興味・関心を抱かせることを目的とした体験授業
・良いと思う。自分で設計させる内容があると良い ・きっかけづくりとしては良いと思う

■高校２年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和５年度実証『リアル』をテーマにした、職業の具体的イメージや期待感を醸成できる体験授業
・段階的には良いと思う ・モノづくりの楽しさを体験することは良いことと思う

■高校３年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和６年度実証『学びの動機づけ』をテーマにした、推し授業動画視聴＋ワークシートでの学習
・手が届きそうなリアルな話は説得力があり、生きた話になるので良い ・授業内容と仕事が結びつくイメージができると思う。良い動画と思う

■専門学校１年生を対象に実施予定の授業内容についてのご意見　＊令和７年度実証予定『学びの意味づけ』をテーマにした、各分野の課題に合わせてプログラムした体験授業
・企業側としてはメリットが大きいと思う ・良い取り組みと思う

■専門学校生が母校で高校生と一緒に授業を実施するプログラムも今後の実施を検討中です。こういった、ＯＢ・ＯＧと高校生の交流機会を設けることについて率直な意見をお願いします。（高校生へのメリット・デメリット/逆に専門学校生へのメリット・デメリット など）
・高校生とＯＢ・ＯＧにとってメリットは大きいと思う。特に高校生にとっては気軽に相談できるきっかけになるから良いと思う ・高校生とＯＢ・ＯＧ両方にとってお互いにとって刺激になると思うのでメリットは大きいと思う

【その他】

■貴社に入社したいと考えている学生に、「これだけは身につけていてほしい」と思うこと
・あいさつ、時間管理、報連相、お礼など ・技術職は建築関係の資格を取得していること

■これからの専門学校教育に求めること
・資格取得はもちろん、安全を考えることが第一、法的なところや寸法といったことにしっかり考える姿勢が逐一指摘されず当たり前にできること ・特になし

■その他のご意見や伝えておきたいことなど
・特になし

【ヒアリング結果から本事業の取り組みに関する考察】

段階的に体験を重ねながら仕事や学びへの理解を深めていける流れ、ものづくりの楽しさや暮らしに結びついたイメージを持てる体験や身近な先輩のリアルな話を通じて、授業内容と仕事とのつながりを具体的にイメージできる点、専門学校生（ＯＢ・ＯＧ）と高校生の交流は、気軽に相談できる機会や相互の刺激につながるなど双方にとってメリットが大きく、将来を考える上で有意義な取り組みであると考える。

一方、メタバースやイメージ動画で分野への興味を喚起する手段として有効であるが、内容を工夫しながら継続的に更新していくことが課題になると考える。

（３）インテリア分野

【貴社での採用のご状況について】

■採用状況（人材が不足している/専門学校からの入社割合/新卒と中途の割合 など）
・人材不足。専門学校は全体の２０％程度、新卒と中途の割合は同じ程度 ・新卒は基本的には４年制大学卒のみであるが、枠を広げる検討をしている。中途採

用は学歴問わず経験重視

■採用において課題であると感じている点
・募集していても十分な人数が来ない
・建築基準法の考えられる人が少ない

■入社から５年目までに大学卒、専門学校卒、高校卒の社員が、同じ職種や役割に就くことはありますか（　ある　・ない　）
ある：１社、ない：１社

上記の設問で、「ある」と回答した方への質問です。
大学卒や高校卒で入社した社員の方と比較して、専門学校卒で入社した社員の、強みや共通点、課題は何ですか？（様々な観点からご意見をいただけますと幸いです）
・インテリアに取り入れる思考は専門学校で学んでいるようなので、そこはアドバンテージになると思う

【本事業での取り組みに関するご意見のお伺い】

■『５年一貫教育プログラム』というもの自体についてのご意見
・早い段階から広く浅くでも色んなものを体験できることは良いと思う
・個人的には面白いと思う

■分野の魅力を伝える動機づけとしての『メタバース』の取り組みについてご意見
・興味を与える効果はあると思う
・興味を与える手段の考え方として活かせるかは分からないが、面白いと思う

■分野の魅力を伝える動機づけとしての『イメージ動画』の取り組みについてご意見
・興味を持たせるものとして良いと思う

■高校１年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和４年度実証『ワクワク』をテーマにした、分野に興味・関心を抱かせることを目的とした体験授業
・自由度が高くて良いと思う。自分の好きなファッションからインテリアを考える流れは良い。ファッションに興味が無くても家具の形や色、高級感など様々なことを知る機会にもなると思う
・パソコンを使うことを取り入れるのは良い。タブレットは使いこなせるが、パソコンはそうではないので良い内容と思う

■高校２年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和５年度実証『リアル』をテーマにした、職業の具体的イメージや期待感を醸成できる体験授業

・チームで考えるという方向性は良いと思う、低炭素をテーマにしても良いと思う
・環境負荷が低いもの、リサイクル率などを取り入れたものがあっても面白い

■高校３年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和６年度実証『学びの動機づけ』をテーマにした、推し授業動画視聴＋ワークシートでの学習

・自分がどのように成長できるかがイメージできる。専門学校卒業生の選定も２年以内としているところがとても良い
・イメージできる内容で良いと思う。分野の魅力発信になると思う

■専門学校１年生を対象に実施予定の授業内容についてのご意見　＊令和７年度実証予定『学びの意味づけ』をテーマにした、各分野の課題に合わせてプログラムした体験授業

・仕事のイメージができる取り組みで良いと思う

■専門学校生が母校で高校生と一緒に授業を実施するプログラムも今後の実施を検討中です。こういった、ＯＢ・ＯＧと高校生の交流機会を設けることについて率直な意見をお願いします。（高校生へのメリット・デメリット/逆に専門学校生へのメリット・デメリット など）

・卒業生の話を聴くことは高校生にとって目標とするイメージができることでメリットが大きいと思う。卒業生も仕事に対する姿勢を正すきっかけづくりになると思う
・卒業生の話を聴くことはすごくいいことと思う。高校生にとっては気軽に相談できる先輩がいることはメリットが大きいと思う

【その他】

■貴社に入社したいと考えている学生に、「これだけは身につけていてほしい」と思うこと

・お客に寄り添う姿勢、お客の立場になって考える姿勢
・建築基準法を身に付けてほしい

■これからの専門学校教育に求めること

・低炭素意識を持たせるような授業内容

■その他のご意見や伝えておきたいことなど
・特になし

【ヒアリング結果から本事業の取り組みに関する考察】

高校生１年生の段階からパソコンの活用、チームでの検討などを通した様々な視点や発想に触れながら学ぶ体験的な流れは、分野への興味・関心を促し理解を深めるとともに、ものづくりの楽しさや仕事の具体的なイメージが持てるので、メタバースやイメージ動画についても、分野の魅力を伝え興味を持たせる手段として一定の効果が期待できる。

さらに、専門学校生（ＯＢ・ＯＧ）との交流は、高校生にとって将来の目標を具体的にイメージでき、気軽に相談できる機会となる点でメリットが大きく、卒業生にとっても自身の仕事や学びへの姿勢を見直す契機となるなど、双方にとって有意義な取り組みであると考える。

（４）情報（ＩＴ／ＩｏＴ）分野

【貴社での採用のご状況について】

■採用状況（人材が不足している/専門学校からの入社割合/新卒と中途の割合 など）
・人材は不足しているが、中途採用のみ。新卒者を育てる時間の余裕はない
・人材不足である。専門学校卒２０％程度、新卒２０％・中途６０％の割合

■採用において課題であると感じている点
・即戦力募集でも能力がない者が目立つ
・通信制学生枠採用を広げるかどうか

■入社から５年目までに大学卒、専門学校卒、高校卒の社員が、同じ職種や役割に就くことはありますか（　ある　・ない　）
ある：２社、ない：０社

上記の設問で、「ある」と回答した方への質問です。 大学卒や高校卒で入社した社員の方と比較して、専門学校卒で入社した社員の、強みや共通点、課題は何ですか？（様々な観点からご意見をいただけますと幸いです）
・新卒ということであるならわからない。中途採用では学歴はあまり関係ないが、マネジメントをするという立場になったときは、大卒が強い傾向。専門学校卒は弱い
・強みは、ある程度基礎ができていること。課題は、専門的なものに偏った教育のせいか、大学院や大学生と違ってスキル重視に捉えているところ

【本事業での取り組みに関するご意見のお伺い】

■『５年一貫教育プログラム』というもの自体についてのご意見

・良いと思う。ただ、日本と世界の比較をして現状を知ることを教える内容や学生にプログラミング含めて行えると面白く感じると思う
・良い取り組みと思う。工業系だけではなく、普通科や通信制などに需要があると思う

■分野の魅力を伝える動機づけとしての『メタバース』の取り組みについてご意見

・これからも様々なものが出てくると思うので最新のものを体験できることは良い
・おもしろいと思うが、今は日常的に目や耳にすることが少ない。リアルをどのようにつなげるかによると思う

■分野の魅力を伝える動機づけとしての『イメージ動画』の取り組みについてご意見

・興味を持たせる手段として有りだと思う
・仕事のイメージができるもので良い取り組みと思う。色々試すことは必要

■高校１年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和４年度実証『ワクワク』をテーマにした、分野に興味・関心を抱かせることを目的とした体験授業

・授業を通して技術の可能性も伝えると良いと思う
・ステップを踏んでいるところは評価できるが、整理して出すアウトプットには疑問

■高校２年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和５年度実証『リアル』をテーマにした、職業の具体的イメージや期待感を醸成できる体験授業

・仕事のイメージが伝わるような内容と思う
・整理して出すアウトプットには疑問

■高校３年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和６年度実証『学びの動機づけ』をテーマにした、推し授業動画視聴＋ワークシートでの学習

・憧れを抱く先輩造の言葉は動機づけのきっかけになると思う
・アウトプットのイメージができるのが良い。高校３年生にも理解できる内容

■専門学校１年生を対象に実施予定の授業内容についてのご意見　＊令和７年度実証予定『学びの意味づけ』をテーマにした、各分野の課題に合わせてプログラムした体験授業

・技術の可能性を体験できるのは良いと思うが、見せるのが高度すぎると授業との関係性が学生に伝わるのか不安

・様々な可能性を見せることで学習意欲が高まると思う

■専門学校生が母校で高校生と一緒に授業を実施するプログラムも今後の実施を検討中です。こういった、ＯＢ・ＯＧと高校生の交流機会を設けることについて率直な意見をお願いします。（高校生へのメリット・デメリット/逆に専門学校生へのメリット・デメリット など）

・良いことと思う。高校生にとっては目指す目標を持たせることができる。専門学校生は教える側の立場になることにより、学びの刺激になると思う
・ＯＢ・ＯＧと高校生両方に仕事に向き合うための意識付けとして効果が表れると思う

【その他】

■貴社に入社したいと考えている学生に、「これだけは身につけていてほしい」と思うこと

・社会貢献が楽しいと思えるような感情とやりがいを求める想い
・調べる力。ネット上で様々な答えはあるが、それを鵜呑みにせず、その根拠となるところを自分なりに自然にできることを身に付けてほしい

■これからの専門学校教育に求めること

・調べる力。ネット上で様々な答えはあるが、それを鵜呑みにせず、その根拠となるところを自分なりに自然にできることを身に付けてほしい

■その他のご意見や伝えておきたいことなど

・特になし

【本事業の取り組みに関する評価の考察】

高校１年生の段階からメタバースやイメージ動画といった分野への興味・関心の喚起からステップを踏みながら様々な分野へ体験を通して仕事のイメージを持たせながらアウトプットを含めた学びを深められる内容が一定の評価がされていると考える。

また、専門学校生（ＯＢ・ＯＧ）と高校生の交流は、双方の意識向上につながる有意義な取り組みであると考えられる。

（５）ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）分野

【貴社での採用のご状況について】

■採用状況（人材が不足している/専門学校からの入社割合/新卒と中途の割合 など）

・人材は不足しているが新卒ではなく中途重視で採用。大学卒、専門学校卒で採用している。新卒と中途の割合は、約５：５

■採用において課題であると感じている点

・技術的な基礎知識と業界の知識不足

■入社から５年目までに大学卒、専門学校卒、高校卒の社員が、同じ職種や役割に就くことはありますか（　ある　・ない　）

ある

上記の設問で、「ある」と回答した方への質問です。
大学卒や高校卒で入社した社員の方と比較して、専門学校卒で入社した社員の、強みや共通点、課題は何ですか？（様々な観点からご意見をいただけますと幸いです）

・大学、専門学校関係なく、新卒は専門用語と業界用語、業界の知識不足が目立つ

【本事業での取り組みに関するご意見のお伺い】

■『５年一貫教育プログラム』というもの自体についてのご意見

・おもしろいと思う。広く様々な分野を相手に仕事しているため、一つの分野のみではなく、色々な分野を体験できるものは良いと思う

■分野の魅力を伝える動機づけとしての『メタバース』の取り組みについてご意見

・様々な体験ができる機会があることは良いと思う

■分野の魅力を伝える動機づけとしての『イメージ動画』の取り組みについてご意見

・興味を持たせるのに役立つかもしれないと思った

■高校１年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和４年度実証『ワクワク』をテーマにした、分野に興味・関心を抱かせることを目的とした体験授業

・きっかけづくりになると思う

■高校２年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和５年度実証『リアル』をテーマにした、職業の具体的イメージや期待感を醸成できる体験授業

・センサを動かすためのプログラミング体験が良い。自分で作ったものが実際に動くと興味が湧いていくと思う

■高校３年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和６年度実証『学びの動機づけ』をテーマにした、推し授業動画視聴＋ワークシートでの学習

・年齢が近い先輩の声が聞けるのは良い機会だし、どのようなことが仕事に必要とされているのか具体的なイメージができると思う

■専門学校１年生を対象に実施予定の授業内容についてのご意見　＊令和７年度実証予定『学びの意味づけ』をテーマにした、各分野の課題に合わせてプログラムした体験授業
・仕事と学習を結び付ける取り組みは大切だと思うので良いと思う

■専門学校生が母校で高校生と一緒に授業を実施するプログラムも今後の実施を検討中です。こういった、ＯＢ・ＯＧと高校生の交流機会を設けることについて率直な意見をお願いします。（高校生へのメリット・デメリット/逆に専門学校生へのメリット・デメリット など）
・高校生にとってはこのようになりたいという学習意欲が高まる機会と思う。ＯＢ・ＯＧはしっかりしないと、という意識が芽生える可能性があると思うので、どちらにも大きなメリットがあると思う

【その他】

■貴社に入社したいと考えている学生に、「これだけは身につけていてほしい」と思うこと
・技術的な面は基礎知識、あとは業界用語も含めた業界の知識

■これからの専門学校教育に求めること
・専門用語と業界用語、業界のことをしっかりと身につけてほしい。そうすると、専門学校からの新卒採用枠を設けることができる

■その他のご意見や伝えておきたいことなど
・特になし

【本事業の取り組みに関する評価の考察】

高校１年生の段階からメタバースやイメージ動画を通して幅広い分野を体験し、興味・関心を高めるきっかけづくりから段階的に進めていく流れになっており、自ら作ったものが動くプログラミング体験などは、仕事への理解や将来のイメージ形成につながるものとして一定の評価できると考える。

また、専門学校１年生向けでは、年齢の近い先輩の話を通じて学習と仕事を結び付ける具体的な話は学習意欲向上につながると思われる。

さらに、専門学校生（ＯＢ・ＯＧ）と高校生の交流は、高校生の目標意識の向上と専門学校生の自覚の醸成につながるなど、双方にとってメリットが大きい取り組みと思う。

（６）環境分野

【貴社での採用のご状況について】

■採用状況（人材が不足している/専門学校からの入社割合/新卒と中途の割合 など）

・人材不足である。専門学校からは５％程度で現在事務職が多い。工場の現場は大卒や高専卒なので専門学校卒はゼロ、工場の機械設備の人材が足りない、専門学校でも機械系を学んだ学生がいれば採用の検討をしていきたい

■採用において課題であると感じている点

・スキル面に偏っているところ

■入社から５年目までに大学卒、専門学校卒、高校卒の社員が、同じ職種や役割に就くことはありますか（　ある　・ない　）

ある

上記の設問で、「ある」と回答した方への質問です。
大学卒や高校卒で入社した社員の方と比較して、専門学校卒で入社した社員の、強みや共通点、課題は何ですか？（様々な観点からご意見をいただけますと幸いです）

・事務職系であるが、入社後専門的な素地があるので指導しやすい。教育内容が偏っているせいかＩＴ面の基礎的な知識が乏しい

【本事業での取り組みに関するご意見のお伺い】

■『５年一貫教育プログラム』というもの自体についてのご意見

・早い段階での意識付けの面では良いと思う

■分野の魅力を伝える動機づけとしての『メタバース』の取り組みについてご意見

・若い人には色々あって良いと思う

■分野の魅力を伝える動機づけとしての『イメージ動画』の取り組みについてご意見

・色々なものに興味を持たせるものとして良いと思う

■高校１年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和４年度実証『ワクワク』をテーマにした、分野に興味・関心を抱かせることを目的とした体験授業

・興味・関心のきっかけづくりを目的としているので良いと思う

■高校２年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和５年度実証『リアル』をテーマにした、職業の具体的イメージや期待感を醸成できる体験授業

・企業見学を通した内容があるとより良くなると思う

■高校３年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和６年度実証『学びの動機づけ』をテーマにした、推し授業動画視聴＋ワークシートでの学習

・ベテラン域の卒業生でないことが良い。専門学校の学びと卒業後のなりたい自分がイメージできると思う

■専門学校１年生を対象に実施予定の授業内容についてのご意見　＊令和７年度実証予定『学びの意味づけ』をテーマにした、各分野の課題に合わせてプログラムした体験授業

・ＳＤＧｓと地方創生をカードゲームやグループワークなど工夫されている。良い体験授業だと思う

■専門学校生が母校で高校生と一緒に授業を実施するプログラムも今後の実施を検討中です。こういった、ＯＢ・ＯＧと高校生の交流機会を設けることについて率直な意見をお願いします。（高校生へのメリット・デメリット/逆に専門学校生へのメリット・デメリット など）

・良いことと思う。ＯＢ・ＯＧと高校生にとってお互いメリットは大きいと思う

【その他】

■貴社に入社したいと考えている学生に、「これだけは身につけていてほしい」と思うこと

・ＩＴの基礎知識は分野を問わず取り入れてほしい。単科教育だけの２年間という時間は短いと思う

■これからの専門学校教育に求めること

・ＩＴの基礎知識は分野を問わず取り入れてほしい

■その他のご意見や伝えておきたいことなど

・特になし

【本事業の取り組みに関する評価の考察】

高校１年生の段階からメタバースやイメージ動画といったものを取り入れ、分野への意識付けや興味・関心を高めることができる手段として有効であるが、企業見学なども取り入れた内容が求められている。

その中で今年度実施したＳＤＧｓや地方創生を取り入れたグループワークによる体

験型授業は社会貢献へのイメージを学生に与えることができるため、一定の評価があると考える。専門学校生（ＯＢ・ＯＧ）と高校生の交流は双方にとってメリットが大きく、学習意欲や将来への意識向上に寄与するものであると考える。

３．高等学校ヒアリング結果

【貴校のご状況について】

■貴校の生徒の皆さまの進路のご状況（大学進学/専門学校・短大進学/就職　それぞれの割合など）
・大学３割　専門３割　就職２．３割　とりあえず卒業１．２割
・大学あまりいない　専門３割 就職６割
・大学５０％　専門５０％　短大ほぼなし　就職１０％　未定１０％
・大学３０％　専門５０％　短大１名　就職１０％　未定１０％
・大学４０％　専門４０％　就職２０％
・大学進学：約２０％　専門学校・短大進学：約５５％　就職：約２５％　県外進学も２０％程度ある
・大学進学が４～５割、専門学校・短大進学が３～４割、就職が１割前後。特に、県内大学・短大への進学が多い。専門＋県外専門進学の分野としては看護・福祉・医療・観光などが多く、工業系はあまり聞かない。九州が多数派で東京は少ない
・卒業予定９割が大学を目指す　実際の進路は全員を把握できていないが８割大学
・私立大学・短期大学、県内専門学校への進学が中心。進路割合としては、大学・短大進学：４～５割程度、専門学校進学：３～４割程度、就職：１～２割程度。県内の私立大学や看護系専門学校への進学が多く、県外進学は比較的少ない
・県内就職が約５割、専門学校進学が２～３割、大学進学が１～２割程度。特に県内のインフラ、製造関連企業への就職実績が多い。県外進学は例年１～２割、大学が多い。専門＋県外は九州が多数、分野はバラバラ
・進学が多い、大学・短大進学が５～６割、専門学校進学が２～３割前後、就職が１～２割程度。観光・スポーツ・福祉など、地域産業と関連する分野への進学も多い。また、スポーツ推薦による進学も一定数ある。ただし県外進学は一般的ではなく、専門で東京に出る人はほぼいない
・大学３割　専門２割　就職１割　福祉的就労４割
・大学２割　専門５割　就職１．５割　とりあえず卒業１．５割
・大学８割　専門１割（全員看護）　進学準備１割
・２割大学　６～７割専門　就職１～２割

■貴校の生徒の皆さまの進路について、課題であると感じている点
・体力がない。８時間労働や９０分×４コマの授業に対応できない
・「行けるところに行ければいいや」と考える人が多い。経済的に厳しく、都内へ進

学できる人が少ない
・学部のコースなど学科名で惹かれていることが多い。勉強内容は見ておらず進学してもギャップがある。なので進路決定が遅くなってしまっている
・自己分析が足りていない。なぜその分野にしたいのかを言えない生徒がいる。考えや動機が甘いので進路に身が入らない。昔は指定校を取るのに必死で頑張っていたりしたのに…
・早期の進路への意識付けが難しいですね…
・専門進学でも職業理解が十分でないまま進学先を決めてしまう生徒が多い
・教員も含めて、大学・専門の違いや特徴を理解しきれず、進路選択が“なんとなく”で決まってしまう生徒が一定数いる
・進路意識の形成が遅れがちな生徒も一定数いる。また、専門分野や職業理解が浅いまま進路選択に至るケースもあり、早期からのキャリア教育や職業理解の機会の充実が課題
・県内就職、進学が一般的なので外に目を向ける力や選択肢を広げる行動がとれていない子が多い、学校側も積極的には取り組んでいない
・特進～就職まで学力にも幅があるので、それぞれで進路指導をしている状態。入学時、１年時等早い段階から専門、工業分野など知らない分野に触れさせるのは生徒が自分で考えるきっかけになりそう
・とりあえず卒業した人の、その後が心配。進学後のミスマッチで辞める数をどうすれば減らせるか
・年内で決める人が増えた。数年前は共通テスト２００人受けていたが、今は５０人程度
・自分で判断できない。周りに合わせることが多い
・通えるかどうか

【本事業での取り組みに関するご意見のお伺い】

■『５年一貫教育プログラム』というもの自体についてのご意見

・５年あるのであれば、マナーなども教育してほしい
・５年が妥当だと思う
・良い取り組みだと思う。当校も卒業してから生徒に戻ってきてもらって講話などをしている。システム化していていいと思う
・良いと思う。実習体験があるのが良い
・納得してその分野に進むことができそう、就職ができそう
・高校～専門までの一貫プログラムは「高校での学びが専門学校でどう発展するのか」を可視化できる点で進路のミスマッチ防止にもつながりそう
・取り組み自体は面白いし、生徒に取っても意味がありそう。高校１年など早い段階から、大学や専門学校の違いや、触れたことのない工業系の分野も認識することで

進路選択肢を増やせる
・早期から専門分野に触れられる点は、生徒の興味喚起や将来像の明確化につながる
・工業高校の生徒にとって、高校で学ぶ知識や技術を専門学校でさらに高度化し、資格取得や就職につなげる取り組みは相性が良さそう。電気・情報・建築などは資格や実務経験が求められるため、段階的に学べる仕組みは生徒のキャリア形成にも有効だと思う
・高校と専門学校が連携し、５年間を通して体系的にキャリア形成を支援するという考え方は、生徒の進路選択の質を高める上で非常に有効だと感じる。特に、早期から専門分野に触れられる点は、生徒の興味喚起や将来像の明確化につながると期待
・卒業生の還元良い
・興味ある人には良いと思う
・高校１年から様々な専門的な学びが出来るのは良い
・高校１年生をターゲットにするのはあまりないので良い
・入口から出口まで充実した学びができる

■分野の魅力を伝える動機づけとしての『メタバース』の取り組みについてのご意見

・良いと思う！
・目で見るものの方が生徒にとっては入ってきやすい
・ネットスタイルの生徒の文化祭でメタバース使ったこともあります！おもしろいという入口から入るのでハードルが低いと思う。当校に置き換えると足を運ぶのが大変の生徒もいるので良い

■分野の魅力を伝える動機づけとしての『イメージ動画』の取り組みについてご意見

・良い取り組みだと思う。動画の長さについては今の高校生はショート動画の方が見やすそうです
・動画から興味を持つパターンは多いと思う
・短い動画であればタイパ的にも良さそう！今の子は気にしますよね

■高校１年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和４年度実証『ワクワク』をテーマにした、分野に興味・関心を抱かせることを目的とした体験授業

・給料などの話をしても良いかも
・メタバースだと楽しく学べると思う。野村證券がメタバースでお金の授業をしているらしい
・ハードル低いところから入っていけるので良いと思う
・育成プログラムでワクワクから入るのは分かりやすいと思う。力をつけないといけないことが分かればＯＫ
・入口として興味を持つきっかけになりそう。楽しい所を入口にするのは良い

・メタバースとして空間に入るのは魅力。卒業生が実際にデザインした空間に入るとより面白い
・ＤＸ推進校なのでより面白い授業が出来そう
・建築のメタバースをもっとリアルにした方が良い。都内の戸建てはこんなに敷地広くない
・自分から見るので主体性が生まれる

■高校２年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和５年度実証『リアル』をテーマにした、職業の具体的イメージや期待感を醸成できる体験授業

・現実味があり良い
・動画だけだと分かった気になってしまうので、実習があるのは良い
・ワクワクからリアルを知った時に進路に対してマイナスイメージを持つ生徒がいそう。ケアが必要になりそう
・自分の甘さに気付いて勉強に繋がると思う
・ワクワクから入ってきているので、内容が入ってきやすいと思う
・リアルが分かるのは良い
・興味ない人は専門的過ぎてついていけなそう
・同じ分野で２～３社などの会社を呼んで比較しても良いかも
・ワクワクから体験に入ることによって深い学びが出来て良い

■高校３年生を対象に実施した授業内容についてのご意見　＊令和６年度実証『学びの動機づけ』をテーマにした、推し授業動画視聴＋ワークシートでの学習

・２年生の冬に進路決定する学生も最近は多いので、２年の後半にあっても良い
・ワークシート難しそう
・具体的でいいと思う。現実的に知れそう
・自分の将来像についても、リアルに目的意識を持って良いと思う
・教員の話よりも説得力があって良いと思う
・学びが、どう繋がるのかわかるのは良い
・工業高校では非常に意味がある
・進路を選ぶ上で有益な情報を話すのは非常に良い
・学ぶ意味がイメージしやすく良い

■専門学校１年生を対象に実施予定の授業内容についてのご意見　＊令和７年度実証予定『学びの意味づけ』をテーマにした、各分野の課題に合わせてプログラムした体験授業

・専門に入学したのでもう一度スペシャリストの話を聞いて目指すものを明確にするのが良いと思う

■専門学校生が母校で高校生と一緒に授業を実施するプログラムも今後の実施を検討中です。こういった、ＯＢ・ＯＧと高校生の交流機会を設けることについて率直な意見をお願いします。（高校生へのメリット・デメリット/逆に専門学校生へのメリット・デメリット など）

・高校生には良い刺激になる。高校生が目指したくなくなるようなつらい話をしてしまうリスクはある。あとは日程調整が難しい
・身近なロールモデルとして分かりやすいと思う。学んだことを教えるアウトプットできるのは良い
・母校愛が湧きそうで良い。先輩が帰ってくることでモチベーションが上がりそう→高校生。アウトプットができるので自分が足りていない所が出てきて自分の勉強になる→専門生
・専門生：デメリット→準備が大変なくらいかな？　メリット→自分のことを話すのはその分野や仕事への想いなどもまとまっていい！　高校生：デメリット→なしメリット→専門学校の様子を知れる。大変なことや楽しいことも聞ける
・高校生：デメリット→意図を分かってくれない高校生いそう　メリット→進学してからをイメージしやすい。進学先でうまくやれているんだなと分かって良い！　専門生：デメリット→交流会で時間のやり取りが必要　メリット→より知識が深まって良いと思う
・高校生にとっては、年齢の近い先輩からリアルな経験談を聞けるため、進路選択の具体性が増すという大きなメリットがあります。一方で、専門学校生にとっても、自身の学びを言語化することで理解が深まり、自己成長の機会になると考えます
・良いと思う。例えばインテを勉強している卒業生たちに文化祭や卒業式の装飾をしてほしい
・卒業生が活躍していくのを見られるのは非常に良い
・先生が話すより卒業生が話す方が学生は聞くので良い。ただ、体育会系だと特に「先輩が返ってくる。怖い」となりそう。また、卒業生が「めっちゃ楽だよ」など話してしまう懸念もあり
・卒業生が来るのは刺激的。リアルな話を聞いて折れないかが心配

【貴校での実施可能性のお伺い】

■貴校で同様の高専連携授業を実施するとなった場合、課題（ハードル）となりそうな点

・工業系希望者がかなり少ない
・時間の確保
・人員が足りていない。年間計画がぎちぎちで、時間が取れない。この後も実は行事の調整をします…

・商業高校なので、興味が定まらない中で、その授業を受けていいのかな？と思う。当校でやる場合クラスごとは難しそう、希望者を募る形となりそう
・固定コースが１つしかないので、やるなら全体でやるしかない。平等にしているので…(週３コースは実施して週５コースはなしなどはできないという意味です)年度や学期の初めに入れることはできる。希望制だとうまくいかなそう
・時間割調整が難しい点、専門学校との日程調整、教室や先生の調整など。また、専門的な授業を実施するための機材もない
・東京の学校と実施する場合は人の往来もハードルが高く、高度教育に必要な機器も揃っていないので実質オンラインのみになり、具体化は難しいと考える。WEB で出来る資格対策、スキル講座とかなら検討余地ありそう
・行事が多いので、時間割調整が課題
・工業高校は実習・試験・課題研究などで年間スケジュールが非常にタイトなので、外部連携授業等に割く時間が取れない
・行事が多いので、時間割調整が課題
・通信制だと参加学生が１人の可能性もある
・時間がない。希望者が少ない。全員が工業系に興味もたないので、別分野の学校に依頼する必要も出てくる
・本事業の対象分野に興味あるひとが非常に少ない
・参加率

■貴校で同様の高専連携授業を実施するとなった場合、教育プログラムに取り入れてほしい内容

・業界のリアルを伝えてほしい。好きなこととできることは違うことに気づければいい
・よりリアルな仕事などの体験を取り入れてほしい、インターンのような
・１つの分野では実施が難しそうです。進路とは別で職業を知るという意味であればできそう
・商業高校では出来ないような実践的な内容や、企業との連携を含めた職業理解の機会
・実施する前提であれば、専門学校・工業系の分野でどのような勉強をするのか、どんな仕事があるのか視野を広げる取り組み
・プログラミング体験（ゲーム、ドローン、生成ＡＩ）
・生徒が触れる機会の少ない 専門学校・工業系・医療系などの分野紹介
・高校の授業でも学んでいる分野が多いので、実施するとなれば高校では出来ないより専門的な教育を実施して分野に興味を持たせてほしい
・馴染みのない、専門学校や工業系分野でどのような学びが行われているのか、どんな職業につながるのかを分かりやすく紹介する内容を希望します。生徒の視野を広

げ、将来の選択肢を増やす取り組みを期待します
・実際の空間に入れる体験をしてほしい
・女性が多いので美容だと需要あり

【その他】

■貴校に通う生徒に、「これだけは身につけていてほしい」と思うこと

・挑戦すること
・学び続ける姿勢は常に持っていてほしい
・挨拶です！！
・コミュ力、時間を守ること。実際にグループワークやでディベートでコミュ力を養い中です。社会で愛される人間になってほしい！
・学力だけでなく、主体性・コミュニケーション力・探究心など、進学後に求められる基礎的な力を身につけてほしい
・挨拶、時間を守る、外に出る
・最低限のコミュニケーション力
・生きる力。特に西湘高校は高偏差値なのでプライド高い人が多い。他には生活力がなかったり、人を疑うことをしらない人が多い
・思いやり

■専門学校教育に求めること

・高校３年生の自由登校期間に専門学校への登校日を作ったり、課題を多く出してほしい
・その分野のスペシャリストに育ててほしい
・資格は取らせてほしい。就職のサポートもしてほしい
・就職してからのギャップを少なくしてほしい。社会で無事に働いてほしい
・国家資格がマストな分野で、国家資格が落ちてしまった場合、しっかりフォローしてほしい
・実践力を鍛えられるのは魅力　これからもより実践的な教育をしてほしい
・専門的なことを突き詰めてほしい
・通信課程がふえるとありがたい

■その他のご意見や伝えておきたいことなど

・探求心が今の子は弱めです…なので、荒川区の中学校ではがっつり３日とかインターンしている学校もあるみたいです。
・高校だと何で自分が学校に通っているか分からない生徒もいるが、進学すると意外とみんなちゃんとやっているので自分の選択に納得して勉強しているんだと思います

【本事業の取り組みに関する評価の考察】

メタバースやイメージ動画を活用することで、生徒が分野に興味を持ちやすく、ハードルを下げた動機づけとして有効であると評価された。特に「ワクワク」から「リアル」へと段階的に学びを深める構成は理解しやすく、実習や体験を通じて職業理解や進路意識の向上につながる点が良いとされた。

また、実習体験や卒業生の還元を含め、高校での学びが専門学校でどのように発展し、資格取得や就職へつながるのかを可視化できる点も大きな意義があり、入口から出口まで一貫した学びを提供できる仕組みとして一定の評価が得られた。

５年間という期間を活かし、専門知識だけでなくマナー教育など社会人基礎力の育成も含めるとより実践的な教育効果が生まれるとの指摘もあった。

また、専門学校生（ＯＢ・ＯＧ）と高校生の交流については、年齢の近い先輩からリアルな経験を聴くことで進路イメージが具体化し、高校生にとって良い刺激になるとともに、専門学校生にとっても学びの整理や成長につながる双方にとって意義のある取り組みとの評価も得られた。

高専連携授業の実証実験の協力や授業への導入面の課題として、工業分野への関心を持つ生徒が少ないことに加え、行事や実習による時間確保の難しさ、人員や設備不足、時間割や日程調整の負担などが主な課題として挙げられた。また、学校のコース編成や参加率の確保、遠方校との連携はハードルが高い結果であった。

導入には難しさがある一方で、プログラムには業界や仕事のリアルを伝える内容や、企業連携・実践的な体験など、高校では経験しにくい専門分野の紹介やプログラミング・生成ＡＩなどの体験を通じた専門的な学びが求められている。

高校から専門学校までを通して段階的に学びを深められ、早期から様々な専門分野に触れることが可能であり、進路のミスマッチ防止やキャリア形成の質向上に寄与する取り組みフォローの必要性も指摘されながらも受け入れたい姿勢が見えた結果となったと考える。

４．ヒアリングまとめ

（１）企業評価

①５年一貫教育プログラムについて

早い段階から幅広い分野に対して段階的に興味・関心を高め意識付けを様々な体験の中で学びと仕事への理解を深めながら積み上げることができる有意義な取り組みで、具体的な将来像のイメージ形成につながる可能性があり、分野の定着のきっかけづくりとして期待できる。

②段階的に分野の魅力を発信する手法について

「ワクワク」段階のメタバースから「リアル」段階のイメージ動画、年齢が近い

先輩の話による専門の学びの動機づけといった段階的に分野の魅力を発信する方法は、仕事のイメージを与えながら分野の魅力や興味・関心を高めていく流れとして学びの動機づけや将来への意識形成に寄与する一定の効果が期待できる。

③実証実験について

段階的な構成や先輩の発信による動機づけが評価できる。自由度の高い体験型授業内容やパソコンの活用、チームでの検討などを通じて、多様な視点や発想に触れながら学ぶ構成は、分野への理解を深めるとともに、ものづくりの楽しさや暮らしに結びついたイメージが持てる学びの広がりにつながる。

また、実体験や身近な先輩のリアルな話を通じて、授業内容と仕事とのつながりを具体的にイメージできる点は効果的である。

④専門学校に求めること

・資格取得と色々な基本的な確認を当たり前に自ら実行できる姿勢を習慣化させること。
・体験を積み重ねながら知識の幅を広げ、分野を問わずＩＴの基礎知識を積極的に取り入れていくカリキュラム。インターネット上の情報の根拠を確認し、自分自身で考え判断できる調べる力を養うこと。
・専門用語や業界用語を正しく理解し、業界全体についての知識をしっかりと身に付けさせること。

（２）高等学校評価

①５年一貫教育プログラムについて

高校から専門学校までを通して段階的に学びを深められる点をはじめ、早期から専門分野に触れることで興味・関心を高める効果や将来像の具体的なイメージにつながる効果が見込め、進路のミスマッチ防止やキャリア形成の質向上につながる期待がある。

また、実習体験や卒業生の還元を含め、高校での学びが専門学校でどのように発展し、資格取得や就職へつながるのかを可視化できる点も大きな意義があり、入口から出口まで一貫した学びを提供できる仕組みとしては有効。

②段階的に分野の魅力を発信する手法について

メタバースやイメージ動画を活用することで、生徒が分野に興味を持ちやすく、ハードルを下げた動機づけとして有効で、特に「ワクワク」から「リアル」へと段階的に学びを深める構成は理解しやすく、実習や体験を通じて職業理解や進路意識の向上につながる点が評価された。

③実証実験について

■高校１年生（テーマ：「ワクワク」）

メタバース活用は魅力的で興味・関心を持たせる入口として有効な手段、楽しい体験から入ることで主体的な学びにつながるという評価が多かった。

■高校２年生（テーマ：「リアル」）

実習を通して職業の現実を理解できる点が評価された。１年生の「ワクワク」からの流れで理解が深まりやすい一方、現実を知ることでついていけなくて意欲が下がる生徒への配慮や、専門性が高すぎない工夫が必要との意見があった。

■高校３年生（テーマ：「学びの動機づけ」）

年齢が近い先輩からの話が学びと将来のつながりを具体的に理解できる効果が生まれ、進路意識の向上につながる点が評価された。説得力があり有益との声が多いが、実施時期の前倒しやワークシート難易度の調整が課題として挙げられた。

■専門学校１年生（テーマ：「学びの意味づけ」）

専門分野を選択した後に改めて目標を明確にする機会に有効で、スペシャリストの話を聴くことが学習意欲向上の動機づけにつながると期待されている。

■ＯＢ・ＯＧと高校生の交流について

高校生にとっては身近なロールモデルとして進路の具体的イメージを持てるメリットが大きい。専門学校生にとってもアウトプットによる学びの深化が期待できる。ただし、現実的な話による意欲低下の影響を与える可能性を防ぐ運営方法が求められる。

④教育プログラムに取り入れてほしい内容

業界や仕事のリアルを伝える内容や、企業連携・実践的な体験など、高校では経験しにくい専門的な学びが求められている。

専門分野の紹介やプログラミング・生成ＡＩなどの体験を通じて、生徒の視野を広げ将来の選択肢を増やす内容のものや、５年間という期間を活かし、専門知識だけではなくマナー教育など社会人基礎力の育成も求められていた。

⑤高専連携授業実施の際の課題

高専連携授業の実施の課題にあたっては、工業分野への関心を持つ生徒が少ないことに加え、行事や実習による時間確保の難しさ、人員や設備不足、時間割や日程調整の負担などが主な課題として挙げられた。その他、学校のコース編成や参加率の確保、遠方校との連携もハードルとなっている。

５．実証実験

（１）実証実験概要

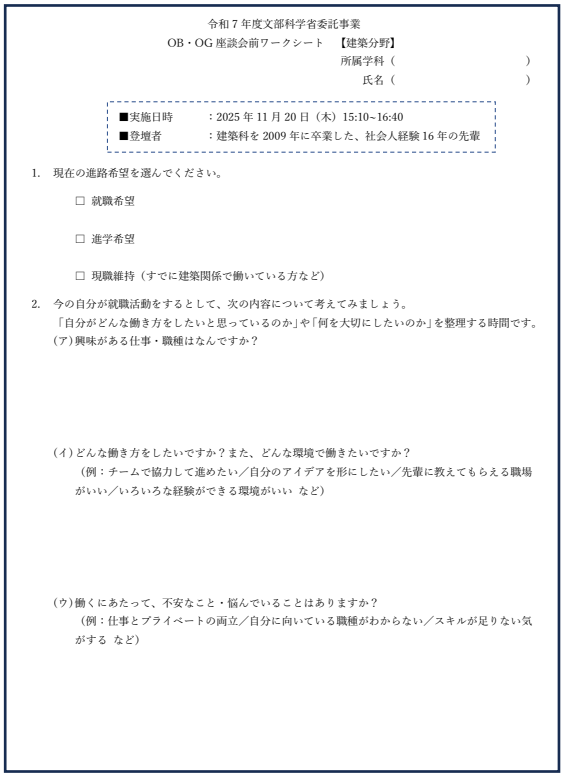
令和７年１１月１２日（水）～１２月２２日（月）期間で各分野テーマに沿って実証実験を実施。建築、インテリア、**情報**（ＩＴ／ＩｏＴ）、ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）の４分野はオリジナルワークシートを作成

①実証実験テーマ一覧

体験分野	テーマ	受講人数
自動車整備	専門学校１年生が、これまでに学んだ基礎知識・技能を整理し、高校生にわかりやすく説明・指導できる力（伝える力）を養う講師体験 タイヤ交換およびタイヤローテーション	専門学校生 ４名 高校生 １５名
建築	①建築科のＯＢが登壇して現職の仕事の話やこれまでの経験談を話してもらう。 ②インテリア分野と８分ローテーション型業界研究授業に参加。人事から仕事の内容と、企業の強み・得意なことを紹介。	５４名
インテリア	①インテリア科のＯＢ・ＯＧが登壇して現職の仕事の話をしてもらう。 ②建築分野とともに外部企業による８分ローテーション型業界研究授業に参加。人事から仕事の内容と、企業の強み・得意なことを紹介。	２４名
情報（ＩＴ／ＩｏＴ）	最新のデジタルアートがどのようにテクノロジー（ＩｏＴ・ＡＩ・センシング・ネットワーク）と結びついているかを体験的に学ぶ	２８名
ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）	①職場見学・体験：ＡＩサービスを運営する企業オフィスの見学とそこで働く社員の話を聞く事で将来自分が働くイメージを具体的に想像させる。 ②データサイエンティスト協会シンポジウム参加：実際のデータサイエンティストの生の声を聴く機会を与える事で、将来行う業務を具体的にイメージする事を目指す。	２３名

環境	「ＳＤＧｓ　ｄｅ地方創生」カードゲームを通じて、ＳＤＧｓ理解、地方創生、対話と協働の重要性を体験的に学ぶ	１３名

②オリジナルワークシートフォーマット例（建築）



令和７年度文部科学省委託事業
OB・OG 座談会前ワークシート　【建築分野】
所属学科（　　）
氏名（　　）

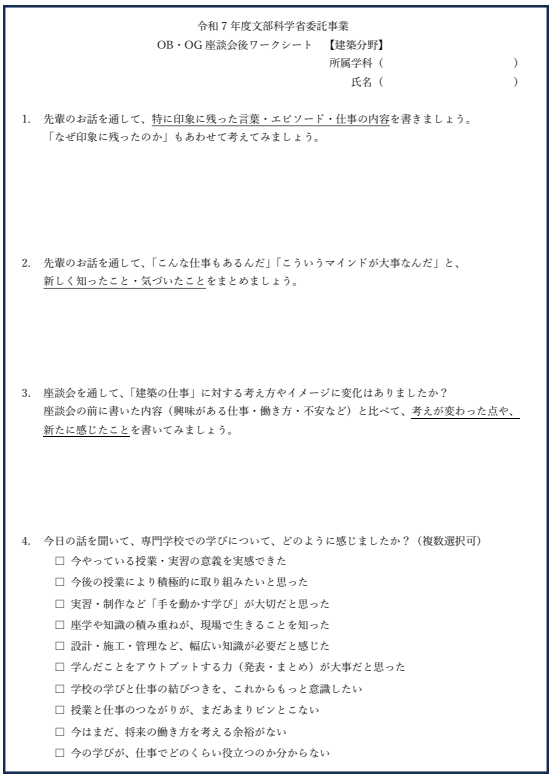
■実施日時　：2025 年 11 月 20 日（木）15:10~16:40
■登壇者　：建築科を 2009 年に卒業した、社会人経験 16 年の先輩

1. 現在の進路希望を選んでください。
□ 就職希望
□ 進学希望
□ 現職維持（すでに建築関係で働いている方など）

2. 今の自分が就職活動をするとして、次の内容について考えてみましょう。
「自分がどんな働き方をしたいと思っているのか」や「何を大切にしたいのか」を整理する時間です。
(ア)興味がある仕事・職種はなんですか？

(イ)どんな働き方をしたいですか？また、どんな環境で働きたいですか？
（例：チームで協力して進めたい／自分のアイデアを形にしたい／先輩に教えてもらえる職場がいい／いろいろな経験ができる環境がいい など）

(ウ)働くにあたって、不安なこと・悩んでいることはありますか？
（例：仕事とプライベートの両立／自分に向いている職種がわからない／スキルが足りない気がする など）



令和７年度文部科学省委託事業
OB・OG 座談会後ワークシート　【建築分野】
所属学科（　　）
氏名（　　）

1. 先輩のお話を通して、特に印象に残った言葉・エピソード・仕事の内容を書きましょう。
「なぜ印象に残ったのか」もあわせて考えてみましょう。

2. 先輩のお話を通して、「こんな仕事もあるんだ」「こういうマインドが大事なんだ」と、新しく知ったこと・気づいたことをまとめましょう。

3. 座談会を通して、「建築の仕事」に対する考え方やイメージに変化はありましたか？
座談会の前に書いた内容（興味がある仕事・働き方・不安など）と比べて、考えが変わった点や、新たに感じたことを書いてみましょう。

4. 今日の話を聞いて、専門学校での学びについて、どのように感じましたか？（複数選択可）
□ 今やっている授業・実習の意義を実感できた
□ 今後の授業により積極的に取り組みたいと思った
□ 実習・制作など「手を動かす学び」が大切だと思った
□ 座学や知識の積み重ねが、現場で生きることを知った
□ 設計・施工・管理など、幅広い知識が必要だと感じた
□ 学んだことをアウトプットする力（発表・まとめ）が大事だと思った
□ 学校の学びと仕事の結びつきを、これからもっと意識したい
□ 授業と仕事のつながりが、まだあまりピンとこない
□ 今はまだ、将来の働き方を考える余裕がない
□ 今の学びが、仕事でどのくらい役立つのか分からない

（２）実証実験

①自動車整備士分野

■日時：令和７年１１月２１日（金）１２：４５～１４：１５

■場所：練馬工科高等学校

概要 目的・ねらい	専門学校１年生が、これまでに学んだ基礎知識・技能を整理し、高校生にわかりやすく説明・指導できる力（伝える力）を養う。 タイヤ交換およびタイヤローテーションの必要性について、安全面・走行性能・タイヤ寿命の観点から理解させ、正しい知識を身につけさせる。 実習を通して、整備作業に求められる「安全意識」「段取り」「確認の習慣」を体験的に学び、整備士としての基本姿勢を形成する。 専門学校生自身が、教える立場を経験することで「自分がどこまで理解できているか」「どこまで成長できているか」を客観的に確認し、次の学習課題を明確にする。

授業詳細	実車を使用し、ジャッキアップからタイヤ脱着、規定トルクでの締め付け確認まで、一連の作業を実践形式で行う。 タイヤローテーションの目的（偏摩耗防止・寿命延長・安定した走行性能の維持）を理解し、正しい手順で実施できる技能を習得する。 危険予知（ＫＹ）・保護具の着用・車両固定・指差呼称などを徹底し、安全作業の重要性を強く意識させる。 高校生に向けて、作業の意味やポイントを説明しながら進めることで、自動車整備の楽しさ・達成感を伝え、進路選択への動機づけにつなげる。 ■実証実験風景  

②建築分野

【ＯＢ・ＯＧ座談会】

■令和７年１１月２０日（木）１５：１０～１７：１０

■場所：専門学校東京テクニカルカレッジ

【８社合同オンライン説明会】

■令和７年１１月２６日（水）１５：１０～１６：４０

■場所：専門学校東京テクニカルカレッジ（オンライン参加）

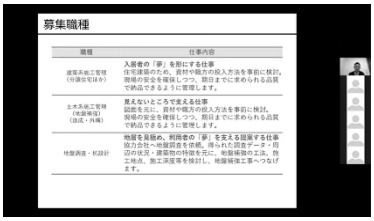
概要 目的・ねらい	建築・インテリア分野での学びをとおして、「自分が今学んでいることを、将来どのような仕事に活かせるかを具体的にイメージできるようにする」ことを目的に、建築科のＯＢ・ＯＧが登壇して現職の仕事の話をしてもらう。また、外部企業による８分ローテーション型業界研究授業に参加。
授業詳細	①ＯＢ・ＯＧ座談会 建築科ＯＢ・ＯＧより、これまでのキャリアや就職活動に関する経験談、現在の仕事内容を語ってもらう。また、専門学校生への応援メッセージとして学生中に取り組んでおくと良いことも伝えてもらい、学びがどこで役に立つのかのイメージを強める。 ②８分ローテーション型業界研究授業（インテリア分野と合同開催） 【授業目的】「１コマ（９０分間）で建設業界の全体像を把握する」 【特徴】 登壇者：現場社員／講演内容：募集職種別の仕事紹介が中心／参加企

業：事業領域の異なる８社
【講演内容の構成例】
事業概要と自社の強み（１分）／仕事紹介（６分）／専門学校生への応援メッセージ（１分）
建設業界の中で業種の異なる８社にオンライン上にて、自社の強みと共に、その業種の仕事のリアルを伝えてもらう。

■ＯＢ・ＯＧ座談会風景

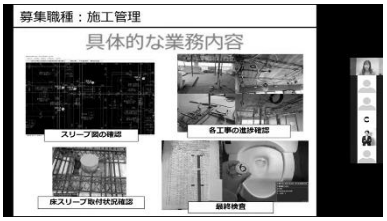



■８分ローテーション型業界研究授業風景



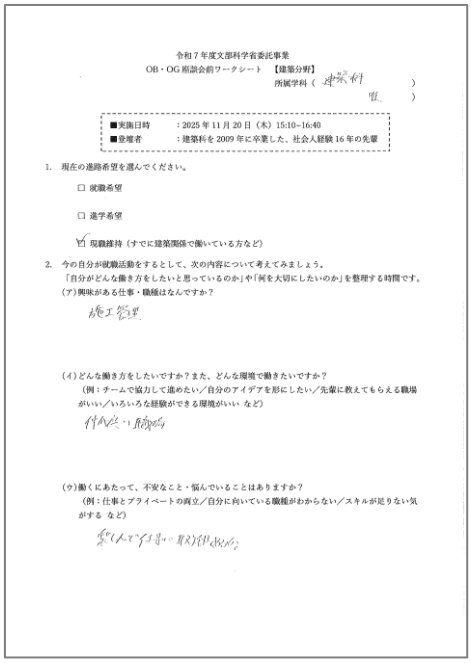






【ワーク提出物（抜粋）】

座談会前



令和７年度文部科学省委託事業
OB・OG 座談会前ワークシート　【建築分野】
所属学科（ 建築科 専攻 ）

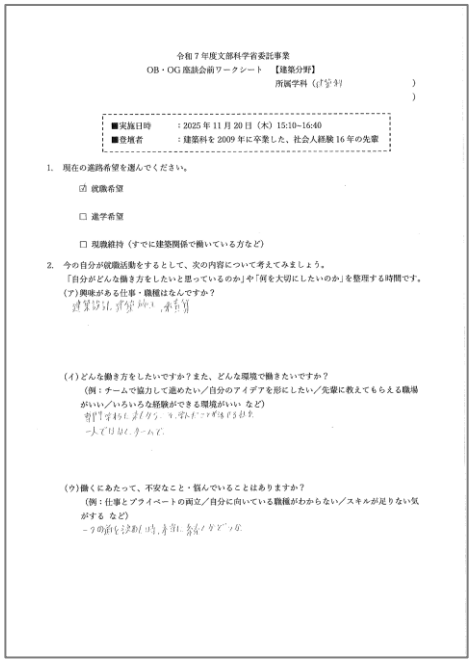
■実施日時　：2025 年 11 月 20 日（木）15:10~16:40
■登壇者　：建築科を 2009 年に卒業した、社会人経験 16 年の先輩

1. 現在の進路希望を選んでください。
☐ 就職希望
☐ 進学希望
☑ 現職維持（すでに建築関係で働いている方など）

2. 今の自分が就職活動をするとして、次の内容について考えてみましょう。
「自分がどんな働き方をしたいと思っているのか」や「何を大切にしたいのか」を整理する時間です。
（ア）興味がある仕事・職種はなんですか？
施工管理

（イ）どんな働き方をしたいですか？また、どんな環境で働きたいですか？
（例：チームで協力して進めたい／自分のアイデアを形にしたい／先輩に教えてもらえる職場がいい／いろいろな経験ができる環境がいい など）
休みやすい職場

（ウ）働くにあたって、不安なこと・悩んでいることはありますか？
（例：仕事とプライベートの両立／自分に向いている職種がわからない／スキルが足りない気がする など）
案件ごとに異なる取引先



令和７年度文部科学省委託事業
OB・OG 座談会前ワークシート　【建築分野】
所属学科（建築科）

■実施日時　：2025 年 11 月 20 日（木）15:10~16:40
■登壇者　：建築科を 2009 年に卒業した、社会人経験 16 年の先輩

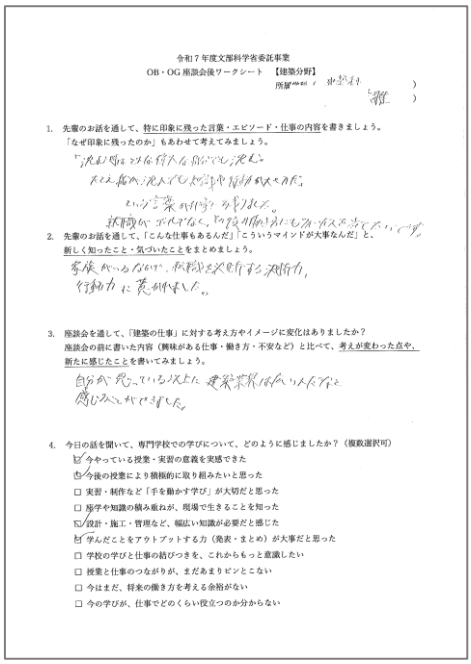
1. 現在の進路希望を選んでください。
☑ 就職希望
☐ 進学希望
☐ 現職維持（すでに建築関係で働いている方など）

2. 今の自分が就職活動をするとして、次の内容について考えてみましょう。
「自分がどんな働き方をしたいと思っているのか」や「何を大切にしたいのか」を整理する時間です。
（ア）興味がある仕事・職種はなんですか？
建築設計、構造設計、施工管理

（イ）どんな働き方をしたいですか？また、どんな環境で働きたいですか？
（例：チームで協力して進めたい／自分のアイデアを形にしたい／先輩に教えてもらえる職場がいい／いろいろな経験ができる環境がいい など）
専門家をもとめる環境で働きたい
一人で責任をもって働きたい

（ウ）働くにあたって、不安なこと・悩んでいることはありますか？
（例：仕事とプライベートの両立／自分に向いている職種がわからない／スキルが足りない気がする など）
一つの現場に長期間、身動きがとれなくなる

座談会後



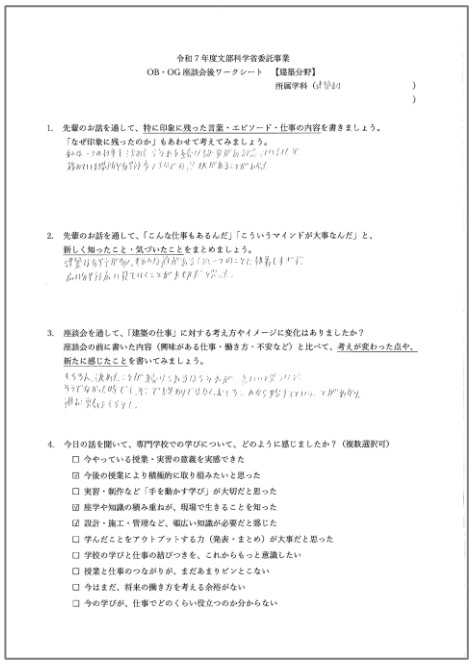
令和７年度文部科学省委託事業
OB・OG 座談会後ワークシート　【建築分野】
所属学科（ 建築科 専攻 ）

1. 先輩のお話を通して、特に印象に残った言葉・エピソード・仕事の内容を書きましょう。
「なぜ印象に残ったのか」もあわせて考えてみましょう。
「決断力」という言葉が印象に残った
たとえ誰かに決めてもらった設計や現場であっても
という言葉が特に心に残りました。
現場がうまくいかないときに、自分の判断にも責任を持たなければいけない
仕事だと感じました。

2. 先輩のお話を通して、「こんな仕事もあるんだ」「こういうマインドが大事なんだ」と、
新しく知ったこと・気づいたことをまとめましょう。
客商売ではなく、現場を決定する決断力、
行動力に驚かされました。

3. 座談会を通して、「建築の仕事」に対する考え方やイメージに変化はありましたか？
座談会の前に書いた内容（興味がある仕事・働き方・不安など）と比べて、考えが変わった点や、
新たに感じたことを書いてみましょう。
自分が思っている以上に建築業界は人と人だと
感じることができました。

4. 今日の話を聞いて、専門学校での学びについて、どのように感じましたか？（複数選択可）
☑ 今やっている授業・実習の意義を実感できた
☑ 今後の授業により積極的に取り組みたいと思った
☐ 実習・制作など「手を動かす学び」が大切だと思った
☐ 座学や知識の積み重ねが、現場で生きることを知った
☑ 設計・施工・管理など、幅広い知識が必要だと感じた
☑ 学んだことをアウトプットする力（発表・まとめ）が大事だと思った
☐ 学校の学びと仕事の結びつきを、これからもっと意識したい
☐ 授業と仕事のつながりが、まだあまりピンとこない
☐ 今はまだ、将来の働き方を考える余裕がない
☐ 今の学びが、仕事でどのくらい役立つのか分からない



令和７年度文部科学省委託事業
OB・OG 座談会後ワークシート　【建築分野】
所属学科（建築科）

1. 先輩のお話を通して、特に印象に残った言葉・エピソード・仕事の内容を書きましょう。
「なぜ印象に残ったのか」もあわせて考えてみましょう。
一つの現場を長期間、身動きがとれなくなるような仕事があるということに驚きました。
現場の判断や責任を持つ立場の方が決断力があるとおっしゃっていたから。

2. 先輩のお話を通して、「こんな仕事もあるんだ」「こういうマインドが大事なんだ」と、
新しく知ったこと・気づいたことをまとめましょう。
建築の仕事が幅広く、多くの人と関わる仕事だということに驚きました。
私の知らない仕事や、想像以上に人と関わる仕事だと感じました。

3. 座談会を通して、「建築の仕事」に対する考え方やイメージに変化はありましたか？
座談会の前に書いた内容（興味がある仕事・働き方・不安など）と比べて、考えが変わった点や、
新たに感じたことを書いてみましょう。
もう少し決まったことが多いのかなと思っていましたが、
そうでもなく、時代に合わせて柔軟に変化していく必要があるということが勉強
になりました。

4. 今日の話を聞いて、専門学校での学びについて、どのように感じましたか？（複数選択可）
☐ 今やっている授業・実習の意義を実感できた
☑ 今後の授業により積極的に取り組みたいと思った
☐ 実習・制作など「手を動かす学び」が大切だと思った
☑ 座学や知識の積み重ねが、現場で生きることを知った
☑ 設計・施工・管理など、幅広い知識が必要だと感じた
☐ 学んだことをアウトプットする力（発表・まとめ）が大事だと思った
☐ 学校の学びと仕事の結びつきを、これからもっと意識したい
☐ 授業と仕事のつながりが、まだあまりピンとこない
☐ 今はまだ、将来の働き方を考える余裕がない
☐ 今の学びが、仕事でどのくらい役立つのか分からない

③インテリア分野

【ＯＢ・ＯＧ座談会】

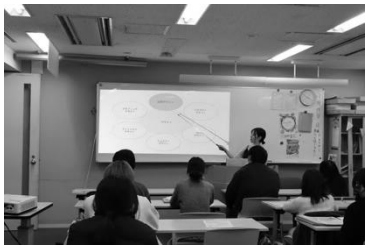
■令和７年１１月１７日（月）１３：００～１７：１０

■場所：専門学校東京テクニカルカレッジ

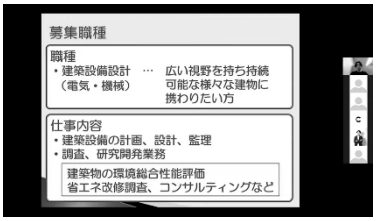
【８社合同オンライン説明会】

■令和７年１１月２６日（水）１５：１０～１６：４０

■場所：専門学校東京テクニカルカレッジ（オンライン参加）

概要 目的・ねらい	建築・インテリア分野での学びをとおして、「自分が今学んでいることを、将来どのような仕事に活かせるかを具体的にイメージできるようにする」ことを目的に、インテリア科のＯＢ・ＯＧが登壇して現職の仕事の話をしてもらう。また、外部企業による８分ローテーション型業界研究授業に参加。
授業詳細	①ＯＢ・ＯＧ座談会 インテリア科ＯＢ・ＯＧより、これまでのキャリアや就職活動に関する経験談、現在の仕事内容を語ってもらう。また、専門学校生への応援メッセージとして学生中に取り組んでおくと良いことも伝えてもらい、学びがどこで役に立つのかのイメージを強める。 ②８分ローテーション型業界研究授業（建築分野と合同開催） 【授業目的】「１コマ（９０分間）で建設業界の全体像を把握する」 【特徴】 登壇者：現場社員／講演内容：募集職種別の仕事紹介が中心／参加企業：事業領域の異なる８社 【講演内容の構成例】 事業概要と自社の強み（１分）／仕事紹介（６分）／専門学校生への応援メッセージ（１分） 建設業界の中で業種の異なる８社にオンライン上にて、自社の強みと共に、その業種の仕事のリアルを伝えてもらう。 ■ＯＢ・ＯＧ座談会風景   ■８分ローテーション型業界研究授業風景



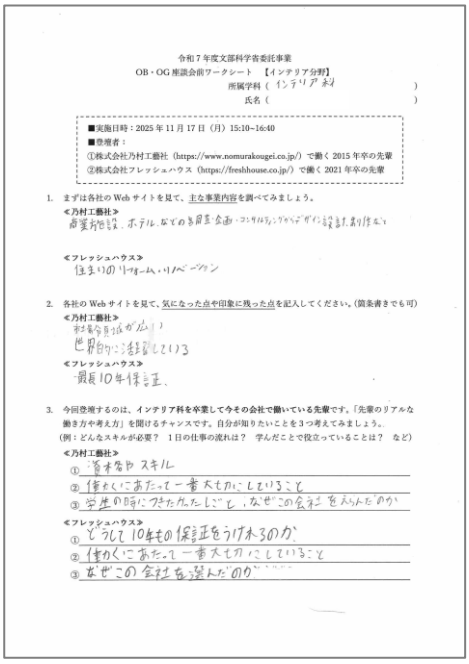






【ワーク提出物（抜粋）】

座談会前



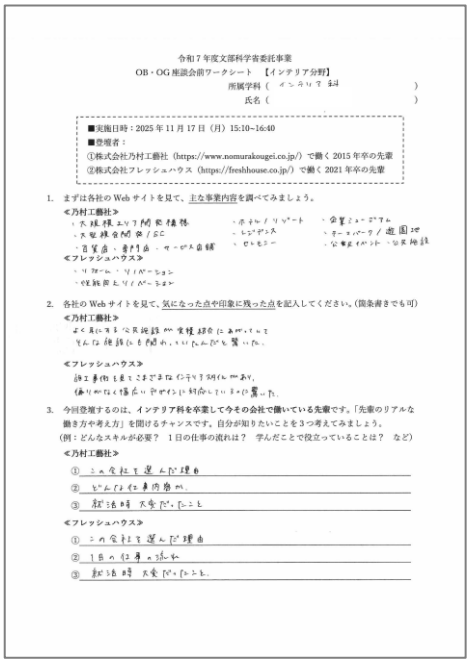
令和７年度文部科学省委託事業
OB・OG 座談会前ワークシート　【インテリア分野】
所属学科（ インテリア科 ）
氏名（ ）

■実施日時：2025 年 11 月 17 日（月）15:10~16:40
■登壇者：
①株式会社乃村工藝社（https://www.nomurakougei.co.jp/）で働く 2015 年卒の先輩
②株式会社フレッシュハウス（https://freshhouse.co.jp/）で働く 2021 年卒の先輩

1. まずは各社の Web サイトを見て、主な事業内容を調べてみましょう。
≪乃村工藝社≫
商業施設、ホテルなどの空間企画・コンサルティング・デザイン設計、製作など
≪フレッシュハウス≫
住まいのリフォーム・リノベーション

2. 各社の Web サイトを見て、気になった点や印象に残った点を記入してください。（箇条書きでも可）
≪乃村工藝社≫
財務内容が良い！
世界的に活躍している
≪フレッシュハウス≫
最長10年保証。

3. 今回登壇するのは、インテリア科を卒業して今その会社で働いている先輩です。「先輩のリアルな働き方や考え方」を聞けるチャンスです。自分が知りたいことを３つ考えてみましょう。
（例：どんなスキルが必要？　１日の仕事の流れは？　学んだことで役立っていることは？　など）
≪乃村工藝社≫
① 基本的なスキル
② 働くにあたって一番大切にしていること
③ 学生の時にやっておいたほうがいいこと、なぜこの会社を選んだのか
≪フレッシュハウス≫
① どうして10年もの保証をつけれるのか
② 働くにあたって一番大切にしていること
③ なぜこの会社を選んだのか



令和７年度文部科学省委託事業
OB・OG 座談会前ワークシート　【インテリア分野】
所属学科（ インテリア科 ）
氏名（ ）

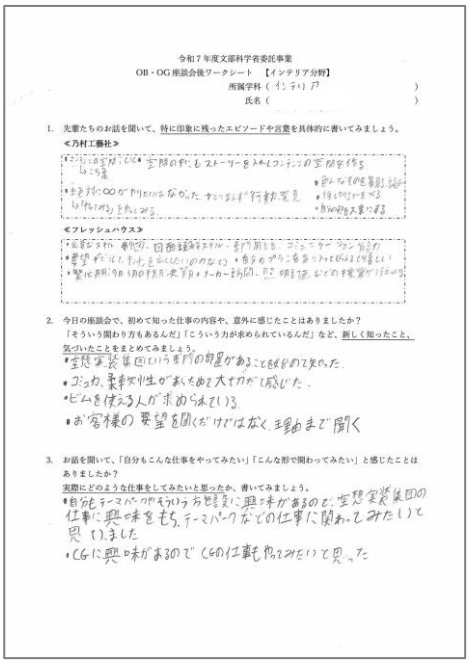
■実施日時：2025 年 11 月 17 日（月）15:10~16:40
■登壇者：
①株式会社乃村工藝社（https://www.nomurakougei.co.jp/）で働く 2015 年卒の先輩
②株式会社フレッシュハウス（https://freshhouse.co.jp/）で働く 2021 年卒の先輩

1. まずは各社の Web サイトを見て、主な事業内容を調べてみましょう。
≪乃村工藝社≫
・木規模エリア開発構築
・ホテル / リゾート
・空間デザイン
・大型複合開発 / SC
・レジデンス
・オールパーク / 遊園地
・百貨店・専門店・サービス店舗
・ヒカセラー
・公園まわり・公共施設
≪フレッシュハウス≫
・リフォーム・リノベーション
・収納提案リノベーション

2. 各社の Web サイトを見て、気になった点や印象に残った点を記入してください。（箇条書きでも可）
≪乃村工藝社≫
よく見にする「実施設計」や「実種経歴」にあがっていて
そんな施設にも関わっていけるんだなと驚いた。
≪フレッシュハウス≫
施工事例も多くさまざまなインテリア例があり、
借りがなく幅広い年代向けに対応しているのが驚いた。

3. 今回登壇するのは、インテリア科を卒業して今その会社で働いている先輩です。「先輩のリアルな働き方や考え方」を聞けるチャンスです。自分が知りたいことを３つ考えてみましょう。
（例：どんなスキルが必要？　１日の仕事の流れは？　学んだことで役立っていることは？　など）
≪乃村工藝社≫
① この会社を選んだ理由
② どんな仕事内容か。
③ 就活時 大変だったこと
≪フレッシュハウス≫
① この会社を選んだ理由
② １日の仕事の流れ
③ 就活時 大変だったこと

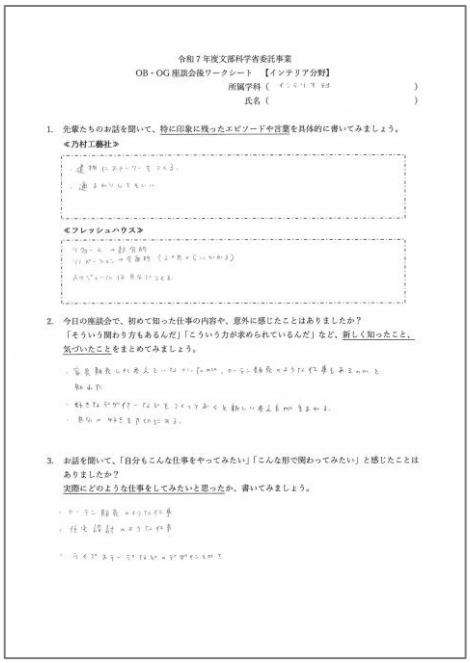
座談会後


令和７年度文部科学省委託事業
OB・OG 座談会後ワークシート 【インテリア分野】
所属学科（ インテリア ）
氏名（ ）

1. 先輩たちのお話を聞いて、特に印象に残ったエピソードや言葉を具体的に書いてみましょう。
≪乃村工藝社≫
・空間のすべてもストーリーをもったコンテンツの空間を作る
・主体的にQOLが向上していなかったが行動変容
・様々な分野の人と関わる仕事である
≪フレッシュハウス≫
・空間デザイン、自由度があるが、全て自分でコンセプトから考えなければならない
・豊かさとは？を考えたいのかなと、自分のプランに自信をもって伝えられるようになりたい
・繁に期日内の打合せ、メール対応、見積、明細など、の事務作業が大変

2. 今日の座談会で、初めて知った仕事の内容や、意外に感じたことはありましたか？
「そういう関わり方もあるんだ」「こういう力が求められているんだ」など、新しく知ったこと、気づいたことをまとめてみましょう。
・空間演出という専門の知識があることに驚いた。
・コミュ力、柔軟性があるのと大きな力が感じた。
・ビルを建てる人が求められている。
・お客様の要望を聞くだけではなく理由まで聞く

3. お話を聞いて、「自分もこんな仕事をやってみたい」「こんな形で関わってみたい」と感じたことはありましたか？
実際にどのような仕事をしてみたいと思ったか、書いてみましょう。
・自社テーマパークのようなお客様に興味があるので、空間演出系の仕事に興味をもち、テーマパークなどでの仕事に関わってみたいと思いました
・CGに興味があるのでCGの仕事もやってみたいと思った


令和７年度文部科学省委託事業
OB・OG 座談会後ワークシート 【インテリア分野】
所属学科（ インテリア ）
氏名（ ）

1. 先輩たちのお話を聞いて、特に印象に残ったエピソードや言葉を具体的に書いてみましょう。
≪乃村工藝社≫
≪フレッシュハウス≫

2. 今日の座談会で、初めて知った仕事の内容や、意外に感じたことはありましたか？
「そういう関わり方もあるんだ」「こういう力が求められているんだ」など、新しく知ったこと、気づいたことをまとめてみましょう。

3. お話を聞いて、「自分もこんな仕事をやってみたい」「こんな形で関わってみたい」と感じたことはありましたか？
実際にどのような仕事をしてみたいと思ったか、書いてみましょう。

④情報（ＩＴ／ＩｏＴ）分野

■日時：令和７年１１月２８日（金）１４：３０～１６：３０

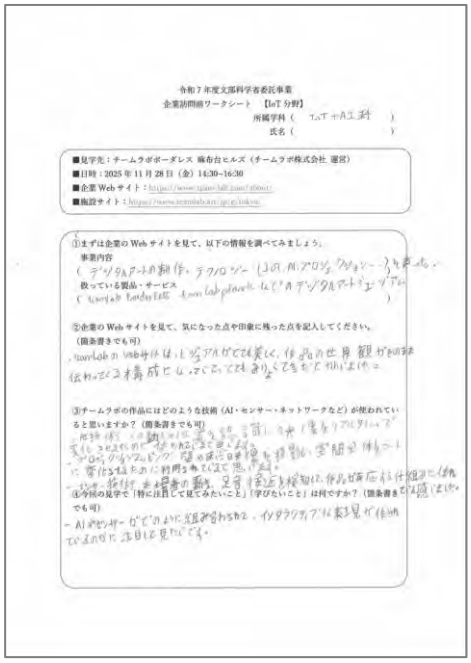
■場所：麻布台ヒルズ　チームラボボーダレス

概要 目的・ねらい	【概要】 本授業では、チームラボの展示を見学しながら、最新のデジタルアートがどのようにテクノロジー（ＩｏＴ・ＡＩ・センシング・ネットワーク）と結びついているかを体験的に学ぶ。 【目的・ねらい】 ①ＩｏＴやＡＩ技術がアート、エンターテインメント、社会の中でどのように活用されているかを理解する。②デジタルアート体験を通じて、インタラクティブシステムの仕組みを考察する。③１年生が取り組むプロジェクトの「発想のヒント」「着想の幅」を広げる。④“技術　×　創造性”の視点を体験し、学びの意義や将来像を具体的にイメージする。⑤チームでの観察・対話を通じて、コミュニケーション力と気づきを深める。
授業詳細	対象：ＩｏＴ＋ＡＩ科　１年生 内容：チームラボ見学（インタラクティブアート体験学習） 学習ポイント ①ＩｏＴ関連の視点 Ａ）センサー（カメラ、深度、モーション、タッチ検知）の使われ方／Ｂ）ネットワークでのデータ連携やリアルタイム制御／Ｃ）ライ

	ト・音・映像の同期システム ②ＡＩ関連の視点 Ａ）画像認識・姿勢推定・物体追跡などの活用がどこに潜んでいるか気づく／Ｂ）ユーザー行動に応じた動きの変化から「ＡＩによる推論」を想像する／Ｃ）インタラクション設計とデータ処理の関係性を理解する ②学びの意義 Ａ）自分のプロジェクト制作に応用できる「体験的インスピレーション」を得る／Ｂ）ＩｏＴとＡＩが社会やアートにどう実装されているかを、教室外でリアルに感じられる／Ｃ）技術を「作る側」の視点で鑑賞し、仕組みを分解して考える力が身につく／Ｄ）将来の就職進路を考える際の参考となる ■実証実験風景  

【ワーク提出物（抜粋）】

実施前



令和７年度文部科学省委託事業
企業訪問前ワークシート　【IoT 分野】
所属学科（ ）
氏名（ ）

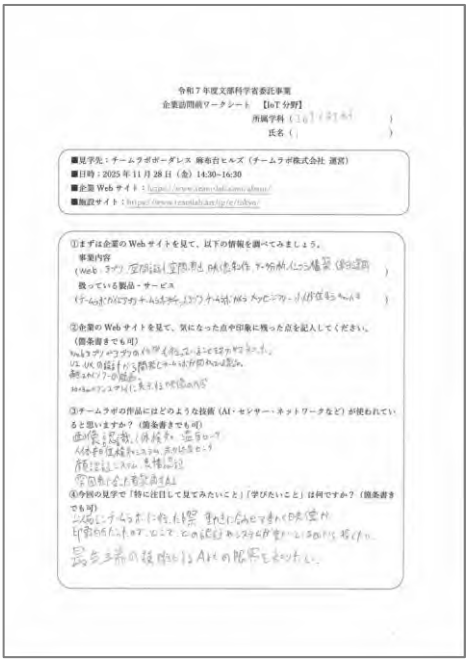
■見学先：チームラボボーダレス 麻布台ヒルズ（チームラボ株式会社 運営）
■日時：2025 年 11 月 28 日（金）14:30–16:30
■企業 Web サイト：
■施設サイト：

①まずは企業の Web サイトを見て、以下の情報を調べてみましょう。
事業内容
（ ）
扱っている製品・サービス
（ ）

②企業の Web サイトを見て、気になった点や印象に残った点を記入してください。
（箇条書きでも可）

③チームラボの作品にはどのような技術（AI・センサー・ネットワークなど）が使われていると思いますか？（箇条書きでも可）

④今回の見学で「特に注目して見てみたいこと」「学びたいこと」は何ですか？（箇条書きでも可）



令和７年度文部科学省委託事業
企業訪問前ワークシート　【IoT 分野】
所属学科（ ）
氏名（ ）

■見学先：チームラボボーダレス 麻布台ヒルズ（チームラボ株式会社 運営）
■日時：2025 年 11 月 28 日（金）14:30–16:30
■企業 Web サイト：
■施設サイト：

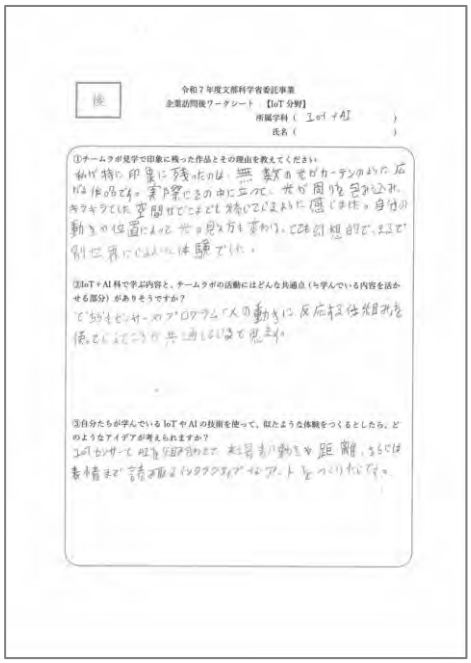
①まずは企業の Web サイトを見て、以下の情報を調べてみましょう。
事業内容
（ ）
扱っている製品・サービス
（ ）

②企業の Web サイトを見て、気になった点や印象に残った点を記入してください。
（箇条書きでも可）

③チームラボの作品にはどのような技術（AI・センサー・ネットワークなど）が使われていると思いますか？（箇条書きでも可）

④今回の見学で「特に注目して見てみたいこと」「学びたいこと」は何ですか？（箇条書きでも可）

実施後





⑤ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）分野

【職場見学・体験】

■令和７年１１月１２日（水）１４：００～１６：００

■場所：株式会社ＩＶＲｙ

【シンポジウム参加】

■令和７年１１月２５日（火）９：５０～１６：４０

■場所：ウェスティンホテル東京

概要 目的・ねらい	①職場見学・体験：ＡＩサービスを運営する民間企業のオフィスを見学し、社員の話を聞く事で将来自分が働くイメージを具体的に想像させ、学習意欲を向上させる。 ②データサイエンティスト協会シンポジウム参加：データサイエンティスト協会シンポジウムに参加し、実際のデータサイエンティストの生の声を聴く機会を与える事で、将来行う業務を具体的にイメージする事を目指す。
授業詳細	①ＡＩ電話応答サービスを運営する企業オフィスにて、社員から業務紹介を聞く。オフィスは執務スペースと発表場所の仕切りが無いため、実際の業務風景も見る事ができる。 ■実証実験風景



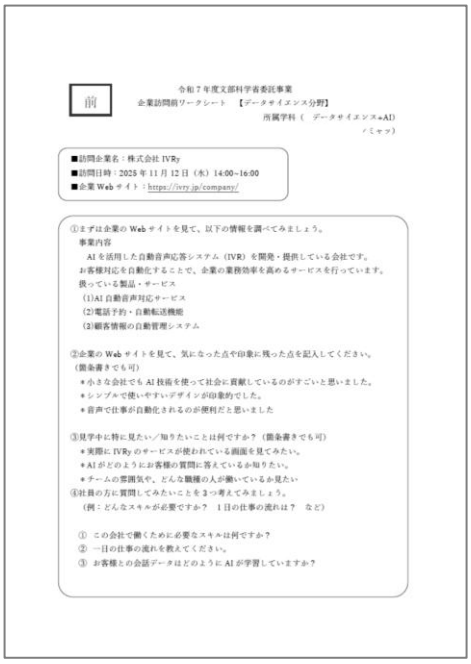

②データサイエンティスト協会１２ｔｈシンポジウムにて、発表される各講演を学生の興味に応じて選択肢、聴講する。出席管理はシンポジウム開始前の９：５０と正規授業終了時刻の１６：４０に行う。

■実証実験風景




【ワーク提出物（企業訪問抜粋）】

実証前



前

令和７年度文部科学省委託事業
企業訪問前ワークシート　【データサイエンス分野】
所属学科（　データサイエンス+AI）
（ミャッ）

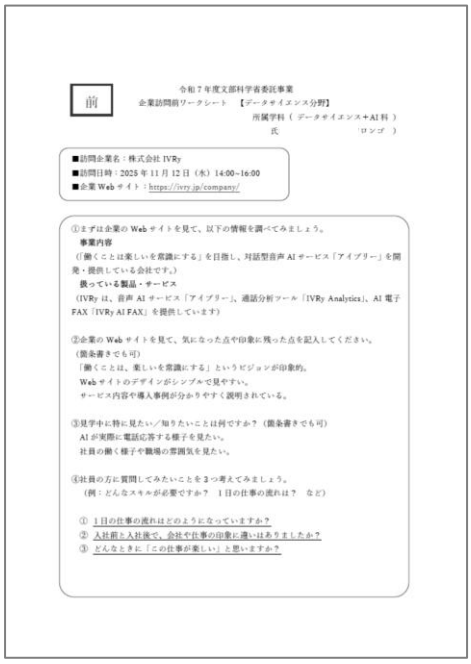
■訪問企業名：株式会社 IVRy
■訪問日時：2025 年 11 月 12 日（水）14:00~16:00
■企業 Web サイト：https://ivry.jp/company/

①まずは企業の Web サイトを見て、以下の情報を調べてみましょう。
事業内容
AI を活用した自動音声応答システム（IVR）を開発・提供している会社です。
お客様対応を自動化することで、企業の業務効率を高めるサービスを行っています。
扱っている製品・サービス
(1)AI 自動音声対応サービス
(2)電話予約・自動転送機能
(3)顧客情報の自動管理システム

②企業の Web サイトを見て、気になった点や印象に残った点を記入してください。
（箇条書きでも可）
＊小さな会社でも AI 技術を使って社会に貢献しているのがすごいと思いました。
＊シンプルで使いやすいデザインが印象的でした。
＊音声で仕事が自動化されるのが便利だと思いました

③見学中に特に見たい／知りたいことは何ですか？（箇条書きでも可）
＊実際に IVRy のサービスが使われている画面を見てみたい。
＊AI がどのようにお客様の質問に答えているか知りたい。
＊チームの雰囲気や、どんな職種の人が働いているか見たい
④社員の方に質問してみたいことを３つ考えてみましょう。
（例：どんなスキルが必要ですか？　１日の仕事の流れは？　など）

① この会社で働くために必要なスキルは何ですか？
② 一日の仕事の流れを教えてください。
③ お客様との会話データはどのように AI が学習していますか？



前

令和７年度文部科学省委託事業
企業訪問前ワークシート　【データサイエンス分野】
所属学科（ データサイエンス＋AI 科 ）
氏　　（ロンゴ ）

■訪問企業名：株式会社 IVRy
■訪問日時：2025 年 11 月 12 日（水）14:00~16:00
■企業 Web サイト：https://ivry.jp/company/

①まずは企業の Web サイトを見て、以下の情報を調べてみましょう。
事業内容
（「働くことは楽しいを常識にする」を目指し、対話型音声 AI サービス「アイブリー」を開発・提供している会社です。）
扱っている製品・サービス
（IVRy は、音声 AI サービス「アイブリー」、通話分析ツール「IVRy Analytics」、AI 電子 FAX「IVRy AI FAX」を提供しています）

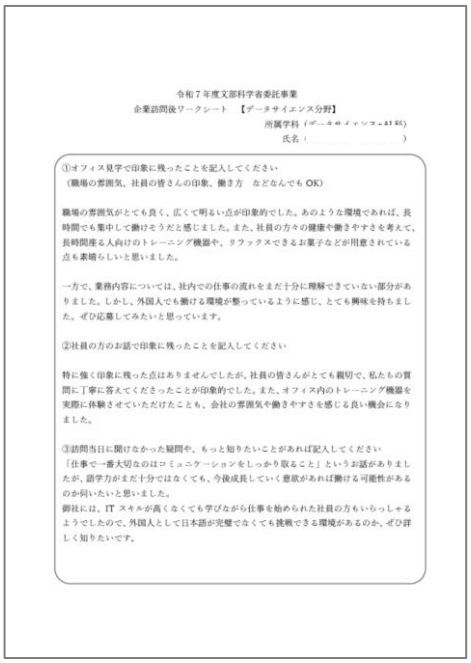
②企業の Web サイトを見て、気になった点や印象に残った点を記入してください。
（箇条書きでも可）
「働くことは、楽しいを常識にする」というビジョンが印象的。
Web サイトのデザインがシンプルで見やすい。
サービス内容や導入事例が分かりやすく説明されている。

③見学中に特に見たい／知りたいことは何ですか？（箇条書きでも可）
AI が実際に電話応答する様子を見たい。
社員の働く様子や職場の雰囲気を見たい。

④社員の方に質問してみたいことを３つ考えてみましょう。
（例：どんなスキルが必要ですか？　１日の仕事の流れは？　など）

① １日の仕事の流れはどのようになっていますか？
② 入社前と入社後で、会社や仕事の印象に違いはありましたか？
③ どんなときに「この仕事が楽しい」と思いますか？

実証後



令和７年度文部科学者委託事業
企業訪問後ワークシート　【データサイエンス分野】
所属学科（データサイエンス+AI 科）
氏名（　　）

①オフィス見学で印象に残ったことを記入してください
（職場の雰囲気、社員の皆さんの印象、働き方　などなんでも OK）

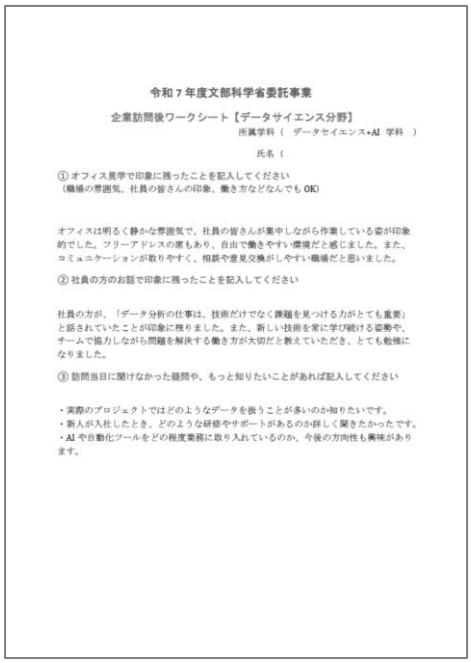
職場の雰囲気がとても良く、広くて明るい点が印象的でした。あのような環境であれば、長時間でも集中して働けそうだと感じました。また、社員の方々の健康や働きやすさを考えて、長時間座る人向けのトレーニング機器や、リラックスできるお菓子などが用意されている点も素晴らしいと思いました。

一方で、業務内容については、社内での仕事の流れをまだ十分に理解できていない部分がありました。しかし、外国人でも働ける環境が整っているように感じ、とても興味を持ちました。ぜひ応募してみたいと思っています。

②社員の方のお話で印象に残ったことを記入してください

特に強く印象に残った点はありませんでしたが、社員の皆さんがとても親切で、私たちの質問に丁寧に答えてくださったことが印象的でした。また、オフィス内のトレーニング機器を実際に体験させていただけたことも、会社の雰囲気や働きやすさを感じる良い機会になりました。

③訪問当日に聞けなかった疑問や、もっと知りたいことがあれば記入してください
「仕事で一番大切なのはコミュニケーションをしっかり取ること」というお話がありましたが、語学力がまだ十分ではなくても、今後成長していく意欲があれば働ける可能性があるのか伺いたいと思いました。
御社には、IT スキルが高くなくても学びながら仕事を始められた社員の方もいらっしゃるようでしたので、外国人として日本語が完璧でなくても挑戦できる環境があるのか、ぜひ詳しく知りたいです。



令和７年度文部科学省委託事業

企業訪問後ワークシート【データサイエンス分野】

所属学科（　データサイエンス+AI　学科　）

氏名（

① オフィス見学で印象に残ったことを記入してください
（職場の雰囲気、社員の皆さんの印象、働き方などなんでも OK）

オフィスは明るく静かな雰囲気で、社員の皆さんが集中しながら作業している姿が印象的でした。フリーアドレスの席もあり、自由で働きやすい環境だと感じました。また、コミュニケーションが取りやすく、相談や意見交換がしやすい職場だと思いました。

② 社員の方のお話で印象に残ったことを記入してください

社員の方が、「データ分析の仕事は、技術だけでなく課題を見つける力がとても重要」と話されていたことが印象に残りました。また、新しい技術を常に学び続ける姿勢や、チームで協力しながら問題を解決する働き方が大切だと教えていただき、とても勉強になりました。

③ 訪問当日に聞けなかった疑問や、もっと知りたいことがあれば記入してください

・実際のプロジェクトではどのようなデータを扱うことが多いのか知りたいです。
・新人が入社したとき、どのような研修やサポートがあるのか詳しく聞きたかったです。
・AI や自動化ツールをどの程度業務に取り入れているのか、今後の方向性も興味があります。

⑥環境分野

■令和７年１１月２６日（水）１０：００～１７：００

■場所：専門学校東京テクニカルカレッジ

概要 目的・ねらい	■授業概要 「SDGs de 地方創生」カードゲームを通じて、SDGs 理解、地方創生、対話と協働の重要性を体験的に学ぶアクティブラーニング形式の授業である。 ■到達目標 １．SDGs の本質理解 ２．バックキャスティング思考の習得 ３．対話と協働スキルの体験 ４．地方創生の基礎理解 ５．主体的な学びと行動変容 ■授業時間：６時間 ■学習上の注意 ゲームは“現実を模した仮想地域”である。交渉・協働を積極的に行う。正解のない学びであり、自分の価値観や行動を振り返る姿勢を重視する。SDGs は「知識」より「行動」「対話」が重要である。 ■ねらい（想定される学習成果） ①SDGs・地方創生を“自分事化”できる、②対話・協働の難しさと価値を理解する、③社会課題を構造的に捉える思考が育つ、④自己のキ

	ャリアと社会への貢献を結びつけて考えられる
授業詳細	■授業構成 ＜前半：導入講義（９０分）＞ 講師紹介／SDGs 基礎講義／地方創生講義 ＜中盤：カードゲーム（１８０分）＞ ルール説明／チェックイン／ゲームプレイ（４ターン）／中間発表／最終発表 ＜後半：振り返り：９０分＞ グループワーク／対話の重要性講義／ケース学習／最終ワーク ■評価方法 授業参加度、グループ発表、レポート（事前・事後アンケート）による ■教材 ・SDGs de 地方創生カードゲーム ・授業資料（ＰＤＦ）※配布資料 ■実証実験風景  

６．実証実験アンケート結果

（１）自動車整備士分野

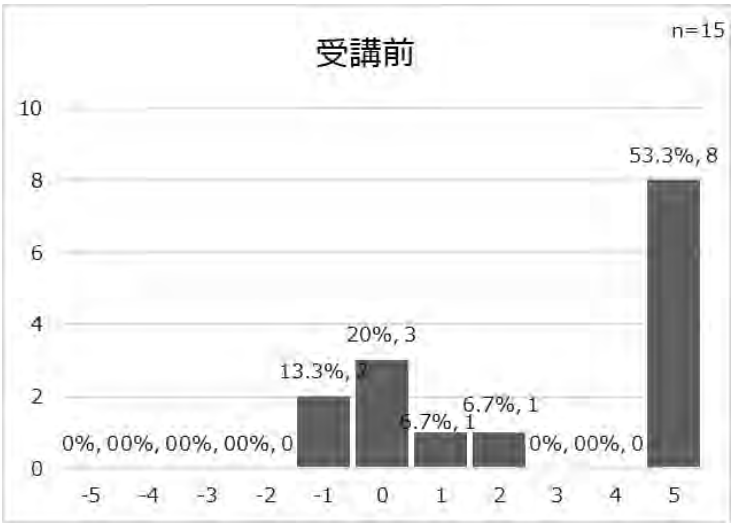
①アンケート回答：練馬工科高等学校　１年生　１５名

■期待指数【授業を受ける前】

＊自分の気持ち（期待指数・ワクワク度）を、「－５から＋５」の１１段階から選んでください。－５が最も低く、＋５が最も高いとします

n=15

期待値	回答数	割　合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	2	13.3%
0	3	20%
1	1	6.7%
2	1	6.7%
3	0	0%
4	0	0%
5	8	53.3%
	15	100%



期待値が高いのと低いので分かれている

■上記の点数にした理由（期待値の理由）

期待値	記　入　内　容
－1	・作業着忘れたから、少しめんどくさく感じていた
0	・期待も何もないから ・どんなことをするか知らなかったから ・授業がどんな内容なのか少し不安だったから
1	・たまにじいちゃん家でやることがあるから
2	・今回の授業では、実技的な事が体験できてとてもワクワクしました
5	・好きな事の授業だったから ・楽しいから

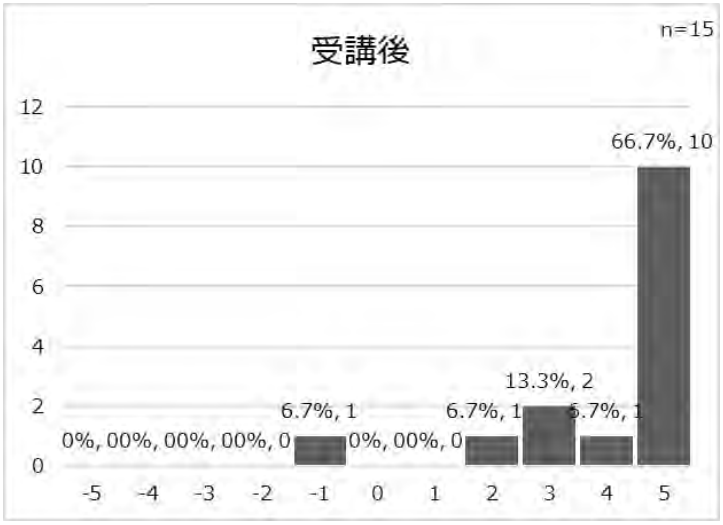
	・家族の手伝いできるから ・タイヤ交換は、普段から役に立つので、とても意欲的に取り組もうと思いました ・毎授業どんなことをするか楽しみだから ・知りたいなと思っていたから ・やり方（タイヤ交換、ボルト外し）がわかり自分の車を買ったときなどに生かしたいと思った。また、車に興味があったから

■期待指数【授業を受けた後】

＊自分の気持ち（満足度）を、「－５から＋５」の１１段階から選んでください。－５が最も低く、＋５が最も高いとします。

n=15

期待値	回答数	割 合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	1	6.7%
0	0	0%
1	0	0%
2	1	6.7%
3	2	13.3%
4	1	6.7%
5	10	66.7%
	15	100%



期待値が高まった

■上記の点数にした理由（期待値の理由）

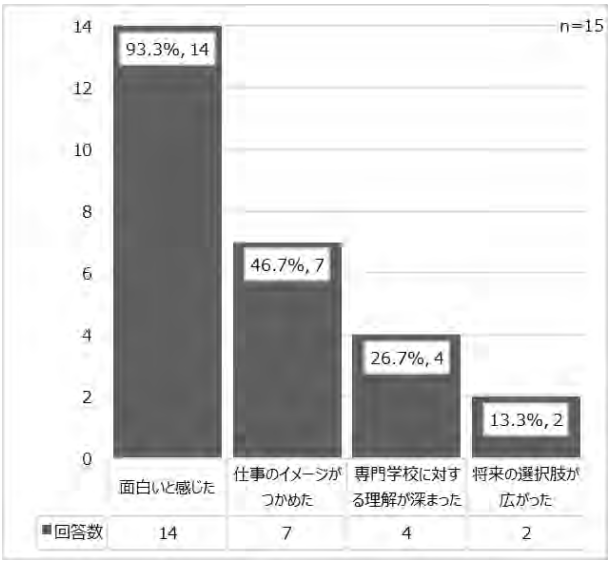
期待値	記　入　内　容
－1	・タイヤ交換の手順や力の入れ方を教えてもらって自分でもできるようになったと感じたからです
2	・思っていたよりも楽しかった
3	・案外面白く楽しかったし勉強になったから

	・やったことはあったが、少し楽しかった
4	・いい体験ができて楽しかった
5	・とてもよかった ・楽しかったから ・将来の夢に向かって行けるから ・外部から来てくださった先生との会話が楽しかったから。タイヤ交換も役に立つから ・普段では体験できないことを体験できたから ・知りたいことをしれた ・タイヤなどのことについて学べたのでこの評価にしました ・今回は実技的な内容が多く、普段はやることのないことをやらせて頂くとともに、自分自身は実は自動車にあまり関心がないのだと感じました。次からは自動車により関心を向けられるように努めていきたいです、 ・とても分かりやすく教えていただき、わかりやすかったからです、

■体験授業を受講して、どのように感じましたか？（いくつでも選択可）

n=15

項 目	回答数	割 合
面白いと感じた	14	93.3%
仕事のイメージがつかめた	7	46.7%
専門学校に対する理解が深まった	4	26.7%
将来の選択肢が広がった	2	13.3%



■上記の項目を選んだ理由

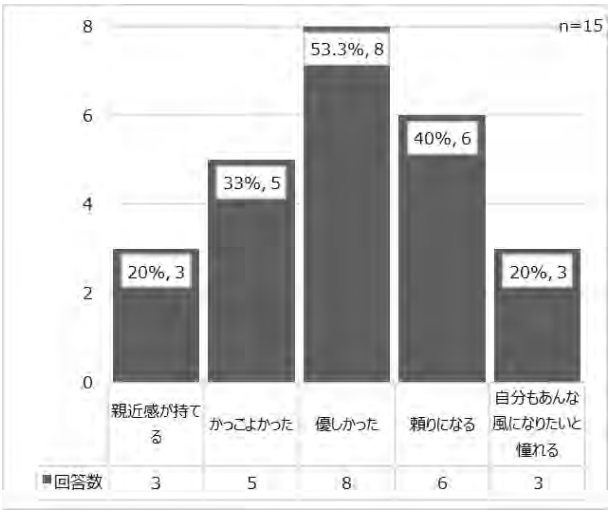
項　　目	記　　入　　内　　容
面白いと感じた	・楽しかったしおもしろかった ・新しい道具など色々出てきて面白いなと思いました ・普段お店に丸投げしていたことを、自分でできるようになったという達成感がすごくいい

	・自動車も頭に入れとこうと思った ・車の仕事に就きたいと思っていたので、今回のも踏まえて選んでいきたいと思っています ・簡単に選んだものだったが受けてみて楽しかった ・説明を聞くだけでは分からない部分も体験を通して理解できました
仕事のイメージがつかめた	・将来について考えることができた ・自分で作業する時間があったから ・タイヤ交換は整備士になったら何回もやるので、自動車整備士に向かって頑張る ・現場はこういうことをしているのだなと実感できた ・今回の授業でどのような仕事をしているのか見当もつきませんでしたが、今回の授業で自動車整備の仕事について少し理解する事ができて自分の進路選択の参考になりました ・授業を受けて、実際の作業の流れが分かり、仕事のイメージがつかめた気がしました
専門学校に対する理解が深まった	・専門学校では、このようなことを色々やって将来仕事に就くんだなと思ったから ・自分は機械科か電子コンピューター科に入ろうと思っていたが自動車科も選択しに入れたいと思った
将来の選択肢が広がった	・授業を受ける前は自動車整備士は視野に入れていなかったが、授業を受けて整備士も視野に入れようと思った

■今日、一緒に実習をしてくれた専門学校の先輩についてどのように感じましたか？（いくつでも選択可）

n=15

項 目	回答数	割 合
親近感が持てる	3	20%
かっこよかった	5	33%
優しかった	8	53.3%
頼りになる	6	40%
自分もあんな風になりたいと憧れる	3	20%



■上記の項目を選んだ理由

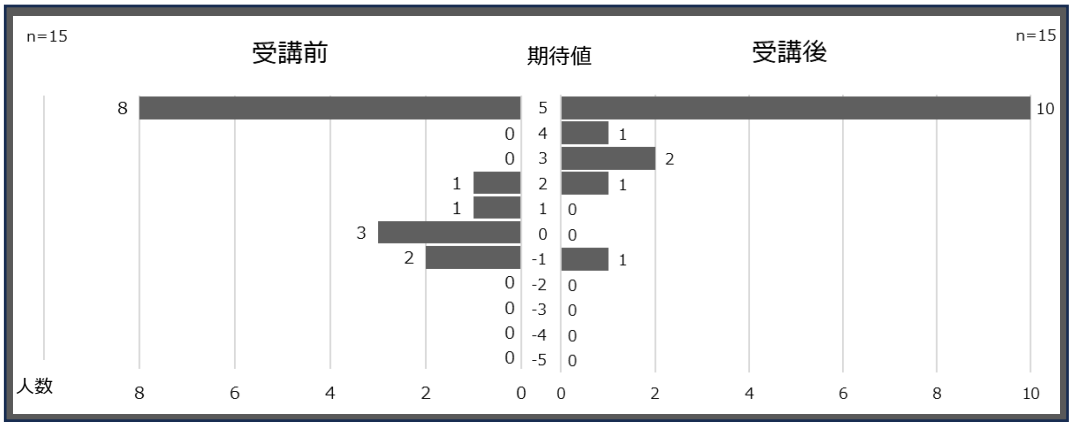
項　　目	記　　入　　内　　容
親近感が持てる	・教え方うまかったいい先輩 ・優しくわかりやすい説明や知識を教えてくれた ・丁寧に説明してくれていた
かっこよかった	・しっかりアドバイスくれた事 ・優しくわかりやすい説明や知識を教えてくれた ・タイヤ外す所 ・下手くそな僕達にも優しく接してくれた ・優しく接してくださった所がかっこよかった ・しっかり教えてくれるところが頼りがいがあった
優しかった	・しっかりアドバイスくれた事、色々教えてくれて優しいと思った ・優しくわかりやすい説明や知識を教えてくれた ・下手くそな僕達にも優しく接してくれた ・優しく接してくださった所がかっこよかった ・先輩方が教えてくれたおかげでスムーズにできたので、頼りになりました ・単純で分かりやすく、そして優しく教えて頂きとても理解しやすかったです ・丁寧に説明してくれていた ・分からないところを丁寧に教えてくれて、質問もしやすい雰囲気で作業の流れやポイントを説明してくれたので、実習の内容をし

	っかり理解できました
頼りになる	・しっかりアドバイスくれた事 ・ハキハキ喋っていたから ・優しくわかりやすい説明や知識を教えてくれた ・下手くそな僕達にも優しく接してくれた ・迷っていた時に丁寧に優しく教えてくれたので頼りになると思った ・先輩方が教えてくれたおかげでスムーズにできたので、頼りになりました ・単純で分かりやすく、そして優しく教えて頂きとても理解しやすかったです ・分からないところを丁寧に教えてくれて、質問もしやすい雰囲気で作業の流れやポイントを説明してくれたので、実習の内容をしっかり理解できました
自分もあんな風になりたいと憧れる	・しっかりアドバイスくれた事 ・下手くそな僕達にも優しく接してくれた ・優しく接してくださった所がかっこよかった ・丁寧に教えてくださったから

■全体を通して印象に残っていること

・作業着わすれた
・タイヤ交換やタイヤの知識
・隣の子が教えてくれた
・タイヤ作業、初めて専門学生と関われた
・タイヤ交換とジャッキ上げ空気圧
・先生と話したタイヤの大切さの話
・ナットは対角線に外すこと
・タイヤ交換する時に車体を上げるところが印象に残りました
・対角線にナットを外したり付けたりすること
・タイヤ交換と車上げのセッティング
・私は今回の授業では、見ているだけで満足したり、あまり積極的に参加できませんでしたが、ジャッキで重い車を上げている所がとても印象に残りました
・車を持ち上げるところ、自分がいたところは行動が遅かった
・実際に手を動かして作業できたことで、仕事の流れや大変さを実感できたのが一番印象に残りました

■受講前と受講後の期待値の比較



受講後期待値が上がった

②アンケート回答：東京工科自動車大学校　１年生　４名

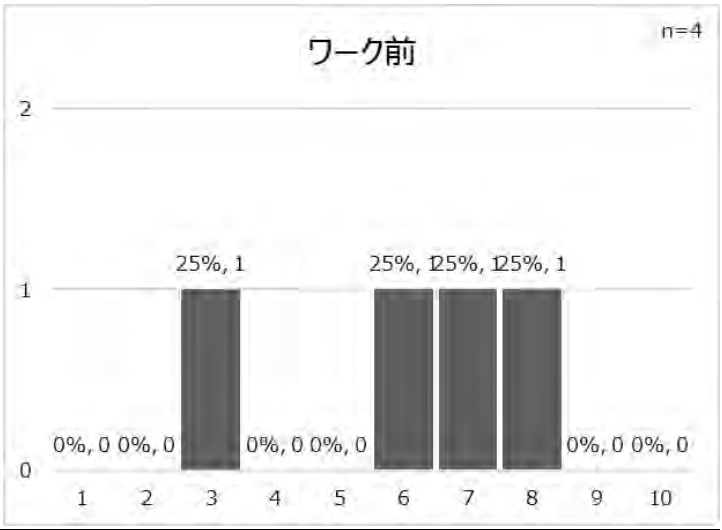
【ワーク前アンケート】

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=4

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	1	25%
4	0	0%
5	0	0%
6	1	25%
7	1	25%
8	1	25%
9	0	0%
10	0	0%
	4	100%

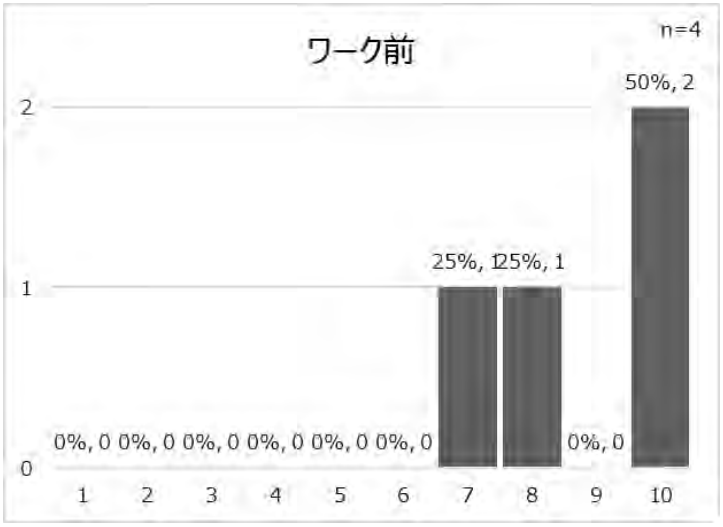


知識・スキルは身に付いている実感はある

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=4

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	0	0%
6	0	0%
7	1	25%
8	1	25%
9	0	0%
10	2	50%
	4	100%

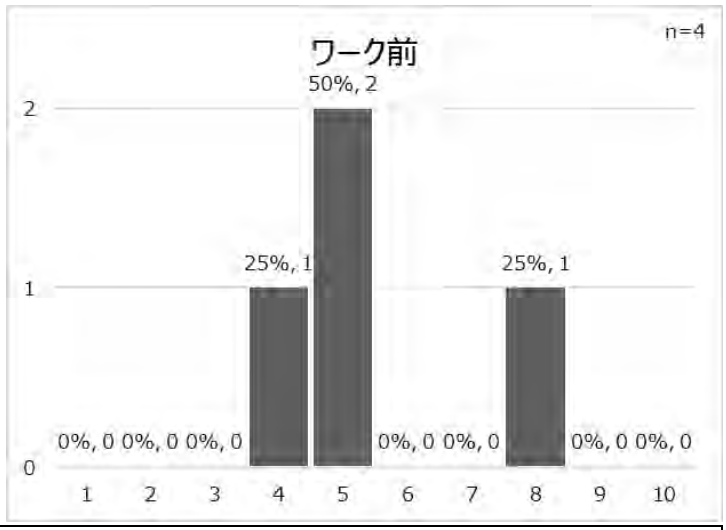


明確にイメージを持っている

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=4

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	25%
5	2	50%
6	0	0%
7	0	0%
8	1	25%
9	0	0%
10	0	0%
	4	100%



ある程度絞られた職であるため、少ない傾向

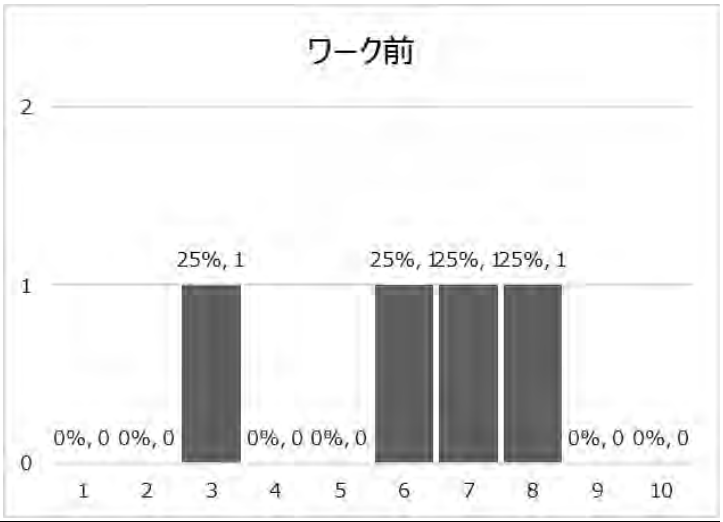
■【上記質問に関連】専門学校卒業後に就職できる業界・職種について、思いつく限り挙げてください

評　価	記　　入　　内　　容
4	・自動車整備
5	・自動車整備士 ・鉄道 ・レースメカニック ・ディーラー ・個人工場
8	・ＴＯＹＯＴＡ

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=4

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	1	25%
4	0	0%
5	0	0%
6	1	25%
7	1	25%
8	1	25%
9	0	0%
10	0	0%
	4	100%



ある程度イメージはできている

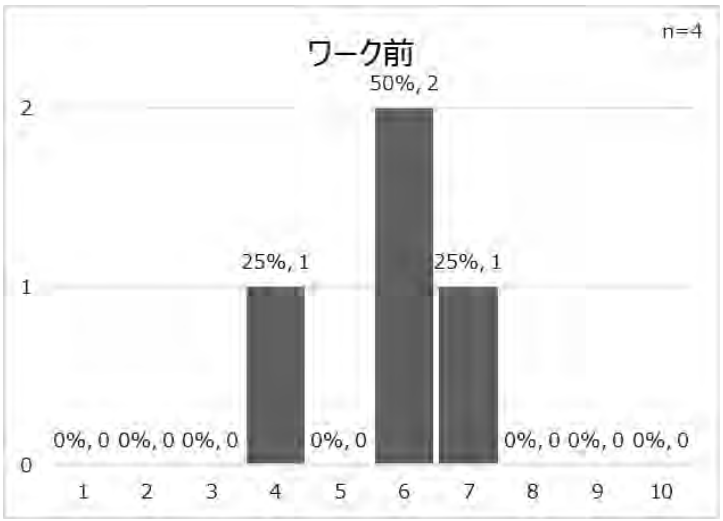
■【上記質問に関連】あなたが将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など)、今考えていること・思いつくことを教えてください

評　価	記　　入　　内　　容
3	・車を治す
6	・お客さんに信頼される自動車整備士になりたい
7	・ホンダディーラーで整備がしたい
8	・自動車整備士

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=4

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	25%
5	0	0%
6	2	50%
7	1	25%
8	0	0%
9	0	0%
10	0	0%
	4	100%

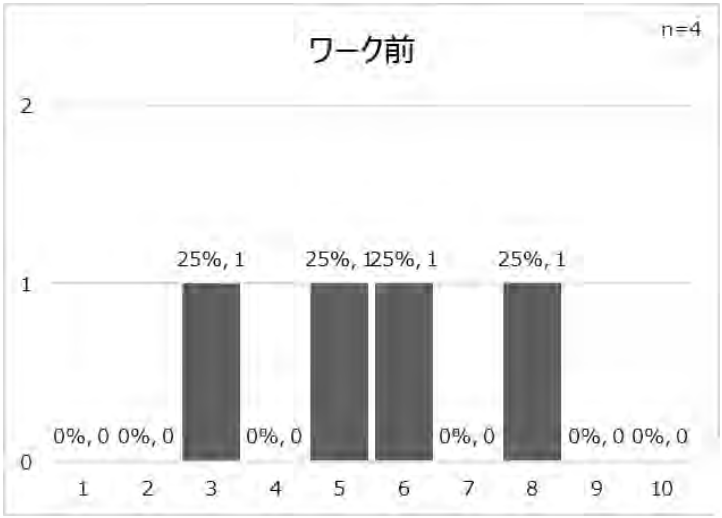


ある程度イメージはできている

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=4

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	1	25%
4	0	0%
5	1	25%
6	1	25%
7	0	0%
8	1	25%
9	0	0%
10	0	0%
	4	100%

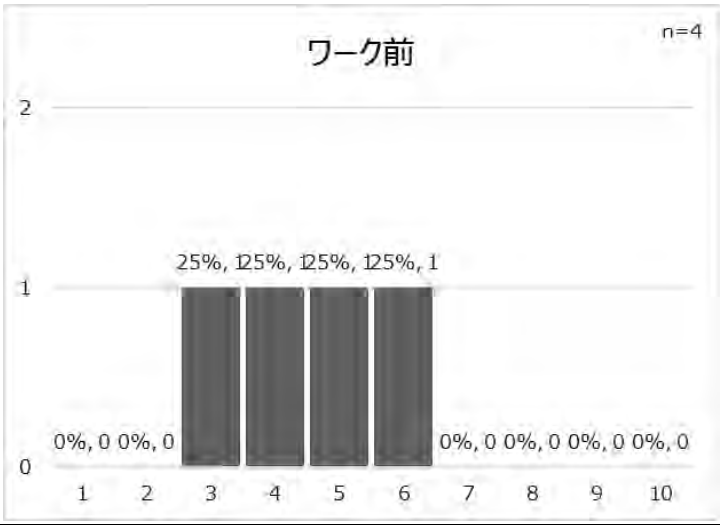


ある程度イメージはできている

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=4

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	1	25%
4	1	25%
5	1	25%
6	1	25%
7	0	0%
8	0	0%
9	0	0%
10	0	0%
	4	100%



ある程度キャリアプランは考えている

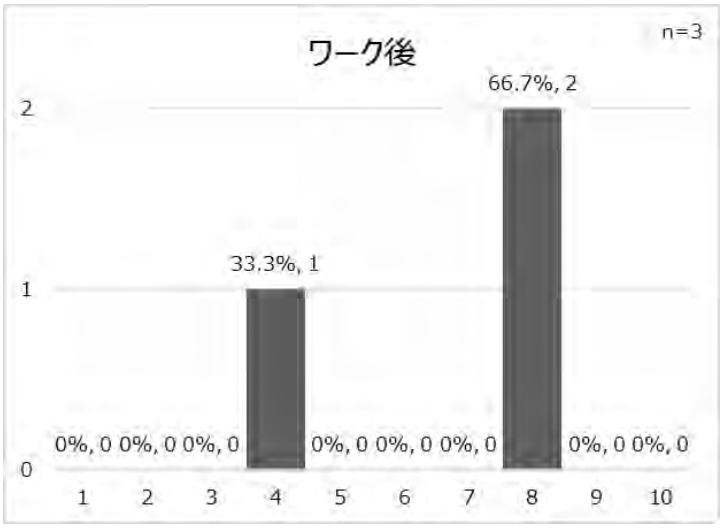
【ワーク後アンケート】

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=3

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	33.3%
5	0	0%
6	0	0%
7	0	0%
8	2	66.7%
9	0	0%
10	0	0%
	3	100%



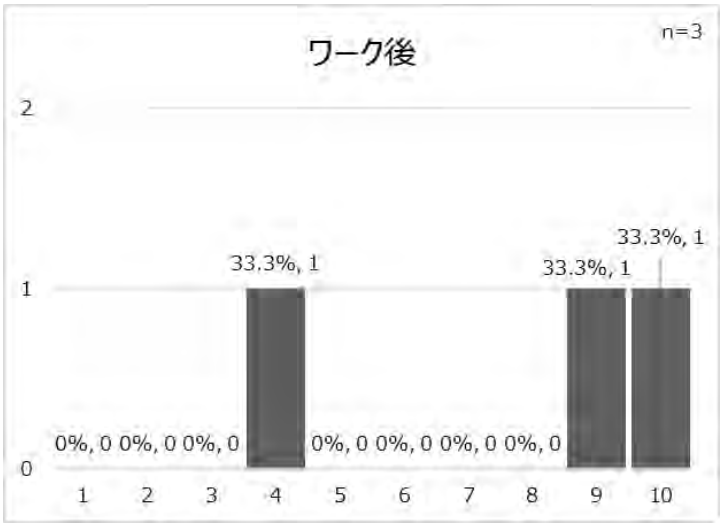
実感が高まった

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=3

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	33.3%
5	0	0%
6	0	0%
7	0	0%
8	0	0%
9	1	33.3%
10	1	33.3%
	3	100%

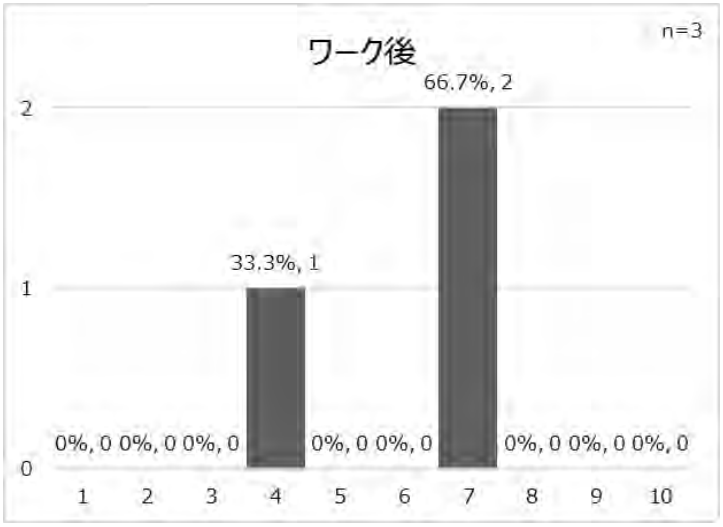


イメージが明確になった

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=3

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	33.3%
5	0	0%
6	0	0%
7	2	66.7%
8	0	0%
9	0	0%
10	0	0%
	3	100%



複数持つ意識が高まった

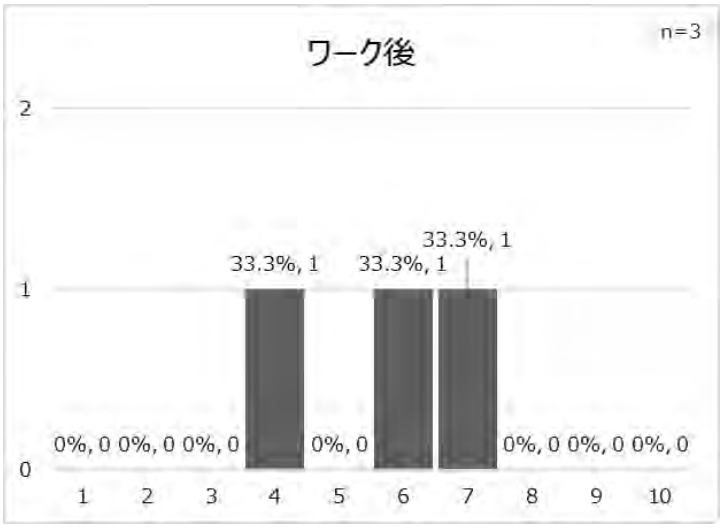
■【上記質問に関連】専門学校卒業後に就職できる業界・職種について、思いつく限り挙げてください

評　価	記　入　内　容
4	・自動車関係
7	・自動車整備士 ・自動車整備士 ・アトラクション整備士 ・運転手 ・ディーラー ・個人工場

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=3

評 価	回答数	割 合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	33.3%
5	0	0%
6	1	33.3%
7	1	33.3%
8	0	0%
9	0	0%
10	0	0%
	3	100%



ある程度イメージはできている

■【上記質問に関連】あなたが将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）、今考えていること・思いつくことを教えてください

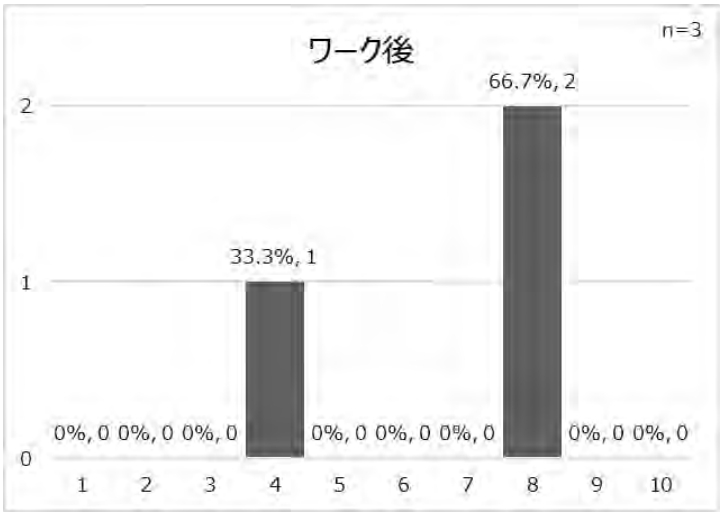
評 価	記 入 内 容
4	・生産ライン
6	・自動車整備士
7	・ディーラーで車をしっかり直せるようになっていたい

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=3

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	33.3%
5	0	0%
6	0	0%
7	0	0%
8	2	66.7%
9	0	0%
10	0	0%
	3	100%



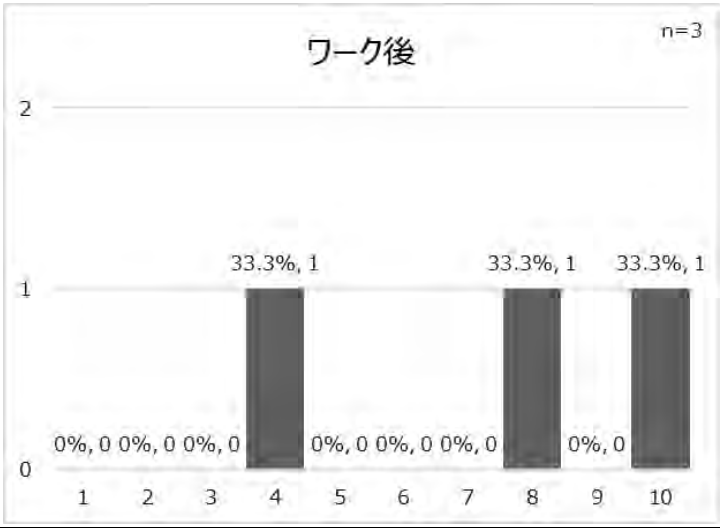
世の中の役に立つイメージは高い

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=3

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	33.3%
5	0	0%
6	0	0%
7	0	0%
8	1	33.3%
9	0	0%
10	1	33.3%
	3	100%

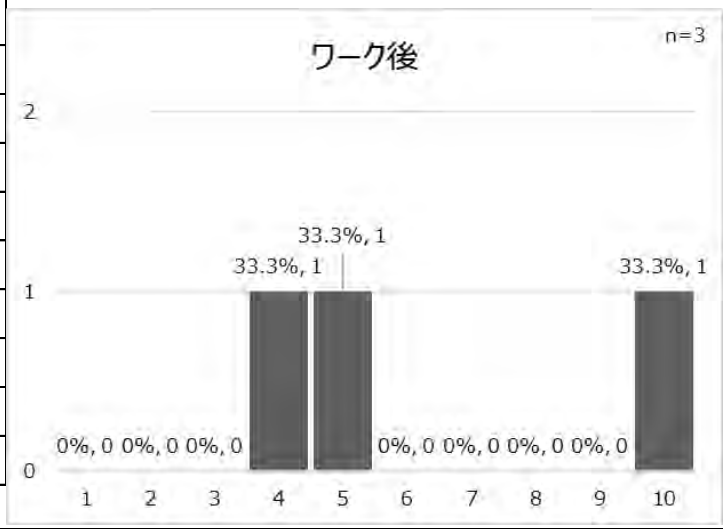


働いている姿のイメージが高まった

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=3

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	33.3%
5	1	33.3%
6	0	0%
7	0	0%
8	0	0%
9	0	0%
10	1	33.3%
	3	100%

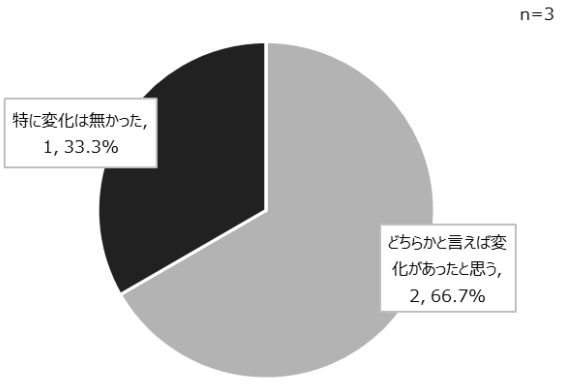


キャリアプランの考えが高まった

■今回のワークを通じて、なにか心境に変化はありましたか？

n=3

項　目	回答数	割　合
大きく変化があった	0	0
どちらかと言えば変化があったと思う	2	66.7%
どちらとも言えない	0	0
特に変化は無かった	1	33.3%
その他	0	0
	3	100%



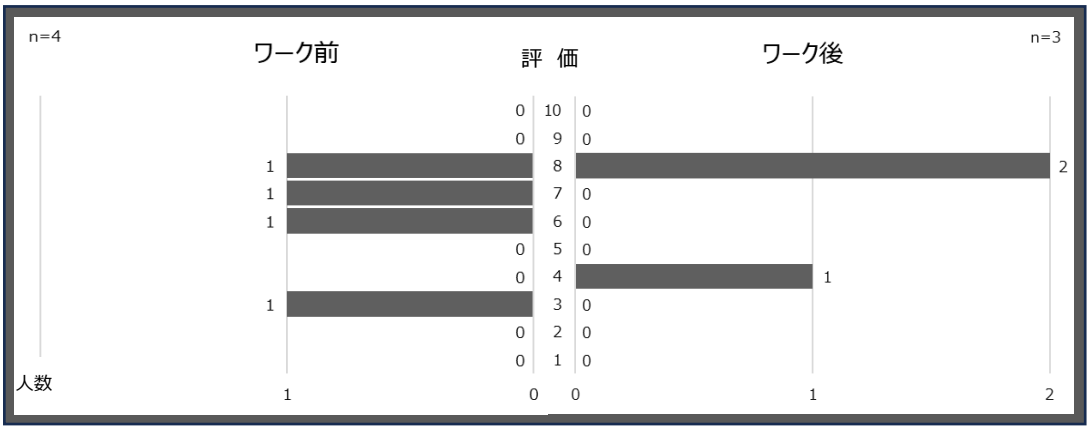
■【上記質問に関連】どのように変化したかを具体的に教えてください

項　　目	記　　入　　内　　容
どちらかと言えば変化があったと思う	・自分では声を大きく出している感じはなかったんですがみんなから大きい声出せているって言われて変化を感じました

	・まだまだ身についてない部分をあったのでしっかり勉強していきたい
特に変化は無かった	・さらに整備士になりたいと言う気持ちが強くなりました

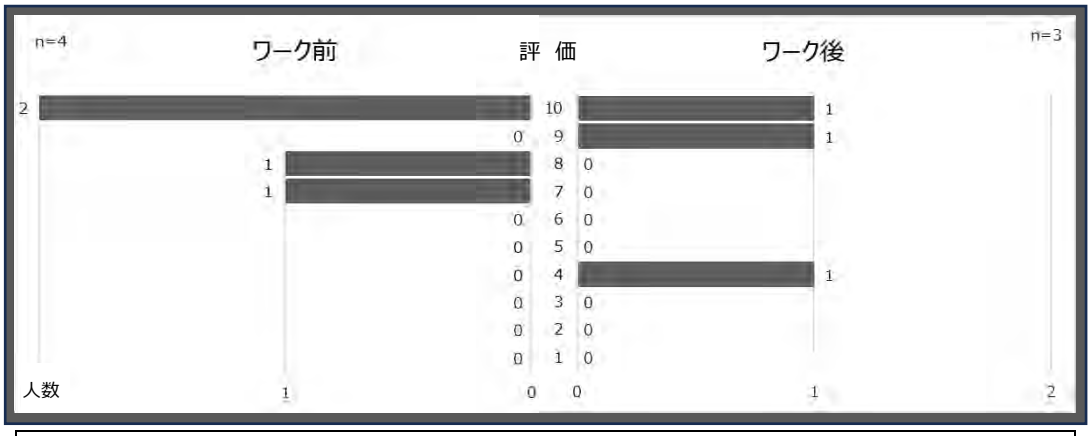
②ワーク前後アンケート対比

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



評価７以上で比較：
・ワーク前２人（評価７（１）・８（１））
・ワーク後２人（評価８（２））
ワーク後、評価が上がった

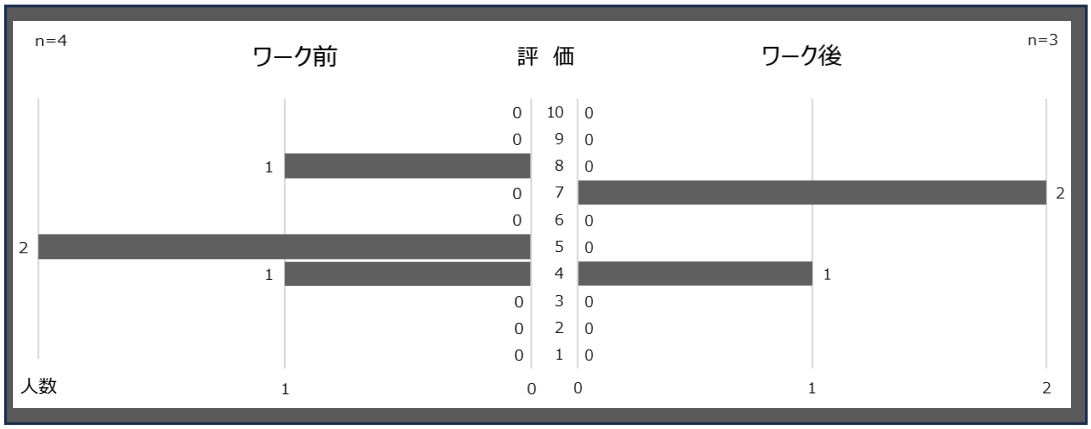
■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



評価７以上で比較：
・ワーク前４人（評価７（１）・８（１）・１０（２））
・ワーク後２人（評価９（１）・１０（１））

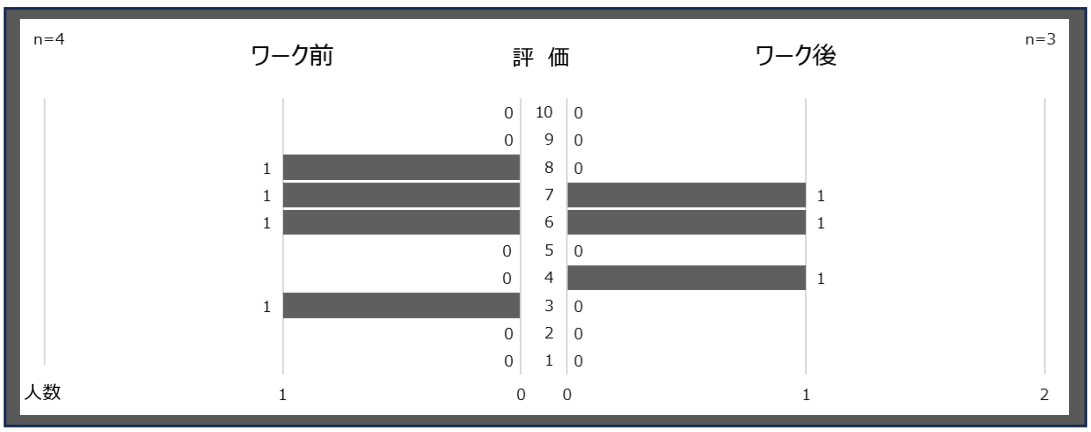
ワーク後、評価が下がった

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



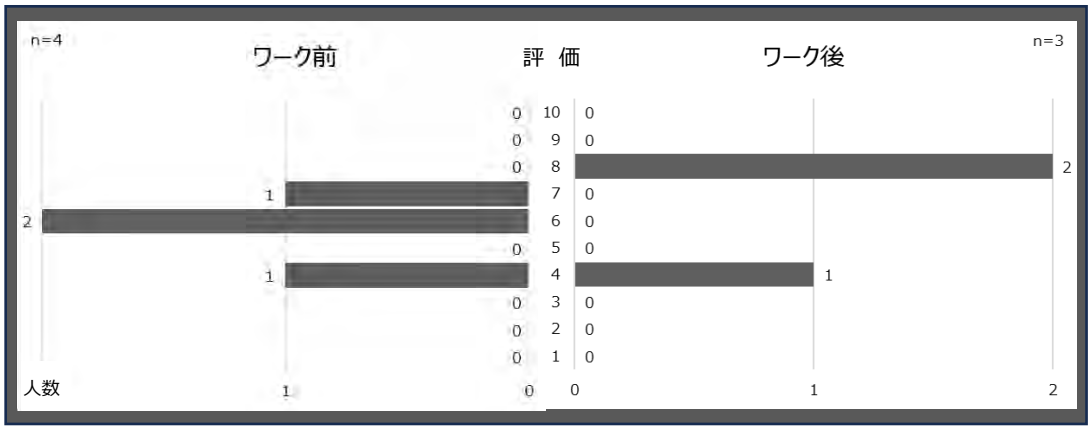
評価７以上で比較：
・ワーク前１人（評価８（１））
・ワーク後２人（評価７（２））
ワーク後、人数増により評価が上がった

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



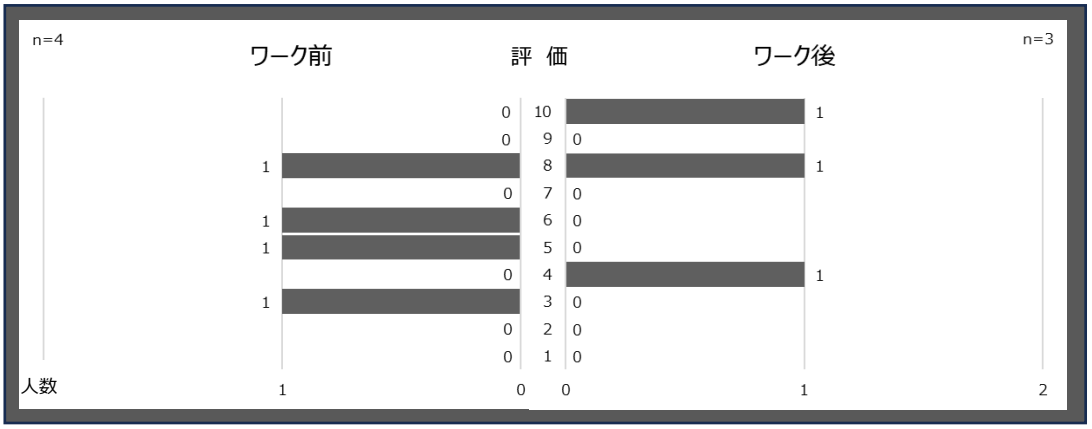
評価７以上で比較：
・ワーク前２人（評価７（１）・８（１））
・ワーク後１人（評価７）
ワーク後、評価が下がった

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



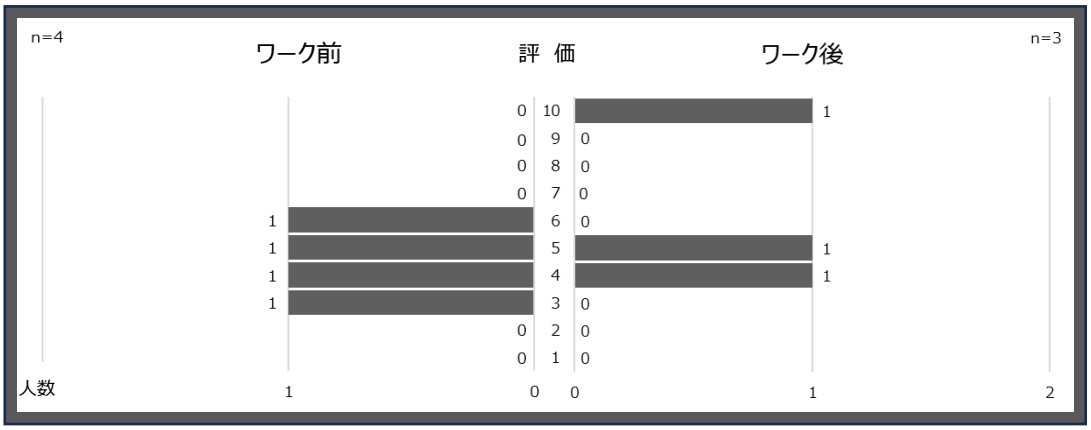
評価７以上で比較：
・ワーク前１人（評価７（１））
・ワーク後２人（評価８（２））
ワーク後、評価が上がった

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



評価７以上で比較：
・ワーク前１人（評価８（１））
・ワーク後２人（評価８（１）・１０（１））
ワーク後、評価が上がった

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

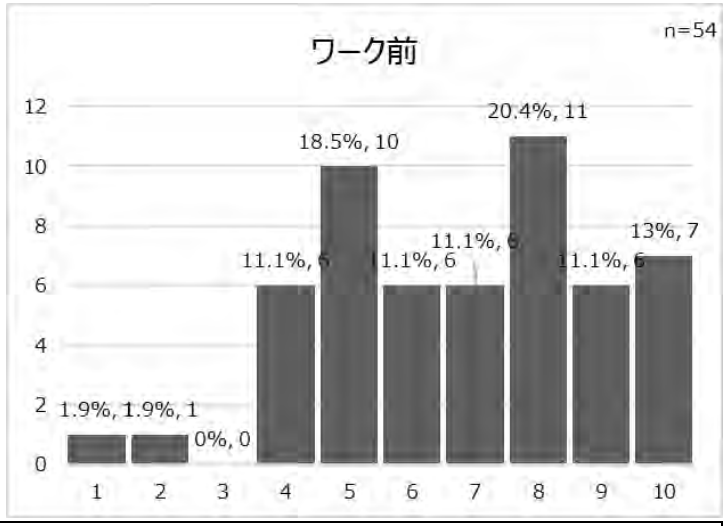


評価７以上で比較：
・ワーク前０人
・ワーク後１人（評価１０（１））
ワーク後、評価が上がった

（２）建築分野
①アンケート回答：専門学校東京テクニカルカレッジ　１年生　５４名
【ワーク前アンケート】
■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=54

評 価	回答数	割 合
1	1	1.9%
2	1	1.9%
3	0	0%
4	6	11.1%
5	10	18.5%
6	6	11.1%
7	6	11.1%
8	11	20.4%
9	6	11.1%
10	7	13%
	54	100%

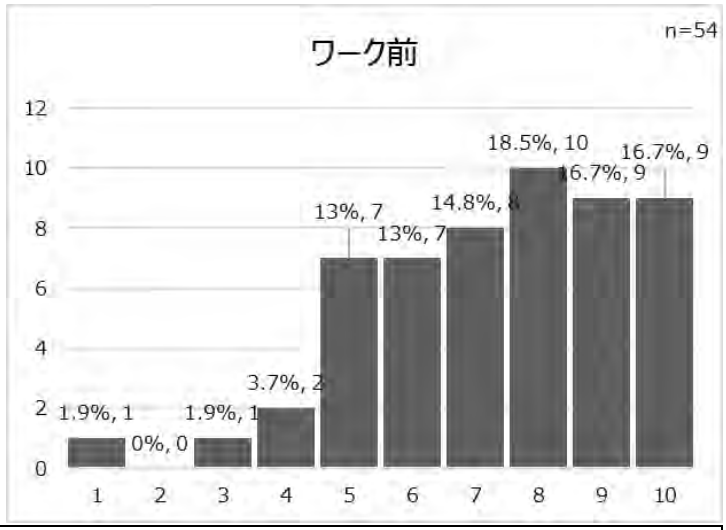


知識・スキルが身に付いた実感の評価が高い

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=54

評　価	回答数	割　合
1	1	1.9%
2	0	0%
3	1	1.9%
4	2	3.7%
5	7	13%
6	7	13%
7	8	14.8%
8	10	18.5%
9	9	16.7%
10	9	16.7%
	54	100%

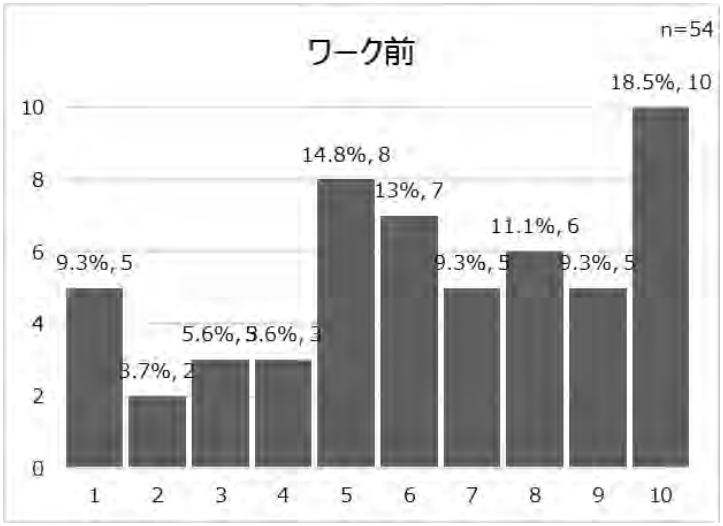


将来につながる評価が高い

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=54

評　価	回答数	割　合
1	5	9.3%
2	2	3.7%
3	3	5.6%
4	3	5.6%
5	8	14.8%
6	7	13%
7	5	9.3%
8	6	11.1%
9	5	9.3%
10	10	18.5%
	54	100%



複数持っている学生が多い

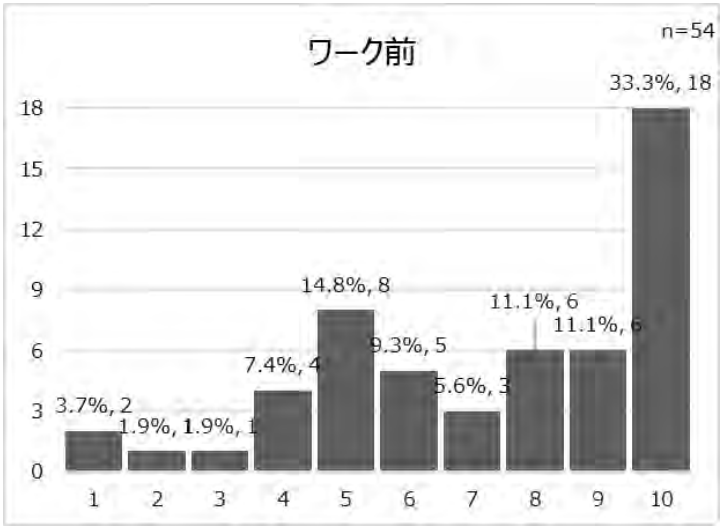
■【上記質問に関連】専門学校卒業後に就職できる業界・職種について、思いつく限り挙げてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

評　価	記　　入　　内　　容
1	インテリア、設計事務所、積算、設備、現場監督、施工管理、設計監理・設計事務所
2	ＣＡＤオペレーター、施工管理技士、建築士、建築関係の事務、設計事務所、不動産、現場監督
3	建築士、施工管理
4	建設業、設計、施工管理
5	施工管理、現場監督、測量、土木、建設、建築設計、設計、設備、意匠設計、構造設計、施工
6	大和ハウス工業株式会社、現場、設計、建築業、施工管理、施工管理士、建築士、監督
7	施工管理、建築設計、生産管理、ＣＡＤ設計製図、設計管理、自身があります
8	設計、施工管理、不動産、建築設計、ゼネコン、建築設計業界、建築施工管理、建築設計アシスタント
9	設計、施工、建築系、建設業、施工管理、積算
１０	施工管理技士、建設業、建築士、建築施工管理技士、設備施工管理技士、施工管理、ＩＴ、建築、設計、現場監督、ＣＡＤオパレータ、設備開発、設備管理、建築工事

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=54

評 価	回答数	割 合
1	2	3.7%
2	1	1.9%
3	1	1.9%
4	4	7.4%
5	8	14.8%
6	5	9.3%
7	3	5.6%
8	6	11.1%
9	6	11.1%
10	18	33.3%
	54	100%



具体的なイメージを持っている学生が多い

■【上記質問に関連】あなたが将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）、今考えていること・思いつくことを教えてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

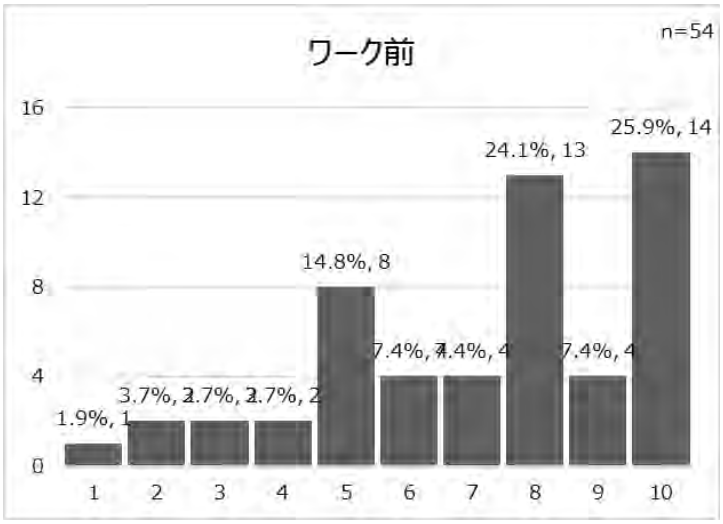
評 価	記 入 内 容
1	現場監督、施工管理
2	最近はよくやりたいことがわからない/むずかしい
3	設計、施工管理
4	設計、施工管理
5	施工管理、設計者、現場、設計、施工管理職、測量士、設計事務所、施工、建築設計
6	現場監督、土木、建設系、生産管理、設計、施工管理、ＣＡＤオペレーター
7	設計者、施工管理士、住宅関連
8	設計、施工管理、施工、設計管理、現場、建築設計
9	設計、施工、施工管理職、ハウスメーカーかゼネコン会社に入りたい、現場管

	理、建築設計
１０	施工管理技士、建築設計、施工管理、建築、現場監督、建築施工管理技士、個人ではなくチームとして現場で統率を取り最大限細部までこだわり信用される施工管理技士として活躍したい、建築業、建設業界に就職して現場監督になりたい、施工管理/財産や家族などを守り安心して暮らせるような建物を施工すること、施工管理で役に立ちたい、日本の設計事務所で働く、建築業界で施工管理職に就き、現場所長になる、設計、積算、施工

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=54

評　価	回答数	割　合
1	1	1.9%
2	2	3.7%
3	2	3.7%
4	2	3.7%
5	8	14.8%
6	4	7.4%
7	4	7.4%
8	13	24.1%
9	4	7.4%
10	14	25.9%
	54	100%

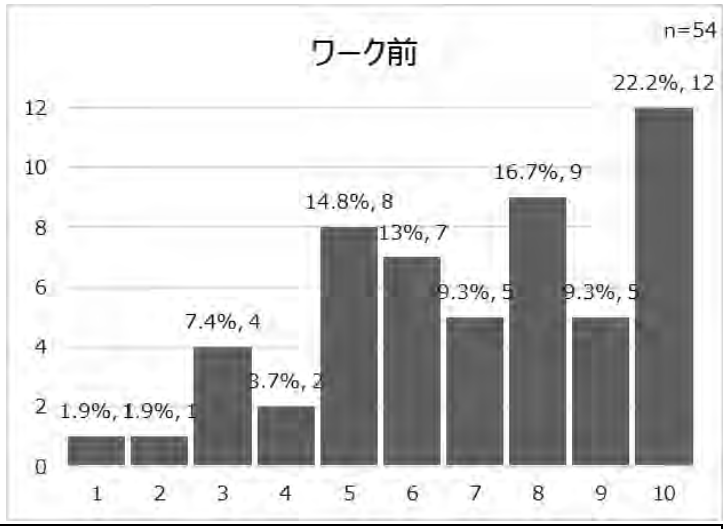


仕事を通じて世に中に役に立つイメージを持っている比率が高い

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=54

評　価	回答数	割　合
1	1	1.9%
2	1	1.9%
3	4	7.4%
4	2	3.7%
5	8	14.8%
6	7	13%
7	5	9.3%
8	9	16.7%
9	5	9.3%
10	12	22.2%
	54	100%

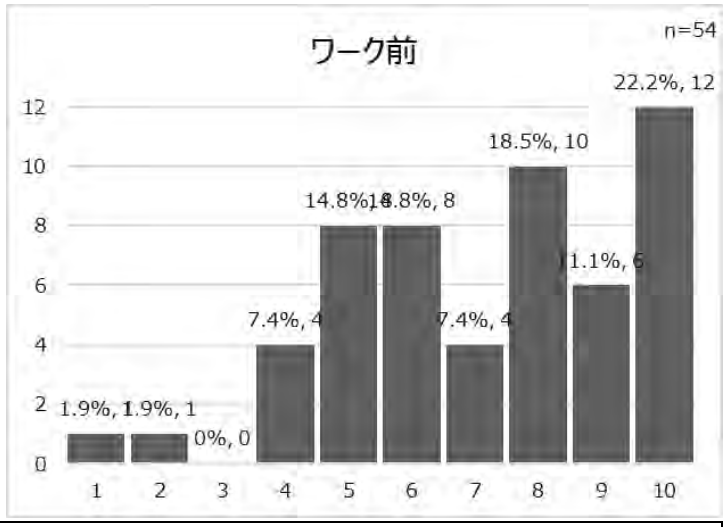


働いている姿のイメージを持っている比率が高い

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=54

評　価	回答数	割　合
1	1	1.9%
2	1	1.9%
3	0	0%
4	4	7.4%
5	8	14.8%
6	8	14.8%
7	4	7.4%
8	10	18.5%
9	6	11.1%
10	12	22.2%
	54	100%



キャリアプランを考えている傾向

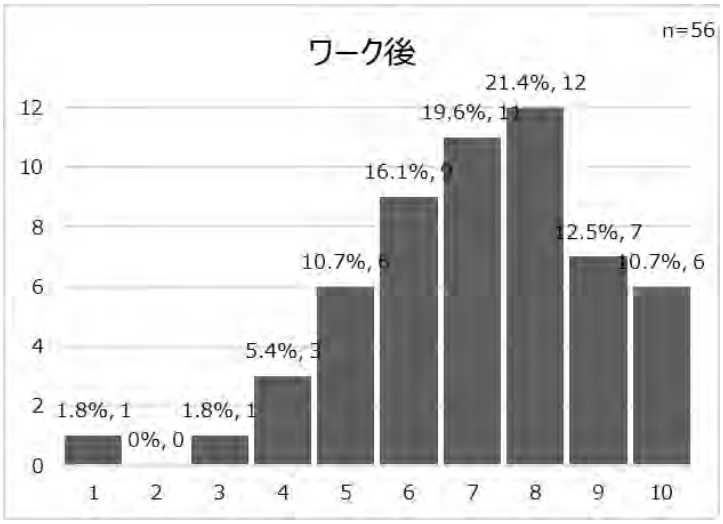
【ワーク後アンケート】

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=56

評　価	回答数	割　合
1	1	1.8%
2	0	0%
3	1	1.8%
4	3	5.4%
5	6	10.7%
6	9	16.1%
7	11	19.6%
8	12	21.4%
9	7	12.5%
10	6	10.7%
	56	100%



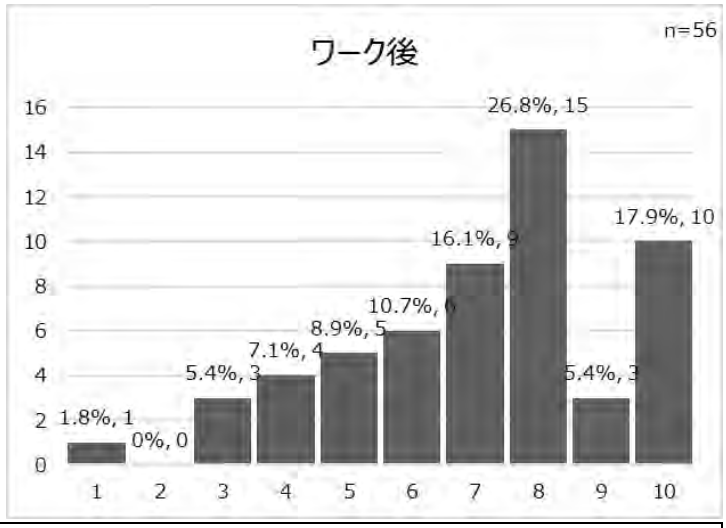
知識・スキルが身についている実感がある

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=56

評　価	回答数	割　合
1	1	1.8%
2	0	0%
3	3	5.4%
4	4	7.1%
5	5	8.9%
6	6	10.7%
7	9	16.1%
8	15	26.8%
9	3	5.4%
10	10	17.9%
	56	100%

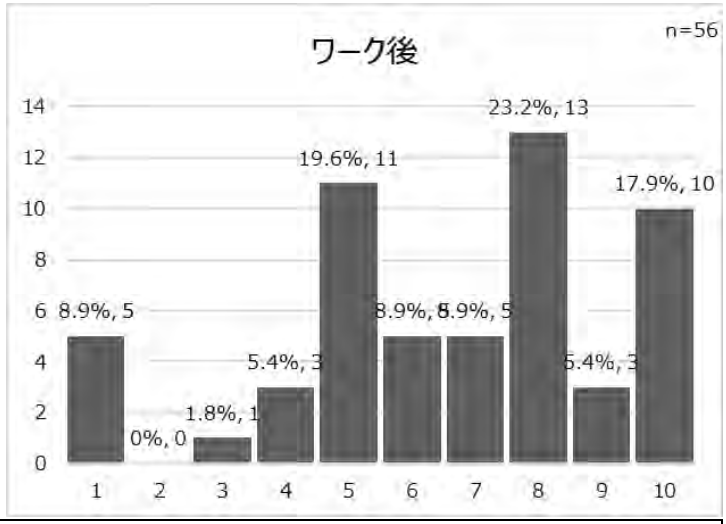


自分の将来につながるイメージがある

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=56

評 価	回答数	割 合
1	5	8.9%
2	0	0%
3	1	1.8%
4	3	5.4%
5	11	19.6%
6	5	8.9%
7	5	8.9%
8	13	23.2%
9	3	5.4%
10	10	17.9%
	56	100%



ある程度の数を持っているが、個人差があると思われる

■【上記質問に関連】専門学校卒業後に就職できる業界・職種について、思いつく限り挙げてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

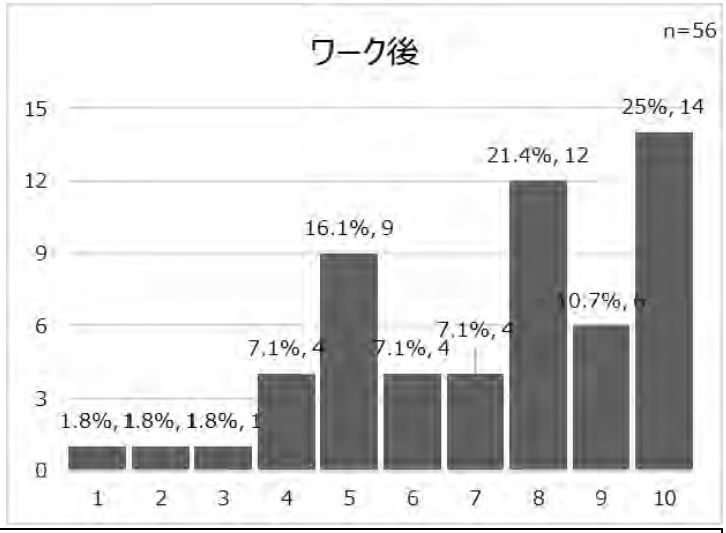
評 価	記 入 内 容
1	施工管理、設計監理、現場監督、設計、建設業、施工管理技士、建築士、ＣＡＤオペレーター、不動産管理、建築、設備、積算
3	設計、設備、施工管理
4	建築業界、設計、積水ハウス、大和ハウス
5	施工管理、設計、設計、設備、施工、インテリア、鳶、職人、営業系、事務系、建築系、建設業、構造設計
6	ハウスメーカー、施工管理、設備、リフォーム、設計、現場、住宅設計、施工、設計事務所
7	施工、施工管理、設計、現場監督
8	設施工管理、製図、設備、ゼネコン、現場監督、大工、建築、設計、設備設計、現場打ち、意匠設計、構造設計、施工管理技士、インテリアデザイン、設計士、内装デザイン、生産管理、施工管理、大工、積算、施設維持管理、インテリア、建築業、Architectural design

９	施工管理、設計、設備、積算、設備設計
１０	建築設計、建築系全部、現場監督、施工管理、施工、設計、積算、営業、大工、鳶、設備設計、施工管理技士、建築、インテリア

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=56

評 価	回答数	割 合
1	1	1.8%
2	1	1.8%
3	1	1.8%
4	4	7.1%
5	9	16.1%
6	4	7.1%
7	4	7.1%
8	12	21.4%
9	6	10.7%
10	14	25%
	56	100%



過半数以上は具体的なイメージを持っている

■【上記質問に関連】あなたが将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）、今考えていること・思いつくことを教えてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

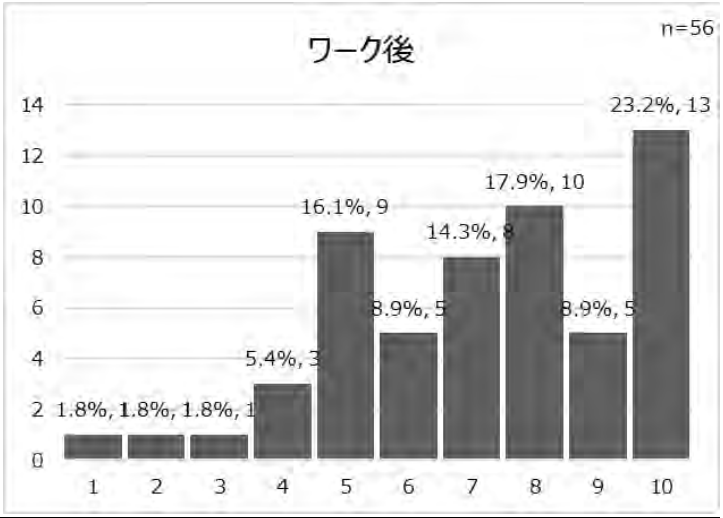
評 価	記 入 内 容
1	施工管理技術者として経験を積みたい
2	不動産
3	ＣＡＤオペレーター
4	リフォーム、施工管理、設計、施工
5	設計、設備、施工管理、リフォーム、施工管理技士、測量、災害に強い建築、構造設計
6	ハウスメーカーで設計、現場、設計、建築、働きやすいところに働きたい

7	施工、施工管理で現場監督、設計、インテリア
8	設計、設備、施工管理、設備設計、工事、現場打ち、建築、自分の力で誰かのために役立てることがしたい。自ら支える側でも裏で支える側でも
9	施工管理、現場監督、建築業界で施工管理職で大きな建物を任されている姿、構造設計、設計
１０	建築設計、施工管理、設計監理、創造性のある仕事に就きたい、現場監督、周りの人が今日も仕事頑張ろうと思って仕事できる現場造りができる施工管理技士、ハウスメーカー

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=56

評　価	回答数	割　合
1	1	1.8%
2	1	1.8%
3	1	1.8%
4	3	5.4%
5	9	16.1%
6	5	8.9%
7	8	14.3%
8	10	17.9%
9	5	8.9%
10	13	23.2%
	56	100%

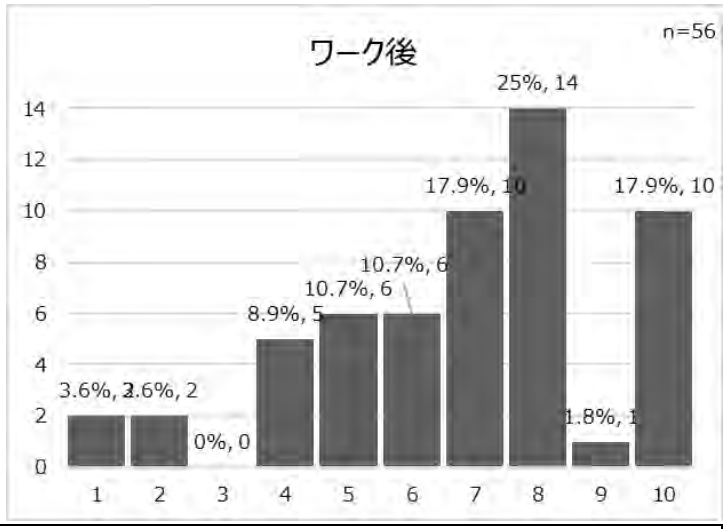


仕事を通して世の中の役に立つイメージを持っている

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=56

評　価	回答数	割　合
1	2	3.6%
2	2	3.6%
3	0	0%
4	5	8.9%
5	6	10.7%
6	6	10.7%
7	10	17.9%
8	14	25%
9	1	1.8%
10	10	17.9%
	56	100%

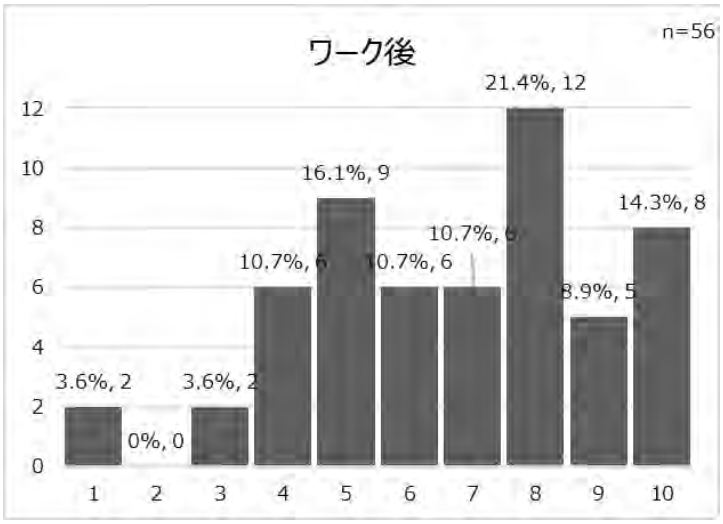


働く姿のイメージがある

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=56

評　価	回答数	割　合
1	2	3.6%
2	0	0%
3	2	3.6%
4	6	10.7%
5	9	16.1%
6	6	10.7%
7	6	10.7%
8	12	21.4%
9	5	8.9%
10	8	14.3%
	56	100%

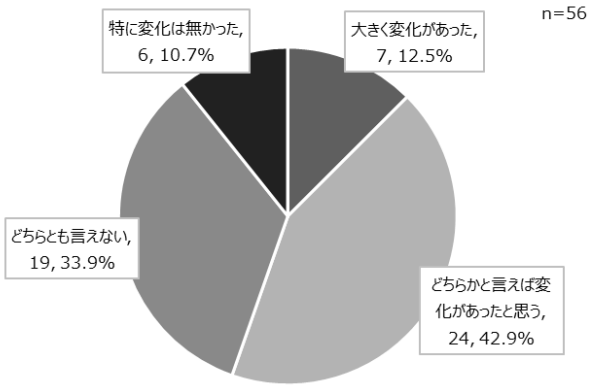


キャリアプランの考えを持っている

■今回のワークを通じて、なにか心境に変化はありましたか？

n=56

項　目	回答数	割　合
大きく変化があった	7	12.5%
どちらかと言えば変化があったと思う	24	42.9%
どちらとも言えない	19	33.9%
特に変化は無かった	6	10.7%
その他	0	0%
	56	100%



■【上記質問に関連】どのように変化したかを具体的に教えてください

項　　目	記　　入　　内　　容
大きく変化があった	・建設業界は幅広く、様々なことに取り組めることを知れた ・考え方や価値観 ・やりたいことには全力で向き合うべき ・建築という分野の中でも様々な業種があると感じた ・他のものに興味があって勉強になりました ・具体的な仕事内容を知った
どちらかと言えば変化があったと思う	・海外事業に興味を持った ・色んな道があって色んな経験を積んでいきたいと思いました ・職を転々とするのは悪いことでは無いと思った ・今から準備始まること ・同じ会社でずっと働き続ける必要はないということ ・目標が大切だと気づいた ・もっと頑張らなければいけない。そしてもっと成長できると感じました ・現在の建築業界の人数減少などの影響から、それに伴う建築職の需要などを実際に働いている人の意見を聞くことができたため ・今までよりもより具体的なイメージを持つ事が出来たのがとてもよかったと感じました ・構造設計の重要性を学び人材の貴重性なども学んだ。まだ知らない職種だったので具体的にイメージができた

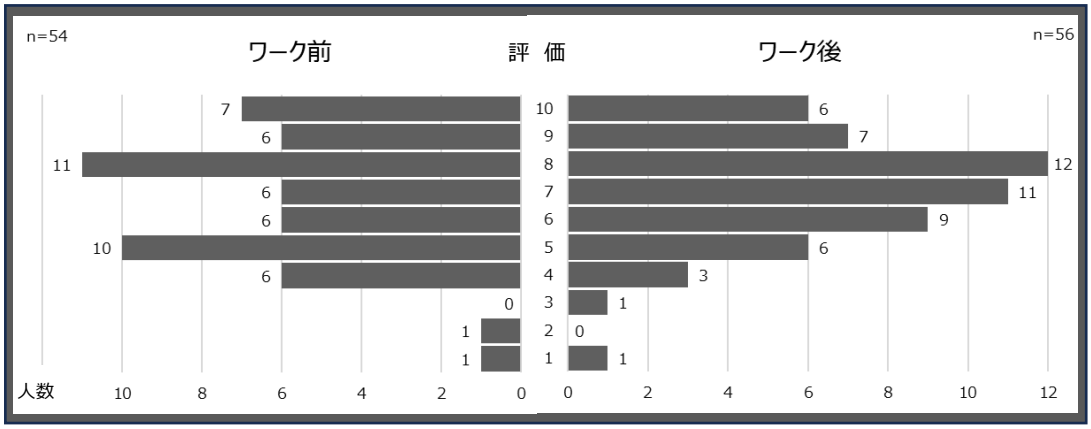
	・自分の将来を見つけた ・人の態度や感情の変化 ・様々な職種に対してどんな業務があるのか、どんな人がいるのか、などといった会社の内容から実際に聞かないと分からない事を理解することが出来ました ・互いに意見を共有しあったり、問題を解決するためにどういう計画を立てるかなど共有する機会があったから ・現場の話を聞いて施工管理の業界に興味が湧いたから ・色々な作業があって自分にあう仕事を見つけたいです ・良い理解できた ・学生のうちにいろいろ用語を学んでおく必要が感じた ・自分が望むものを達成するためにどのような努力をすべきかが分かると思います
どちらとも言えない	・すごく悩む ・別の視点で物事を考えるようになったこと ・苦手な図面・模型・スケッチも回数を重ねて成長している

■その他ご意見やご感想、気づいたことがあれば自由に記述してください

・自分が良く知りたいことをもっと知りたいです
・もっと頑張ります

②ワーク前後アンケート対比

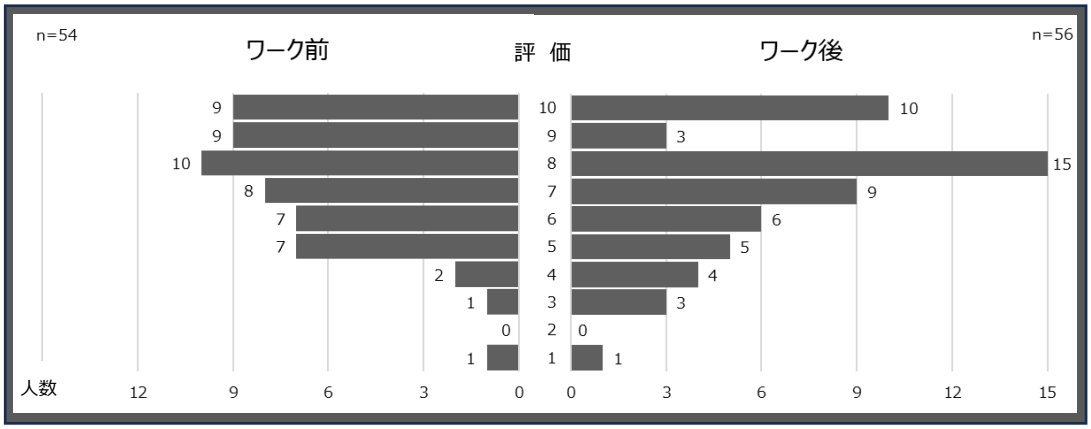
■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



評価７以上で比較：
・ワーク前３０人（評価７（６）・８（１１）・９（６）・１０（７））

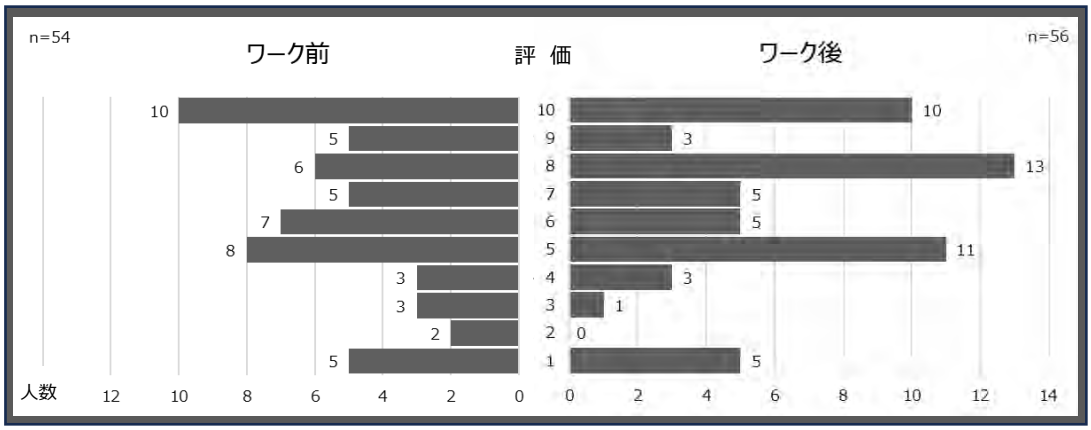
・ワーク後３６人（評価７（１１）・８（１２）・９（７）・１０（６））
ワーク後、評価が上がった

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



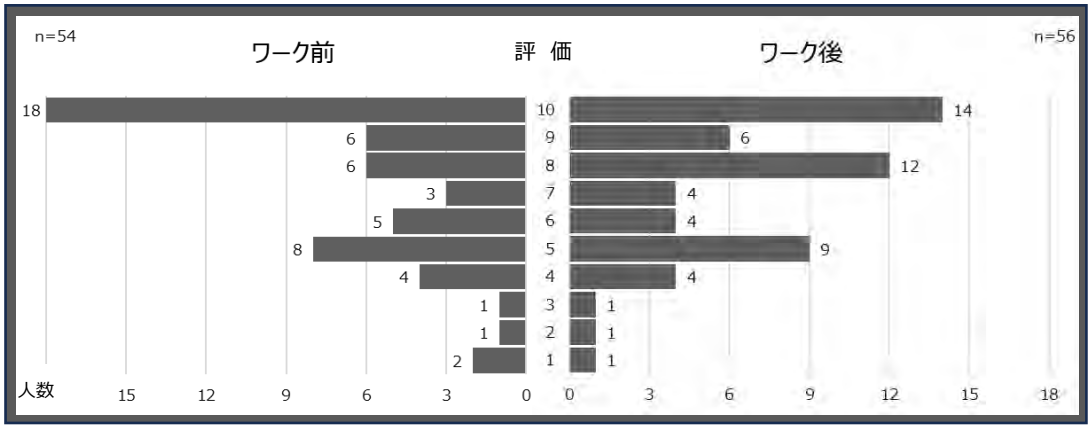
評価７以上で比較：
・ワーク前３６人（評価７（８）・８（１０）・９（９）・１０（９））
・ワーク後３７人（評価７（９）・８（１５）・９（３）・１０（１０））
ワーク後人数は多くなったが。高評価部分を比較すると評価が下がった、

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



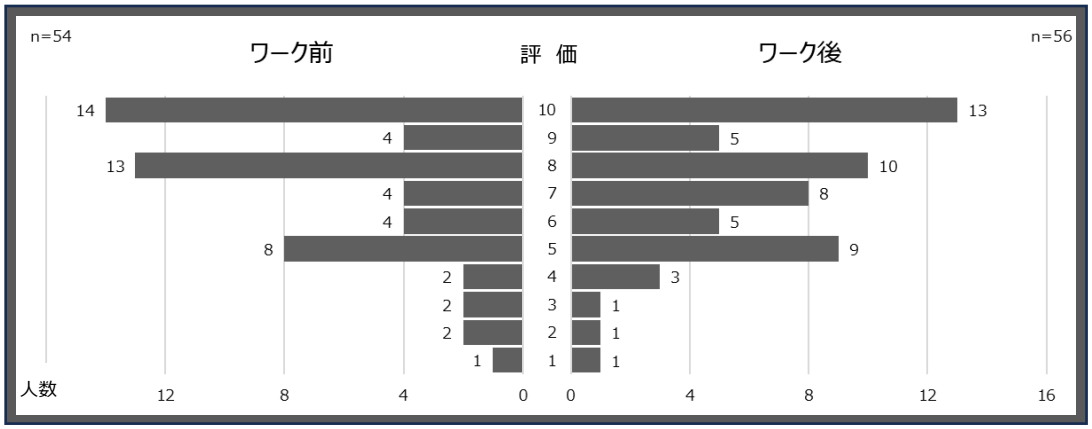
評価７以上で比較：
・ワーク前２６人（評価７（５）・８（６）・９（５）・１０（１０））
・ワーク後３１人（評価７（５）・８（１３）・９（３）・１０（１０））
ワーク後、評価が上がった

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



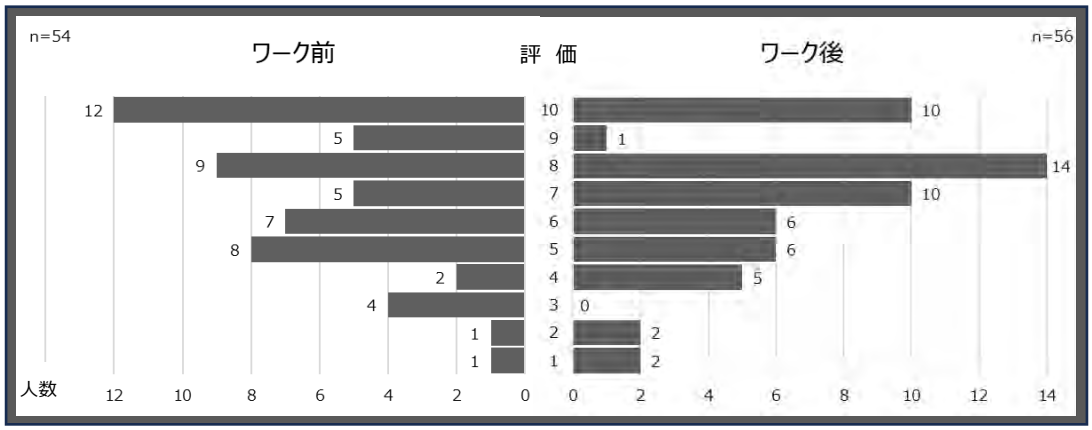
評価７以上で比較：
・ワーク前３３人（評価７（３）・８（６）・９（６）・１０（１８）
・ワーク後３６人（評価７（４）・８（１２）・９（６）・１０（１４））
ワーク後高評価部分の人数が増え、評価が上がった

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



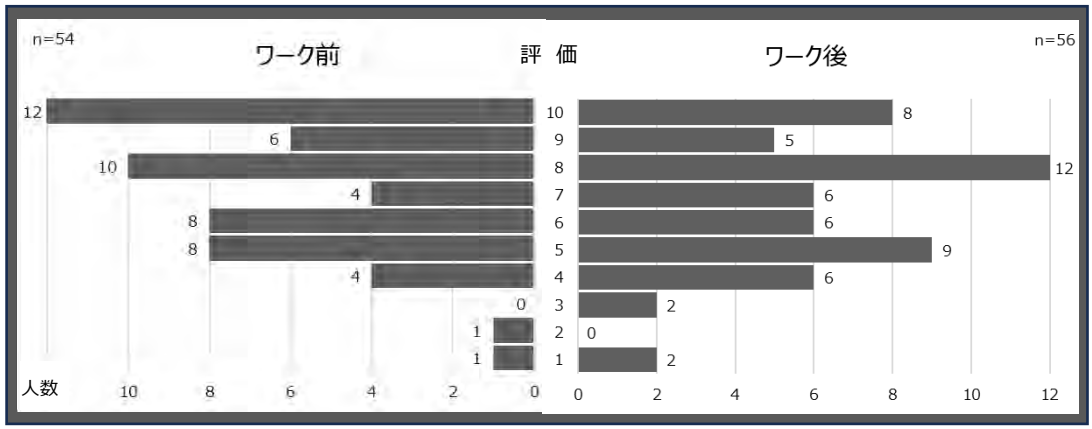
評価７以上で比較：
・ワーク前３５人（評価７（４）・８（１３）・９（４）・１０（１４））
・ワーク後３６人（評価７（８）・８（１０）・９（５）・１０（１３））
ワーク後、評価が上がった

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



評価７以上で比較：
・ワーク前３１人（評価７（５）・８（９）・９（５）・１０（１２））
・ワーク後３５人（評価７（１０）・８（１４）・９（１）・１０（１０））
ワーク後、評価が上がった

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



評価７以上で比較：
・ワーク前３２人（評価７（４）・８（１０）・９（６）・１０（１２））
・ワーク後３１人（評価７（６）・８（１２）・９（５）・１０（８））
ワーク後、評価が低くなった

（３）インテリア分野

①アンケート回答：専門学校東京テクニカルカレッジ　１年生　２６名

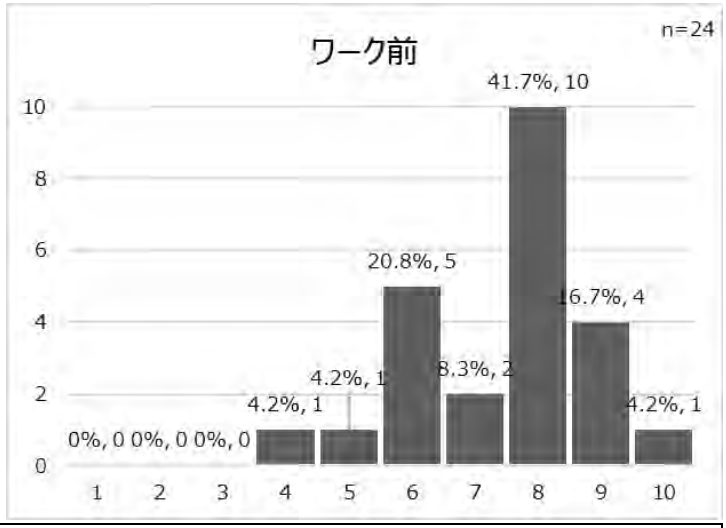
【ワーク前アンケート】

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=24

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	4.2%
5	1	4.2%
6	5	20.8%
7	2	8.3%
8	10	41.7%
9	4	16.7%
10	1	4.2%
	24	100%



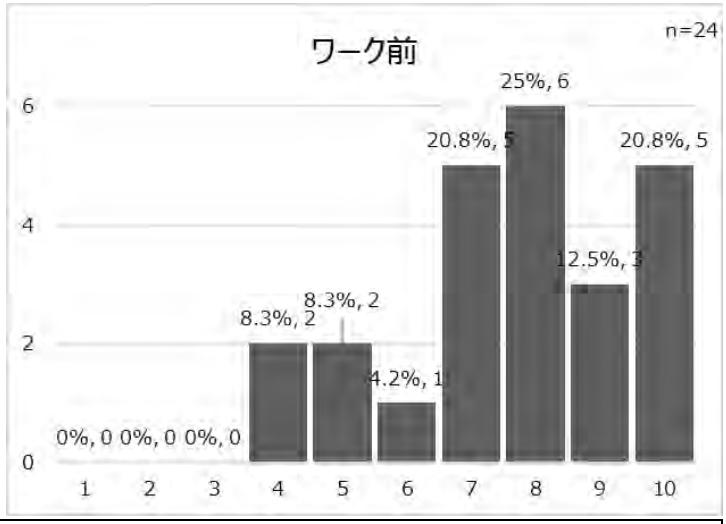
半数以上の学生は知識・スキルが身についている実感がある

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=24

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	2	8.3%
5	2	8.3%
6	1	4.2%
7	5	20.8%
8	6	25%
9	3	12.5%
10	5	20.8%
	24	100%

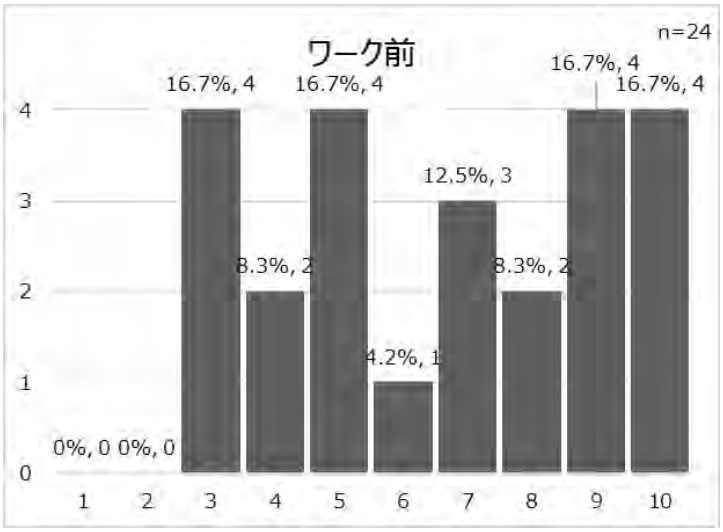


明確なイメージを持っていると思われる

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=24

評 価	回答数	割 合
1	0	0%
2	0	0%
3	4	16.7%
4	2	8.3%
5	4	16.7%
6	1	4.2%
7	3	12.5%
8	2	8.3%
9	4	16.7%
10	4	16.7%
	24	100%



個人差はあるが、全体的に複数の選択肢や候補を持っていると思われる

■【上記質問に関連】専門学校卒業後に就職できる業界・職種について、思いつく限り挙げてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

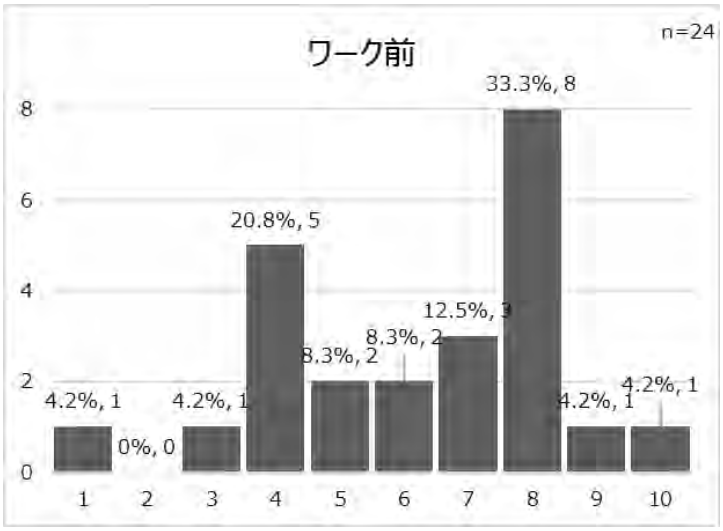
評 価	記 入 内 容
3	工務店、インテリアショップ、リフォーム、営業、販売、照明、リフォーム、ハウスメーカー、デベロッパー、不動産、インテリアコーディネーター、建築士、設計士
4	ハウスメーカー、不動産、リフォーム、ショールーム、デザイン事務所、オープンハウス
5	建築士、施工、積算、現場監督、内装設計、外装、リフォーム、インテリアコーディネーター、営業、塗装、照明コンサルタント、家具、リフォーム会社、空間デザイン、不動産
6	施工管理、大工技能士、鉄筋技能士、建築士、建築監督、設計士、営業販売、リフォームスタイリスト、インテリアコーディネーター
7	住宅の設計、手作りの仕事、設備、営業、設計、リフォーム、リノベーション、積算、意匠設計、販売
8	設計事務所、現場、Interior coordinator

９	リフォーム業界、ＣＡＤ、３Ｄ、設計事務所、インテリアコーディネーター、ＣＡＤオペレーター、インテリア
１０	インテリア、ハウスメーカー、商業施設士、リフォーム、施工管理、インテリアの販売、営業、インテリアコーデネッター、建築士、家具制作・販売、図面作成

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=24

評 価	回答数	割 合
1	1	4.2%
2	0	0%
3	1	4.2%
4	5	20.8%
5	2	8.3%
6	2	8.3%
7	3	12.5%
8	8	33.3%
9	1	4.2%
10	1	4.2%
	24	100%



やりたい仕事のイメージを持った学生が多い

■【上記質問に関連】あなたが将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など)、今考えていること・思いつくことを教えてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

評 価	記 入 内 容
1	わからない
3	インテリアコーディネーター、家具の販売
4	販売等だけでなく、自身のアイデアや発送が活かされる仕事がしたい、決まってない、ブライダル 装飾、ショールーム・接客、家具制作、リフォーム会社、空間デザイン
5	内装設計、デザイン、インテリアコーディネート、商業施設のインテリア、イ

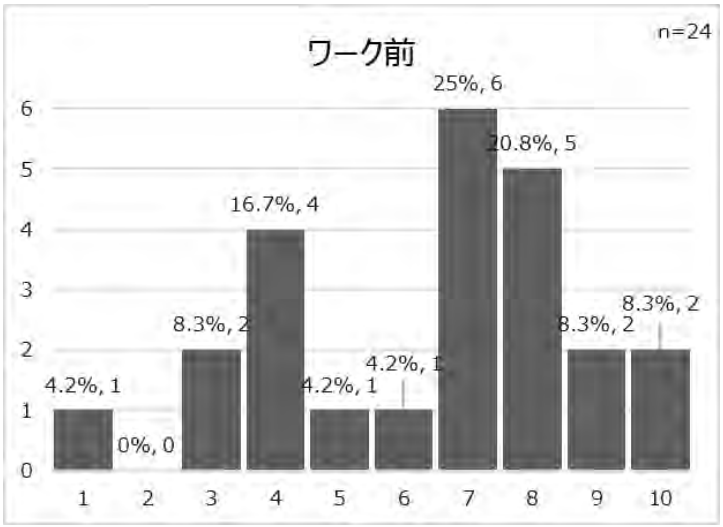
	ンテリアの販売
6	工事店の事務、経営・建築士として工事管理する、不動産やハウスメーカーで働く、設計・空間デザイン
7	設計・ＣＡＤ、Display、design
8	リフォーム、インテリア、設計デザイナー、Interior coordinator、インテリアデザインと家具を作ること、家具の制作・販売、インテリアデザイン、設計、営業
9	設計、施工、施工管理職、ハウスメーカーかゼネコン会社に入りたい、現場管理、建築設計
１０	施工管理技士、建築設計、施工管理、建築、現場監督、建築施工管理技士、個人ではなくチームとして現場で統率を取り最大限細部までこだわり信用される施工管理技士として活躍したい、建築業、建設業界に就職して現場監督になりたい、施工管理/財産や家族などを守り安心して暮らせるような建物を施工すること、施工管理で役に立ちたい、日本の設計事務所で働く、建築業界で施工管理職に就き、現場所長になる、設計、積算、施工

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=24

評 価	回答数	割 合
1	1	4.2%
2	0	0%
3	2	8.3%
4	4	16.7%
5	1	4.2%
6	1	4.2%
7	6	25%
8	5	20.8%
9	2	8.3%
10	2	8.3%
	24	100%

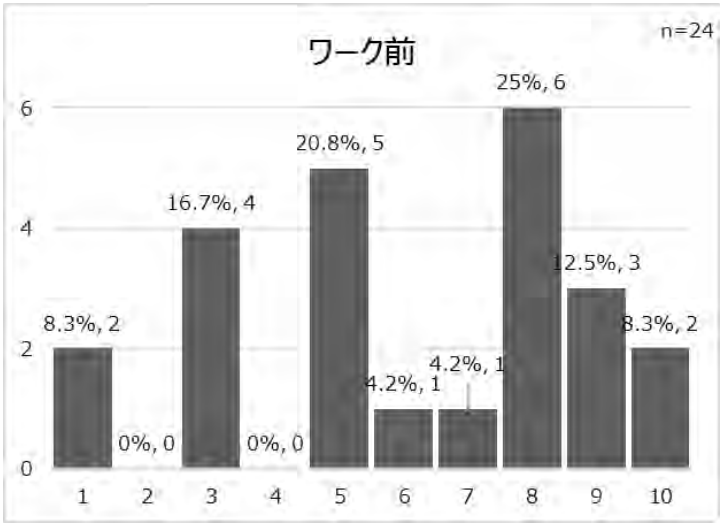


イメージは持っている

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=24

評　価	回答数	割　合
1	2	8.3%
2	0	0%
3	4	16.7%
4	0	0%
5	5	20.8%
6	1	4.2%
7	1	4.2%
8	6	25%
9	3	12.5%
10	2	8.3%
	24	100%

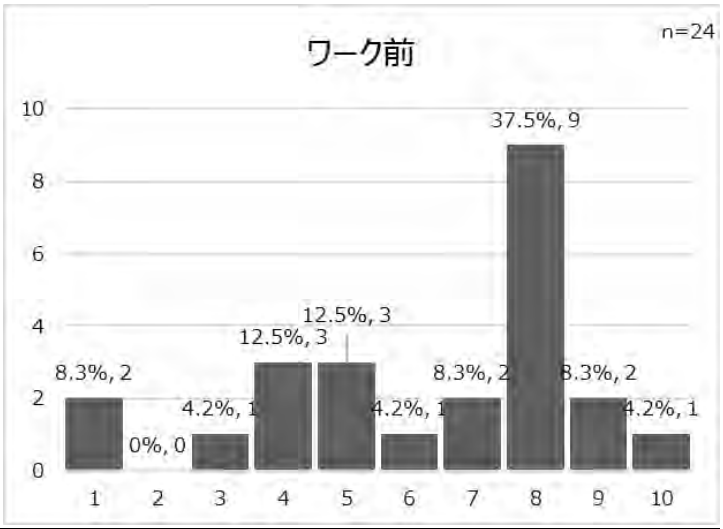


仕事のイメージを持っている学生が多いことがわかる

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=24

評　価	回答数	割　合
1	2	8.3%
2	0	0%
3	1	4.2%
4	3	12.5%
5	3	12.5%
6	1	4.2%
7	2	8.3%
8	9	37.5%
9	2	8.3%
10	1	4.2%
	24	100%



キャリアプランの考えは持っている

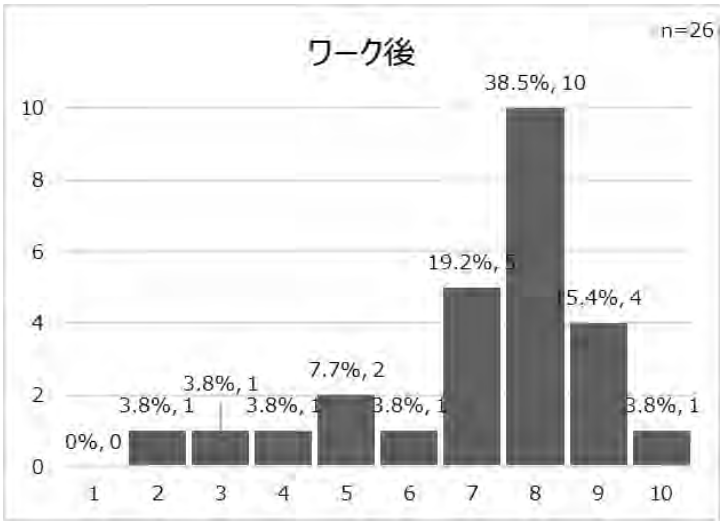
【ワーク後アンケート】

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=26

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	1	3.8%
3	1	3.8%
4	1	3.8%
5	2	7.7%
6	1	3.8%
7	5	19.2%
8	10	38.5%
9	4	15.4%
10	1	3.8%
	26	100%



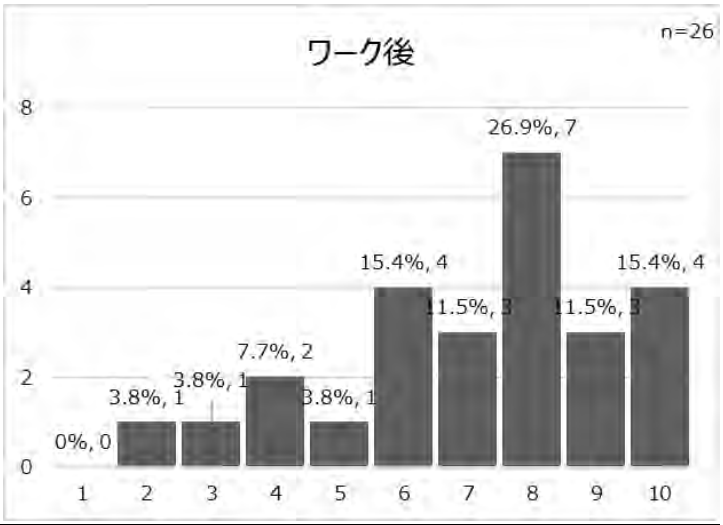
知識やスキルが身に付いている実感がある学生が多い

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=26

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	1	3.8%
3	1	3.8%
4	2	7.7%
5	1	3.8%
6	4	15.4%
7	3	11.5%
8	7	26.9%
9	3	11.5%
10	4	15.4%
	26	100%

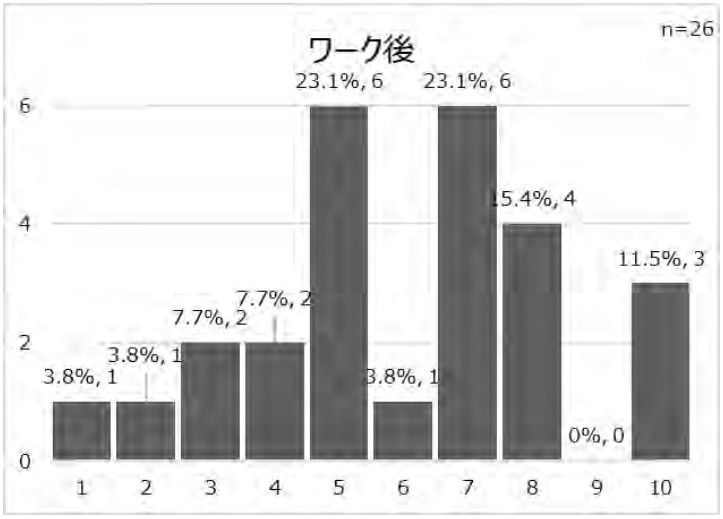


半数は将来にイメージができていると思われる

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=26

評 価	回答数	割 合
1	1	3.8%
2	1	3.8%
3	2	7.7%
4	2	7.7%
5	6	23.1%
6	1	3.8%
7	6	23.1%
8	4	15.4%
9	0	0%
10	3	11.5%
	26	100%



ある程度の数は持っているが、個人差があると思える

■【上記質問に関連】専門学校卒業後に就職できる業界・職種について、思いつく限り挙げてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

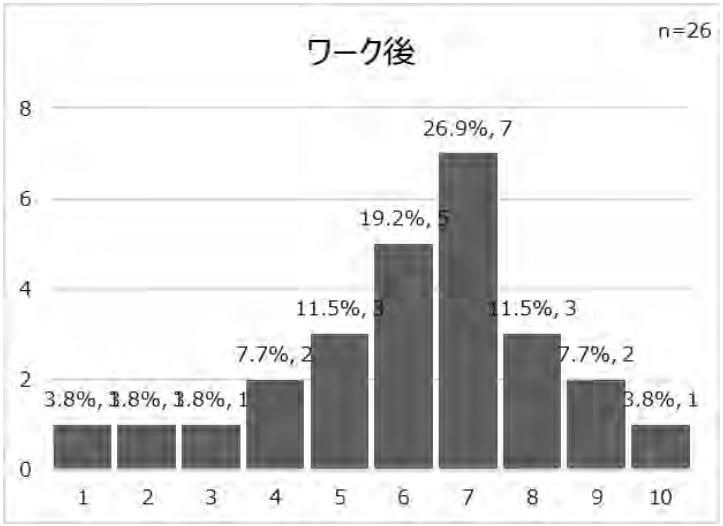
評 価	記 入 内 容
1	インテリアコーディネーター、建築士、ＣＡＤオペレーター、設計士
2	Ａｕｔｏ ｃａｄ
3	デベロッパー、不動産、インテリアコーディネーター、積算、ハウスメーカー、ゼネコン、リフォーム会社
4	インテリアコーディネーター、工務店、家具販売、ホームメーカー
5	営業、家具制作、リフォーム、設計、デザイン、デスプレと設計、リフォーム会社で空間デザイン、空間デザイン、ハウスメーカー
6	リフォーム
7	施工、施工管理、設計、現場監督
8	建築、家具制作、販売、インテリアコーディネート、インテリアデザイナー、図面作図、ＣＧ作成、販売営業、ＣＡＤオペレーター、設計事務所、ハウスメーカー、営業、設計、企画、建築士になって設計

１０	施工管理、土木、積算、販売、営業、リフォーム、リノベーション、意匠設計、ゼネコン、デザイン、内装、設計

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=26

評 価	回答数	割 合
1	1	3.8%
2	1	3.8%
3	1	3.8%
4	2	7.7%
5	3	11.5%
6	5	19.2%
7	7	26.9%
8	3	11.5%
9	2	7.7%
10	1	3.8%
	26	100%



ある程度具体的なイメージを持っている学生が多い

■【上記質問に関連】あなたが将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など)、今考えていること・思いつくことを教えてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

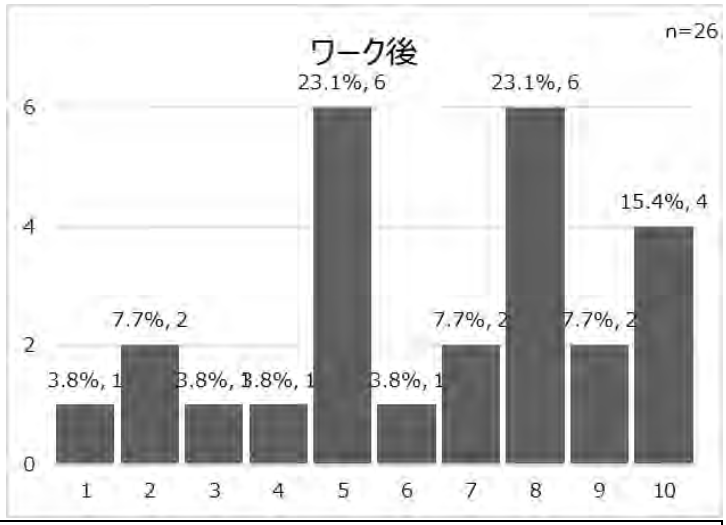
評 価	記 入 内 容
1	わからない
2	インテリアデザイン
3	家具販売、工務店
4	工事店の事務経営、不動産、ハウスメーカーの営業、リフォーム関係
5	営業、デスプレや設計などの会社、リフォーム会社で空間デザイン
6	リフォーム会社、ブライダルコーディネーター、家具制作、図面作図、設計と空間デザイン
7	家具関係、CG、設備、設計、住宅リフォーム、家具設備、販売、デザイン、商

	業施設、デザインしたい、何かを作りたい、営業、リフォーム営業、工事店の経営、現場管理
８	リフォーム、インテリアコーデネッター、設計、デザイン、空間デザイン、内装設計
９	リフォーム、リノベーション
１０	民泊、リフォーム

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=26

評　価	回答数	割　合
1	1	3.8%
2	2	7.7%
3	1	3.8%
4	1	3.8%
5	6	23.1%
6	1	3.8%
7	2	7.7%
8	6	23.1%
9	2	7.7%
10	4	15.4%
	26	100%

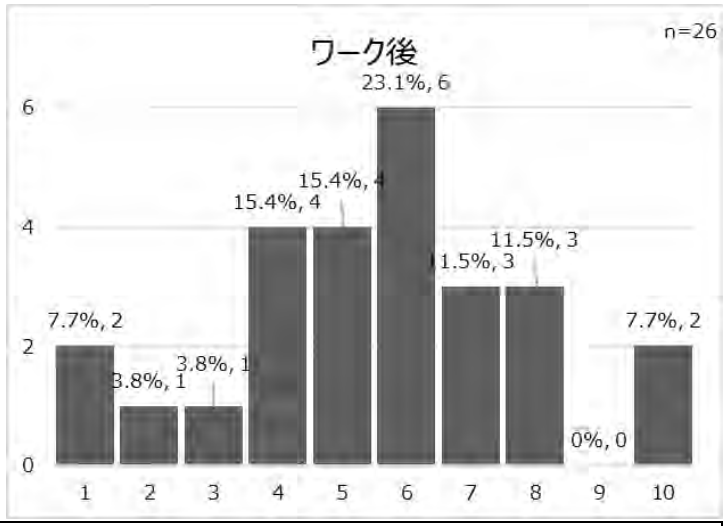


世に中に役立てるイメージはある程度もっている

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=26

評　価	回答数	割　合
1	2	7.7%
2	1	3.8%
3	1	3.8%
4	4	15.4%
5	4	15.4%
6	6	23.1%
7	3	11.5%
8	3	11.5%
9	0	0%
10	2	7.7%
	26	100%

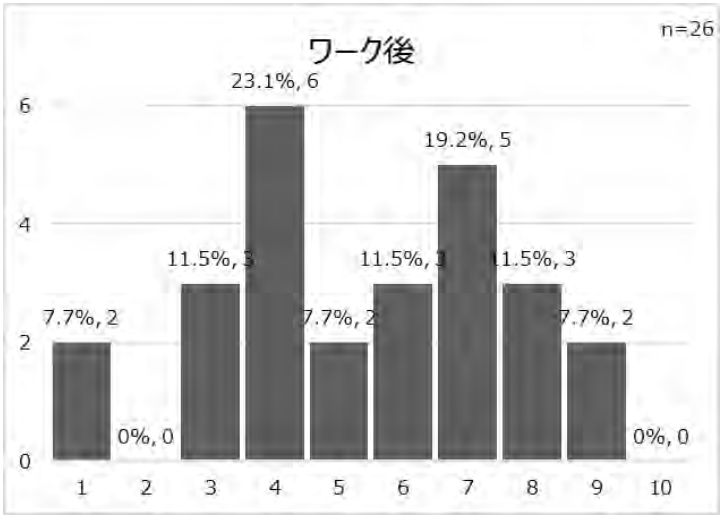


なんとなくイメージできる

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=26

評　価	回答数	割　合
1	2	7.7%
2	0	0%
3	3	11.5%
4	6	23.1%
5	2	7.7%
6	3	11.5%
7	5	19.2%
8	3	11.5%
9	2	7.7%
10	0	0%
	26	100%

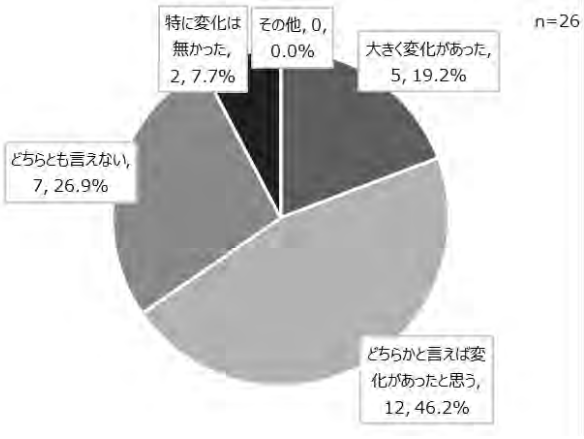


キャリアプランの考えは個人差はあるものの持っている

■今回のワークを通じて、なにか心境に変化はありましたか？

n=26

	回答数	割　合
大きく変化があった	5	19%
どちらかと言えば変化があったと思う	12	46%
どちらとも言えない	7	27%
特に変化は無かった	2	8%
その他	0	0%
	26	100%



■【上記質問に関連】どのように変化したかを具体的に教えてください

項　　目	記　　入　　内　　容
大きく変化があった	・分からないことが知ることになった ・思ったより簡単だ ・コミュニケーションの大切さ ・社会に出た時の根本的な部分に関しての成長ができたと感じた。まず自分がなにを目指しているのか、何をするべきなのかを見つめ直すこと ・コミュニケーションの大切さや行動に移す大切さを強く感じました
どちらかと言えば変化があったと思う	・就職に向けてやらなければならないことを考えるきっかけになった ・色んなことにチャレンジしてみようと思った ・自分の進路について考えられるようになった ・こんな仕事もいいなと沢山の事に興味を持てた ・将来自分が何するか思い付いた ・意匠設計という言葉はなんとなく聞いたことがあった程度だったが興味を持つようになった ・ＳＨＵＫＥＮさんがかなり良かったなと思いました ・考えること増えた ・インテリアの業界の種類の幅が大きくなった ・人との交流が大切だと感じた
どちらとも言えない	・仕事ってどんなものがあるのかちょっとはわかってきた気が

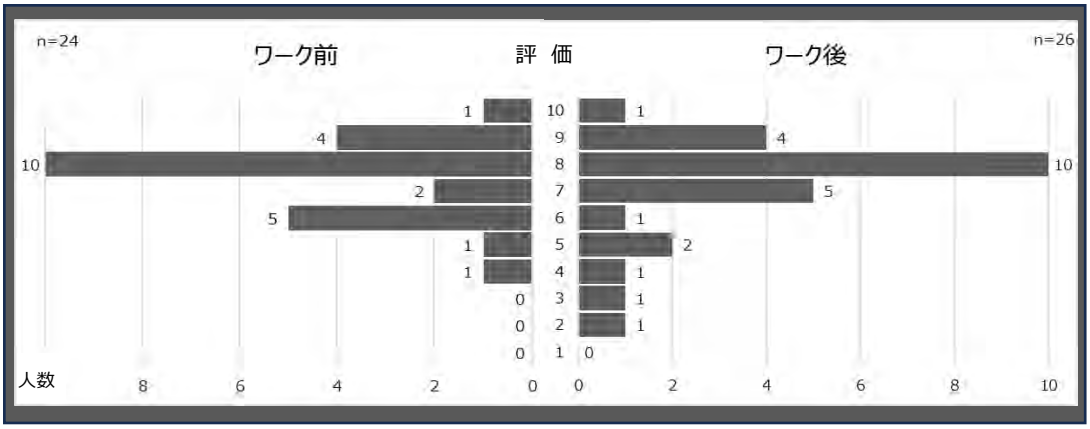
	する ・そんな仕事もあるのかと思ったけど、実際に自分がそういう仕事に就いてしっかり仕事をやって行けるのか全く想像が出来なかった

■その他ご意見やご感想、気づいたことがあれば自由に記述してください

・知らなかった職種を知る機会になってうれしい
・貴重な体験ができました。参加してよかったです

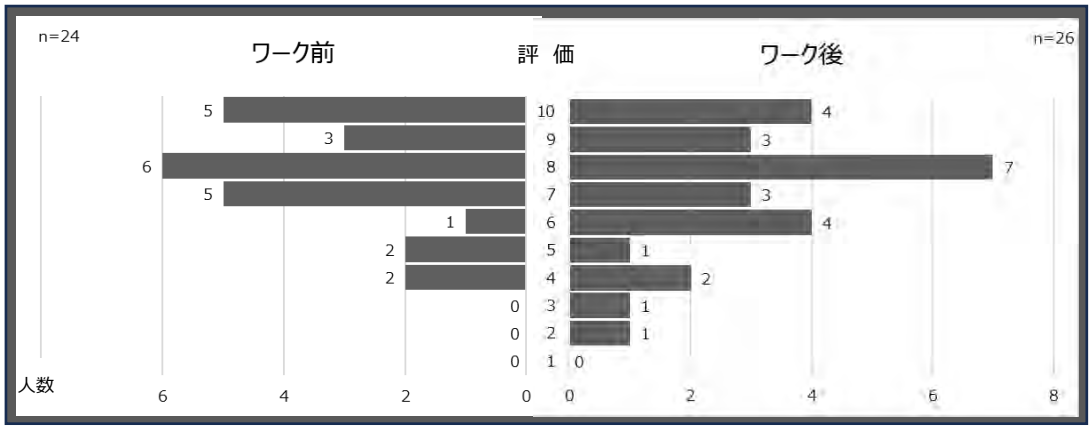
②ワーク前後アンケート対比

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある（１０段階評価/最高点を１０点とする）



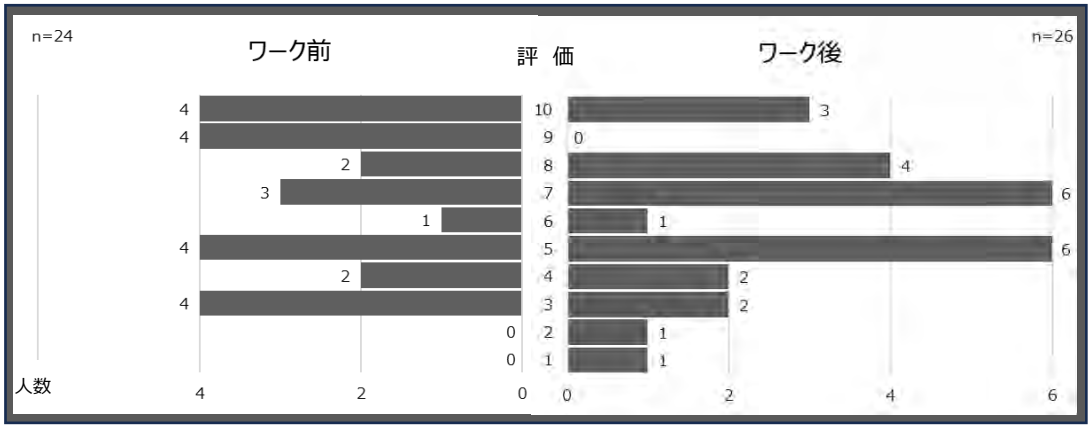
評価７以上で比較：
・ワーク前１７人（評価７（２）・８（１０）・９（４）・１０（１））
・ワーク後２０人（評価７（５）・８（１８）・９（４）・１０（１））
ワーク後、評価は上がった

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



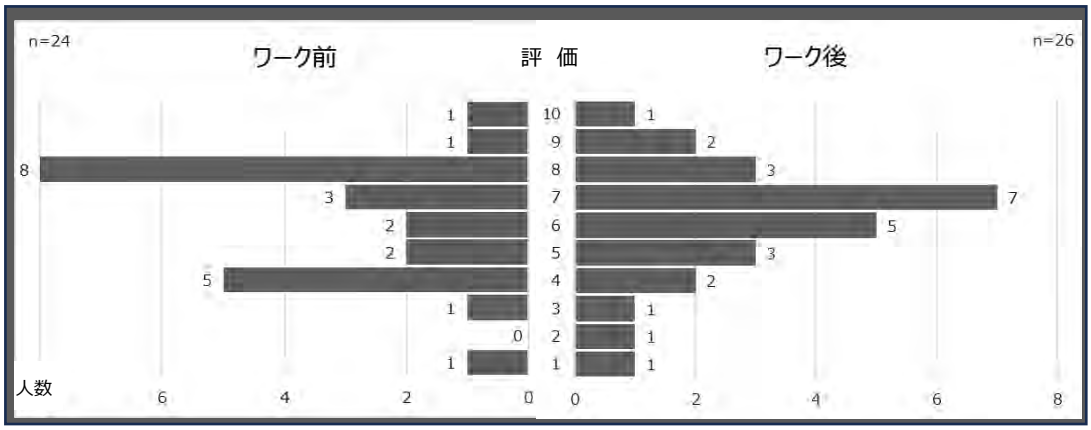
評価７以上で比較：
・ワーク前１９人（評価７（５）・８（６）・９（３）・１０（５））
・ワーク後１７人（評価７（３）・８（７）・９（３）・１０（４））
ワーク後、評価は下がった

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



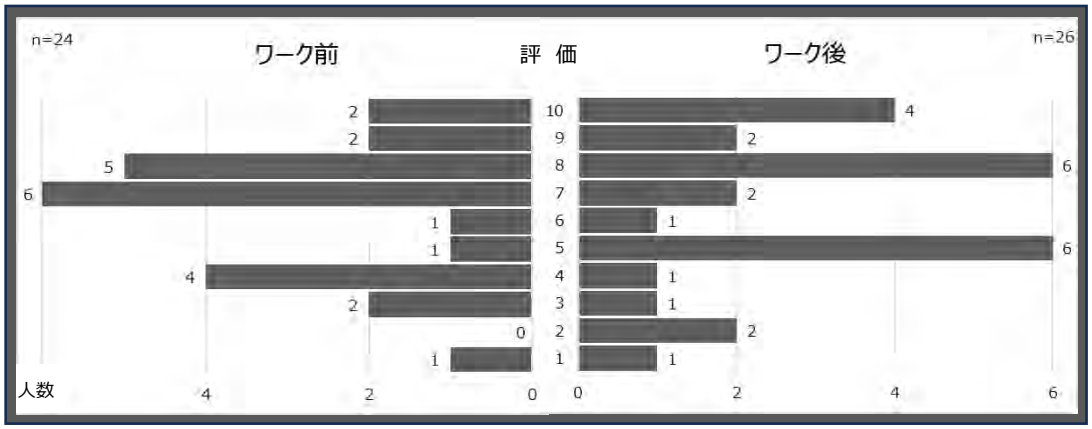
評価７以上で比較：
・ワーク前１３人（評価７（３）・８（２）・９（４）・１０（４））
・ワーク後１３人（評価７（６）・８（４）・９（０）・１０（３））
ワーク後、人数は同数だが、高評価部分を比較すると下がった

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



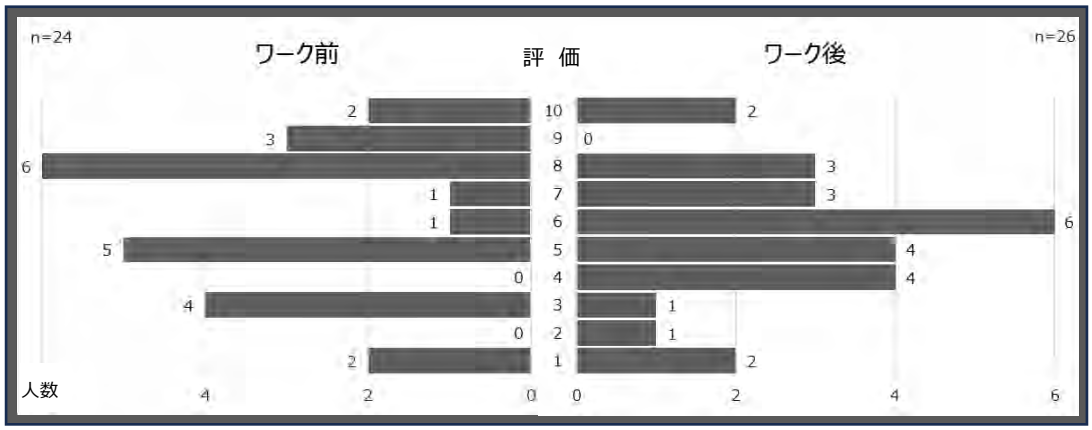
評価７以上で比較：
・ワーク前１３人（評価７（３）・８（８）・９（１）・１０（１））
・ワーク後１３人（評価７（７）・８（３）・９（２）・１０（１））
ワーク後、人数は同数であるが、高評価部分を比較すると下がった

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



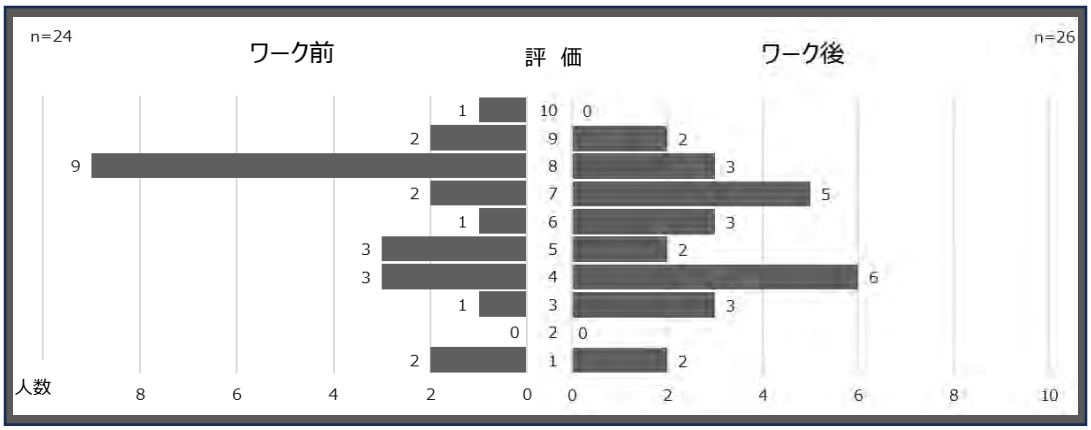
評価７以上で比較：
・ワーク前１５人（評価７（６）・８（５）・９（２）・１０（２））
・ワーク後１４人（評価７（２）・８（６）・９（２）・１０（４））
ワーク後、評価は人数では下がったが、高評価部分は上がった

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



評価７以上で比較：
・ワーク前１２人（評価７（１）・８（６）・９（３）・１０（２））
・ワーク後８人（評価７（３）・８（３）・９（０）・１０（２））
ワーク後、評価は下がった

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



評価７以上で比較：
・ワーク前１４人（評価７（２）・８（９）・９（２）・１０（１））
・ワーク後１０人（評価７（５）・８（３）・９（２）・１０（０））
ワーク後、評価は下がった

（４）情報（ＩＴ／ＩｏＴ）分野

①アンケート回答：専門学校東京テクニカルカレッジ　１年生　２８名

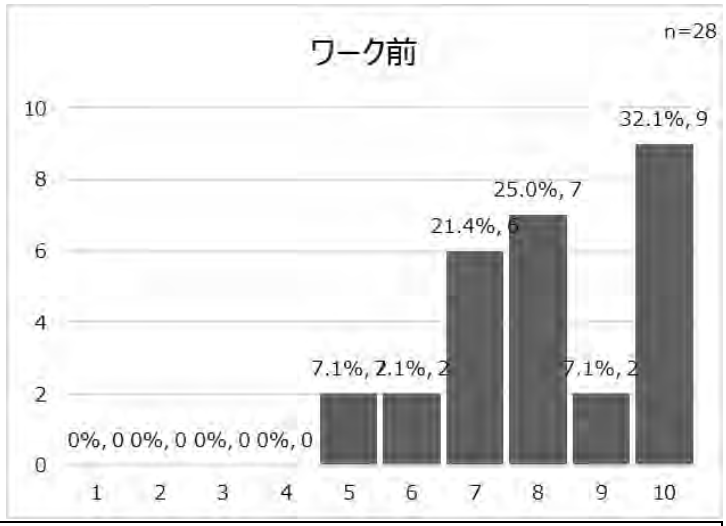
【ワーク前アンケート】

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=28

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	2	7.1%
6	2	7.1%
7	6	21.4%
8	7	25.0%
9	2	7.1%
10	9	32.1%
	28	100%



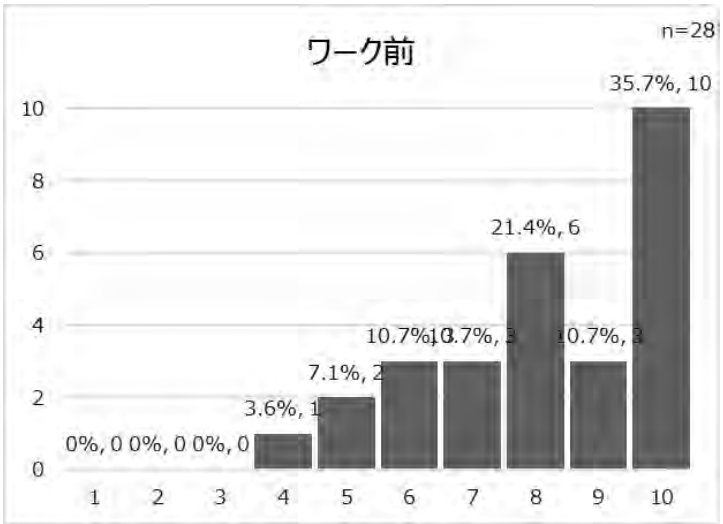
知識・スキルが身についている実感がある

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=28

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	3.6%
5	2	7.1%
6	3	10.7%
7	3	10.7%
8	6	21.4%
9	3	10.7%
10	10	35.7%
	28	100%

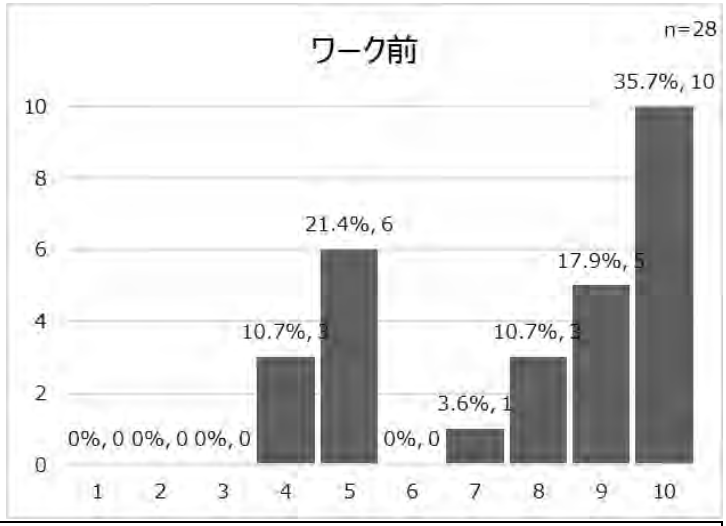


明確なイメージを持っている

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=28

評 価	回答数	割 合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	3	10.7%
5	6	21.4%
6	0	0%
7	1	3.6%
8	3	10.7%
9	5	17.9%
10	10	35.7%
	28	100%



個人的な差はあるが、複数の選択肢や候補を持っている

■【上記質問に関連】専門学校卒業後に就職できる業界・職種について、思いつく限り挙げてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

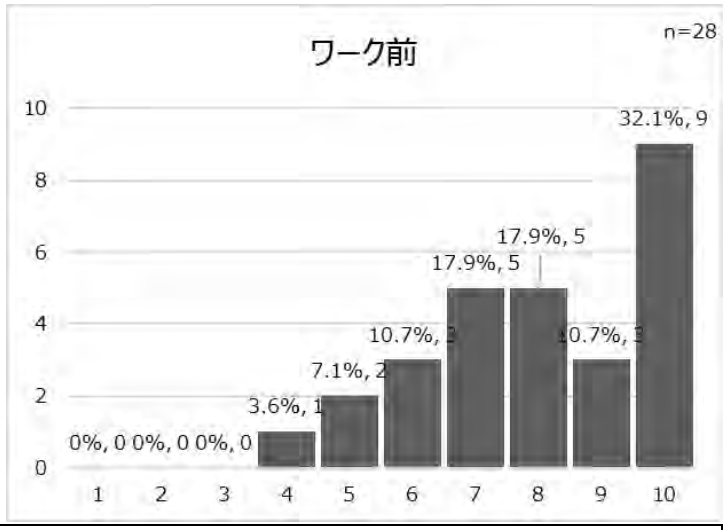
評 価	記 入 内 容
3	IoT エンジニア、ソフトウェア、ハードウェア業界、プログラマー、システムエンジニア
5	softbank、yaskawa Electric（安川電機）、IT、IoT engineer、programmer、AI エンジニア、IoT エンジニア
7	IoT ロボット開発、組み込みシステムエンジニア、プログラマー（C 言語）、AI 技術者
8	IoT デバイスエンジニア、IoT クラウド開発、スマートホームエンジニア、IoT エンジニア、AI エンジニア、自動車メーカーの IoT・IT 部門
9	IoT エンジニア、ソフトウェア開発者、バックエンド開発者、IT エンジニア、プログラマー、介護福祉士、保育士、ホテル・観光スタッフ、調理師・パティシエ、自動車整備士、建築・ＣＡＤオペレーター、電気工事士、医療事務、販売スタッフ、事務職（総務・経理）、IoT AI Engineer、System engineer 、IoT Security Engineer、IoT programmer、AI や センサー会社にもっと働きたい

１０	IT、IoT、AI、Web Development、software Development、IT エンジニア、IoT engineer、software engineer、programmer、自動車、家電、ES サイト、私は現在、今そして将来において最も多くの人材が求められている分野を学んでいます。担任の先生は常に厳しく現実について語ってくださり、それが私に大きな励みとなり、自分の未来に何が起こるのかを見通すことができました。特に、IoT に関連する仕事は非常に幅広く、自動車、ロボット、生活の中のさまざまな機器など、多岐にわたります。そしてそれらは、将来私が携わることのできる仕事でもあります、software engineer、IT 業界は変化が速く、新しい技術が次々と生まれるため、常に学び続けながら自分の技術力を高め、「使いやすく、安全で、誰にとっても便利なシステム」を実現できるエンジニアになりたいと思っています、組み込みエンジンニア、Backend Engineer、プログラマー、カメラ、編集

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=28

評 価	回答数	割 合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	3.6%
5	2	7.1%
6	3	10.7%
7	5	17.9%
8	5	17.9%
9	3	10.7%
10	9	32.1%
	28	100%



やりたい仕事のイメージを持った学生が多い

■【上記質問に関連】あなたが将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など)、今考えていること・思いつくことを教えてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

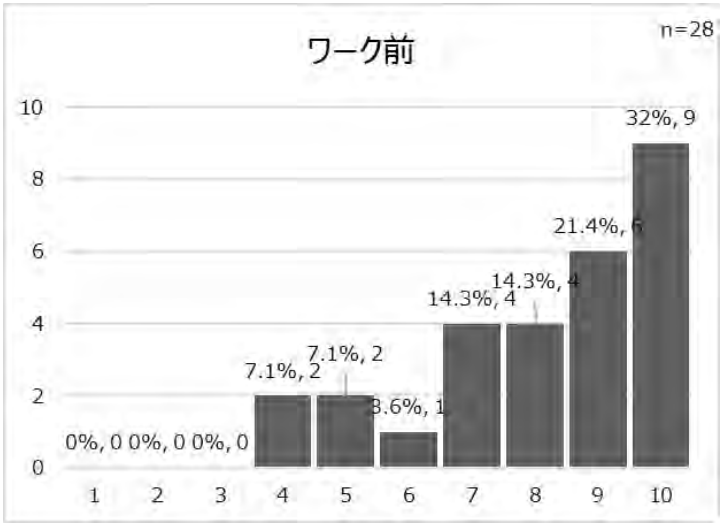
評　価	記　入　内　容
4	System Engineer
5	IoT 開発に関わる仕事、生活が豊かになる便利になるものの開発
6	AI エンジニア、IT エンジニア、プログラマー、IoT 開発
7	robot とか車に関係ある環境で働きたい、AI の技術を使い地域活性化国内の豊かさを目指したい、AI についての研究活用開発をしたい、IT、ソフトウェア開発、基本 AI エンジニアとして働いて、意外にソフトウェア開発者の仕事したい
8	バックエンド開発者、IoT エンジニア、software engineer、programmer、自動車メーカーや製造業で、IoT システムの開発・保守に関わりたい、IoT と AI を使って「身の回りの問題を自動化する」技術者になりたい、日本国内の IT インフラを改善したい。デジタル赤字を解消したい
9	IoT ロボット開発、programmer、software hardware、IoT+AI 使う会社に入りたい
１０	AI、IT、IoT・AI か IT フルドの会社で働きたい、ロボット開発、自動車関連技術、多言語対応システム、ユーザーフレンドリーな製品設計、スタートアップ経営、国際市場展開、IoT engineer、programmer、software engineer、技術と生活の融合、私は将来、IT エンジニアとしてシステム開発の現場で活躍できる仕事に就きたいと考えています。特に、人々の生活を便利にしたり、業務の効率化に貢献できるサービスやアプリケーションを開発することに興味があります、自分の会社をいつか作りたい、システム開発エンジニア

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=28

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	2	7.1%
5	2	7.1%
6	1	3.6%
7	4	14.3%
8	4	14.3%
9	6	21.4%
10	9	32%
	28	100%



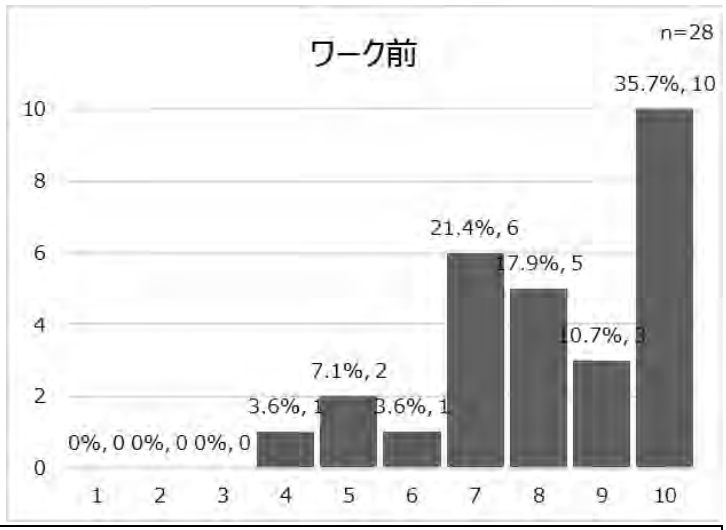
世の中に役立つことをしたいという想いを持った学生が多い

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=28

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	3.6%
5	2	7.1%
6	1	3.6%
7	6	21.4%
8	5	17.9%
9	3	10.7%
10	10	35.7%
	28	100%

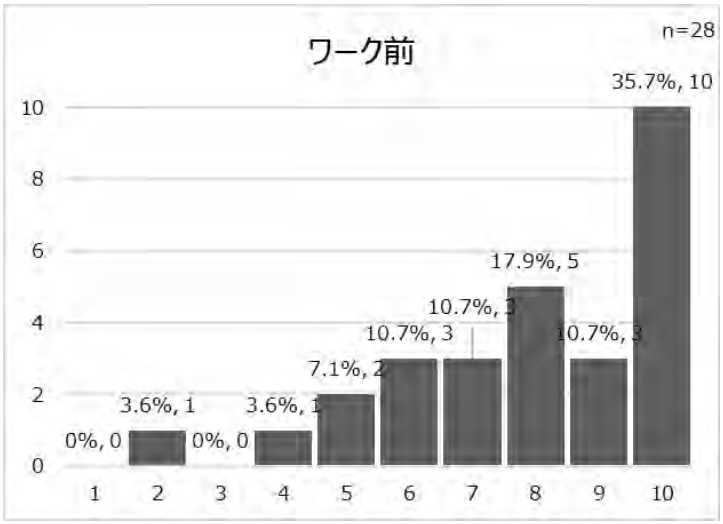


仕事のイメージを持っている学生が多い

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=28

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	1	3.6%
3	0	0%
4	1	3.6%
5	2	7.1%
6	3	10.7%
7	3	10.7%
8	5	17.9%
9	3	10.7%
10	10	35.7%
	28	100%



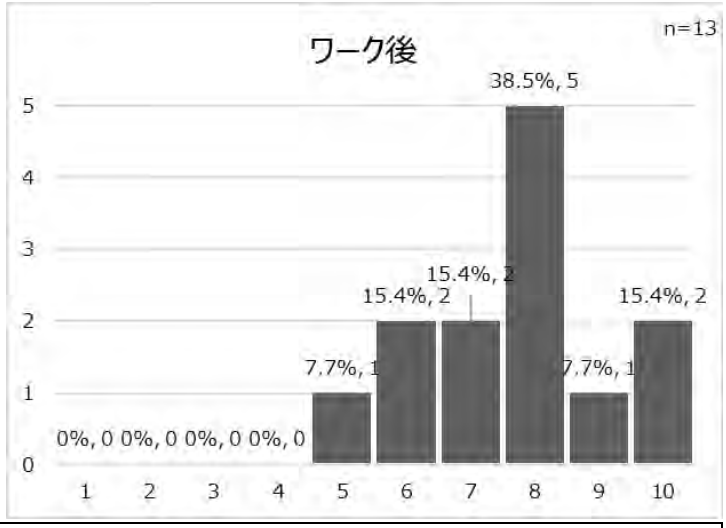
キャリアプランの考えは持っている

【ワーク後アンケート】

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=13

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	1	7.7%
6	2	15.4%
7	2	15.4%
8	5	38.5%
9	1	7.7%
10	2	15.4%
	13	100%

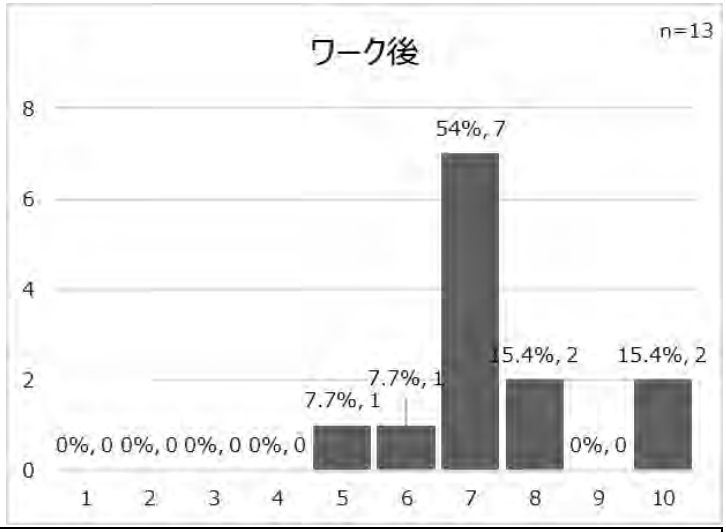


知識やスキルが身に付いている実感がある学生が多い

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=13

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	1	7.7%
6	1	7.7%
7	7	54%
8	2	15.4%
9	0	0%
10	2	15.4%
	13	100%

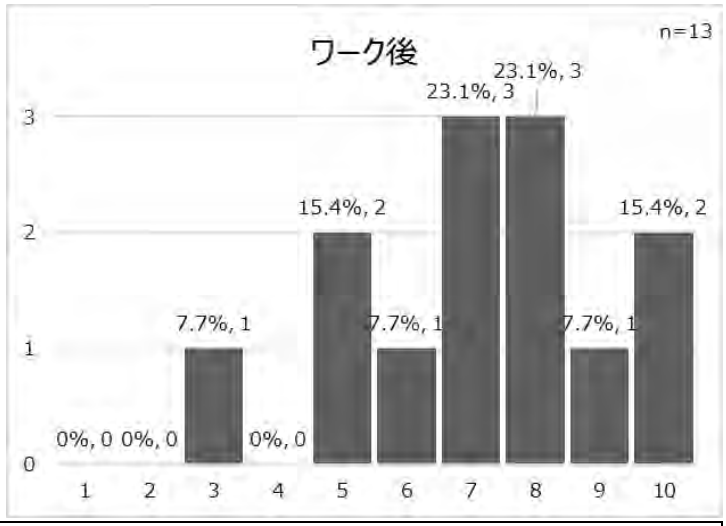


将来につながるイメージを持っている

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=13

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	1	7.7%
4	0	0%
5	2	15.4%
6	1	7.7%
7	3	23.1%
8	3	23.1%
9	1	7.7%
10	2	15.4%
	13	100%



就職する業界・職種の選択肢・候補は複数持っている

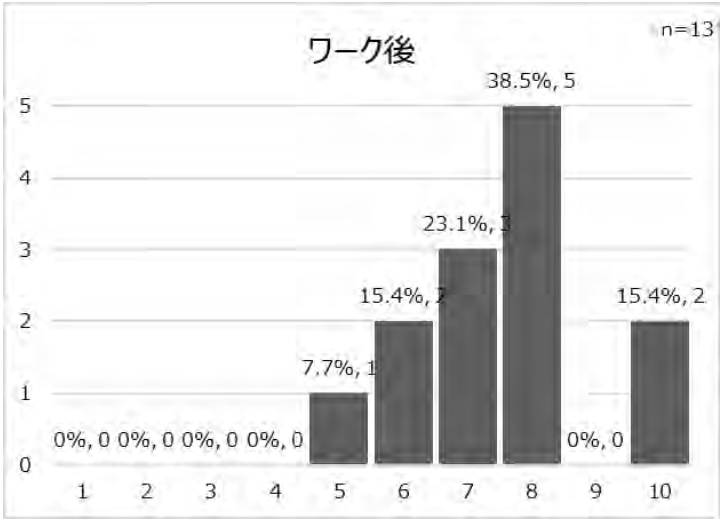
■【上記質問に関連】専門学校卒業後に就職できる業界・職種について、思いつく限り挙げてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

評　価	記　　入　　内　　容
3	IT
5	Programmer、Automotive electronics、Microcontroller programmer、FRONTEND DEV、BACKEND DEV
6	IT 企業、IoT 企業
7	AI、web、Programming、IT エンジニア、AI エンジニア、IoT エンジニア
8	IT エンジニア、組み込みソフトウェア系、ハードウェア系、IoT エンジニア
9	AI エンジニア、インフラ、研究、Web マーケティング
１０	AI 開発業界、スマートホーム・スマートデバイス業界、ロボット開発メーカー、IoT engineer, software engineer, programmer

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=13

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	1	7.7%
6	2	15.4%
7	3	23.1%
8	5	38.5%
9	0	0%
10	2	15.4%
	13	100%



ある程度具体的なイメージを持っている学生が多い

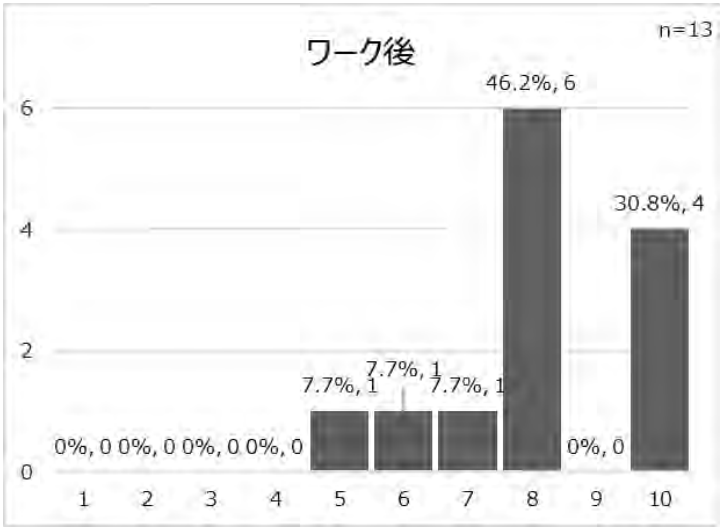
■【上記質問に関連】あなたが将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など)、今考えていること・思いつくことを教えてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

評　価	記　入　内　容
5	IT
6	Web サービス、ロボット開発、IT エンジニアとしてプログラマーの仕事したい
7	Web application development、software engineer、cloud、IT 業界、組み込みソフトウェア的な要素をやりたい
8	災害などの観点から AI や IT でアプローチできること。AI の研究や日本産の AI を開発してみたい、programmer、IoT engineer、software engineer、IoT デバイス開発、自動化システム、IT の地域落差を小さくしたい
１０	AI 開発業界、スマートホーム・スマートデバイス業界、ロボット開発メーカー、BACKEND DEV

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=13

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	1	7.7%
6	1	7.7%
7	1	7.7%
8	6	46.2%
9	0	0%
10	4	30.8%
	13	100%

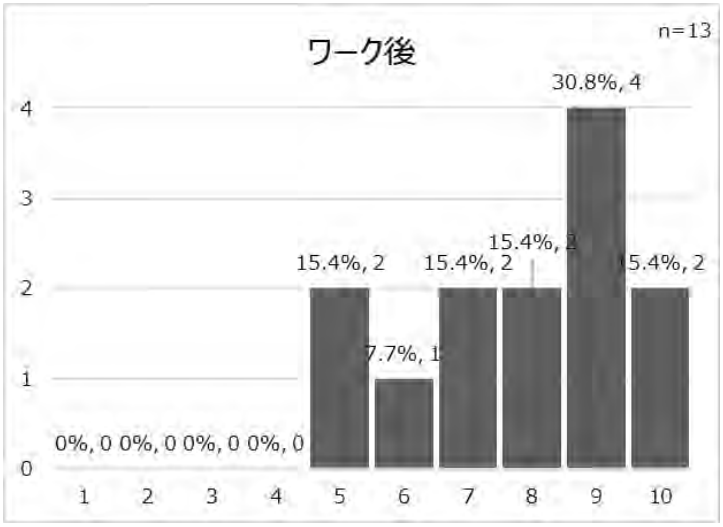


世に中の役に立つイメージを持っている

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=13

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	2	15.4%
6	1	7.7%
7	2	15.4%
8	2	15.4%
9	4	30.8%
10	2	15.4%
	13	100%

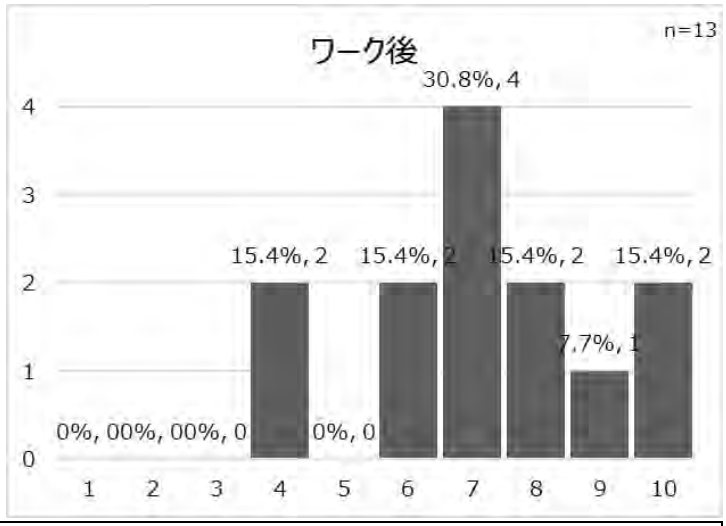


働いている姿のイメージは持っている

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=13

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	2	15.4%
5	0	0%
6	2	15.4%
7	4	30.8%
8	2	15.4%
9	1	7.7%
10	2	15.4%
	13	100%

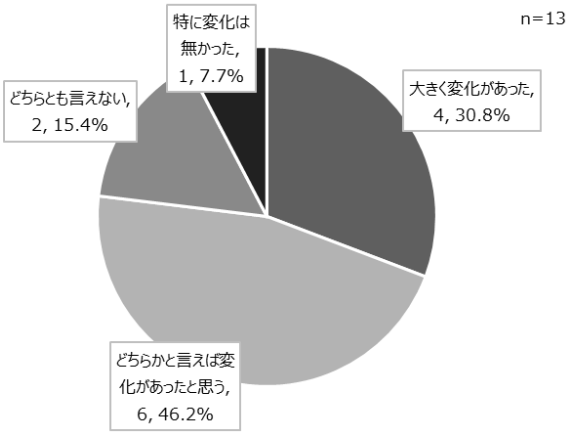


キャリアプランの考えは持っている

■今回のワークを通じて、なにか心境に変化はありましたか？

n=13

	回答数	割　合
大きく変化があった	4	31%
どちらかと言えば変化があったと思う	6	46%
どちらとも言えない	2	15%
特に変化は無かった	1	8%
その他	0	0%
	13	100%



■【上記質問に関連】どのように変化したかを具体的に教えてください

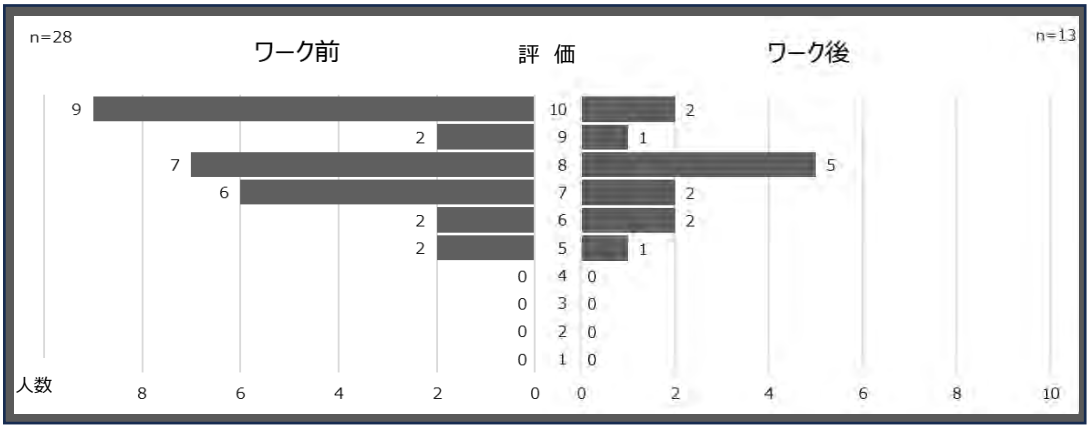
項　　目	記　　入　　内　　容
大きく変化があった	・色々な新しいＩＴ関係のことを見て勉強したらできる事いっぱいありますからもっと頑張ってできるようになります ・将来の方向性がより明確になり、IT エンジニアとしてどんなスキルを伸ばしたいかイメージできるようになりました
どちらかと言えば変化があったと思う	・ＩｏＴとＡＩは特にインフラやデータ分析に特化しているように感じていましたが、チームラボのような体験型のＩｏＴ技術も面白いと思いました。芸術にテクノロジーを導入するというのは、まだまだ発展できると思いました ・将来の職業イメージが少し明確になった ・技術力に期待を寄せるようになった、 ・自分が学んでいる内容がどんな仕事につながるのか、よりイメージしやすくなった。将来の仕事の方向性（ＩｏＴ × データ活用）を以前より明確に考えられるようになった

■その他ご意見やご感想、気づいたことがあれば自由に記述してください

・IoT　未来　明るい
・将来について考える良いきっかけになりました。勉強を続けてスキルを伸ばしたいです
・実際の現場やプロジェクトの説明がとても参考になった。今後も企業見学やワークがあれば参加したい。技術を学ぶモチベーションが上がった

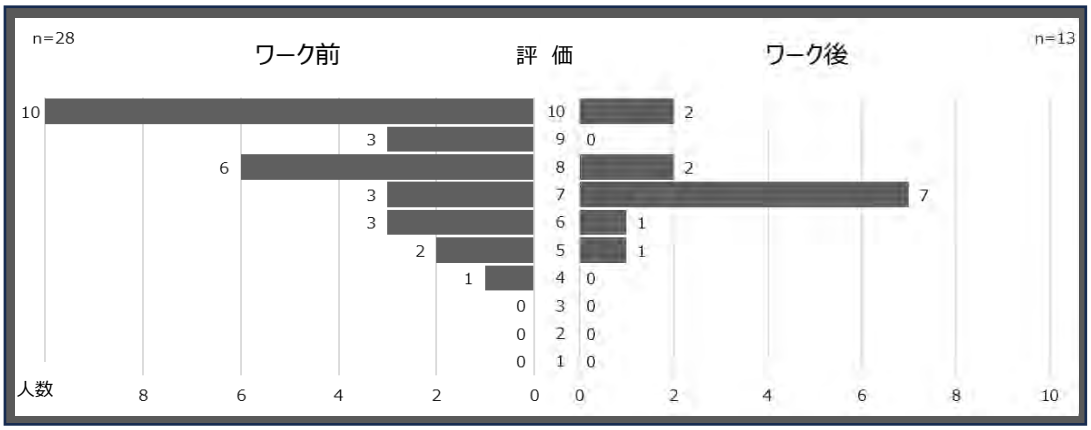
②ワーク前後アンケート対比

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



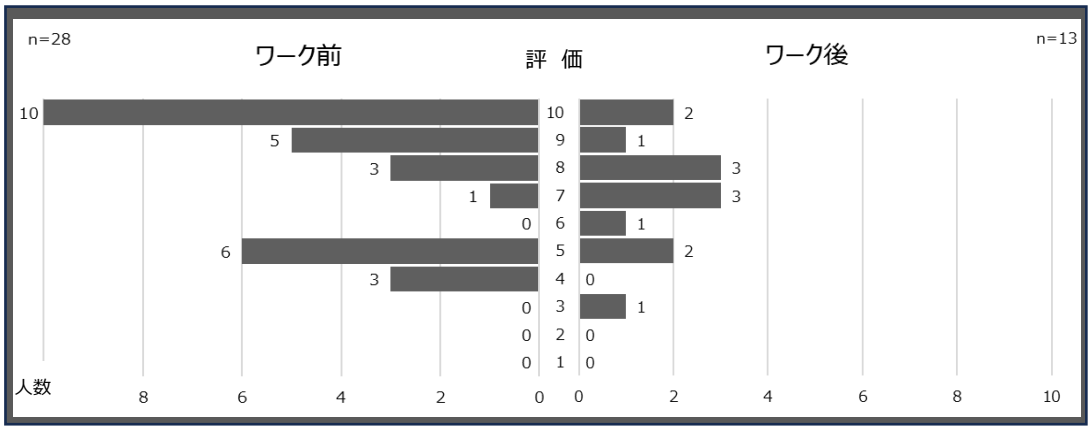
評価７以上で比較：
・ワーク前２４人（評価７（６）・８（７）・９（２）・１０（９））
・ワーク後１０人（評価７（２）・８（５）・９（１）・１０（２））
人数では比較が難しいため割合で比較すると、ワーク後約８．８％評価は下がった

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



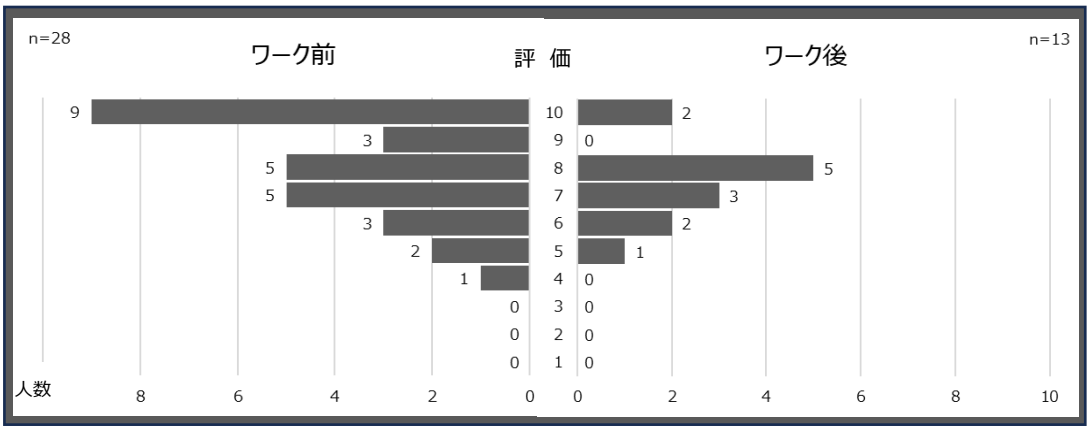
評価７以上で比較：
・ワーク前２２人（評価７（３）・８（６）・９（３）・１０（１０））
・ワーク後１１人（評価７（７）・８（２）・９（０）・１０（２））
人数では比較が難しいため割合で比較すると、ワーク後約６％評価は上がった

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



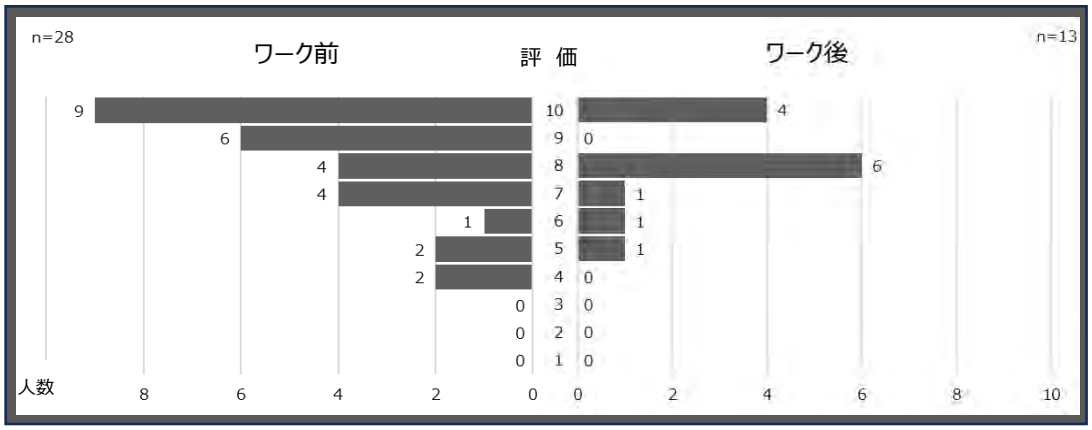
評価７以上で比較：
・ワーク前１９人（評価７（１）・８（３）・９（５）・１０（１０））
・ワーク後９人（評価７（３）・８（３）・９（１）・１０（２））
人数では比較が難しいため割合で比較すると、ワーク後約１．３%評価は上がった

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



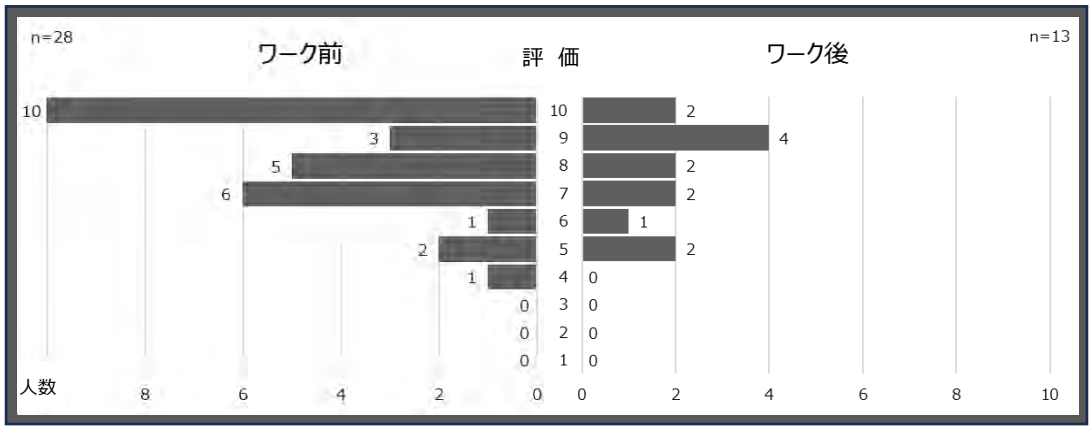
評価７以上で比較：
・ワーク前２２人（評価７（５）・８（５）・９（３）・１０（９））
・ワーク後１０人（評価７（３）・８（５）・９（０）・１０（２））
人数では比較が難しいため割合で比較すると、ワーク後約１．７%評価は下がった

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



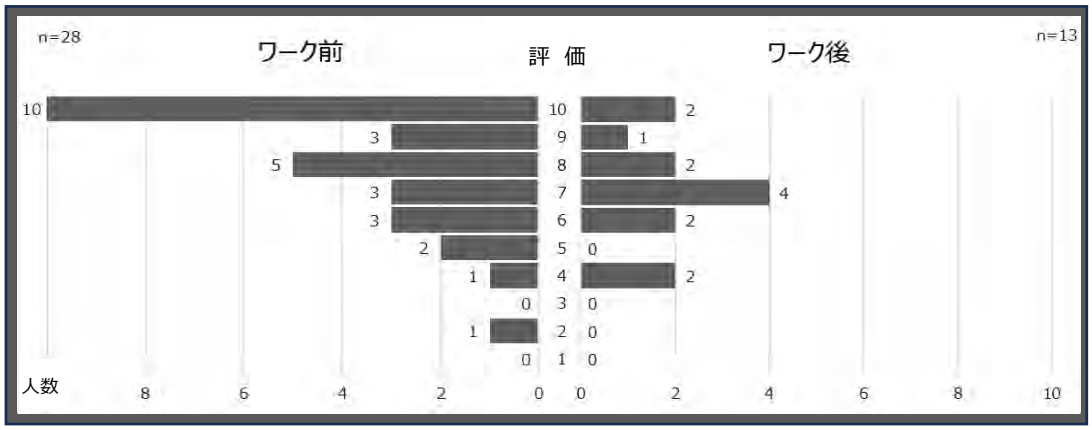
評価７以上で比較：
・ワーク前２３人（評価７（４）・８（４）・９（６）・１０（９））
・ワーク後１１人（評価７（１）・８（６）・９（０）・１０（４））
人数では比較が難しいため割合で比較すると、ワーク後約２．５％評価は上がった

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



評価７以上で比較：
・ワーク前２４人（評価７（６）・８（５）・９（３）・１０（１０））
・ワーク後１０人（評価７（２）・８（２）・９（４）・１０（２））
人数では比較が難しいため割合で比較すると、ワーク後約８．８％評価は下がった

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

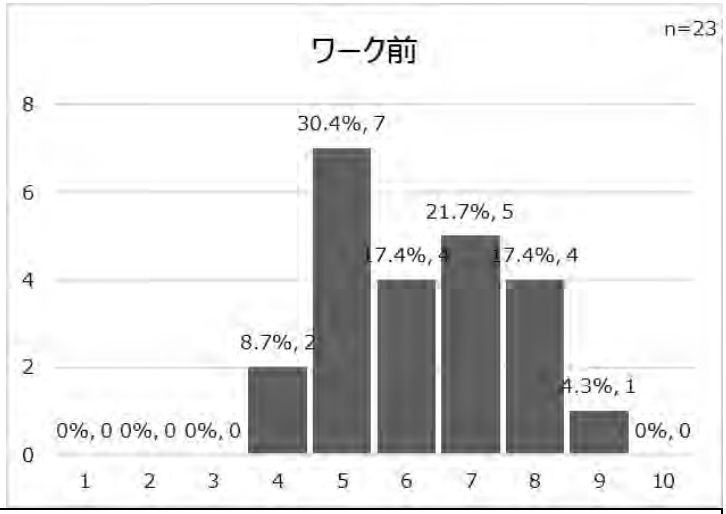


評価７以上で比較：
・ワーク前２１人（評価７（３）・８（５）・９（３）・１０（１０））
・ワーク後９人（評価７（４）・８（２）・９（１）・１０（２））
人数では比較が難しいため割合で比較すると、ワーク後約５．８％評価は下がった

（５）ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）分野
①アンケート回答：専門学校東京テクニカルカレッジ　１年生　２８名
【ワーク前アンケート】
■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=23

評 価	回答数	割 合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	2	8.7%
5	7	30.4%
6	4	17.4%
7	5	21.7%
8	4	17.4%
9	1	4.3%
10	0	0%
	23	100%

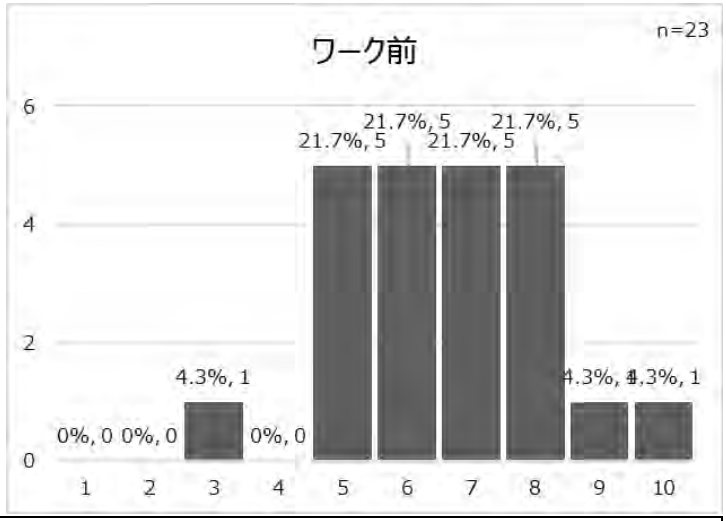


実感できている

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=23

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	1	4.3%
4	0	0%
5	5	21.7%
6	5	21.7%
7	5	21.7%
8	5	21.7%
9	1	4.3%
10	1	4.3%
	23	100%

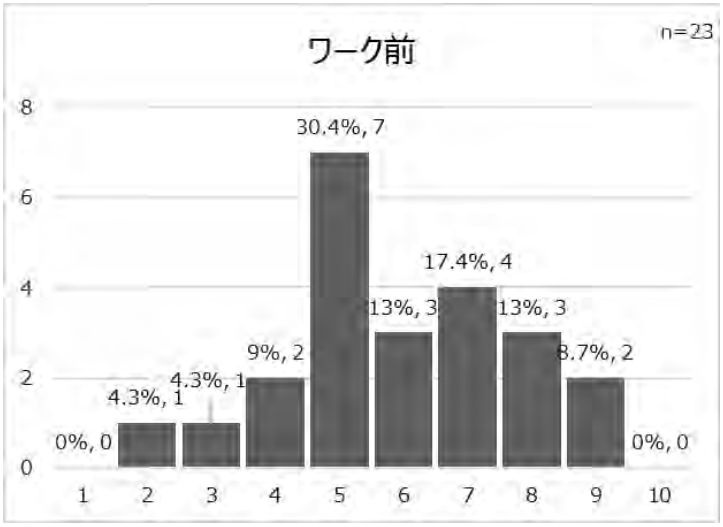


イメージは持っている

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=23

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	1	4.3%
3	1	4.3%
4	2	9%
5	7	30.4%
6	3	13%
7	4	17.4%
8	3	13%
9	2	8.7%
10	0	0%
	23	100%



複数持っている

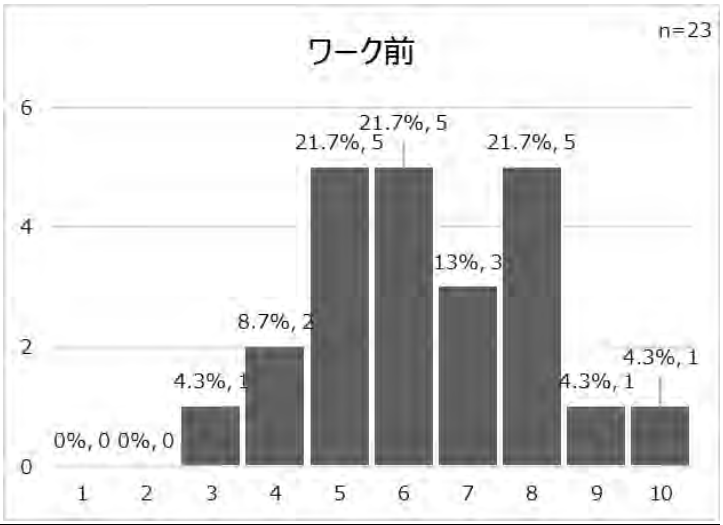
■【上記質問に関連】専門学校卒業後に就職できる業界・職種について、思いつく限り挙げてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

評　価	記　入　内　容
2	金融
3	IT・情報、自動車・モビリティ、観光・ホテル・エアライン
4	データサイエンティスト、データアナリスト、デジタルマーケター、data engineer
5	ビジネス、システムエンジニア、介護テック、詐欺対策領域、データサイエンティスト、データベースエンジニア、Amazon、Data analyst
6	IT 業界、通信業界、金融業界、製造業、教育業界、観光業界、小売業、UX UI design、data scientist、データサイエンス
7	サッカー環境、スポーツ系、ＩＴ、Ｗｅｂ制作、ソフトウェア開発
8	クラウドエンジニア、データサイエンティスト、AI エンジニア・機械学習エンジニア、ゲーム、医療、観光、ビジネス、教育、電子会社
9	Data analyst、project manager、data scientist

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=23

評 価	回答数	割 合
1	0	0%
2	0	0%
3	1	4.3%
4	2	8.7%
5	5	21.7%
6	5	21.7%
7	3	13%
8	5	21.7%
9	1	4.3%
10	1	4.3%
	23	100%



やりたい仕事のイメージを持っている学生が多い

■【上記質問に関連】あなたが将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）、今考えていること・思いつくことを教えてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

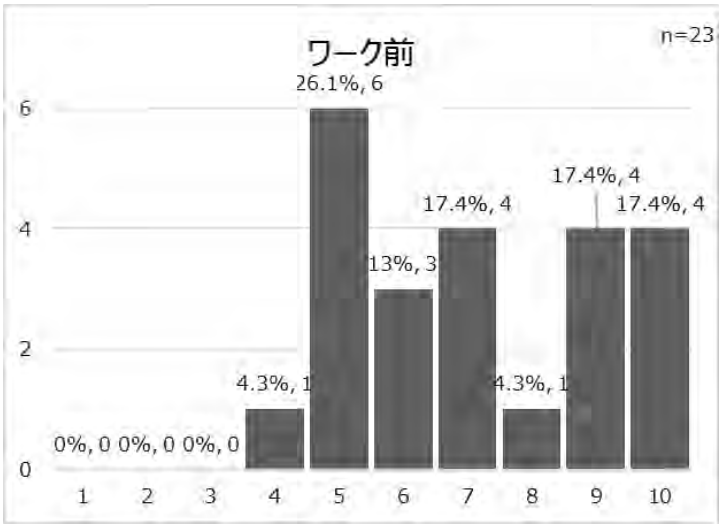
評 価	記 入 内 容
3	自分のビジネスをつくりたいです
4	Data scientist 、飲食店
5	システムエンジニア(人々の生活を便利にするアプリ・サービスを作る)、介護テック：健康・行動データ分析、介護計画の立案など、詐欺対策：IT セキュリティ企業など、考え中、給料高いほどいい、データサイエンティスト、AI エンジニア、機械学習エンジニア、データアナリスト、Web エンジニア、会社
6	金融関係のデータサイエンティストになりたいです、データアナリスト、データサイエンティスト、BI アナリスト、Software Developer、デザイン+データ分析
7	観光、ビジネス、教育、database、data cleaner、大事な意思決定権、データ分析を通して企業の課題を解決したい

8	現在はサッカー系の会社でデータサイエンスとして働きたいです。大希望会社はデータスタジアムという会社。ほかは JLEAGUE で働きたいと思います、チームや色々なところでデータサイエンスとして働きたい、観光・ホテル・エアライン、データサイエンティスト、ソフトウェア開発者
9	IoT+データサイエンス
１０	金融・Hedge Fund

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=23

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	4.3%
5	6	26.1%
6	3	13%
7	4	17.4%
8	1	4.3%
9	4	17.4%
10	4	17.4%
	23	100%

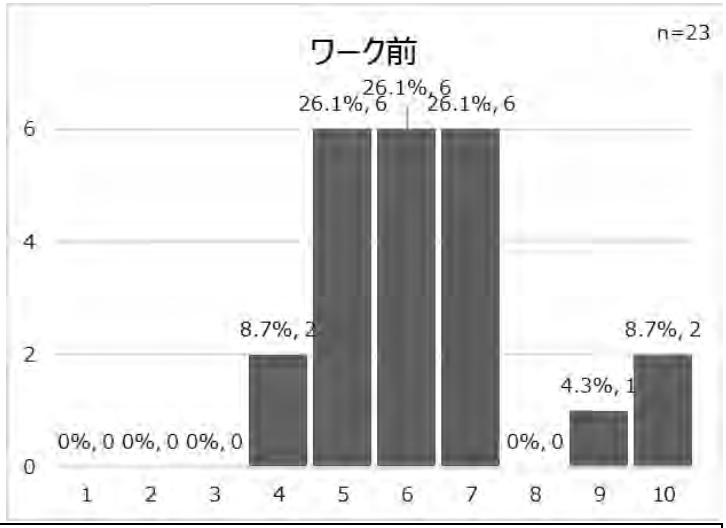


世の中に役立つと感じている学生が多いと思われる

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=23

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	2	8.7%
5	6	26.1%
6	6	26.1%
7	6	26.1%
8	0	0%
9	1	4.3%
10	2	8.7%
	23	100%

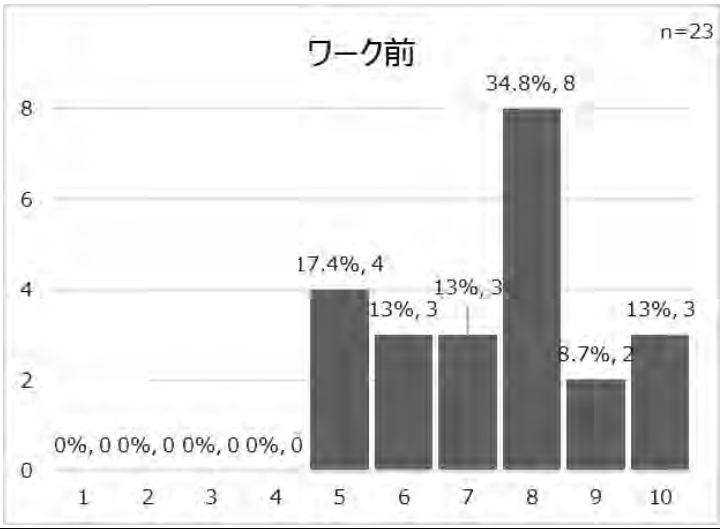


働いている姿のイメージは持っている

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=23

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	4	17.4%
6	3	13%
7	3	13%
8	8	34.8%
9	2	8.7%
10	3	13%
	23	100%



キャリアプランの考えはある

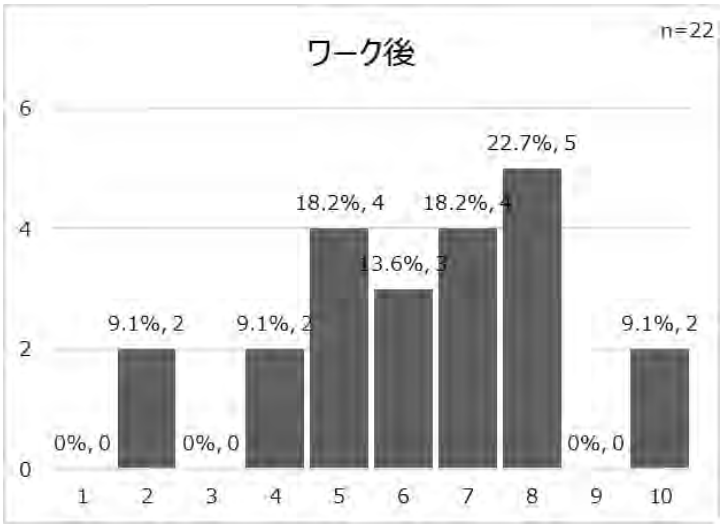
【ワーク後アンケート】

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=22

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	2	9.1%
3	0	0%
4	2	9.1%
5	4	18.2%
6	3	13.6%
7	4	18.2%
8	5	22.7%
9	0	0%
10	2	9.1%
	22	100%



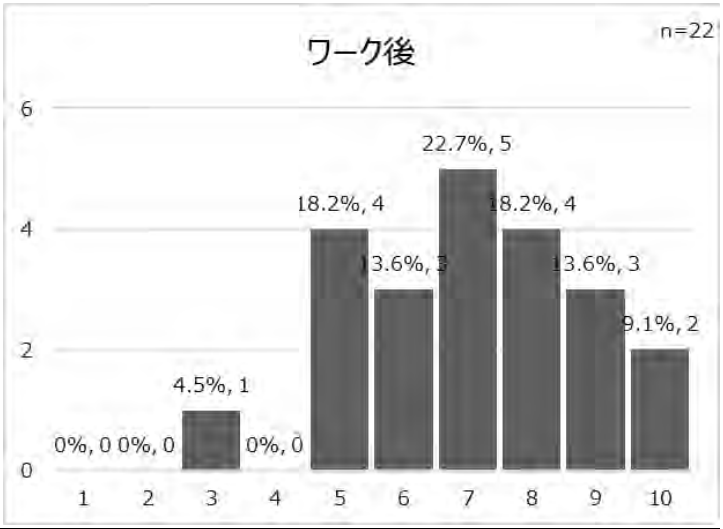
学んだ知識・スキルが身についている実感がある

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=22

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	1	4.5%
4	0	0%
5	4	18.2%
6	3	13.6%
7	5	22.7%
8	4	18.2%
9	3	13.6%
10	2	9.1%
	22	100%

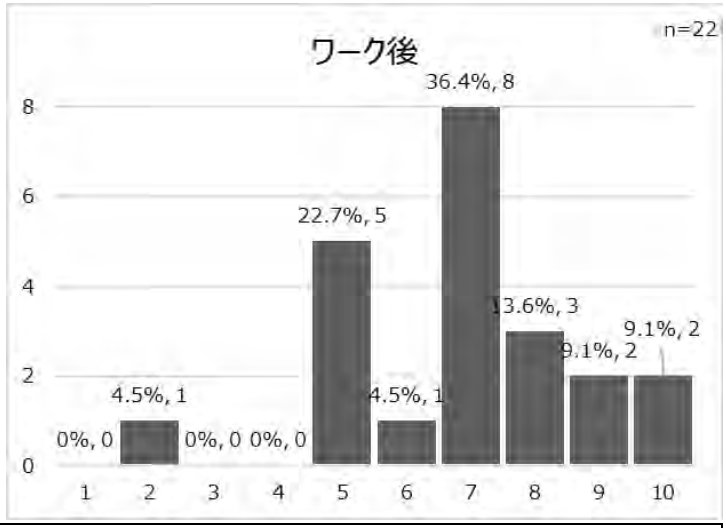


今の勉強が将来につながるとイメージがある

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=22

評 価	回答数	割 合
1	0	0%
2	1	4.5%
3	0	0%
4	0	0%
5	5	22.7%
6	1	4.5%
7	8	36.4%
8	3	13.6%
9	2	9.1%
10	2	9.1%
	22	100%



選択肢と候補先を複数持っている

■【上記質問に関連】専門学校卒業後に就職できる業界・職種について、思いつく限り挙げてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

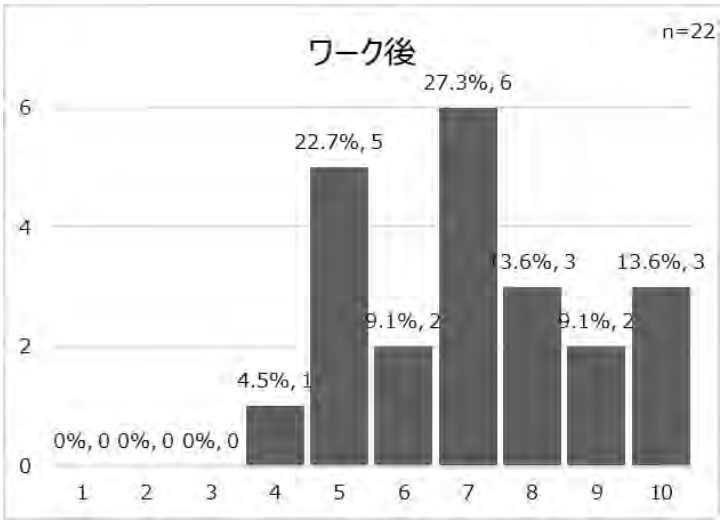
評 価	記 入 内 容
2	データサイエンス
5	データサイエンティスト、システムインジニエ、金融、プログラマー（Programmer)、システムエンジニア（SE)、SaaS 企業、Web サービス、デジタルマーケティング、銀行、証券、飲食店
6	Business analyst
7	専門学校卒業後に就職できる業界：IT 業界、データサイエンス、AI・機械学習、Web・アプリ、ネットワーク、ゲーム、デザイン、事務・バックオフィス。専門学校卒業後に就職できる職種：プログラマー、IT サポート、データアナリスト、AI エンジニア（初級)、Web エンジニア、ネットワークエンジニア、ＱＡテスター、Ｗｅｂデザイナー。IT 系、スポーツ系、データ分析、介護テック、詐欺対策、データサイエンティスト、コンテンツ産業、金融業界、小売・サプライチェーン業界
8	WEB デベロッパー、教育、ファッション、金融、行政、データアナリスト

9	IT・情報、クリエイティブ・デザイン、観光・ホテル・エアライン、職場で頑張る
１０	ものづくり＋データサイエンス、data scientist、data analyst、data miner、data base manager、data baser

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=22

評 価	回答数	割 合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	4.5%
5	5	22.7%
6	2	9.1%
7	6	27.3%
8	3	13.6%
9	2	9.1%
10	3	13.6%
	22	100%



仕事に対する具体的なイメージを持っている

■【上記質問に関連】あなたが将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など)、今考えていること・思いつくことを教えてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

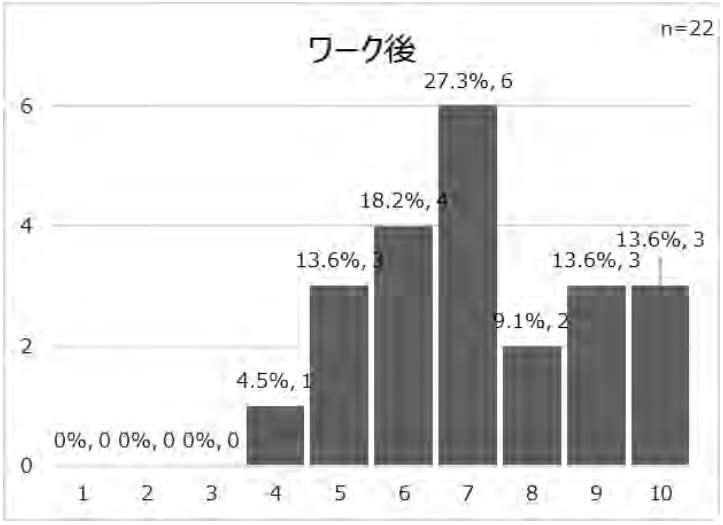
評 価	記 入 内 容
4	行政、教育
5	データサイエンティスト、データサイエンス、data analysis、マーケティング、スタートアップ、ストレスがない仕事
6	UX UI design
7	WEB デベロッパー、スポーツ系でデータ分析、介護テック：介護 AI 開発、詐欺対策、AI・機械学習関連、AI エンジニア、AI 技術で人の生活を便利にした

	い、データ分析、私は将来、データ分析の仕事をしたいと考えています。特に、時系列データを扱う金融業界やコンテンツ業界に興味があります。データの変化を読み取り、課題解決や意思決定に役立つ分析ができるようになりたい
8	将来はデータサイエンスの分野で、データ分析や機械学習モデルの開発に携わりたいと考えています。データを活用して社会の課題を見える化し、より良い意思決定や効率化につながる仕組みを実現したい、データサイエンティスト、データアナリスト、データエンジニア、business analyst
9	観光・ホテル・エアライン、将来は、データを活かして課題を見つけ、解決につなげる仕事をしたいです。特に、ビジネスとデータをつなぐ データアナリスト や ビジネスアナリスト に興味がある
１０	電子、機械、モビリティなどのものづくり業界に取り込む事、金融・Hedge Fund、AI、politics

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=22

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	4.5%
5	3	13.6%
6	4	18.2%
7	6	27.3%
8	2	9.1%
9	3	13.6%
10	3	13.6%
	22	100%

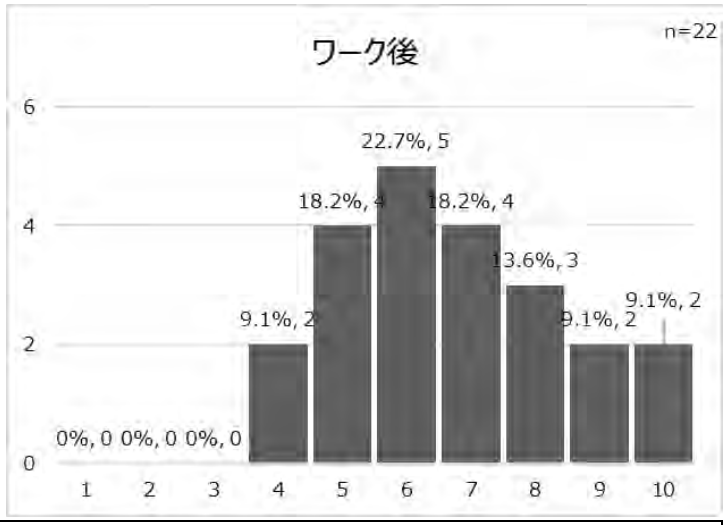


仕事が世の中に役立つイメージを持っている

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=22

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	2	9.1%
5	4	18.2%
6	5	22.7%
7	4	18.2%
8	3	13.6%
9	2	9.1%
10	2	9.1%
	22	100%

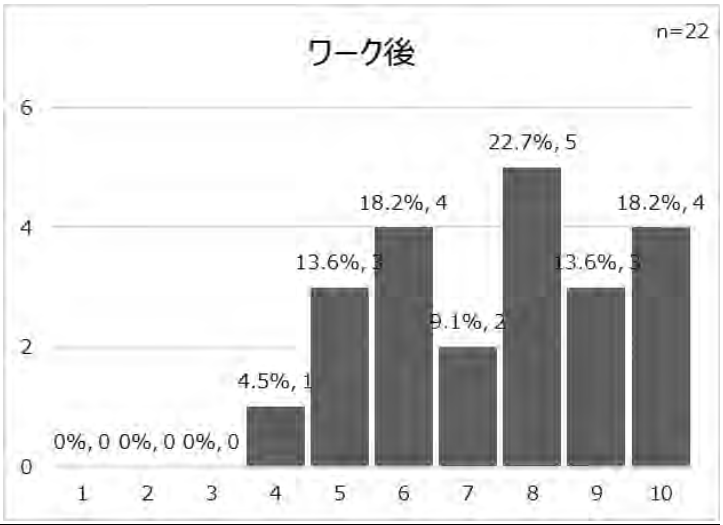


働いている自分の姿のイメージができる

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=22

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	4.5%
5	3	13.6%
6	4	18.2%
7	2	9.1%
8	5	22.7%
9	3	13.6%
10	4	18.2%
	22	100%

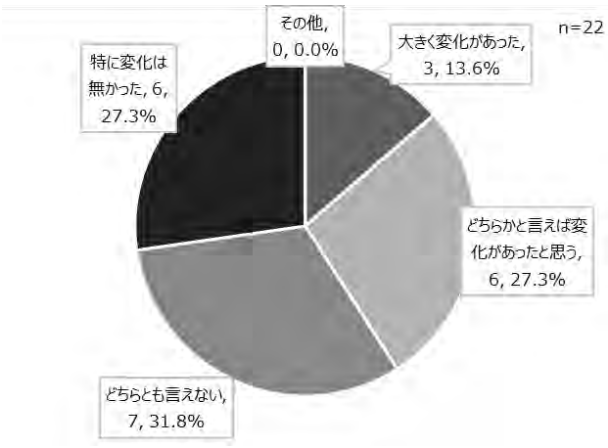


キヤリアプランの考えは持っている

■今回のワークを通じて、なにか心境に変化はありましたか？

n=22

項　目	回答数	割　合
大きく変化があった	3	13.6%
どちらかと言えば変化があったと思う	6	27.3%
どちらとも言えない	7	31.8%
特に変化は無かった	6	27.3%
その他	0	0%
	22	100%



■【上記質問に関連】どのように変化したかを具体的に教えてください

項　　目	記　　入　　内　　容
大きく変化があった	・データサイエンスの最新動向についての理解がより深まりました。特に、AI モデルや大規模データ解析の実践的な活用方法が明確になり、実務や研究にどのように応用できるかイメージしやすくなりました ・自分の分野に関して学校の教科書ではなく社会から説明もらいました ・仕事で困ったこととか乗り換えて仕事に慣れるようになって上手く出来たイメージです
どちらかと言えば変化があったと思う	・データサイエンティストでもものづくりの企業で活用できることで、自分にやる気が出ました ・日本のデータサイエンティストの現状を知りました ・自分の専門分野にこだわり過ぎず、学んだスキルを他職種にどう応用できるかを意識すると、選べる業界・職種の幅を広げやすくなります ・自分がデータの分野でどんな方向に進みたいのか、前よりはっきりしてきました ・データサイエンスは広い分野ですが、その中でも「データ分析を使ったビジネスの改善」に興味が強いと気づきました ・大きな変化ではありませんが、自分の進路について「もっと調べてみよう」「もう少し真剣に考えてみよう」という気持ち

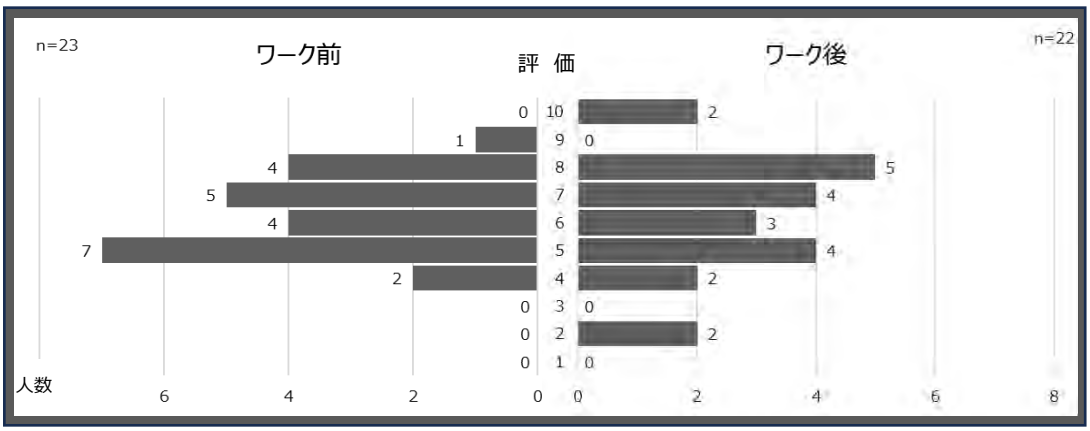
	が強くなりました。小さな一歩ですが、自分にとっては大きな意味のある変化でした ・最初はこの分野の勉強がとても難しく感じましたが、時間が経つにつれて少しずつ慣れてきました。そして学んでいく中で、自分の興味も徐々に見つけることができました。特に、株価などを扱う時系列分析の授業に強い興味を持つようになりました。また、私は普段からSNSをよく利用しているため、ソーシャルメディア分析にも関心があります,
どちらとも言えない	・自分の本当にしたいことを見つけた

■その他ご意見やご感想、気づいたことがあれば自由に記述してください

・とても有意義なシンポジウムでした。講演は分かりやすく、テーマも現在のトレンドに合っていて勉強になりました
・今後でのデータサイエンティストは自分だけではなくAIの機能を使い協力し合って、次の可能性を求める事が戦略的だと思いました
・もっと参加させていただきたいと思います。
・データサイエンスは難しいイメージがありましたが、今回のワークを通して「自分にもできるかもしれない」と前向きに感じました。少しずつでもスキルを積み重ねることで、将来の仕事につながると分かり、モチベーションが上がりました
・今回のワークを通じて、新しい発見が多く、自分の将来に対する考え方が少し整理できました
・今回の学びを通して、自分の興味や課題がより明確になりました。特に時系列分析への関心が強くなり、今後もさらに理解を深めていきたいと感じました。今後ともよろしくお願いいたします

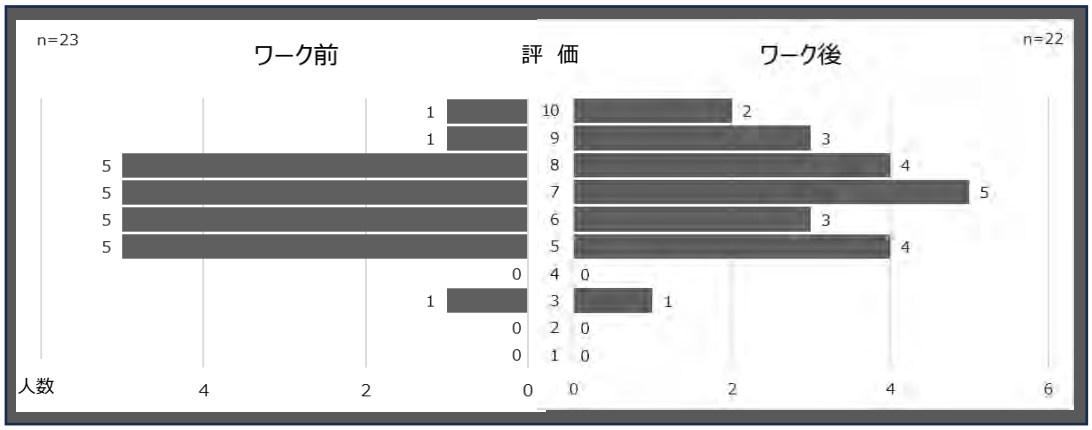
②ワーク前後アンケート対比

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



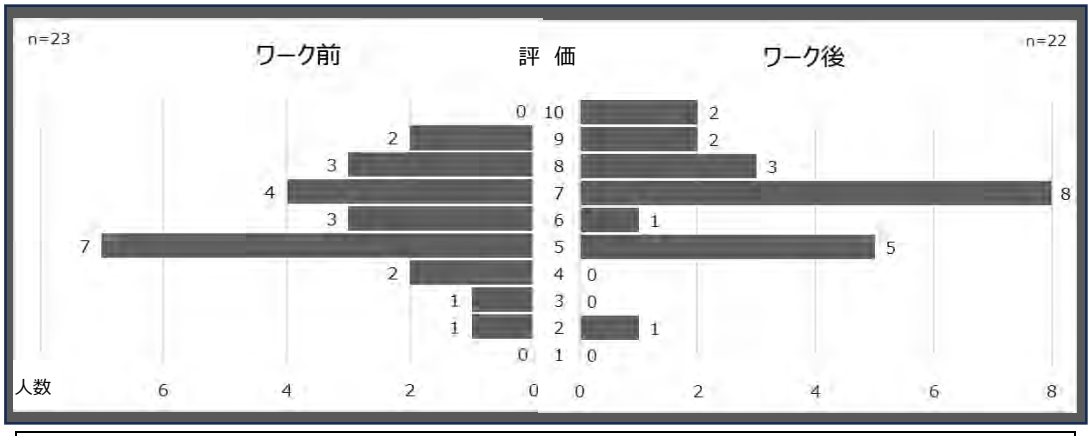
評価７以上で比較：
・ワーク前１０人（評価７（５）・８（４）・９（１）・１０（０））
・ワーク後１１人（評価７（４）・８（５）・９（０）・１０（２））
ワーク後、評価は上がった

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



評価７以上で比較：
・ワーク前１２人（評価７（５）・８（５）・９（１）・１０（１））
・ワーク後１４人（評価７（５）・８（４）・９（３）・１０（２））
ワーク後、評価は下がった

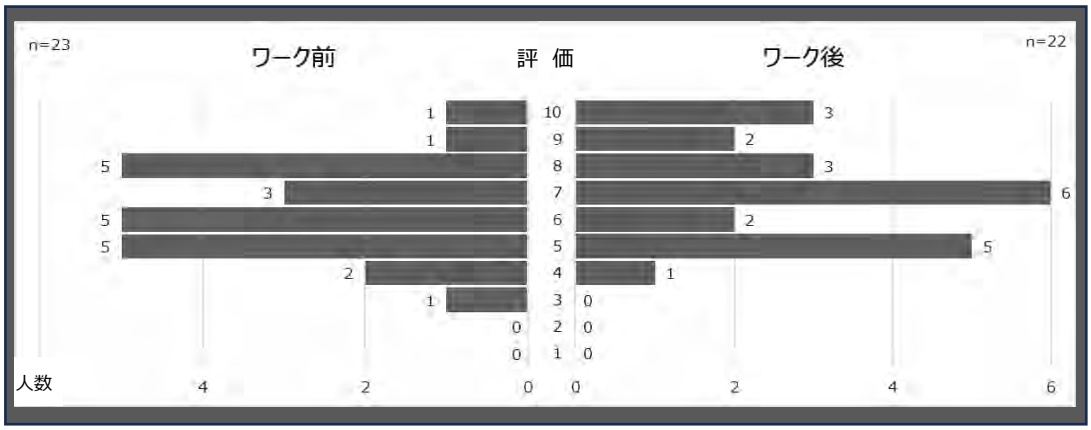
■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



評価７以上で比較：
・ワーク前９人（評価７（４）・８（３）・９（２）・１０（０））
・ワーク後１５人（評価７（８）・８（３）・９（２）・１０（２））

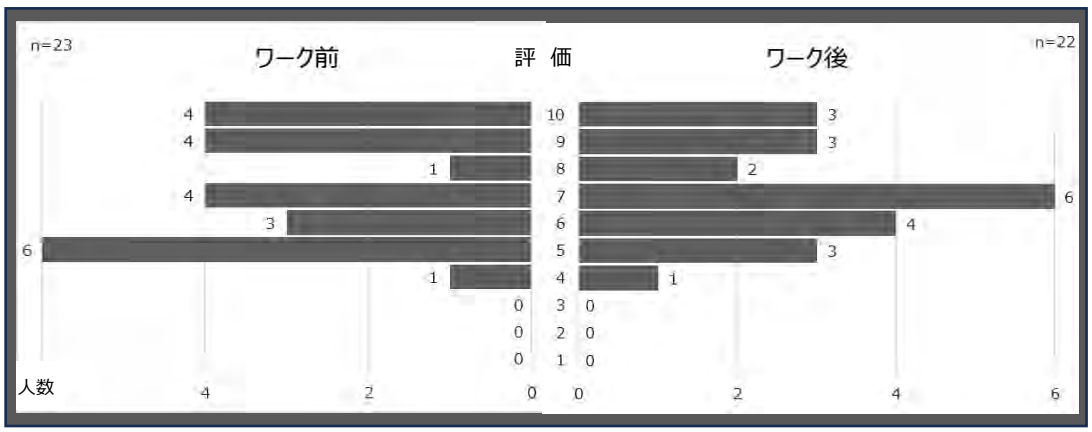
ワーク後、評価は上がった

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



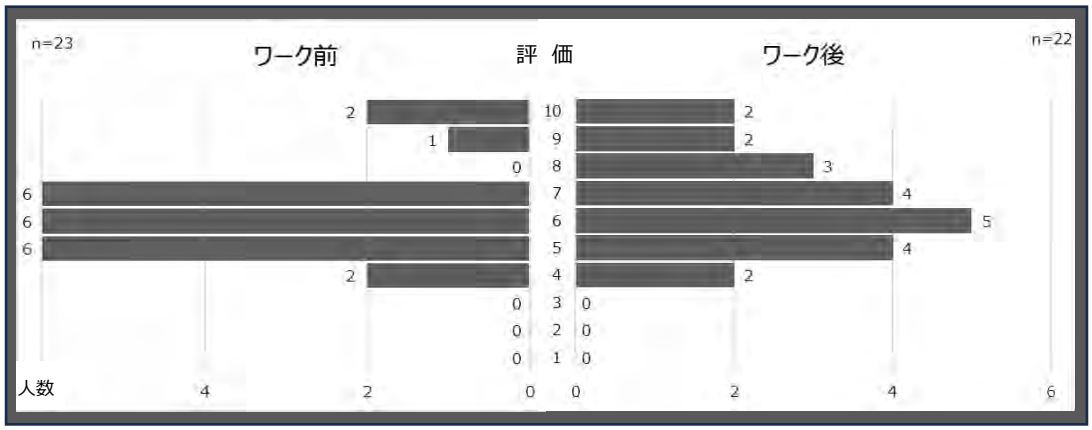
評価７以上で比較：
・ワーク前１０人（評価７（３）・８（５）・９（１）・１０（１））
・ワーク後１４人（評価７（６）・８（３）・９（２）・１０（３））
ワーク後、評価は上がった

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



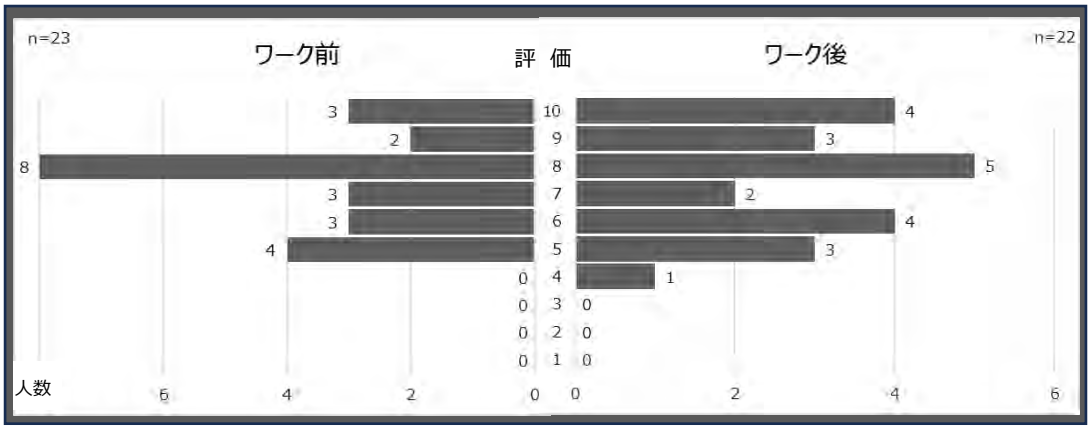
評価７以上で比較：
・ワーク前１３人（評価７（４）・８（１）・９（４）・１０（４））
・ワーク後１４人（評価７（６）・８（２）・９（３）・１０（３））
ワーク後人数は増えたが、高評価部分で評価は下がった

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



評価７以上で比較：
・ワーク前９人（評価７（６）・８（０）・９（１）・１０（２））
・ワーク後１１人（評価７（４）・８（３）・９（２）・１０（２））
ワーク後、評価は上がった

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



評価７以上で比較：
・ワーク前１６人（評価７（３）・８（８）・９（２）・１０（３））
・ワーク後１４人（評価７（２）・８（５）・９（３）・１０（４））
ワーク後、評価は下がった

（６）環境分野

①アンケート回答：専門学校東京テクニカルカレッジ　２年生　９名

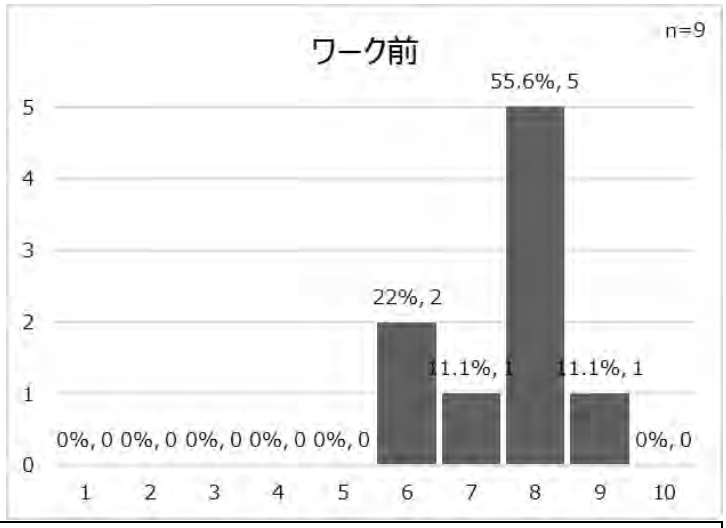
【ワーク前アンケート】

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=9

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	0	0%
6	2	22%
7	1	11.1%
8	5	55.6%
9	1	11.1%
10	0	0%
	9	100%



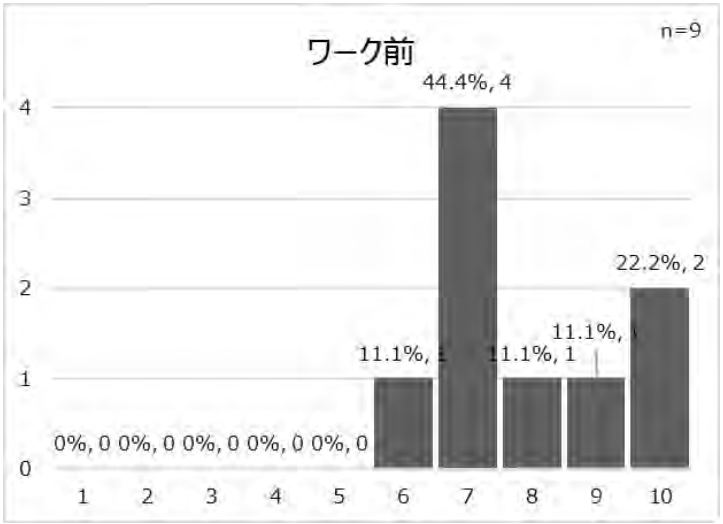
概ね知識・スキルが身に付いていると実感している

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=9

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	0	0%
6	1	11.1%
7	4	44.4%
8	1	11.1%
9	1	11.1%
10	2	22.2%
	9	100%

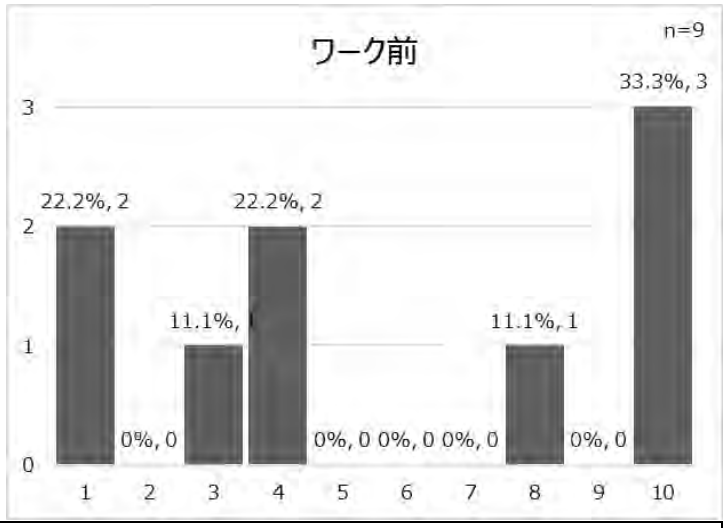


概ね勉強が自身の将来につながるとイメージできている

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=9

評 価	回答数	割 合
1	2	22.2%
2	0	0%
3	1	11.1%
4	2	22.2%
5	0	0%
6	0	0%
7	0	0%
8	1	11.1%
9	0	0%
10	3	33.3%
	9	100%



数を持つことへの評価は見られない

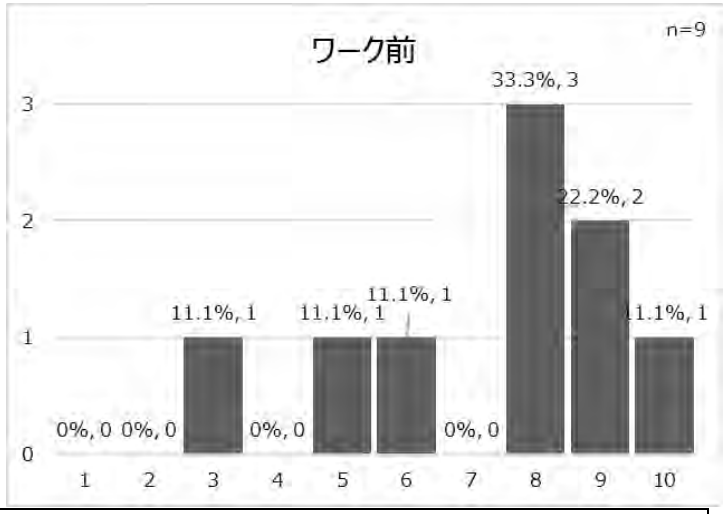
■【上記質問に関連】専門学校卒業後に就職できる業界・職種について、思いつく限り挙げてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

評 価	記 入 内 容
1	上水道下水道処理関係、環境管理系、環境保全系、環境調査分析
3	林業、環境調査、環境教育
4	水処理、環境調査員
8	水処理業界、運転管理、運転管理、分析
１０	水処理、環境技術者、レンジャー、Web マーケティング、Web デザイン、プログラマー

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=9

評 価	回答数	割 合
1	0	0%
2	0	0%
3	1	11.1%
4	0	0%
5	1	11.1%
6	1	11.1%
7	0	0%
8	3	33.3%
9	2	22.2%
10	1	11.1%
	9	100%



イメージできている

■【上記質問に関連】あなたが将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）、今考えていること・思いつくことを教えてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

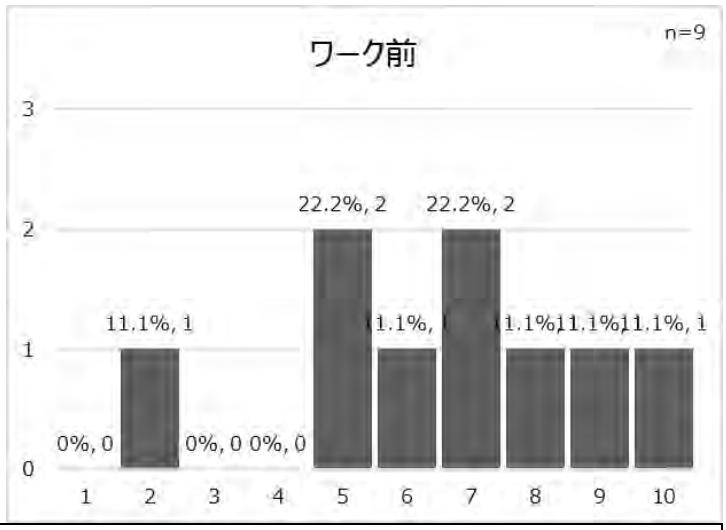
評 価	記 入 内 容
５	環境問題に関心を持ってもらいたい
６	水処理、ＣＡＤ
８	環境や生物多様性に保全に関わる仕事、水処理
９	環境教育で人に教える、Web マーケティング
１０	私は専門学校で身につけた技術を活かし、水処理を通じて、身近な環境から地球全体の環境保全に少しでも貢献できるようにしたい

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=9

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	1	11.1%
3	0	0%
4	0	0%
5	2	22.2%
6	1	11.1%
7	2	22.2%
8	1	11.1%
9	1	11.1%
10	1	11.1%
	9	100%



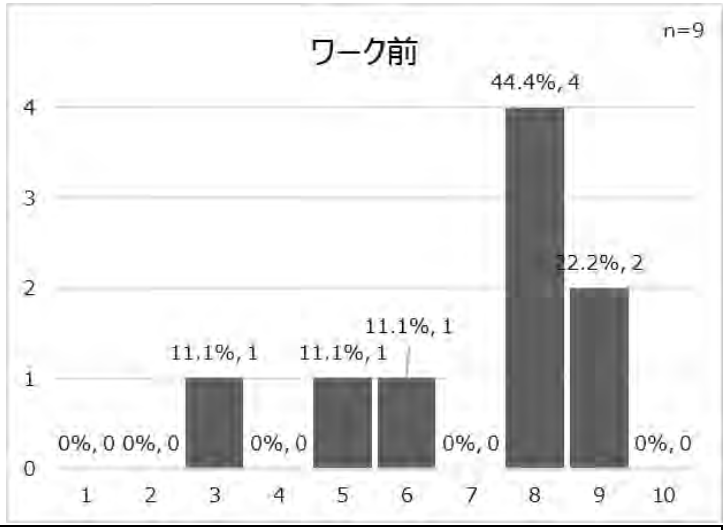
将来仕事で取り組むことは世の中の役に立つイメージがある

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる

（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=9

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	1	11.1%
4	0	0%
5	1	11.1%
6	1	11.1%
7	0	0%
8	4	44.4%
9	2	22.2%
10	0	0%
	9	100%

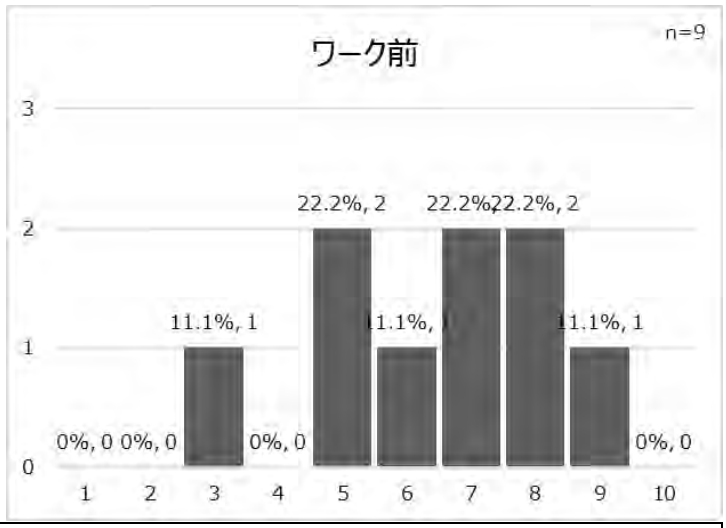


現場で働いているイメージを持っている

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=9

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	1	11.1%
4	0	0%
5	2	22.2%
6	1	11.1%
7	2	22.2%
8	2	22.2%
9	1	11.1%
10	0	0%
	9	100%



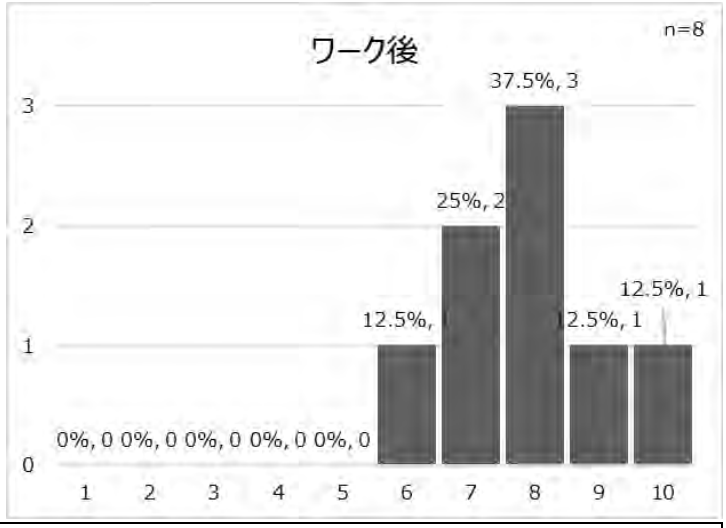
キャリアプランの考えを持っている

【ワーク後アンケート】

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=8

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	0	0%
6	1	12.5%
7	2	25%
8	3	37.5%
9	1	12.5%
10	1	12.5%
	8	100%

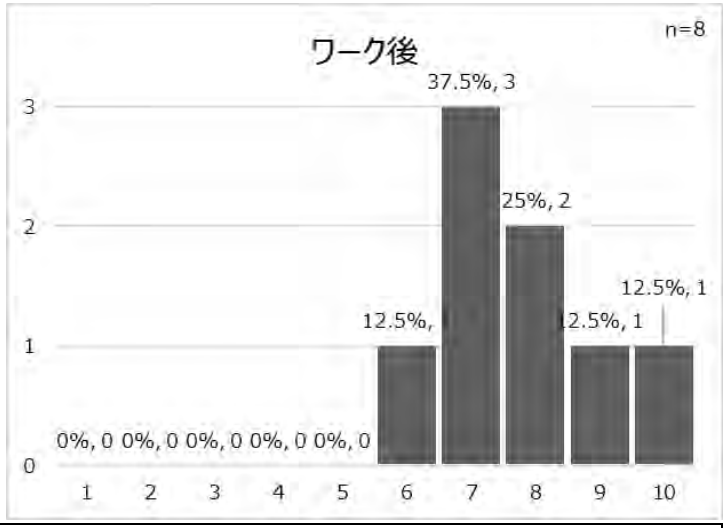


知識やスキルが身に付いている実感がある

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=8

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	0	0%
6	1	12.5%
7	3	37.5%
8	2	25%
9	1	12.5%
10	1	12.5%
	8	100%

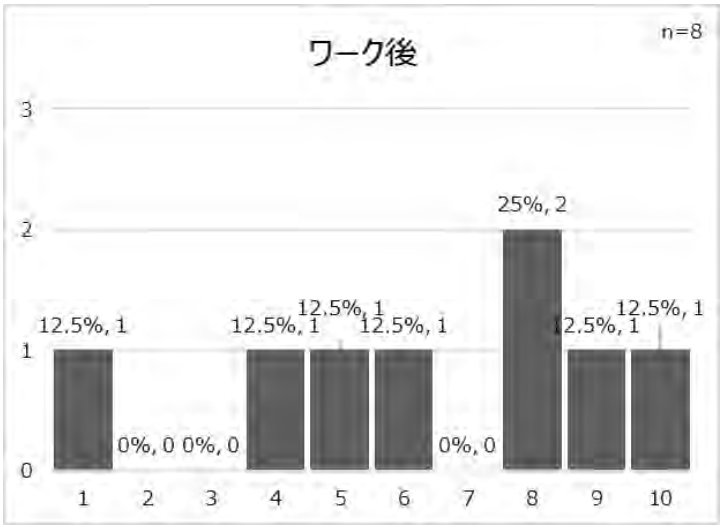


今の勉強が将来につながるイメージを持っている

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=8

評　価	回答数	割　合
1	1	12.5%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	12.5%
5	1	12.5%
6	1	12.5%
7	0	0%
8	2	25%
9	1	12.5%
10	1	12.5%
	8	100%



評価が高くなっている

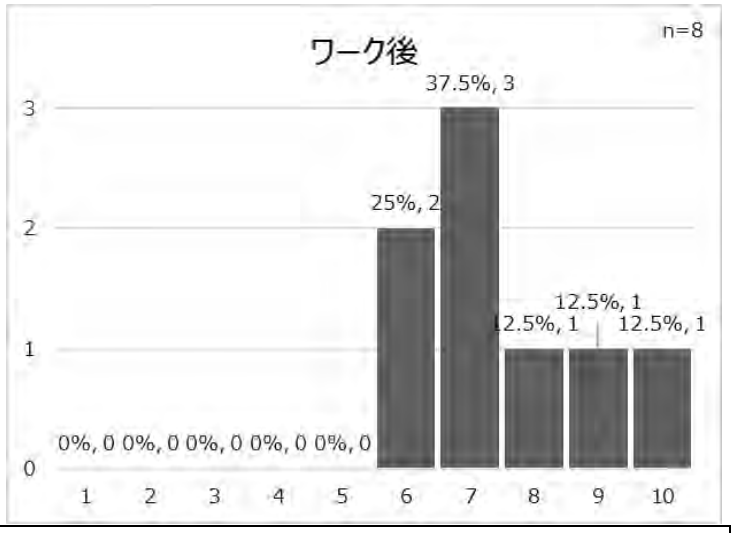
■【上記質問に関連】専門学校卒業後に就職できる業界・職種について、思いつく限り挙げてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

評　価	記　　入　　内　　容
1	水質検査、保守関係、環境や生物保全
4	水 ing 環境調査員
5	水処理
6	環境調査分析
8	【業界】環境調査、分析、教育、環境保全・環境衛生業界、上下水道・水インフラ業界、廃棄物処理・資源循環業界、公害防止・環境プラント業界、エネルギー・発電関連業界、建築設備・ビルメンテナンス業界 【職種・業務】下水道・上水道・汚泥再生処理施設等の運転管理・保守管理、公害防止プラント・発電施設の保守運営、建築設備（空調・給排水・電気）の施工･保守、建造物および施設の環境保全衛生管理、一般･産業廃棄物の収集･運搬・処理、水質・大気・土壌等の検査・測定・分析、河川・湖沼・海域等の環境調査・評価
9	Web マーケティング、Web デザイン、Web サイト制作
１０	水処理、環境技術者、レンジャー

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=8

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	0	0%
6	2	25%
7	3	37.5%
8	1	12.5%
9	1	12.5%
10	1	12.5%
	8	100%



やりたい仕事の具体的なイメージを持っている

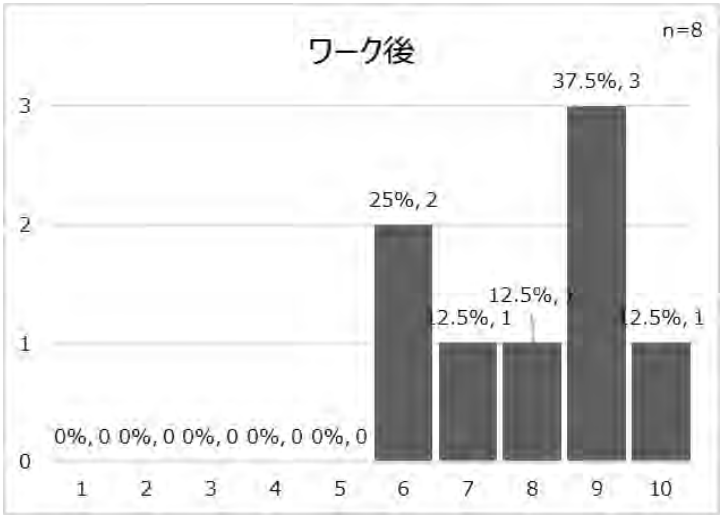
■【上記質問に関連】あなたが将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など)、今考えていること・思いつくことを教えてください（同じ回答が複数ある場合は一つ表記）

評　価	記　　入　　内　　容
6	環境調査分析、環境保全や公害防止、社会インフラに関わる仕事、省エネルギーや効率化に貢献できる業務
7	環境保全の NPO にて職員、水処理
8	環境教育、保全
9	専門学校で学んだ水処理技術を活かして、環境や社会に貢献して、SDGs に少しでも取り組みたい
１０	Web マーケティング

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=8

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	0	0%
6	2	25%
7	1	12.5%
8	1	12.5%
9	3	37.5%
10	1	12.5%
	8	100%

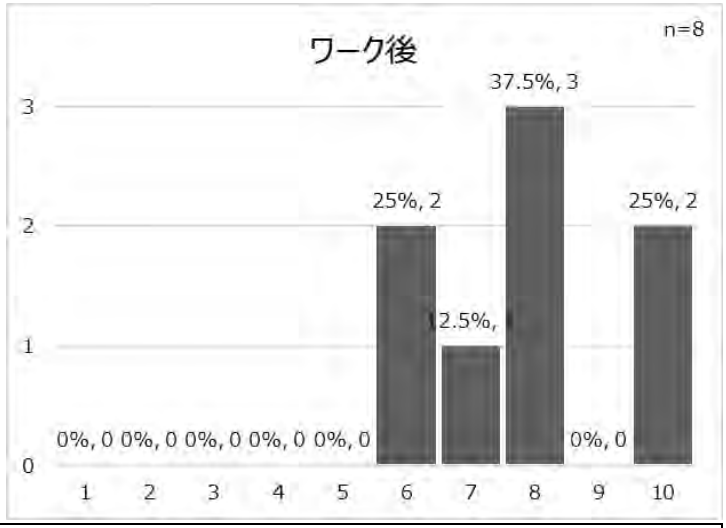


将来仕事で取り組む内容は、世の中に役立つイメージを持っている

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=8

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	0	0%
6	2	25%
7	1	12.5%
8	3	37.5%
9	0	0%
10	2	25%
	8	100%

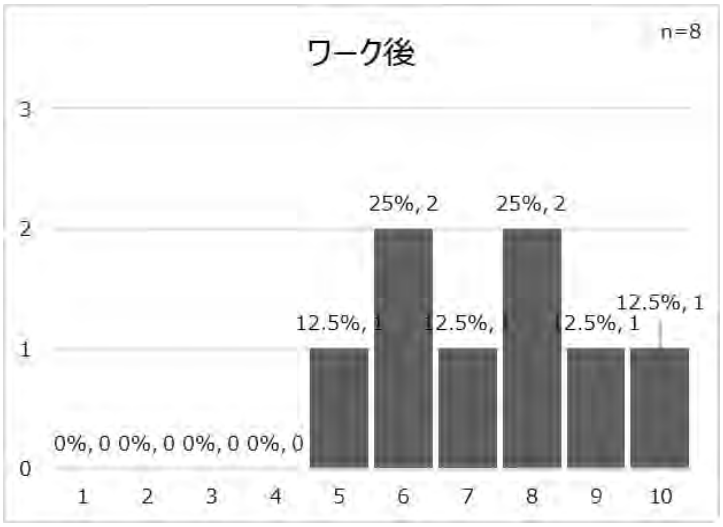


仕事の現場で働いている自分の姿のイメージができている

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）

n=8

評　価	回答数	割　合
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	1	12.5%
6	2	25%
7	1	12.5%
8	2	25%
9	1	12.5%
10	1	12.5%
	8	100%

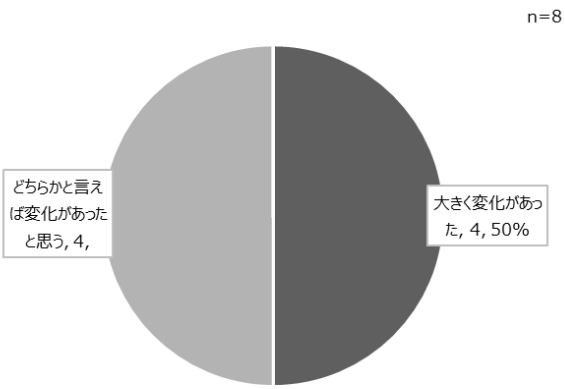


自分のキヤリアプランの考えをもっている

■今回のワークを通じて、なにか心境に変化はありましたか？

n=8

項　目	回答数	割　合
大きく変化があった	4	50%
どちらかと言えば変化があったと思う	4	50%
どちらとも言えない	0	0%
特に変化は無かった	0	0%
その他	0	0
	8	100%



■【上記質問に関連】どのように変化したかを具体的に教えてください

項　　目	記　　入　　内　　容
大きく変化があった	・コミュニケーション能力の大切さ ・SDGs に対する考え方が変わった。行政側だったが少しの調整でかなり変わっていったので、バランスが大事だと思った ・今まで SDGs の内容をあまり理解していなかったが、今回のイベントを通して現状や対策について考えることができた ・社会に貢献する為には、人との繋がりを大切にする事が重要だと改めて実感しました。また、当初の目的を忘れ、目先の目標だけを追い求める様になってしまう事は往々にしてある事です。しかし、本当に大切なものを日々忘れない様にしていきたいです
どちらかと言えば変化があったと思う	・もっと俯瞰的な目線が必要だと思った ・会社が SDGs を大事としているかとかそうゆうのを少し気にしてみようかなと思えた ・SDGs を達成するためにはすることが多く大変だと思ったので、一人一人の意識と協力が大切だと思った ・将来の自分の人物像

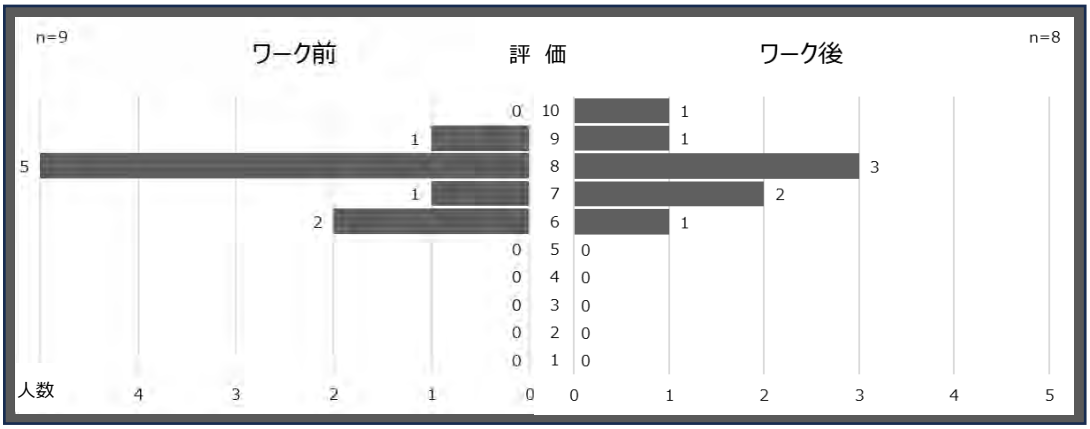
■その他ご意見やご感想、気づいたことがあれば自由に記述してください

・楽しい時間の提供をありがとうございました
・今回のこの講演を通して、SDGs のついての関心興味が深められて良かったです。またこのカードゲームしたい

・コミュニケーション能力を高めようと思う
・「一人の１００歩より１００人の一歩」という言葉が心に響きました。現在、地球はSDGS をほとんど達成出来ていないという危機的状況にあります。そんな中でも、カードゲームというツールを使う事で楽しく、協力しあいながら話し合う事が出来る事に衝撃を受けました。自分の生活を大切にしながらも、困っている人が少なくなる様な仕事に働く事が出来たら幸せだと思います

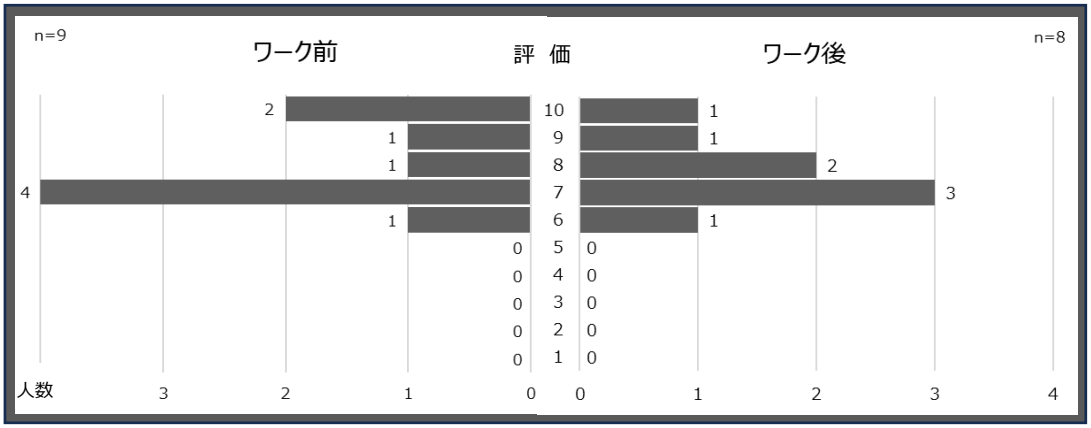
②ワーク前後アンケート対比

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



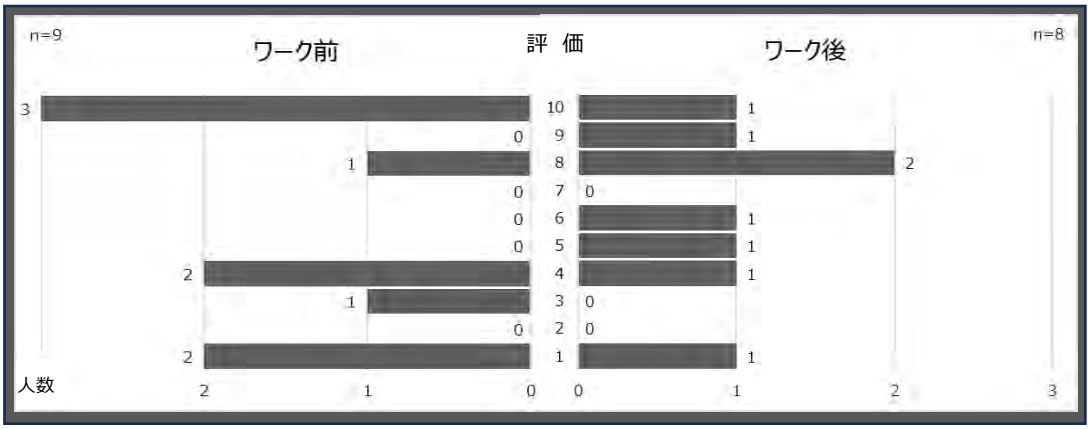
評価７以上で比較：
・ワーク前７人（評価７（１）・８（５）・９（１）・１０（０））
・ワーク後７人（評価７（２）・８（３）・９（１）・１０（１））
ワーク後人数は同数であったが、高評価部分を比較すると評価は上がった

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



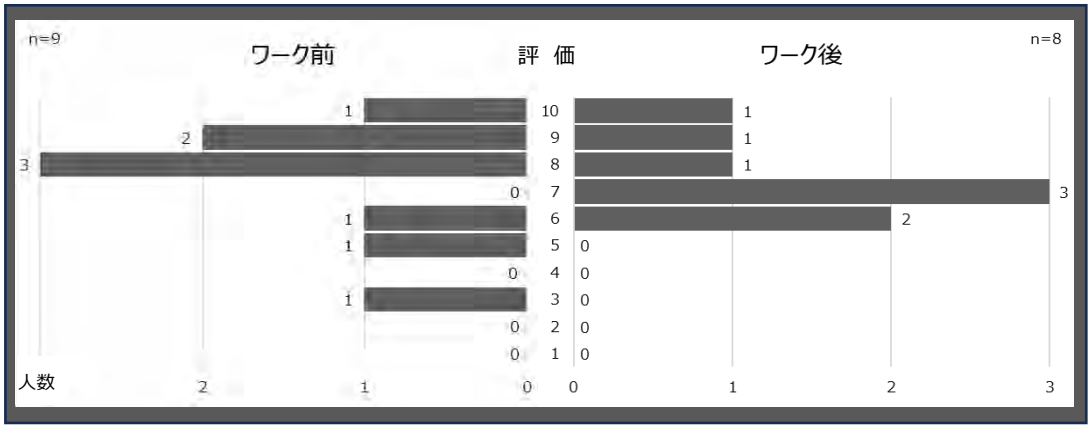
評価７以上で比較：
・ワーク前４人（評価７（４）・８（１）・９（１）・１０（２））
・ワーク後４人（評価７（３）・８（２）・９（１）・１０（１））
ワーク後人数は同数であったが、高評価部分を比較すると評価は下がった

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



評価７以上で比較：
・ワーク前４人（評価７（０）・８（１）・９（０）・１０（３））
・ワーク後４人（評価７（０）・８（２）・９（１）・１０（１））
ワーク後人数は同数であったが、高評価部分を比較すると評価は下がった

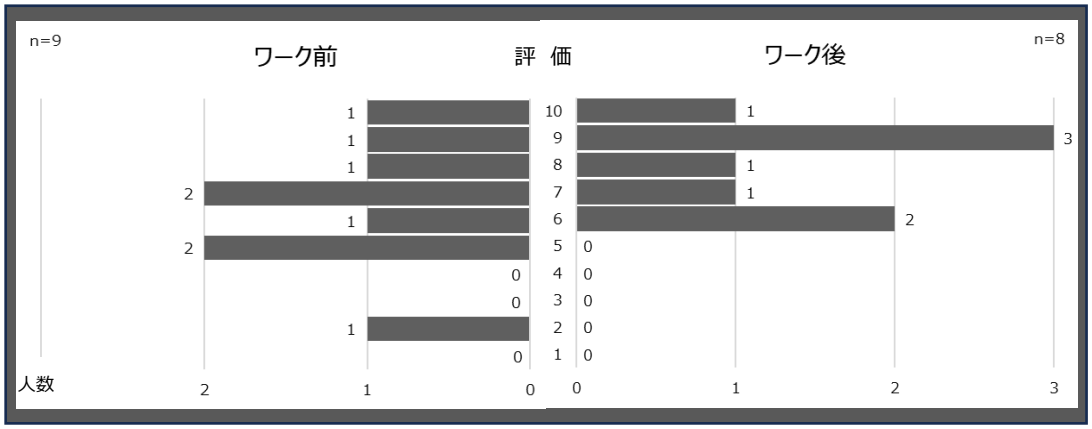
■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



評価７以上で比較：

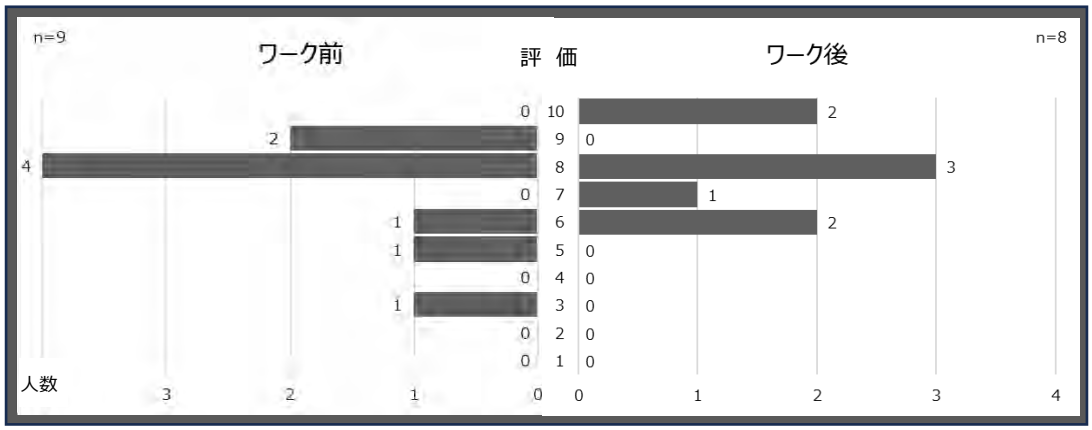
・ワーク前６人（評価７（０）・８（３）・９（２）・１０（１））
・ワーク後６人（評価７（３）・８（１）・９（１）・１０（１））
ワーク後人数は同数であったが、高評価部分を比較すると評価は下がった

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



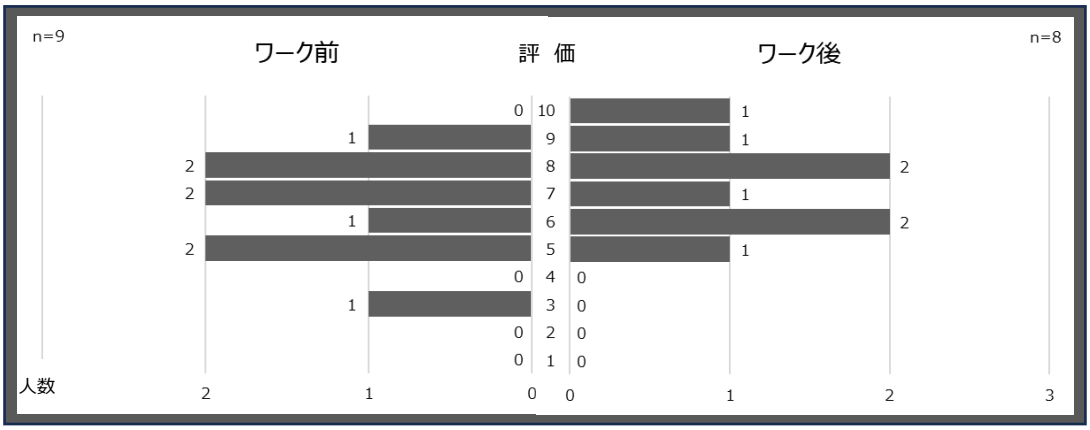
評価７以上で比較：
・ワーク前５人（評価７（２）・８（１）・９（１）・１０（１））
・ワーク後６人（評価７（１）・８（３）・９（１）・１０（１））
ワーク後、評価は上がった

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



評価７以上で比較：
・ワーク前６人（評価７（０）・８（４）・９（２）・１０（０））
・ワーク後６人（評価７（１）・８（３）・９（０）・１０（２））
ワーク後人数は同数であったが、高評価部分を比較すると評価は上がった

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている
（１０段階評価/最高点を１０点とする）



評価７以上で比較：
・ワーク前５人（評価７（２）・８（２）・９（１）・１０（０））
・ワーク後５人（評価７（１）・８（２）・９（１）・１０（１））
ワーク後人数は同数であったが、高評価部分を比較すると評価は上がった

（７）８分ローテーション型業界研究授業

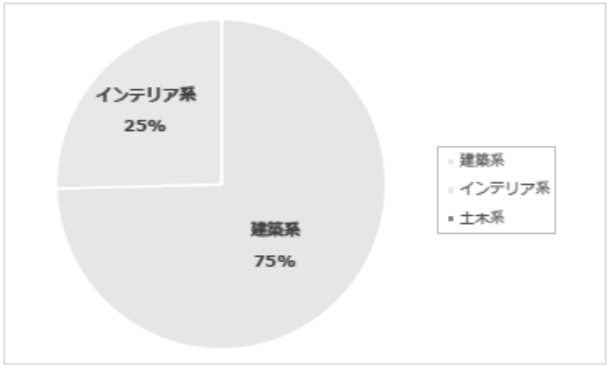
建築分野とインテリア分野合同でオンライン研究授業を実施。



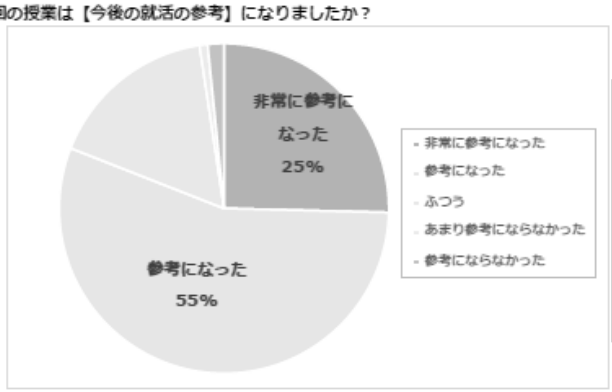


実施レポート（8社合同オンライン業界研究授業）

【学科・専攻】を選択してください。

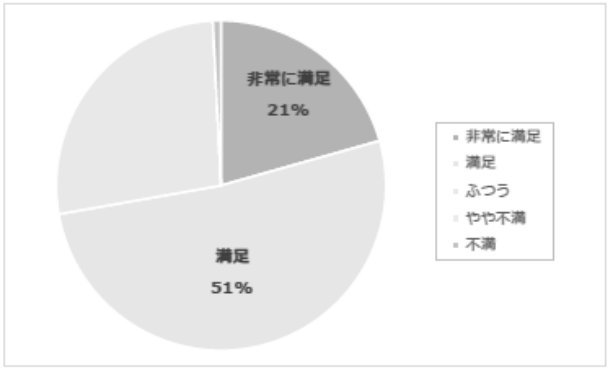


今回の授業は【今後の就活の参考】になりましたか？



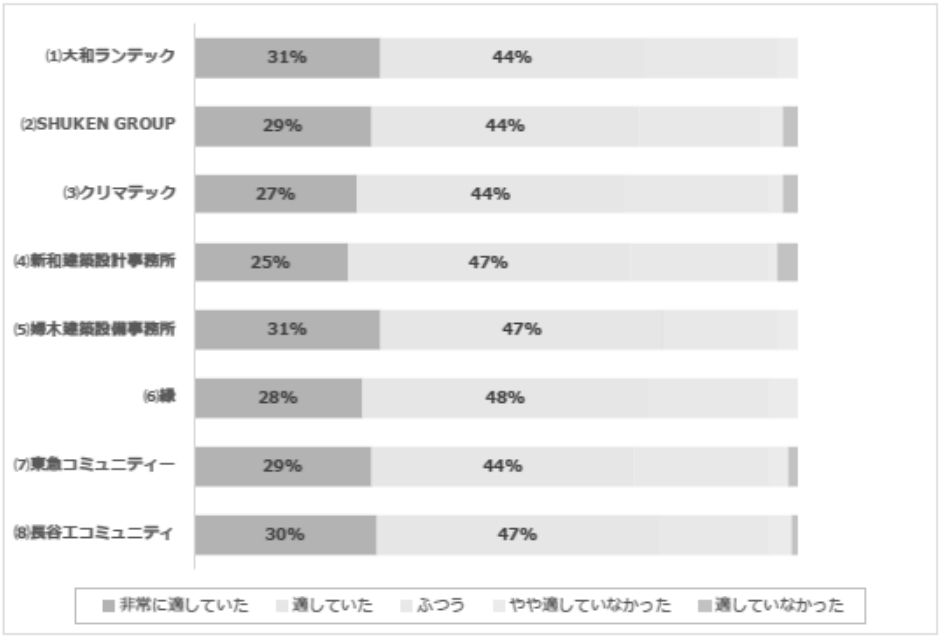
「非常に参考になった、２５％」「参考になった、５５％」であった。
参考になったという回答が８０％であった

今回の授業の【満足度】をお聞かせください。

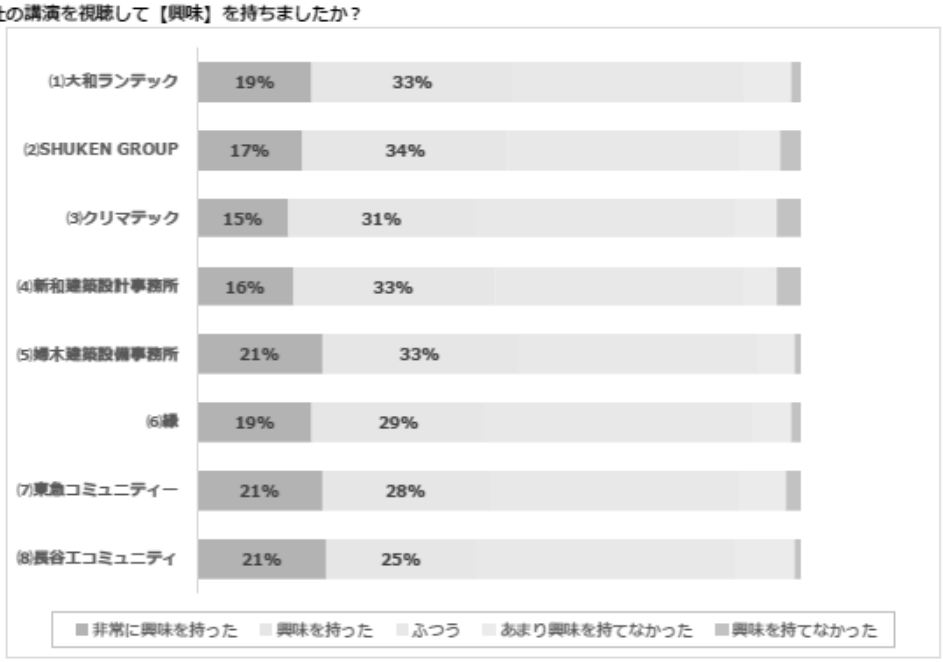


「非常満足、２１％」「満足、５１％」であった。
満足との回答が７２％であった

各社の講演は【授業コンセプトに適合】していましたか？



各社の講演を視聴して【興味】を持ちましたか？

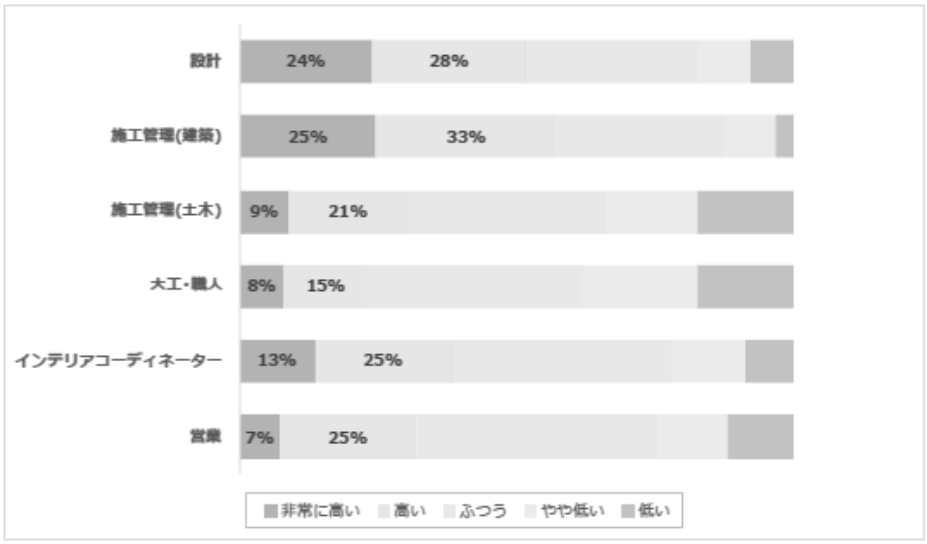


本日の授業を通して【印象に残った点】【登壇企業・司会者へのメッセージ】等がありましたらお願いします。

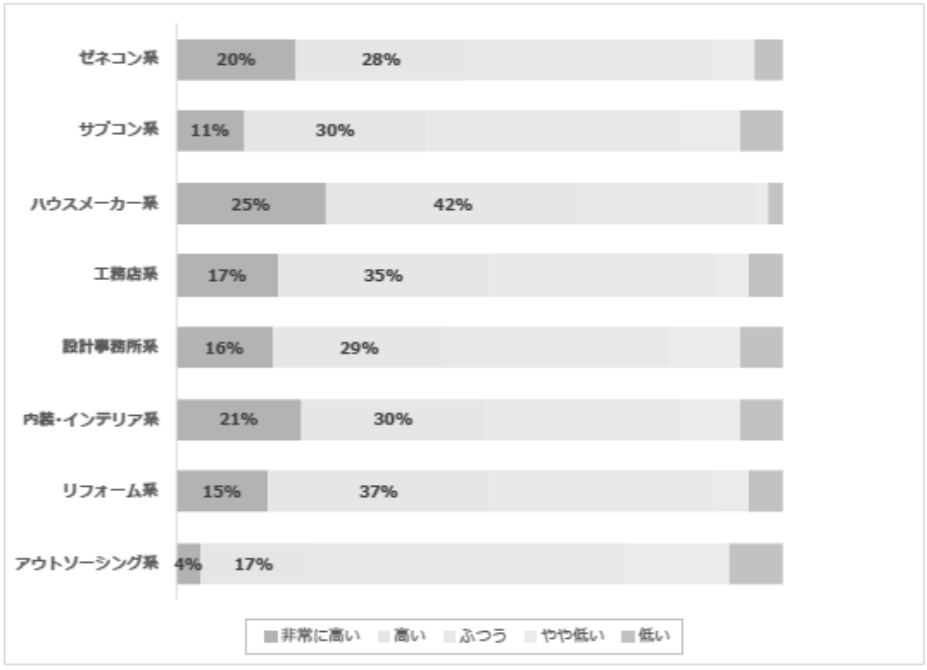
全体的に1日の仕事の流れを説明していたので、仕事内容を把握することができた。
時間配分が的確でとてもよかったです。
最近になってから、設備設計と構造設計に興味があり、婦木建築設備事務所が気になっています。縁の下の力持ちという言葉がとても印象的で、自分もそのような働きをしたいと思いました。
建築の専門用語を覚えておくと良い
時間が守られていてよかった
東急コミュニティティーの内容が良かったです
やはり学生のうちに興味を持ったことはどんどん学ぶべきなんだと改めて実感できる機会でした
良く納得できて、勉強になりました
たくさんの仕事があることを知れた
本日は貴重なお話をありがとうございました。
おもしろかった
人生は一度きりです。就職すると会社で過ごす時間が長くなるでしょう。 だからこそ、日々を生き生き働けるかどうかという基準で会社を見てもらえたらと思います。 ものづくりの知識や技術で、よりよい暮らしにつながる提案をする。
知った方がいいものをたくさん見に付いたのでよかったです
どの企業も学生に向けたメッセージの中に、学んだことは活かせる、資格は取得しておく、学生のうちに遊んでおく。と記載されており、このメッセージを今、大切にしていきたいなと思いました。
やりがいなどがどこで感じてくるか、同じ建設会社でも全然違かったので印象に残りました。
設備設計の輸入がいいところ、積算などの仕事は数字が苦手な人には向いていない
なるべく資格取っておいた方がいい
入社後のキャリアプランやカリキュラム、今後、どのように活動していけばいいのかなど、今が一番大切だと思いますが、今後の動きやプランが定まっていると 、よりスムーズに次の動きができると考えているのでそのような話が聞けて良かったです。
本日の授業で、業界の仕事の流れがよく分かりました。
色々な仕事のことを分かって自分と何が合うかをわかりました！
設備設計
時間を気にしながら丁寧に説明してくださり分かりやすかったです。司会者の方も時間がある企業さんには質問をしてくれていて良かったです。
専門学生へのメッセージで"物事に興味をもつ" "遊ぶ" "挑戦"が共通していたので、しっかりと心に刻んで過ごしていこうと思った。
専門用語今のうち覚えておくこと

建築系専門学校生の就職傾向

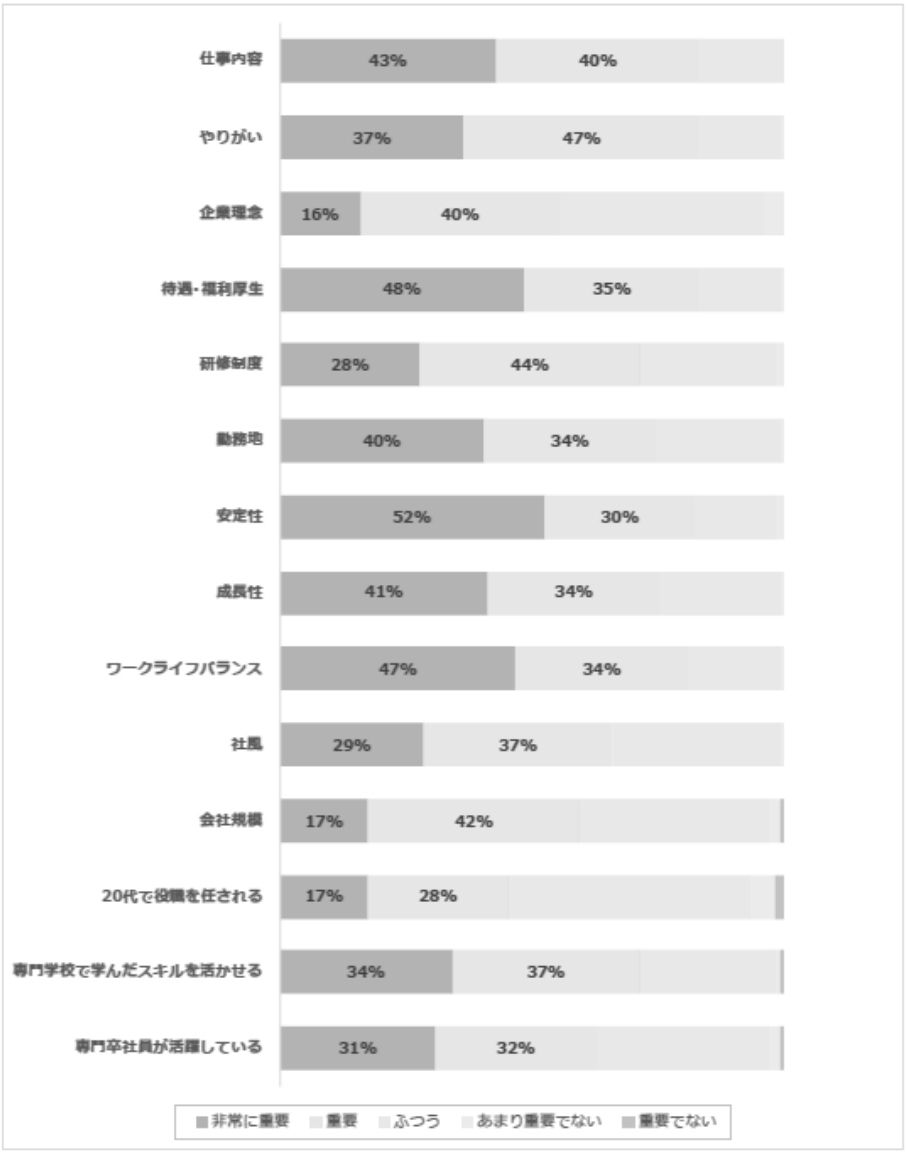
職種別の【志望度合い】を教えてください。



領域別の【志望度合い】を教えてください。



就職先を選ぶ上での【重要度合い】を教えてください。



「非常に重要」「重要」を見てみると「仕事内容、８３％」「やりがい、８４％」「待遇・福利厚生、８３％」「安定性、８２％」「ワークライフバランス、８１％」といったところが関心度が高かった

６．診断アプリ開発

高校生の興味・関心に応じて、おすすめの体験メニューが選定される診断アプリを開発。分野にとらわれず、様々なメニューを体験することを可能とする。知らない分野への興味を促すことが見込める。

・設問の回答選択数は５択で構成

・設問数は１１問

・１１問の設問すべてに回答すると、おすすめの体験メニューに導くアプリ。体験メニューは、自動車整備士分野、建築分野、インテリア分野、情報＋ＩｏＴ分野、ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）分野、環境分野の６職業分野各４コンテンツ計２４コンテンツのメニューの中から回答傾向によって提案される。

【トップ画面】



【利用説明】



【診断開始画面】



【体験メニュー提案】



第３章

本年度のまとめと次年度へ向けて

第３章 本年度のまとめと次年度へ向けて

１．本年度の取り組み結果

本年度は、下記の取り組みを行った。

（１）企業・高等学校ヒアリング考察

本事業の取り組みをはじめ、メタバース、イメージ動画、実証授業（体験授業）について企業・高等学校にヒアリングを行った。

■自動車整備分野：

学生が様々な分野をメタバースやイメージ動画を通じて体験しながら自動車整備の入り口から段階的に将来像を具体的にイメージできる流れは、視野の拡大や進路選択の納得感、興味・関心を高めていく、また、専門学校１年生においては、成長の実感や自身につながるとともに、学習の姿勢を見直す機会となることができる。

さらに、高校生にとっては年齢の近い先輩や実体験に触れることで自身の将来像を具体的にイメージしやすくなり、ＯＢ・ＯＧとの交流を含めた取り組みは双方にとってメリットが大きい。

■建築分野：

段階的に体験を重ねながら仕事や学びへの理解を深めていける流れ、ものづくりの楽しさや暮らしに結びついたイメージを持てる体験や身近な先輩のリアルな話を通じて、授業内容と仕事とのつながりを具体的にイメージできる点、専門学校生（ＯＢ・ＯＧ）と高校生の交流は、気軽に相談できる機会や相互の刺激につながるなど双方にとってメリットが大きく、将来を考える上で有意義な取り組みであると考える。

一方、メタバースやイメージ動画で分野への興味を喚起する手段として有効であるが、内容を工夫しながら継続的に更新していくことが課題になると考える。

■インテリア分野：

高校生１年生の段階からパソコンの活用、チームでの検討などを通した様々な視点や発想に触れながら学ぶ体験的な流れは、分野への興味・関心を促し理解を深めるとともに、ものづくりの楽しさや仕事の具体的なイメージが持てるので、メタバースやイメージ動画についても、分野の魅力を伝え興味を持たせる手段として一定の効果が期待できる。

さらに、専門学校生（ＯＢ・ＯＧ）との交流は、高校生にとって将来の目標を具体的にイメージでき、気軽に相談できる機会となる点でメリットが大きく、卒業生にとっても自身の仕事や学びへの姿勢を見直す契機となるなど、双方にとって有意義な取り組みであると考える。

■情報（ＩＴ／ＩｏＴ）分野

高校１年生の段階からメタバースやイメージ動画といった分野への興味・関心の喚起からステップを踏みながら様々な分野へ体験を通して仕事のイメージを持たせながらアウトプットを含めた学びを深められる内容が一定の評価がされていると考える。

また、専門学校生（ＯＢ・ＯＧ）と高校生の交流は、双方の意識向上につながる有意義な取り組みであると考えられる。

■ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）分野

高校１年生の段階からメタバースやイメージ動画を通して幅広い分野を体験し、興味・関心を高めるきっかけづくりから段階的に進めていく流れになっており、自ら作ったものが動くプログラミング体験などは、仕事への理解や将来のイメージ形成につながるものとして一定の評価できると考える。

また、専門学校１年生向けでは、年齢の近い先輩の話を通じて学習と仕事を結び付ける具体的な話は学習意欲向上につながると思われる。

さらに、専門学校生（ＯＢ・ＯＧ）と高校生の交流は、高校生の目標意識の向上と専門学校生の自覚の醸成につながるなど、双方にとってメリットが大きい取り組みと思う。

■環境分野

高校１年生の段階からメタバースやイメージ動画といったものを取り入れ、分野への意識付けや興味・関心を高めることができる手段として有効であるが、企業見学なども取り入れた内容が求められている。

その中で今年度実施したＳＤＧｓや地方創生を取り入れたグループワークによる体験型授業は社会貢献へのイメージを学生に与えることができるため、一定の評価があると考える。専門学校生（ＯＢ・ＯＧ）と高校生の交流は双方にとってメリットが大きく、学習意欲や将来への意識向上に寄与するものであると考える。

■高等学校ヒアリング結果

メタバースやイメージ動画を活用することで、生徒が分野に興味を持ちやすく、ハードルを下げた動機づけとして有効であると評価された。特に「ワクワク」から「リアル」へと段階的に学びを深める構成は理解しやすく、実習や体験を通じて職業理解や進路意識の向上につながる点が良いとされた。

また、実習体験や卒業生の還元を含め、高校での学びが専門学校でどのように発展し、資格取得や就職へつながるのかを可視化できる点も大きな意義があり、入口から出口まで一貫した学びを提供できる仕組みとして一定の評価が得られた。

５年間という期間を活かし、専門知識だけでなくマナー教育など社会人基礎力の育成も含めるとより実践的な教育効果が生まれるとの指摘もあった。

また、専門学校生（ＯＢ・ＯＧ）と高校生の交流については、年齢の近い先輩からリアルな経験を聴くことで進路イメージが具体化し、高校生にとって良い刺激になるとともに、専門学校生にとっても学びの整理や成長につながる双方にとって意義のある取り組みとの評価も得られた。

高専連携授業の実証実験の協力や授業への導入面の課題として、工業・テク分野への関心を持つ生徒が少ないことに加え、行事や実習による時間確保の難しさ、人員や設備不足、時間割や日程調整の負担などが主な課題として挙げられた。また、学校のコース編成や参加率の確保、遠方校との連携もハードルが高い結果であった。

導入には難しさがある一方で、プログラムには業界や仕事のリアルを伝える内容や、企業連携・実践的な体験など、高校では経験しにくい専門分野の紹介やプログラミング・生成ＡＩなどの体験を通じた専門的な学びが求められている。

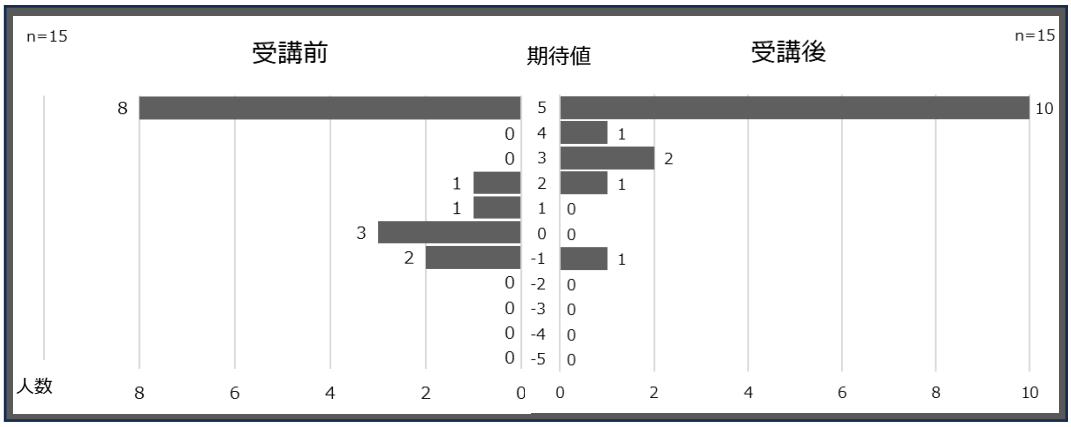
高校から専門学校までを通して段階的に学びを深められ、早期から様々な専門分野に触れることが可能であり、進路のミスマッチ防止やキャリア形成の質向上に寄与する取り組みフォローの必要性も指摘されながらも受け入れたい姿勢が見えた結果となったと考える。

（２）実証実験受講前と受講後の比較

自動車整備分野、建築分野、インテリア分野、情報＋ＩｏＴ分野、ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）分野、環境分野の６職業分野の授業で、専門学校１年生を対象に専門の学びの意味付けをテーマに実証実験を行った。

【自動車整備分野】

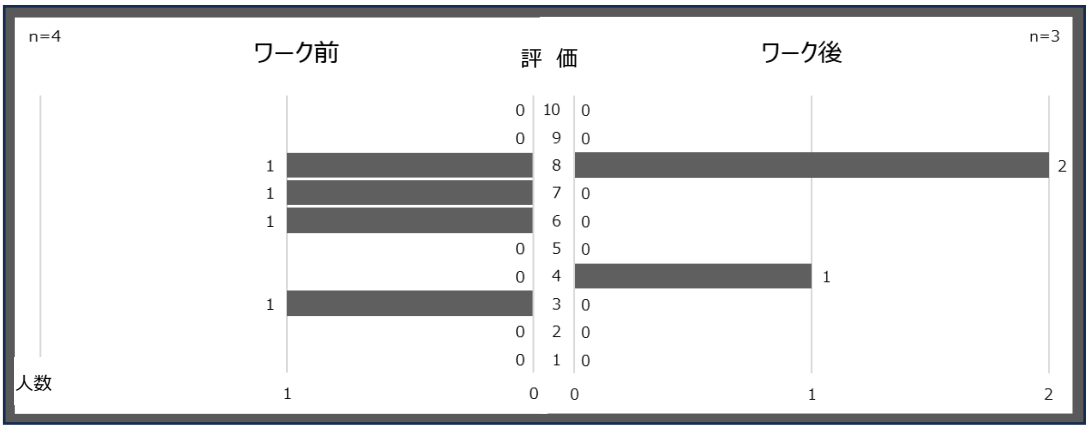
《高校生》



受講後期待値が上がった

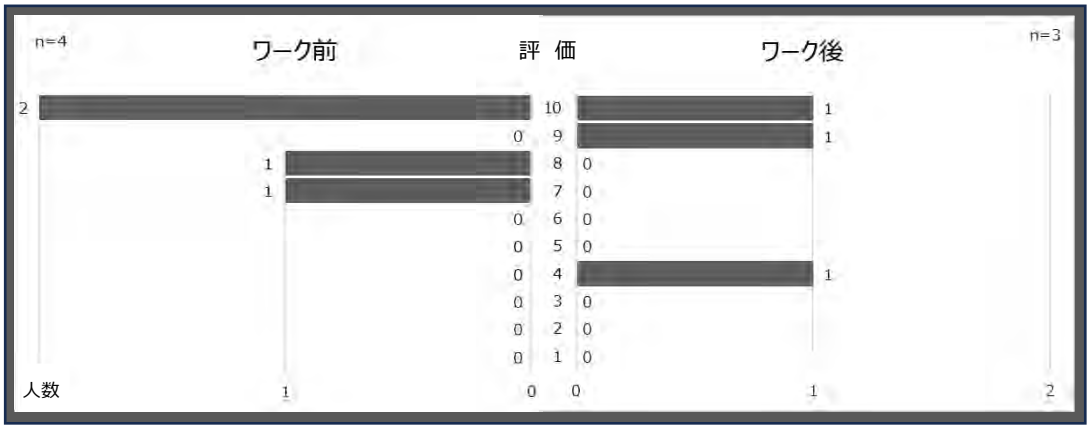
《専門学校１年生》

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある



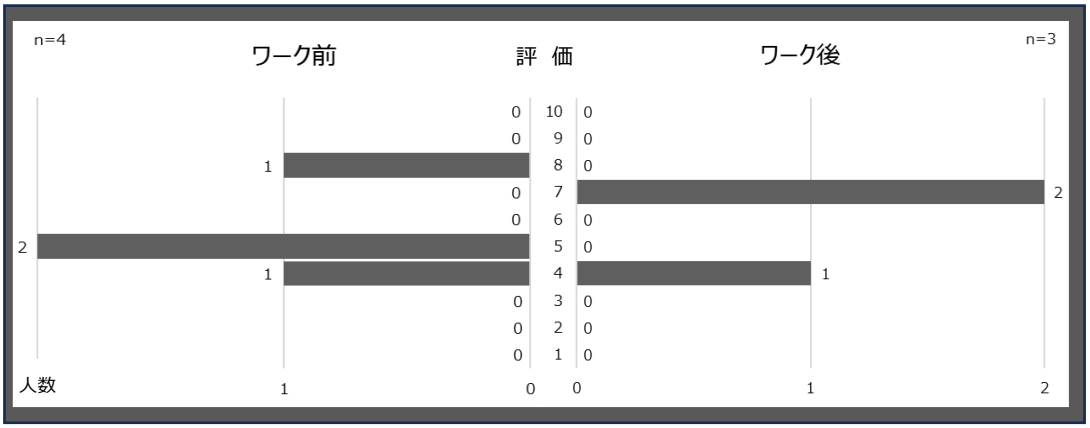
評価７以上で比較：
・ワーク前２人（評価７（１）・８（１））
・ワーク後２人（評価８（２））
ワーク後、評価が上がった

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある



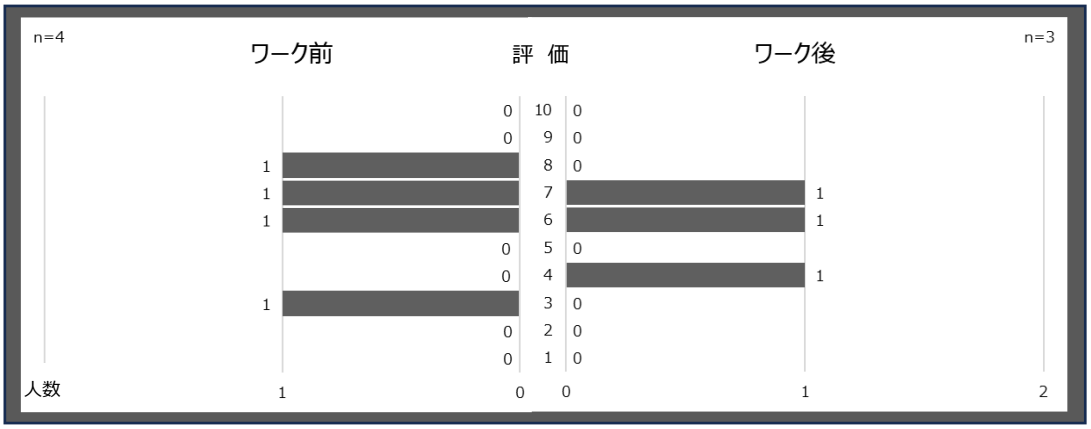
評価７以上で比較：
・ワーク前４人（評価７（１）・８（１）・１０（２））
・ワーク後２人（評価９（１）・１０（１））
ワーク後、評価が下がった

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている



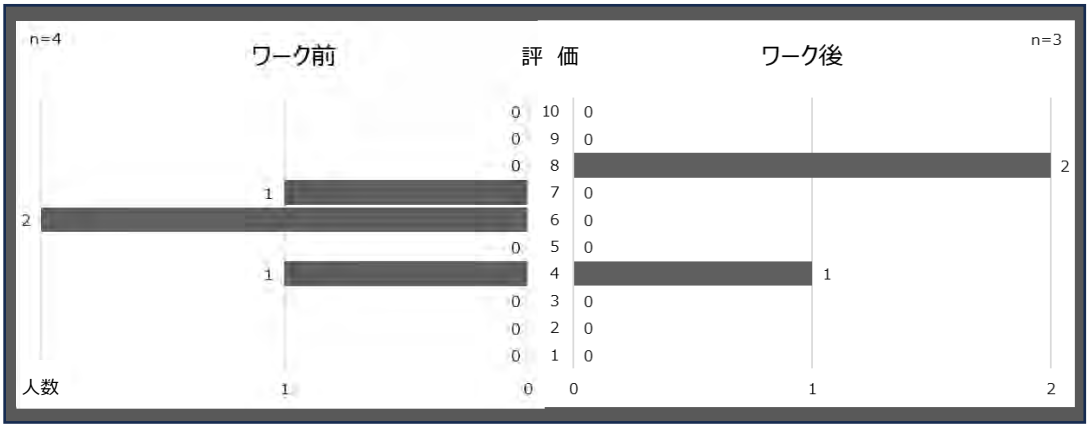
評価７以上で比較：
・ワーク前１人（評価８（１））
・ワーク後２人（評価７（２））
ワーク後、人数増により評価が上がった

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている



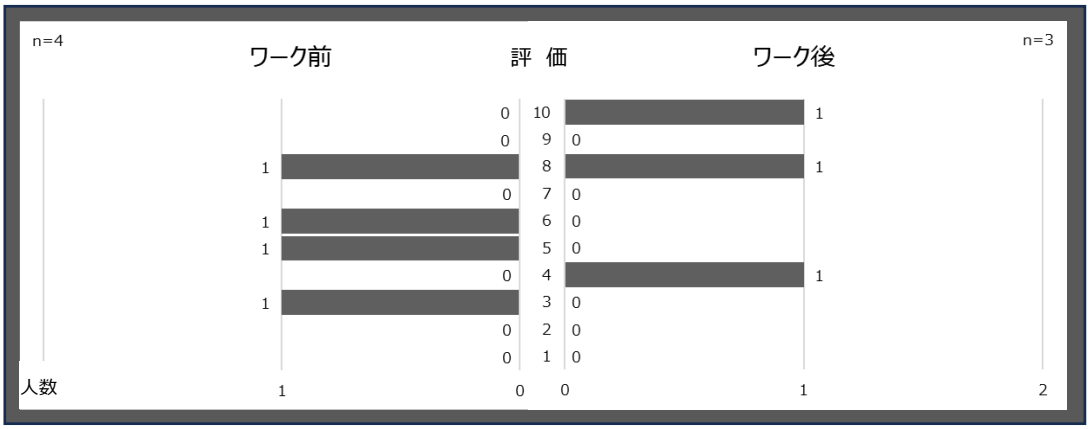
評価７以上で比較：
・ワーク前２人（評価７（１）・８（１））
・ワーク後１人（評価７）
ワーク後、評価が下がった

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある



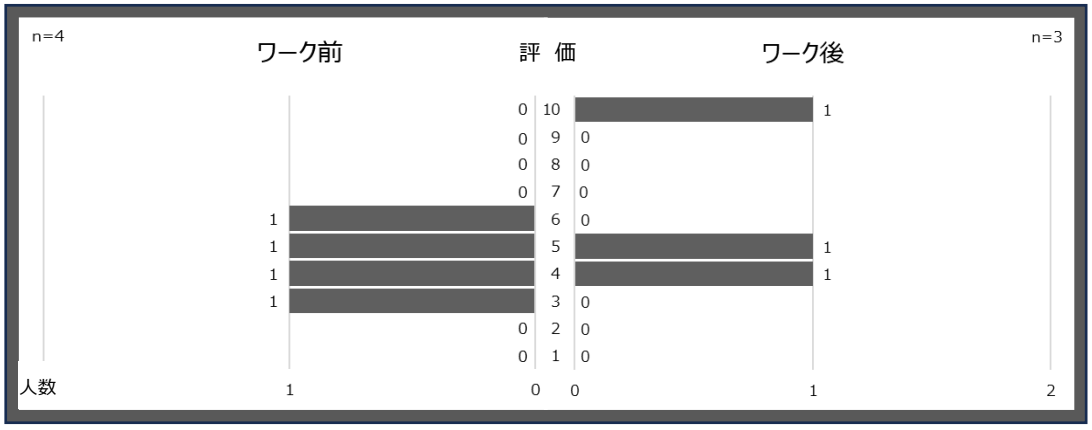
評価７以上で比較：
・ワーク前１人（評価７（１））
・ワーク後２人（評価８（２））
ワーク後、評価が上がった

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる



評価７以上で比較：
・ワーク前１人（評価８（１））
・ワーク後２人（評価８（１）・１０（１））
ワーク後、評価が上がった

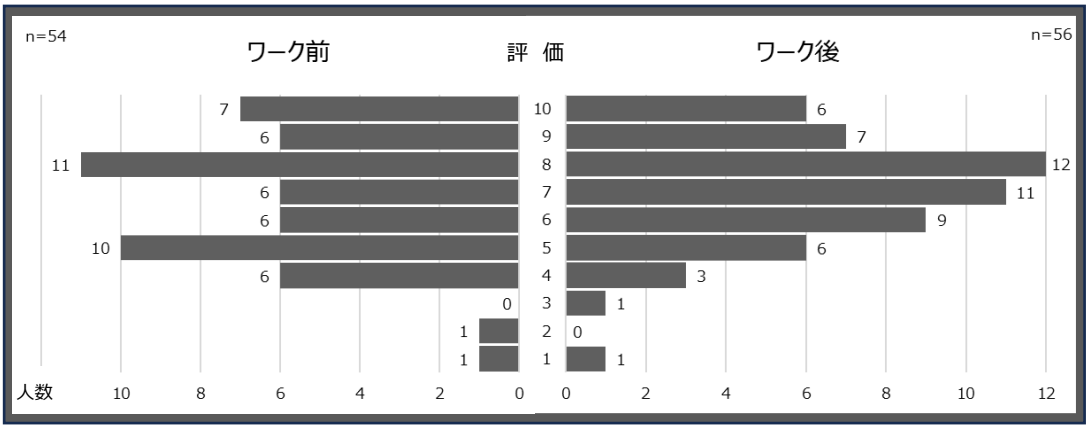
■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている



評価７以上で比較：
・ワーク前０人
・ワーク後１人（評価１０（１））
ワーク後、評価が上がった

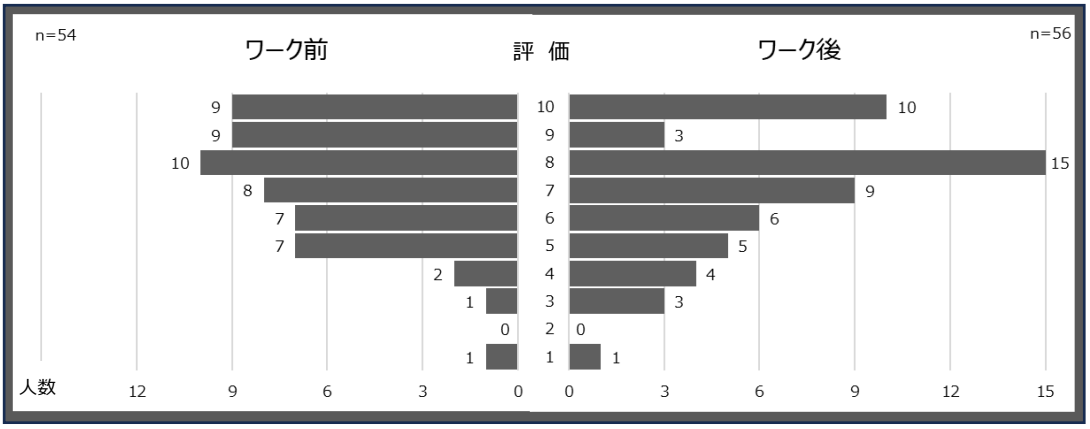
【建築分野】

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある



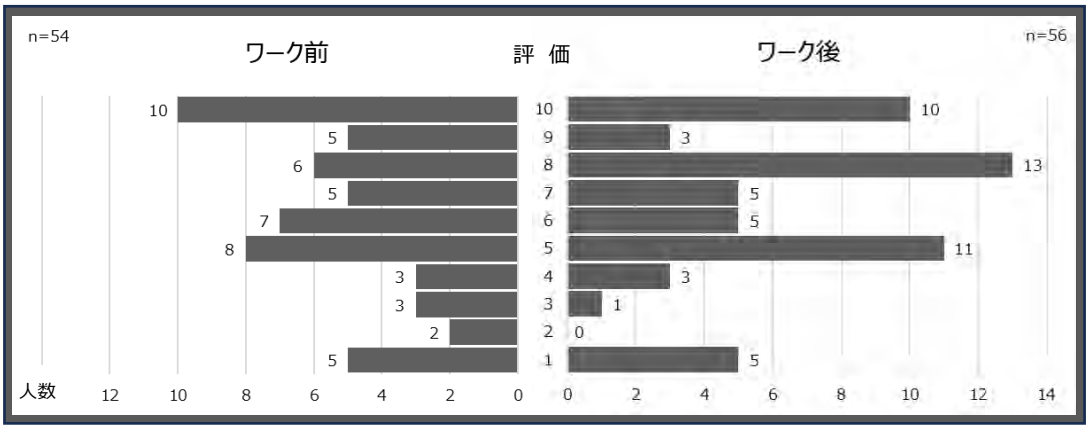
評価７以上で比較：
・ワーク前３０人（評価７（６）・８（１１）・９（６）・１０（７））
・ワーク後３６人（評価７（１１）・８（１２）・９（７）・１０（６））
ワーク後、評価が上がった

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある



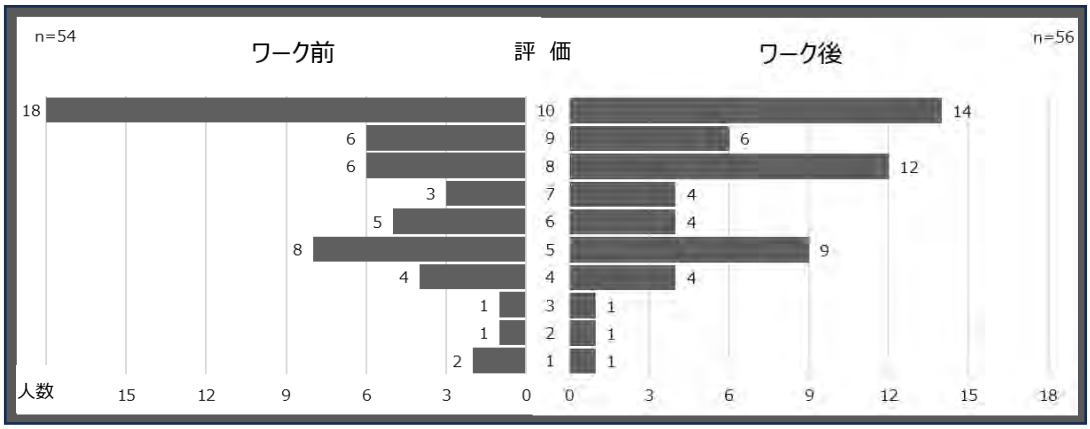
評価７以上で比較：
・ワーク前３６人（評価７（８）・８（１０）・９（９）・１０（９））
・ワーク後３７人（評価７（９）・８（１５）・９（３）・１０（１０））
ワーク後人数は多くなったが。高評価部分を比較すると評価が下がった

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている



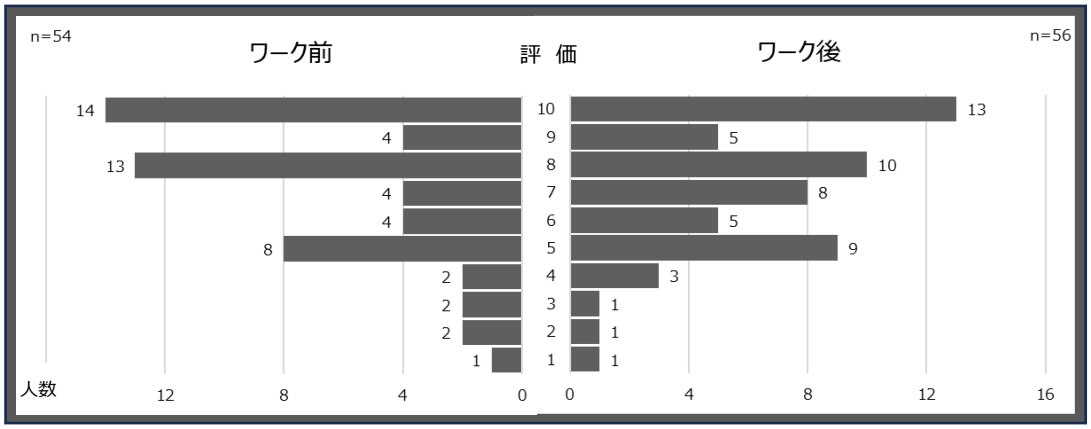
評価７以上で比較：
・ワーク前２６人（評価７（５）・８（６）・９（５）・１０（１０））
・ワーク後３１人（評価７（５）・８（１３）・９（３）・１０（１０））
ワーク後、評価が上がった

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている



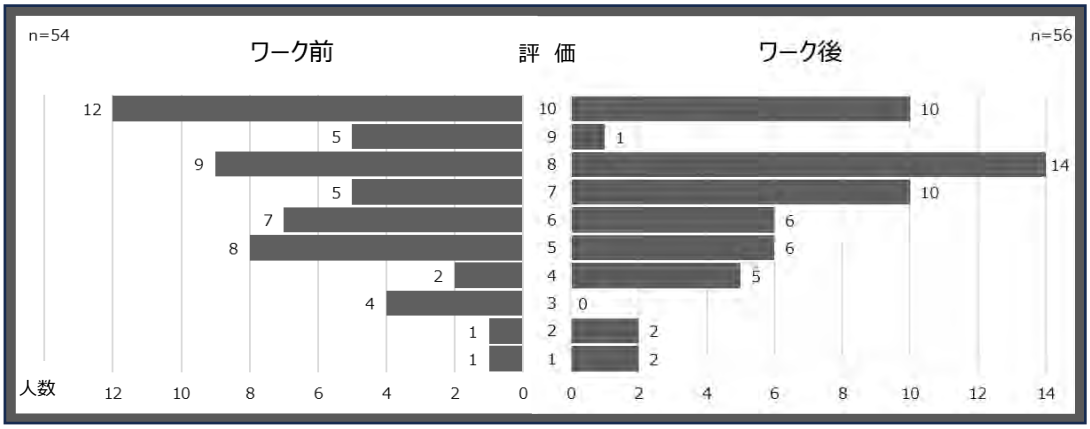
評価７以上で比較：
・ワーク前３３人（評価７（３）・８（６）・９（６）・１０（１８）
・ワーク後３６人（評価７（４）・８（１２）・９（６）・１０（１４））
ワーク後高評価部分の人数が増え、評価が上がった

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある



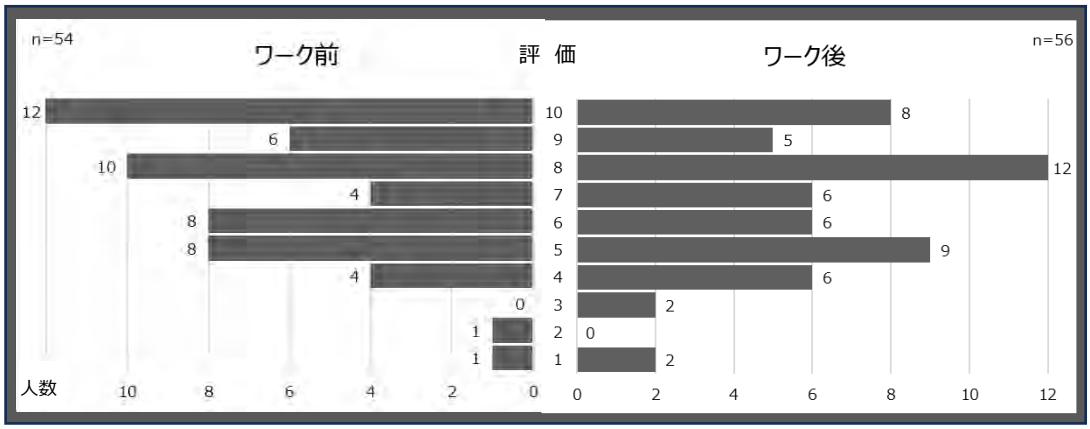
評価７以上で比較：
・ワーク前３５人（評価７（４）・８（１３）・９（４）・１０（１４））
・ワーク後３６人（評価７（８）・８（１０）・９（５）・１０（１３））
ワーク後、評価が上がった

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる



評価７以上で比較：
・ワーク前３１人（評価７（５）・８（９）・９（５）・１０（１２））
・ワーク後３５人（評価７（１０）・８（１４）・９（１）・１０（１０））
ワーク後、評価が上がった

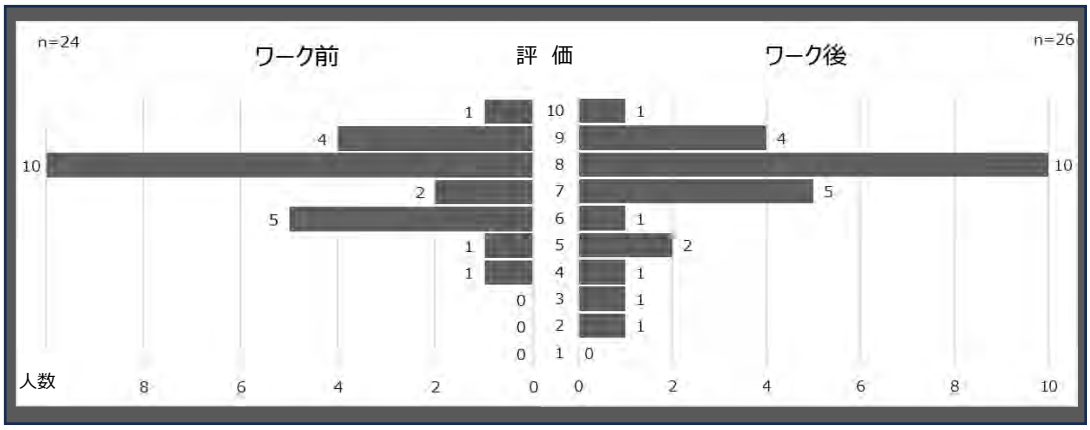
■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている



評価７以上で比較：
・ワーク前３２人（評価７（４）・８（１０）・９（６）・１０（１２））
・ワーク後３１人（評価７（６）・８（１２）・９（５）・１０（８））
ワーク後、評価が下がった

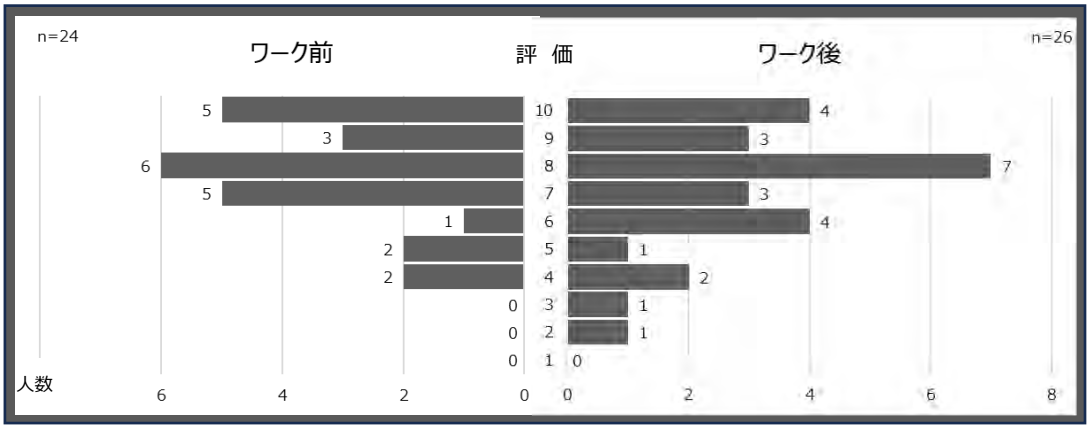
【インテリア分野】

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある



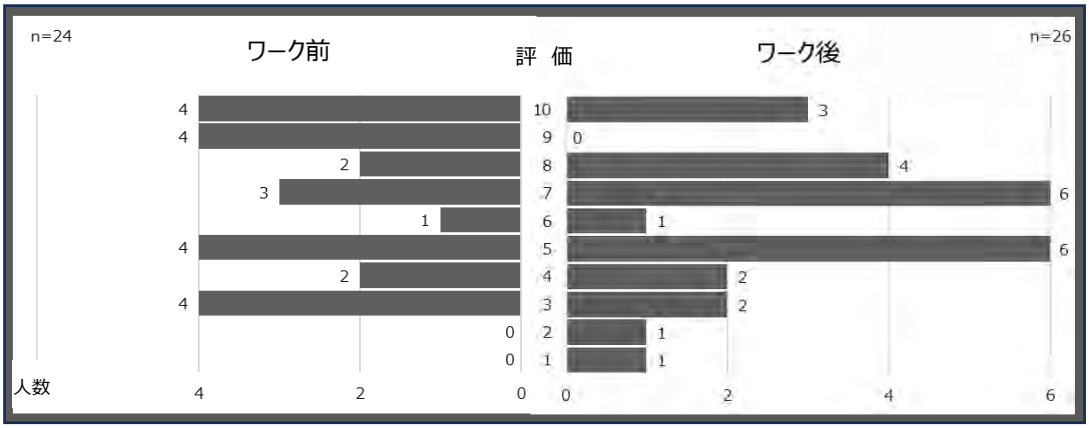
評価７以上で比較：
・ワーク前１７人（評価７（２）・８（１０）・９（４）・１０（１））
・ワーク後２０人（評価７（５）・８（１８）・９（４）・１０（１））
ワーク後、評価は上がった

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある



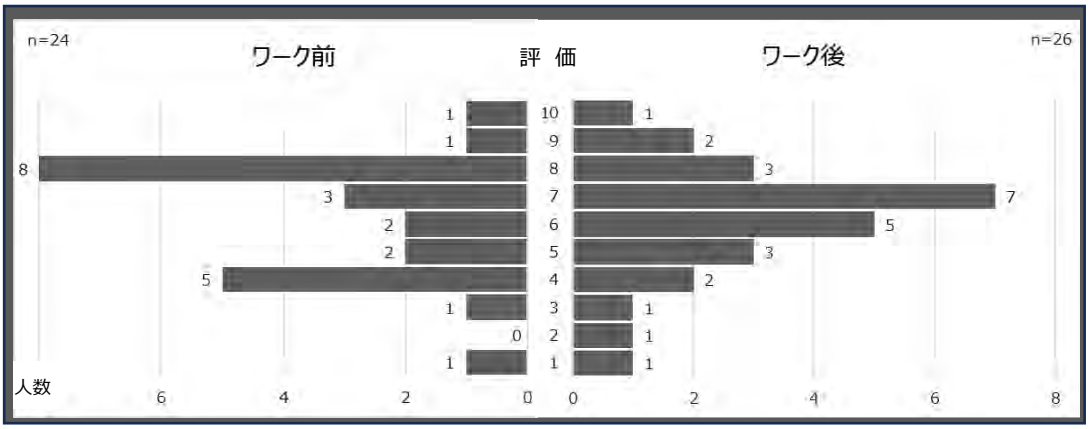
評価７以上で比較：
・ワーク前１９人（評価７（５）・８（６）・９（３）・１０（５））
・ワーク後１７人（評価７（３）・８（７）・９（３）・１０（４））
ワーク後、評価は下がった

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている



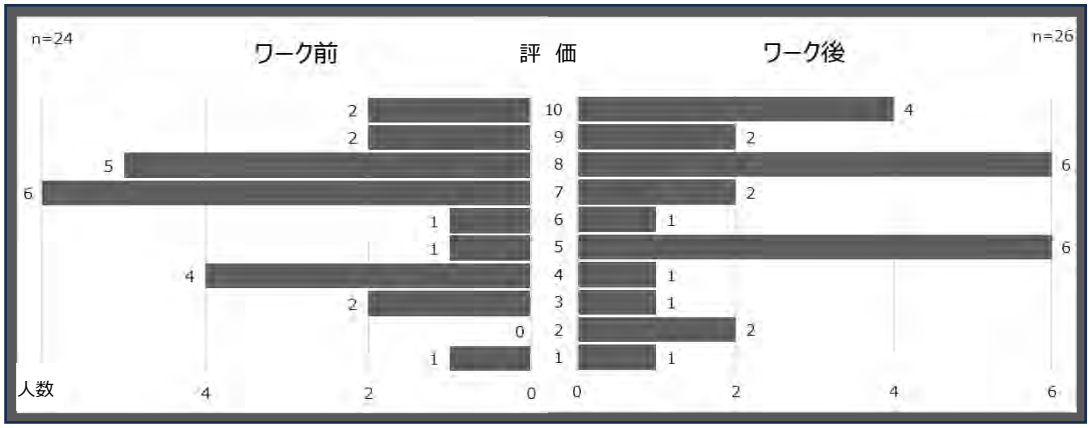
評価７以上で比較：
・ワーク前１３人（評価７（３）・８（２）・９（４）・１０（４））
・ワーク後１３人（評価７（６）・８（４）・９（０）・１０（３））
ワーク後、人数は同数だが、高評価部分を比較すると下がった

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている



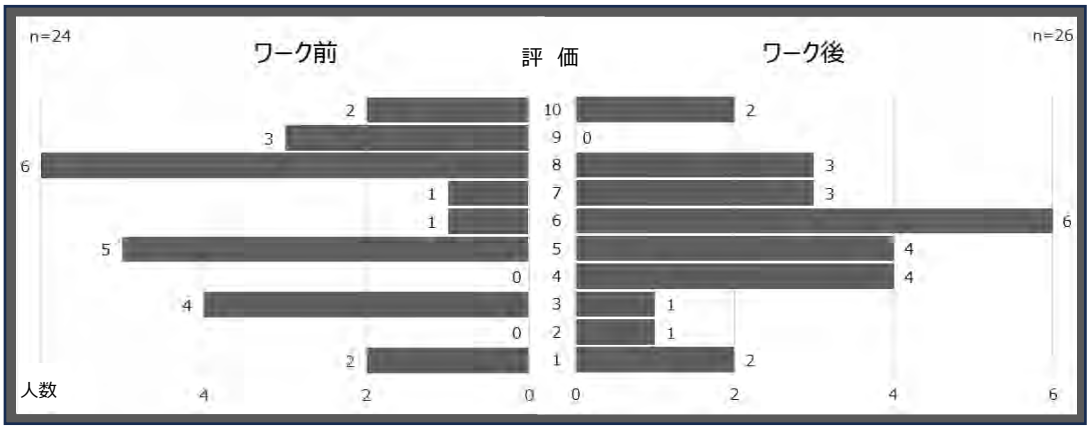
評価７以上で比較：
・ワーク前１３人（評価７（３）・８（８）・９（１）・１０（１））
・ワーク後１３人（評価７（７）・８（３）・９（２）・１０（１））
ワーク後、人数は同数であるが、高評価部分を比較すると下がった

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある



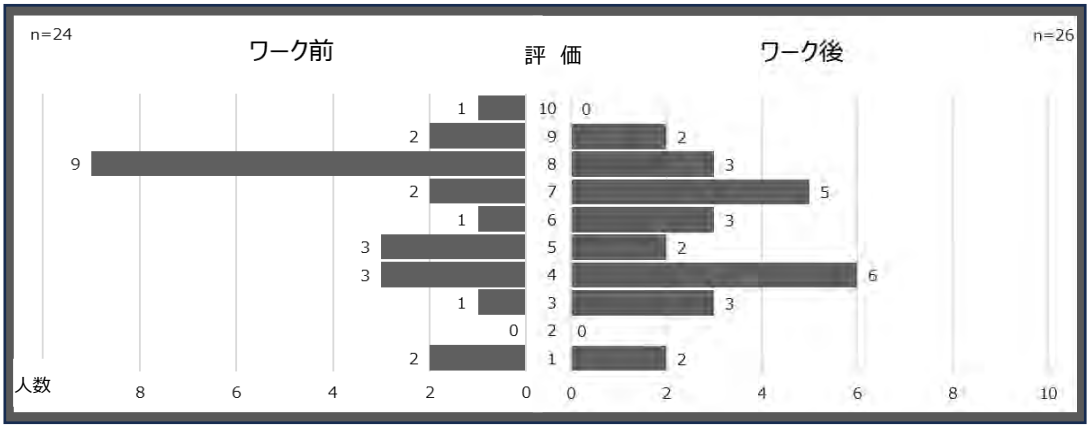
評価７以上で比較：
・ワーク前１５人（評価７（６）・８（５）・９（２）・１０（２））
・ワーク後１４人（評価７（２）・８（６）・９（２）・１０（４））
ワーク後、評価は人数では下がったが、高評価部分は上がった

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる



評価７以上で比較：
・ワーク前１２人（評価７（１）・８（６）・９（３）・１０（２））
・ワーク後８人（評価７（３）・８（３）・９（０）・１０（２））
ワーク後、評価は下がった

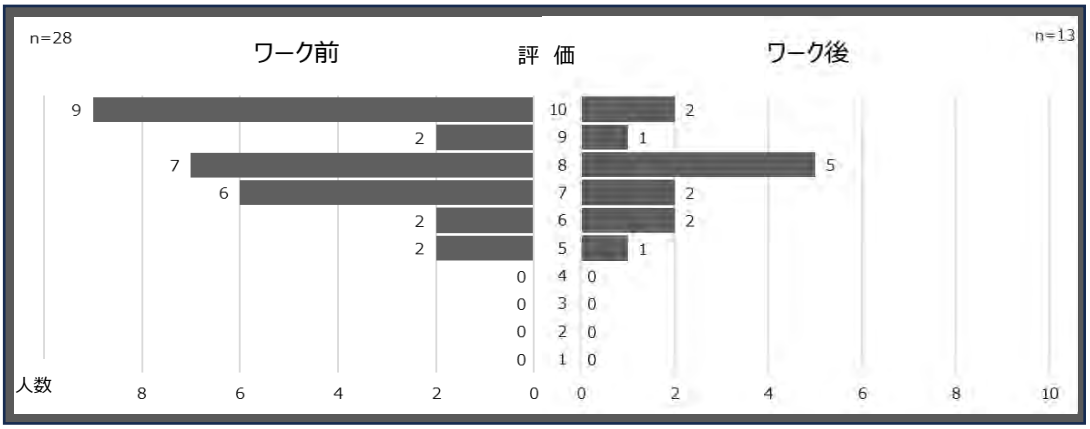
■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている



評価７以上で比較：
・ワーク前１４人（評価７（２）・８（９）・９（２）・１０（１））
・ワーク後１０人（評価７（５）・８（３）・９（２）・１０（０））
ワーク後、評価は下がった

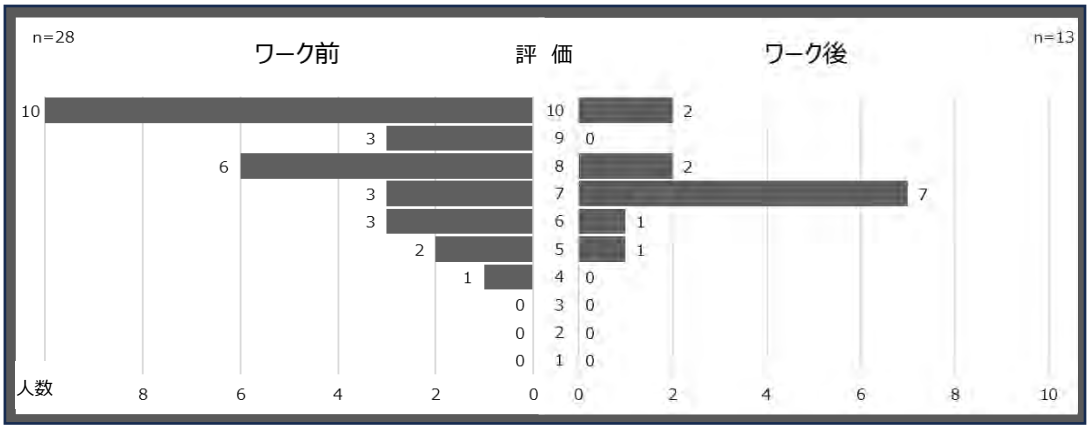
【情報（ＩＴ／ＩｏＴ）分野】

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある



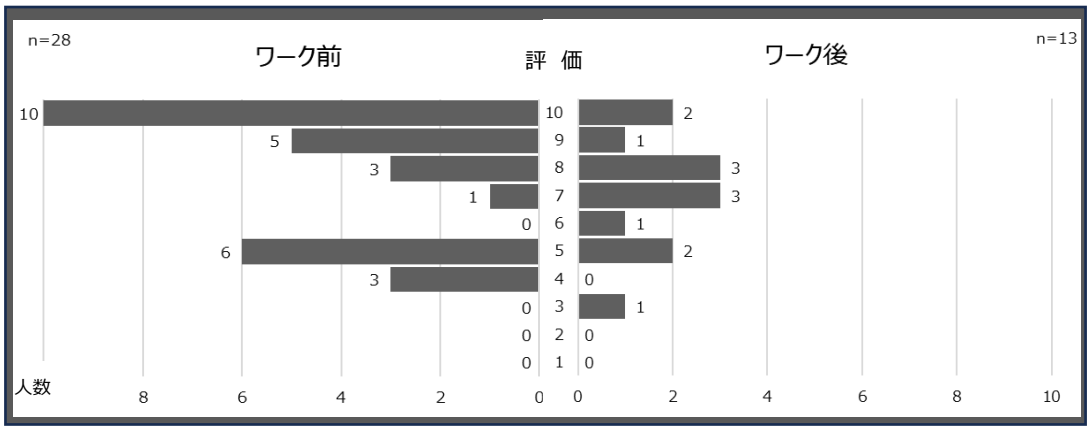
評価７以上で比較：
・ワーク前２４人（評価７（６）・８（７）・９（２）・１０（９））
・ワーク後１０人（評価７（２）・８（５）・９（１）・１０（２））
人数では比較が難しいため割合で比較すると、ワーク後約８．８％評価は下がった

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある



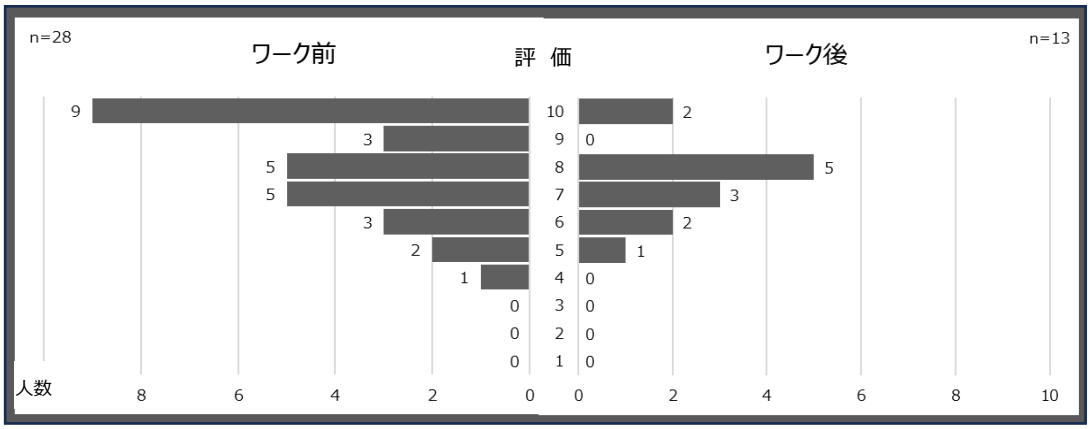
評価７以上で比較：
・ワーク前２２人（評価７（３）・８（６）・９（３）・１０（１０））
・ワーク後１１人（評価７（７）・８（２）・９（０）・１０（２））
人数では比較が難しいため割合で比較すると、ワーク後約６％評価は上がった

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている



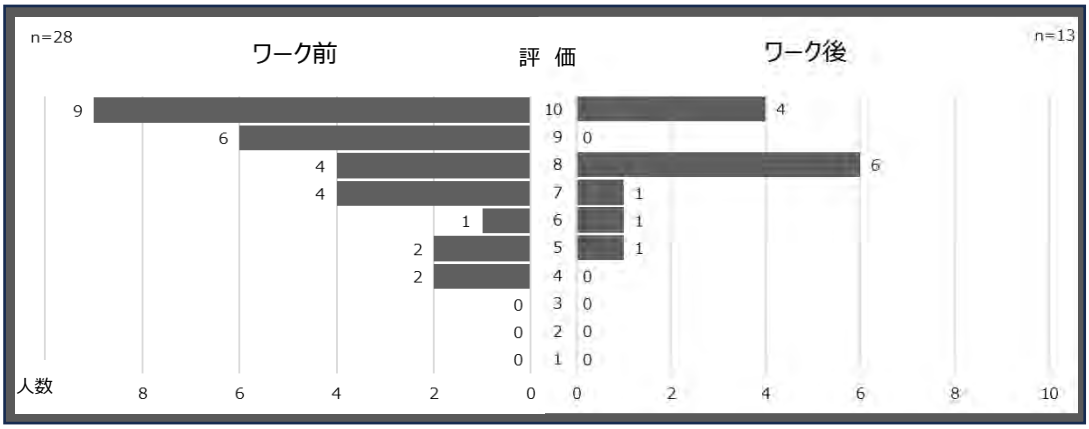
評価７以上で比較：
・ワーク前１９人（評価７（１）・８（３）・９（５）・１０（１０））
・ワーク後９人（評価７（３）・８（３）・９（１）・１０（２））
人数では比較が難しいため割合で比較すると、ワーク後約１．３％評価は上がった

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている



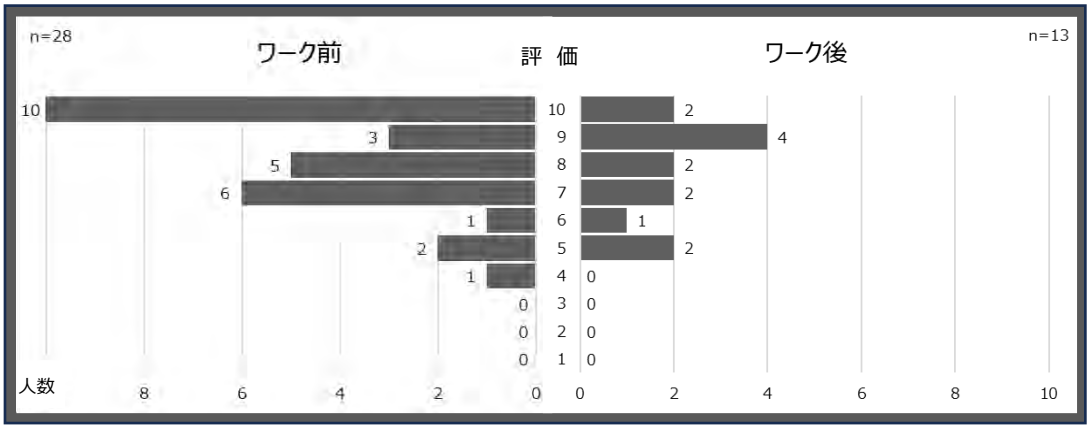
評価７以上で比較：
・ワーク前２２人（評価７（５）・８（５）・９（３）・１０（９））
・ワーク後１０人（評価７（３）・８（５）・９（０）・１０（２））
人数では比較が難しいため割合で比較すると、ワーク後約１．７%評価は下がった

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある



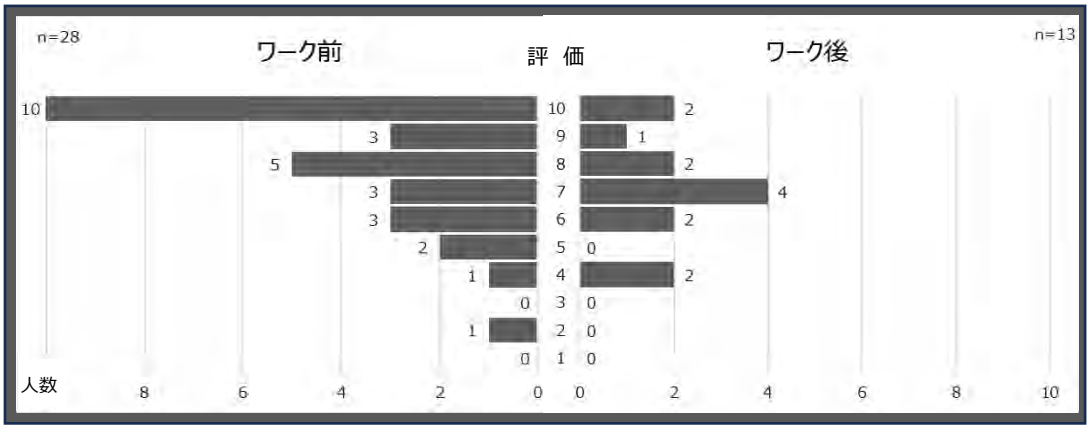
評価７以上で比較：
・ワーク前２３人（評価７（４）・８（４）・９（６）・１０（９））
・ワーク後１１人（評価７（１）・８（６）・９（０）・１０（４））
人数では比較が難しいため割合で比較すると、ワーク後約２．５%評価は上がった

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる



評価７以上で比較：
・ワーク前２４人（評価７（６）・８（５）・９（３）・１０（１０））
・ワーク後１０人（評価７（２）・８（２）・９（４）・１０（２））
人数では比較が難しいため割合で比較すると、ワーク後約８．８％評価は下がった

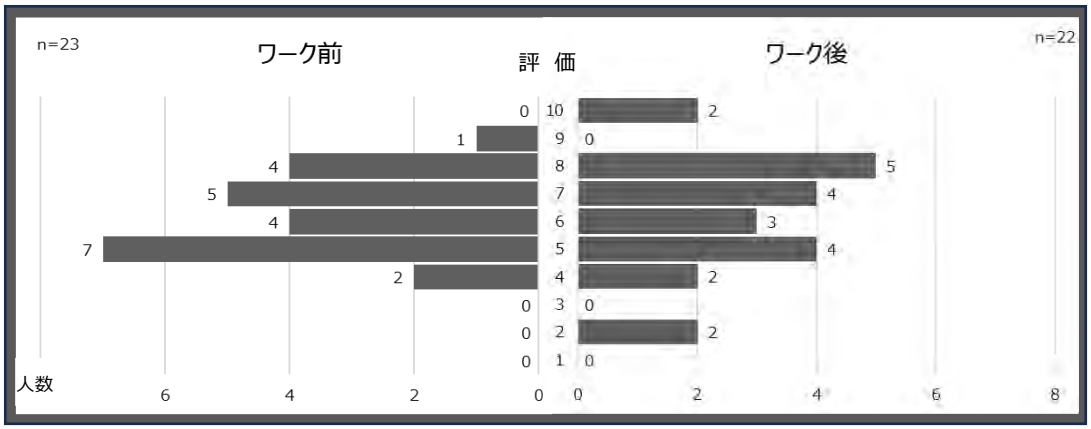
■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている



評価７以上で比較：
・ワーク前２１人（評価７（３）・８（５）・９（３）・１０（１０））
・ワーク後９人（評価７（４）・８（２）・９（１）・１０（２））
人数では比較が難しいため割合で比較すると、ワーク後約５．８％評価は下がった

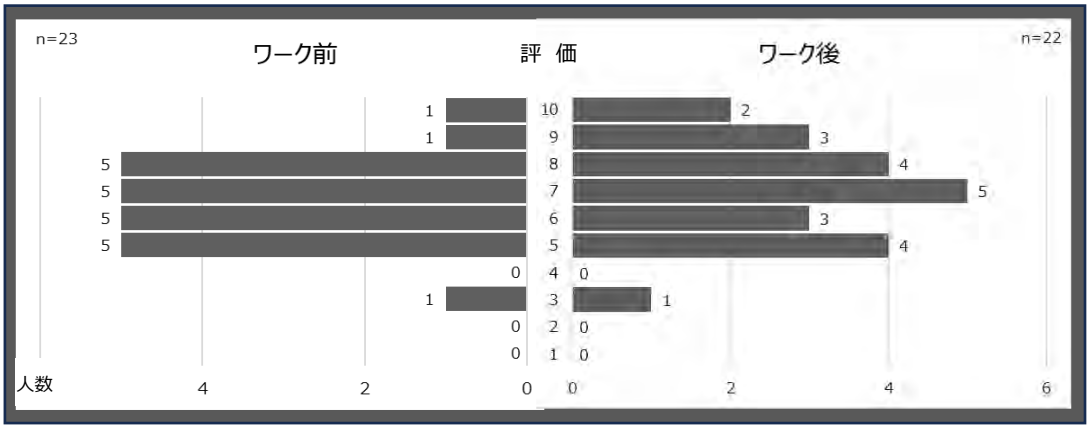
【ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）分野】

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある



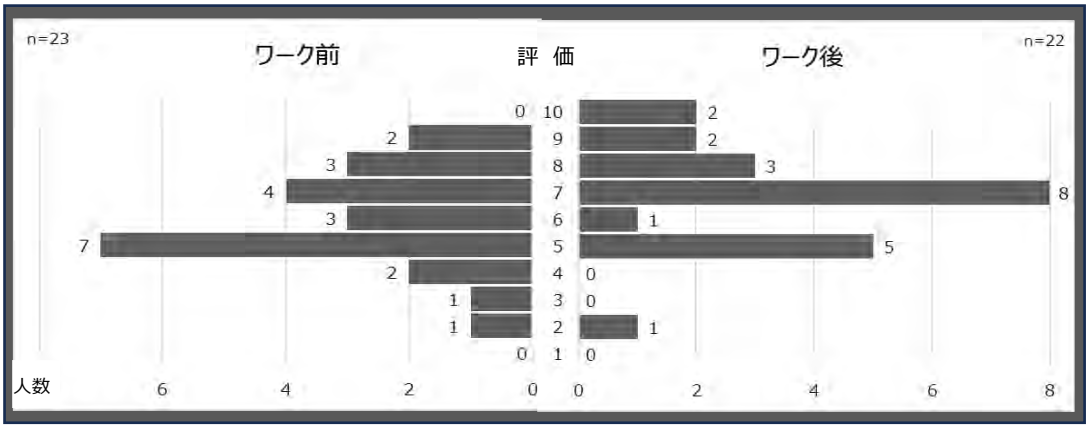
評価７以上で比較：
・ワーク前１０人（評価７（５）・８（４）・９（１）・１０（０））
・ワーク後１１人（評価７（４）・８（５）・９（０）・１０（２））
ワーク後、評価は上がった

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある



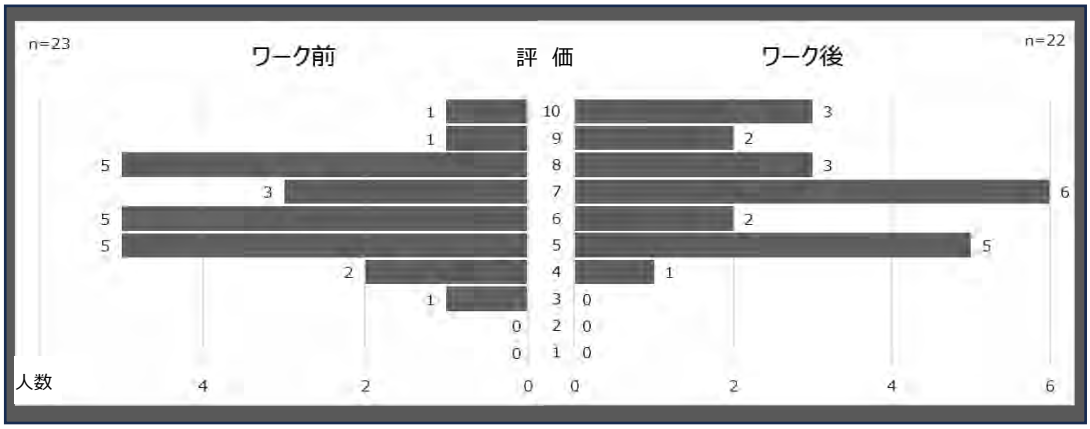
評価７以上で比較：
・ワーク前１２人（評価７（５）・８（５）・９（１）・１０（１））
・ワーク後１４人（評価７（５）・８（４）・９（３）・１０（２））
ワーク後、評価は下がった

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている



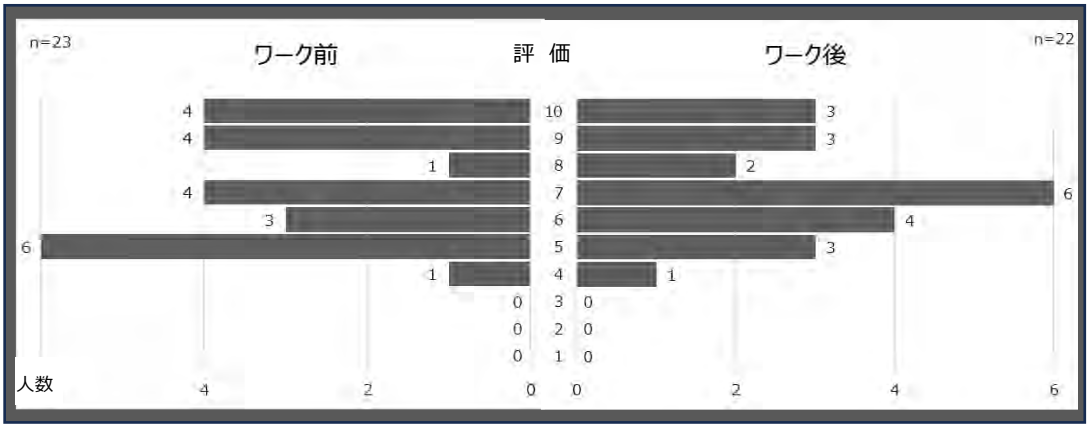
評価７以上で比較：
・ワーク前９人（評価７（４）・８（３）・９（２）・１０（０））
・ワーク後１５人（評価７（８）・８（３）・９（２）・１０（２））
ワーク後、評価は上がった

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている



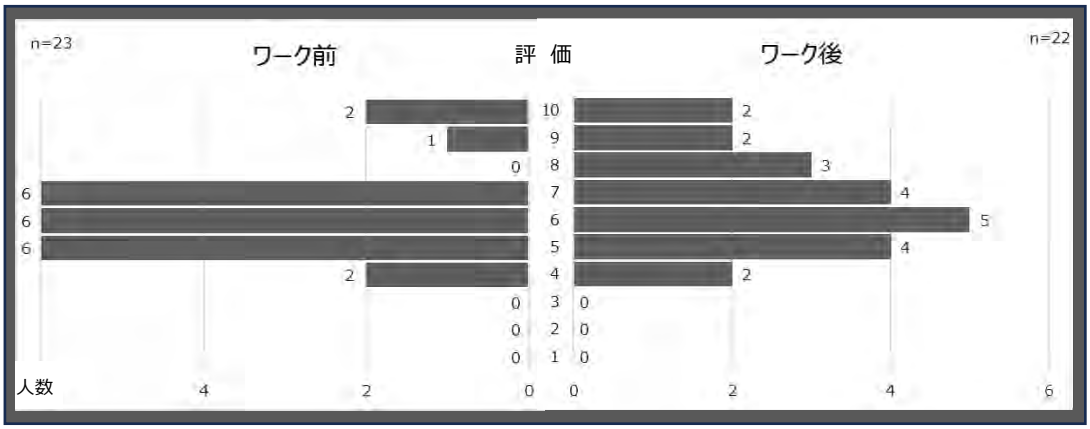
評価７以上で比較：
・ワーク前１０人（評価７（３）・８（５）・９（１）・１０（１））
・ワーク後１４人（評価７（６）・８（３）・９（２）・１０（３））
ワーク後、評価は上がった

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある



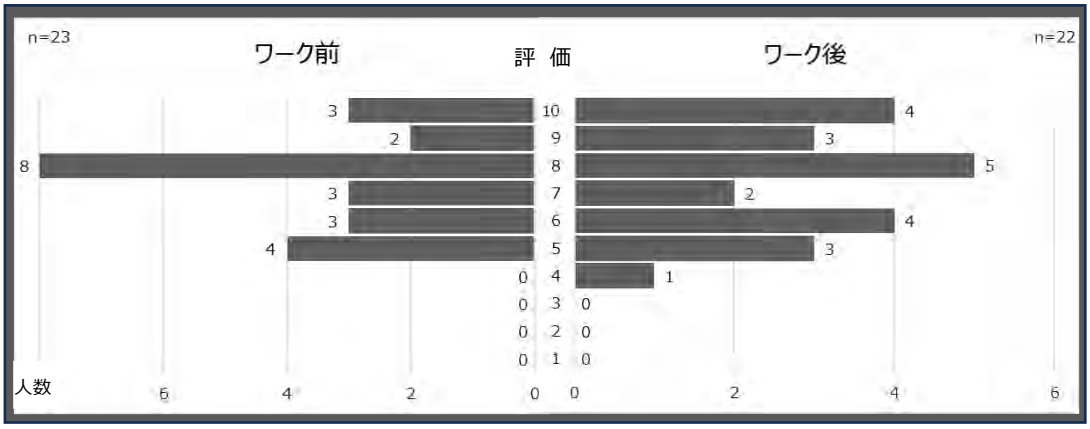
評価７以上で比較：
・ワーク前１３人（評価７（４）・８（１）・９（４）・１０（４））
・ワーク後１４人（評価７（６）・８（２）・９（３）・１０（３））
ワーク後人数は増えたが、高評価部分で評価は下がった

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる



評価７以上で比較：
・ワーク前９人（評価７（６）・８（０）・９（１）・１０（２））
・ワーク後１１人（評価７（４）・８（３）・９（２）・１０（２））
ワーク後、評価は上がった

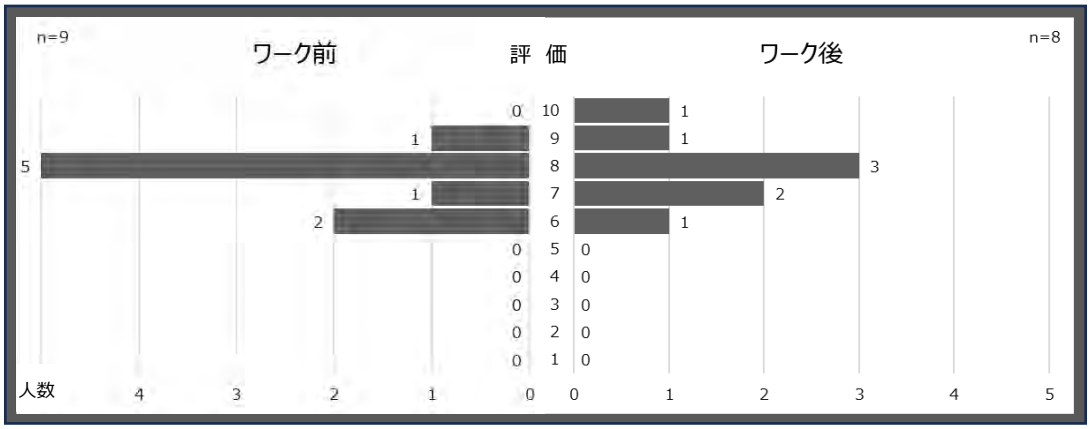
■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている



評価７以上で比較：
・ワーク前１６人（評価７（３）・８（８）・９（２）・１０（３））
・ワーク後１４人（評価７（２）・８（５）・９（３）・１０（４））
ワーク後、評価は下がった

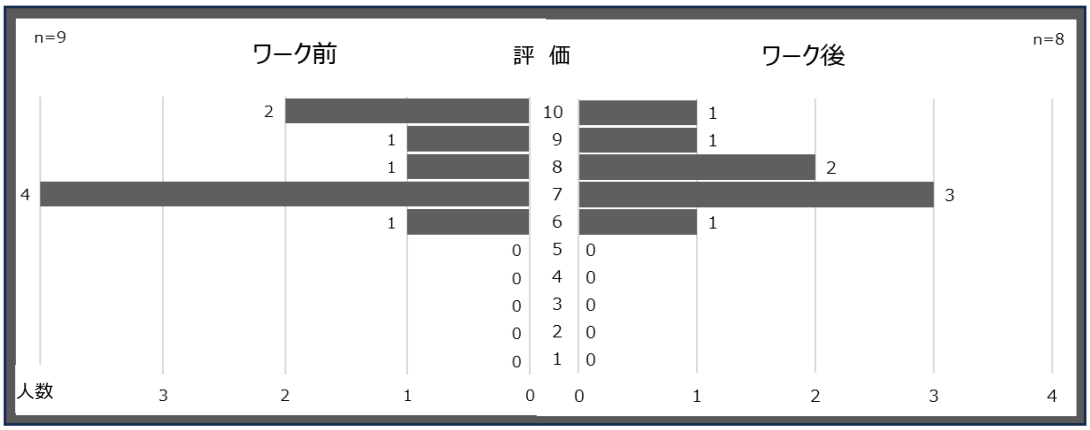
【環境分野】

■専門学校入学～現在までに学んだ知識・スキルが身についている実感がある



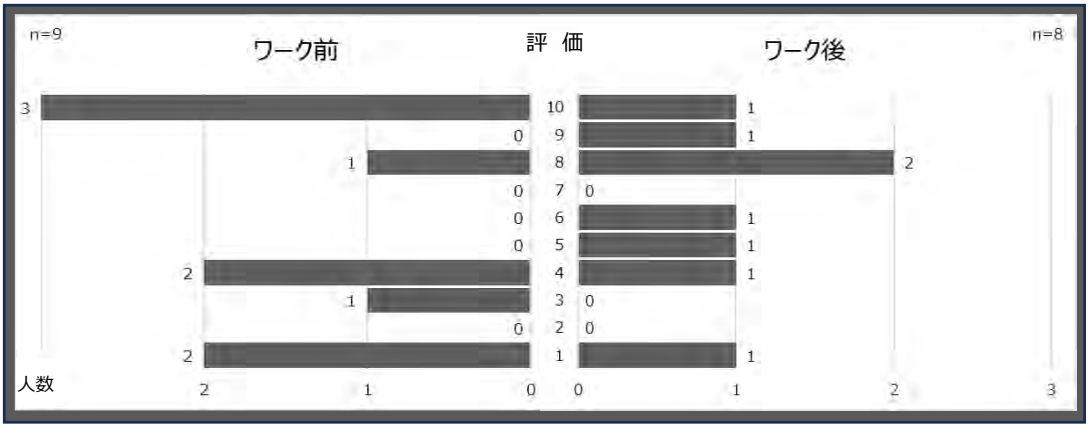
評価７以上で比較：
・ワーク前７人（評価７（１）・８（５）・９（１）・１０（０））
・ワーク後７人（評価７（２）・８（３）・９（１）・１０（１））
ワーク後人数は同数であったが、高評価部分を比較すると評価は上がった

■現在勉強していることが自分の将来につながるイメージが明確にある



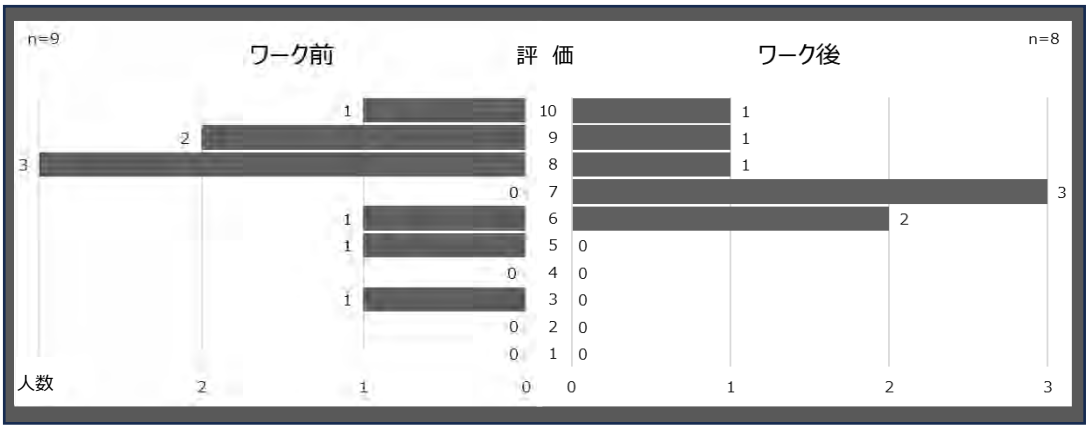
評価７以上で比較：
・ワーク前４人（評価７（４）・８（１）・９（１）・１０（２））
・ワーク後４人（評価７（３）・８（２）・９（１）・１０（１））
ワーク後人数は同数であったが、高評価部分を比較すると評価は下がった

■専門学校卒業後に就職する業界・職種の選択肢・候補を複数持っている



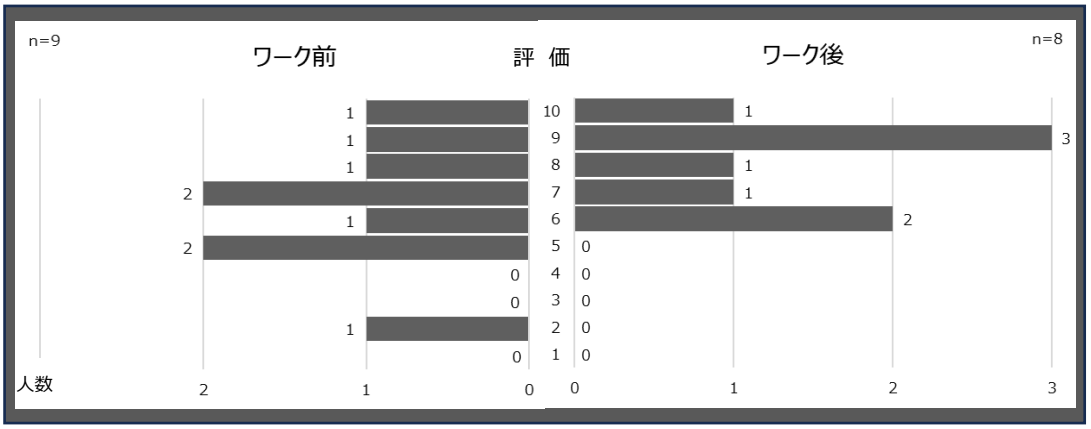
評価７以上で比較：
・ワーク前４人（評価７（０）・８（１）・９（０）・１０（３））
・ワーク後４人（評価７（０）・８（２）・９（１）・１０（１））
ワーク後人数は同数であったが、高評価部分を比較すると評価は下がった

■自分が将来どのような仕事をしたいか（どんな業界で/どんな職種で/何を実現したいか など）を具体的にイメージできている



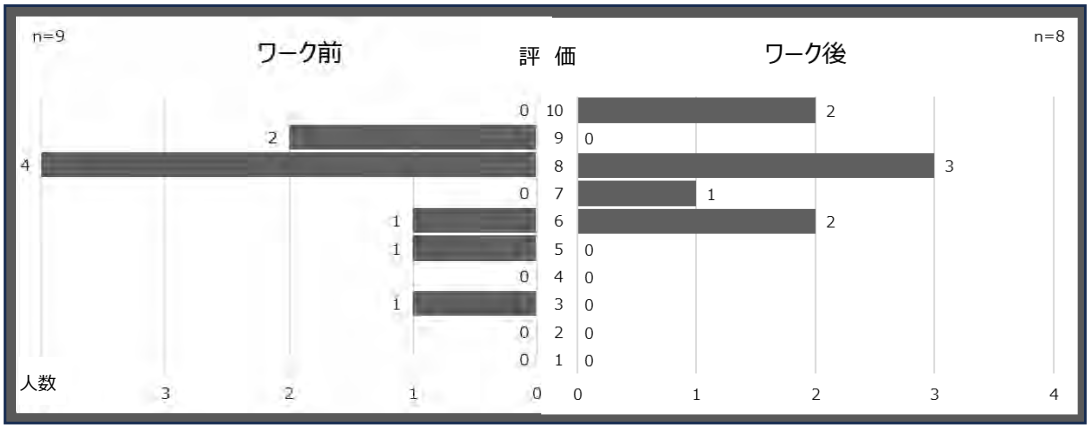
評価７以上で比較：
・ワーク前６人（評価７（０）・８（３）・９（２）・１０（１））
・ワーク後６人（評価７（３）・８（１）・９（１）・１０（１））
ワーク後人数は同数であったが、高評価部分を比較すると評価は下がった

■自分が将来仕事を通じて世の中の役に立てるイメージがある



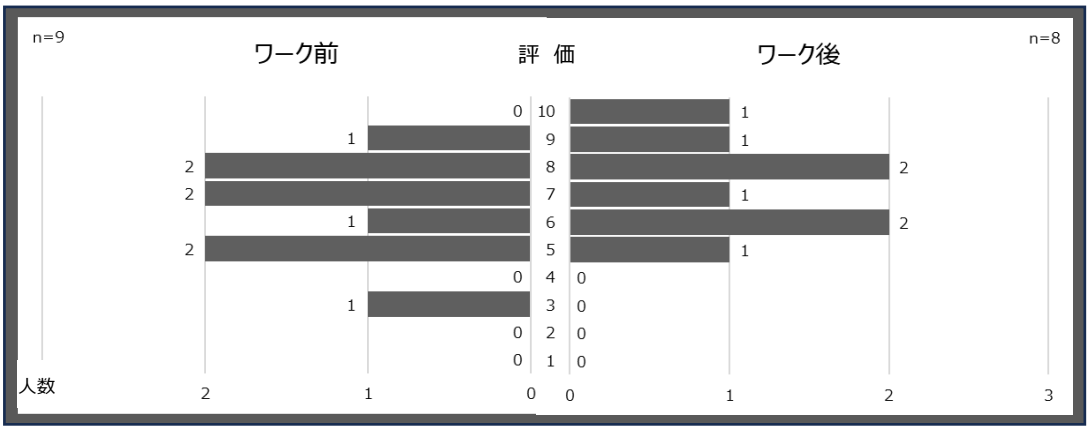
評価７以上で比較：
・ワーク前５人（評価７（２）・８（１）・９（１）・１０（１））
・ワーク後６人（評価７（１）・８（３）・９（１）・１０（１））
ワーク後、評価は上がった

■実際の仕事現場で自分自身が働いている姿をイメージできる



評価７以上で比較：
・ワーク前６人（評価７（０）・８（４）・９（２）・１０（０））
・ワーク後６人（評価７（１）・８（３）・９（０）・１０（２））
ワーク後人数は同数であったが、高評価部分を比較すると評価は上がった

■自分自身のキャリアプラン（５年後・１０年後はこうなっていたい/こんな仕事をできるようになっていたい など）を考えられている



評価７以上で比較：
・ワーク前５人（評価７（２）・８（２）・９（１）・１０（０））
・ワーク後５人（評価７（１）・８（２）・９（１）・１０（１））
ワーク後人数は同数であったが、高評価部分を比較すると評価は上がった

【結果】

高校生は専門学校の先輩の指導による実習に期待値も上がり効果が表れた。受講後に「期待値が高まった」とあり、専門分野への関心や進路意識の向上が示唆される。体験授業が職業理解を具体化し、進学・分野選択への動機づけとして有効に機能した可能性が高い。また、講師の年齢が近く親しみやすい先輩ということもあり、良い刺激につな

がったと思われる。専門学校生が高校生に教える流れは、専門教育への円滑な接続とミスマッチ防止に寄与すると考えられる。

専門学校１年生の実証実験では、建築分野では多くの項目で評価が向上しており、学習内容と将来像の結び付き強化に一定の成果が見られる。ＩＴ／ＤＸ分野でも、職業選択肢や将来像の具体化において前向きな変化が確認できた。一方、インテリア分野や情報＋ＩｏＴ分野では、将来イメージやキャリアプランに関する評価が一部低下しているが、必ずしもネガティブな結果ではなく、良い意味で「新しい選択肢ができた」「具体的な進路とイメージのギャップを理解した」といった解釈とも捉えられる。自動車整備分野では「社会に役立つ実感」や「現場で働く姿の想像」は向上したが、「将来像の明確化」には課題が残った。環境分野は人数規模が小さいものの、社会貢献意識や職業イメージ面で一定の改善が見られる。総じて、体験型学習は職業理解や社会的意義の認識向上に効果がある一方、長期的キャリア設計の具体化には継続的な指導と分野別最適化が必要であると考察できる。

（３）診断アプリの開発

高校生の興味・関心に応じて、おすすめの体験メニューが選定される診断アプリを開発。分野にとらわれず、様々なメニューを体験することを可能とする。知らない分野への興味を促すことが見込める。

・設問の回答選択数は５択で構成
・設問数は１１問
・１１問の設問すべてに回答すると、おすすめの体験メニューに導くアプリ。体験メニューは、自動車整備分野、建築分野、インテリア分野、情報＋ＩｏＴ分野、ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）分野、環境分野の６職業分野各４コンテンツ計２４コンテンツのメニューの中から回答傾向によって提案される。

２．本年度の取り組み結果

（１）企業・高等学校ヒアリング結果から見出した評価

ヒアリングでは、本事業の取り組みについて企業と高等学校へ下記項目に沿って評価と意見を求めた。

【企業ヒアリング項目】

■採用状況、■採用において課題であると感じている点、■入社５年目までに大学卒、専門学校卒、高校卒の社員が、同じ職種や役割に就くことがあるか、■５年一貫教育プログラム自体の感想、■分野の魅力を伝える動機づけとしての『メタバース』の取り組み、■分野の魅力を伝える動機づけとしての『イメージ動画』の取り組み、■高校１年生を対象に実施した授業内容、■高校２年生を対象に実施した授業内容、■高校３年生を対象に実施した授業内容、■専門学校１年生を対象に実施予定の授業内容、

■専門学校に進学したＯＢ・ＯＧと高校生の交流機会を設けること、■貴社に入社したいと考えている学生に「これだけは身に付けていてほしい」こと、■これからの専門学校教育に求めること、■その他

【高等学校ヒアリング項目】
■進路の状況、■進路への課題、■５年一貫教育プログラム自体の感想、■分野の魅力を伝える動機づけとしての『メタバース』の取り組み、■分野の魅力を伝える動機づけとしての『イメージ動画』の取り組み、■高校１年生を対象に実施した授業内容、■高校２年生を対象に実施した授業内容、■高校３年生を対象に実施した授業内容、■専門学校１年生を対象に実施予定の授業内容、■専門学校に進学したＯＢ・ＯＧと高校生の交流機会を設けること、■貴校で同様の高専連携授業を実施するとなった場合の課題（ハードル）、■貴校で同様の高専連携授業を実施するとなった場合、教育プログラムに取り入れてほしい内容、■貴校に通う生徒に「これだけは身に付けていてほしい」こと、■専門学校教育に求めること、■その他

【実施件数】

分　野	連絡件数	実施件数	実施割合 (%)
自動車整備	１２	２件	１６．７%
建築	１６	２件	１２．５%
インテリア	１１	２件	１８．２%
情報（ＩＴ・ＩｏＴ）	２０	２件	１０%
ＩＴ／ＤＸ（ＡＩ系）	１５	１件	６．７%
環境	１１	１件	９．１%
高等学校	４０	１６件	４０%
合計	１２５	１７件	２０%

【企業評価】

①５年一貫教育プログラムについて

早い段階から幅広い分野に対して段階的に興味・関心を高め意識付けを様々な体験の中で学びと仕事への理解を深めながら積み上げることができる有意義な取り組みで、具体的な将来像のイメージ形成につながる可能性があり、分野の定着のきっかけづくりとして期待できる。

②段階的に分野の魅力を発信する手法について

「ワクワク」段階のメタバースから「リアル」段階のイメージ動画、年齢が近い先輩の話による専門の学びの動機づけといった段階的に分野の魅力を発信する方法は、仕事のイメージを与えながら分野の魅力や興味・関心を高めていく流れとして学びの動機づけや将来への意識形成に寄与する一定の効果が期待できる。

③実証実験について

段階的な構成や先輩の発信による動機づけが評価できる。自由度の高い体験型授業内容やパソコンの活用、チームでの検討などを通じて、多様な視点や発想に触れながら学ぶ構成は、分野への理解を深めるとともに、ものづくりの楽しさや暮らしに結びついたイメージが持てる学びの広がりにつながる。

また、実体験や身近な先輩のリアルな話を通じて、授業内容と仕事とのつながりを具体的にイメージできる点は効果的である。

④専門学校に求めること

・資格取得と色々な基本的な確認を当たり前に自ら実行できる姿勢を習慣化させること。
・体験を積み重ねながら知識の幅を広げ、分野を問わずＩＴの基礎知識を積極的に取り入れていくカリキュラム。インターネット上の情報の根拠を確認し、自分自身で考え判断できる調べる力を養うこと。
・専門用語や業界用語を正しく理解し、業界全体についての知識をしっかりと身に付けさせること。

【高等学校評価】

①５年一貫教育プログラムについて

高校から専門学校までを通して段階的に学びを深められる点をはじめ、早期から専門分野に触れることで興味・関心を高める効果や将来像の具体的なイメージにつながる効果が見込め、進路のミスマッチ防止やキャリア形成の質向上につながる期待がある。

また、実習体験や卒業生の還元を含め、高校での学びが専門学校でどのように発展し、資格取得や就職へつながるのかを可視化できる点も大きな意義があり、入口から出口まで一貫した学びを提供できる仕組みとしては有効。

②段階的に分野の魅力を発信する手法について

メタバースやイメージ動画を活用することで、生徒が分野に興味を持ちやすく、ハードルを下げた動機づけとして有効で、特に「ワクワク」から「リアル」へと段階的に学びを深める構成は理解しやすく、実習や体験を通じて職業理解や進路意識の向上につながる点が評価された。

③実証実験について

■高校１年生（テーマ：「ワクワク」）

メタバース活用は魅力的で興味・関心を持たせる入口として有効な手段、楽しい体験から入ることで主体的な学びにつながるという評価が多かった。

■高校２年生（テーマ：「リアル」）

実習を通して職業の現実を理解できる点が評価された。１年生の「ワクワク」からの流れで理解が深まりやすい一方、現実を知ることでついていけなくて意欲が下がる生徒への配慮や、専門性が高すぎない工夫が必要との意見があった。

■高校３年生（テーマ：「学びの動機づけ」）

年齢が近い先輩からの話が学びと将来のつながりを具体的に理解できる効果が生まれ、進路意識の向上につながる点が評価された。説得力があり有益との声が多いが、実施時期の前倒しやワークシート難易度の調整が課題として挙げられた。

■専門学校１年生（テーマ：「学びの意味づけ」）

専門分野を選択した後に改めて目標を明確にする機会に有効で、スペシャリストの話を聴くことが学習意欲向上の動機づけにつながると期待されている。

■ＯＢ・ＯＧと高校生の交流について

高校生にとっては身近なロールモデルとして進路の具体的イメージを持てるメリットが大きい。専門学校生にとってもアウトプットによる学びの深化が期待できる。ただし、現実的な話による意欲低下の影響を与える可能性を防ぐ運営方法が求められる。

④教育プログラムに取り入れてほしい内容

業界や仕事のリアルを伝える内容や、企業連携・実践的な体験など、高校では経験しにくい専門的な学びが求められている。

専門分野の紹介やプログラミング・生成ＡＩなどの体験を通じて、生徒の視野を広げ将来の選択肢を増やす内容のものや、５年間という期間を活かし、専門知識だけではなくマナー教育など社会人基礎力の育成も求められていた。

⑤高専連携授業実施の際の課題

高専連携授業の実施の課題にあたっては、工業分野への関心を持つ生徒が少ないことに加え、行事や実習による時間確保の難しさ、人員や設備不足、時間割や日程調整の負担などが主な課題として挙げられた。その他、学校のコース編成や参加率の確保、遠方校との連携もハードルとなっている。

（２）実証実験の実施

自動車整備分野、建築分野、インテリア分野、情報＋ＩｏＴ分野、ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）分野、環境分野の６職業分野において、各テーマに沿って専門学校１年生に実施。ワーク前と後の自己評価採点形式をアンケートとして実施。

【実証実験テーマ一覧】

体験分野	テーマ	受講人数
自動車整備士	専門学校１年生が、これまでに学んだ基礎知識・技能を整理し、高校生にわかりやすく説明・指導できる力（伝える力）を養う講師体験 タイヤ交換およびタイヤローテーション	専門学校生 ４名 高校生 １５名
建築	①建築科のＯＢが登壇して現職の仕事の話やこれまでの経験談を話してもらう。 ②インテリア分野と８分ローテーション型業界研究授業に参加。人事から仕事の内容と、企業の強み・得意なことを紹介。	５４名
インテリア	①インテリア科のＯＢ・ＯＧが登壇して現職の仕事の話をしてもらう。 ②建築分野とともに外部企業による８分ローテーション型業界研究授業に参加。人事から仕事の内容と、企業の強み・得意なことを紹介。	２４名
情報（ＩＴ／ＩｏＴ）	最新のデジタルアートがどのようにテクノロジー（ＩｏＴ・ＡＩ・センシング・ネットワーク）と結びついているかを体験的に学ぶ	２８名
ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）	①職場見学・体験：ＡＩサービスを運営する企業オフィスの見学とそこで働く社員の話を聞く事で将来自分が働くイメージを具体的に想像させる。 ②データサイエンティスト協会シンポジウム参加：実際のデータサイエンティストの生の声を聴く機会を与える事で、将来行う業務を具体的にイメージする事を目指す。	２３名

環境	「ＳＤＧｓ　ｄｅ地方創生」カードゲームを通じて、ＳＤＧｓ理解、地方創生、対話と協働の重要性を体験的に学ぶ	１３名

（３）診断アプリ開発

高校生の興味・関心に応じて、おすすめの体験メニューが選定される診断アプリを開発。分野にとらわれず、様々なメニューを体験することを可能とする。知らない分野への興味を促すことが見込める。

・設問の回答選択数は５択で構成
・設問数は１１問
・１１問の設問すべてに回答すると、おすすめの体験メニューに導くアプリ。体験メニューは、自動車整備分野、建築分野、インテリア分野、情報＋ＩｏＴ分野、ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）分野、環境分野の６職業分野各４コンテンツ計２４コンテンツのメニューの中から回答傾向によって提案される。

【トップ画面】



【利用説明】



【診断開始画面】



【体験メニュー提案】



３．本年度のまとめ

本年度は、企業と高等学校へのヒアリング、専門学校１年生に対しての実証授業、診断アプリ開発を行った。

企業と高等学校のヒアリングでは、概ね取り組み内容と取り組み方には一定の評価が得られた。特に、専門学校生（ＯＢ・ＯＧ）と高校生の交流は一定の評価を得られた。高校教員からのヒアリングでは、「ワクワク」から「リアル」といった流れの構成についての評価が高かった。

実証授業では、分野によって異なる課題があることを踏まえ、各分野の課題に合わせた実証内容を開発。自動車整備分野では専門学校１年生が高校生に教える体験授業、建築とインテリア分野では業界研究授業とＯＢ・ＯＧ座談会、情報＋ＩｏＴ分野では映像とセンサ技術を駆使したデジタルアート体験、ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）分野では企業見学と事業解説、シンポジウム参加、環境分野ではＳＤＧｓ体験メニューと様々な内容で「専門の学びの意味付け」につながる実証実験を実施した。

アンケートの手法は、問項目に関して自己採点評価方式を取り入れた。実証実験前（ワーク前）と実証実験後（ワーク後）の比較において、職業理解や社会的意義の認識向上に一定の効果が見られた。特に、自動車整備分野では専門学校１年生が高校生に教えることで自身の成長が肌で感じる経験が実感となって自信につながった。一方、将来につながることや就職選択数の数、キャリアプランといったものが下がる傾向も一部見受けられた。

４．次年度へ向けて

次年度は下記の取り組みを行う計画である。

①実証実験：

専門学校１～２年生を対象に高校生に教える経験をするなどの方法で、自身の成長とアウトプットの大切さを実感させる。

②診断アプリ開発の発展：

各分野の体験メニューショート動画制作。体験メニューがどのようなものか動画を見ることでイメージできるようにする。

また、診断アプリの使用の幅を広げ、このようになりたいという夢を実現している憧れの先輩の登場も検討する。将来なりたい姿を診断でつなげ、学習意欲向上につなげる。

③５年一貫プログラムのパッケージ化：

上記①②を含め、各年度積み上げで行ってきた実証を点から線にしたパッケージにすることで事業終了後の継続性と汎用化のためのモデルとして本事業の最終成果とする。　等

《MEMO》

第４章

参考資料

＜ 会　議　録 ＞

事業名	令和７年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証　工業系分野における高専連携の５年一貫教育プログラム開発・実証事業
会議名	第１回プログラム開発WG会議
開催日時	令和７年７月７日（月）　１３：００～１５：００
場　所	ホスト：専門学校東京工科自動車大学校
出席者	【オンライン会議】 委員： 佐藤康夫、白井雅哲、園田幸祐、井坂昭司、甲田竜雄、野上和裕、金井伸也、藤原瑞卿（計８名） 事務局： 影山裕介（事務局責任者）、二ノ宮健志、都留菜々子、和泉明日香（計４名） （合計１２名）

【 議 事 内 容 】

【 目　的 】

今年度開発する教育プログラム開発の方向性の共通認識を目的とした会議を開催した。

【 次　第 】

１_ １３：００　開　会

２_ １３：０５　議　事

（１）令和６年度の振り返りと今年度開発の方向性について

（２）実証授業の時期について

（３）今年度のテーマと方向性について

３_ １４：５０　その他（連絡事項等）

４_ １５：００　閉　会

＜配布資料＞

【資料１】議事次第

【資料２】専門学校０年生に向けの方向性（案）

【資料３】会議資料（役割、スケジュールイメージ、キーワード、三つの観点フォーマット）

【 内　容 】

以下、次第に沿って会議が進められた

１．開　会

【影山事務局責任者】本日は、専門学校１年生に向けての教育プログラム開発の方向性につ

いて、ご意見を伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

２．議　事

（１）令和６年度の振り返りと今年度開発の方向性について意見交換が行われた

【影山事務局責任者】令和６年度では、高校生にとって近く、このようになりたいという目標とする人材像の想像ができる存在ということで、６分野という多岐にわたってはいますが、それぞれ本校卒業の社会人３年以内の卒業生や講師の方々に対して、専門学校教育の内容が会社に入ってどのように活かされ、役立つかということを伝える「推し授業」動画教材とそれぞれの導入プログラム開発を行いました。

実証授業では、「推し授業」動画を視聴してから、それぞれの導入プログラムを専門学校入学予定者、専門学校０年生である高校生３年生に行いました。自動車整備分野では、簡易モータ製作をリモートで行ったり、建築分野では、身近な建物の寸法をチェックしたり、ＩｏＴ分野では日常生活の不便さをレポートにまとめる、データサイエンスではチームとしての課題可決などといった内容で行いました。実証授業のアンケート結果は、成果報告書にも記載していますが、概ね満点に近い評価が得られました。

コンテンツメニューブックという過去３年、高校１年生からの積み上げを通して、それをまとめたものを作成しました。

昨年度令和６年度で高校生向けの教育プログラム開発は終了としました。次は、専門学校１～２年生向けに対する教育プログラム開発を今年度と来年度で取り組みます。高校１年生～３年生の各段階のキーワードとして、高校１年生「ワクワク」で企業連携的なもの、高校２年生「リアル」専門性を深掘りした体験メニュー、高校３年生は動画と教育プログラムによる「専門への学びの動機付け」となっています。プログラム開発の活動とは別になりますが、様々な高校にアプローチしていき、高校への汎用化活動を行っていきます。

では、専門学校１年生向けに何を行うかというところについてとなりますが、実際の在校生を対象に何かしらの実証を行う。専門学校１年生が高校生に伝えられる内容を行っていきたいと考えています。協力高校の卒業生が、本事業の実証授業を受講して当校に入学していますので、過去の受講体験などの意見を含め、分析していきたいと思います。ただし、その目的意識が高すぎると不毛なところに陥る可能性もありますので、あくまで積み上げ意識を持った取り組みで進めていきたいと思います。

提案ですが、高校１年生と２年生に対して、昨年と同じような方式で考えていますが、いかがでしょうか。ただ、昨年度は社会人でしたが、ここに当校の在校生という形になります。当校在校生には、自分が教える経験、後輩よりも技術が上がっている実体験として自信を持たせるような経験をさせる。自動車整備分野ではロビンエンジンの組み立て、建築でいえば橋の強度といったところで、専門を学んだ上の強みを実感できる、自信と学びの向上を図ることにつながるようになればと思っています。その中で、できる限り出身校の学生を入れて取り組んでいきたいと考えていますがいかがでしょうか。高校と専門学校の循環サイクル、先輩後輩のネットワーク化の構築例として見出し汎用化していきたいと考えています。

【白井委員】どの程度分かったもので行うのか、仕事、就職に向けて入ったが、そこには色々なものがある、その情報量に唖然とすることがある。自分はどこに進めばいいのだろうと悩むこともある。それぞれの分野のイメージもある中で、その意味をある程度伝えるようなことができないといけないと思う。進路を決まるまではならないと思う。そこをどのように持って行くのかが問題になると思う。この仕事の魅力はどうかというところに持って行ければと行けないと思う。分かった上でやることが良いと思う。

【野上委員】建築であれば、ほとんどが設計図、開発メニュー自体も模型といった思考系で、現場で泥臭くというのではない。そういう意味では幅を広げる、仕事のリアルのところ、高校２年生では「リアル」といったことになってはいるが、これは高校１年生の「ワクワク」の延長的なもので、いかに業界の魅力を伝えるかになっている。学校で学んだ事が現場で活きているという実感、現場でまだ足りていないことがあるという実感。現場と専門学校の学びの共通項などを感じるともっと勉強する必要があると感じる学生や勉強して良かったと感じる学生もいる。現場とのやり取りを専門学校１年生にはしてあげた方が良いと思う。モチベーション向上につながると思う。高校生に教える経験を与えても学生自身のワクワクにはつながらないと思う。高校生対象であって、専門学校１年生対象ではないと思う。

【甲田委員】難しいところと思う。どちらの意見もわかるし、時期が重要と思う。どの時期でやるかによって、習得している技術も変わってくる。今の夏前の時期では、専門学校１年生は何も習得できていない見識を広げていない時期であるため、高校に行っても何も教えることはできない。１１月、１２月に時期になると専門学校では自分が進む先を見据えておくべき時期になるため、そこでアプトプットしていく必要性もあると思う。専門学校１年生、２年生で何を積み上げたいのかにもよると思う。意欲を与えることは難しいとは思うが、アウトプットの機会を与えていくことは記憶や知識の定着につながる。貴重な経験につながると思う。等

（２）実証授業の時期について意見交換が行われた

【影山事務局責任者】実証の時期は、１０月～１２月、年内実施を考えています。ただ、在校生が高校に実証授業をするには、授業がないところで考えなければならないため、その点が難しいところでもありますので、現実的であるかどうかも含めて考えていきたいと思います。

【井坂委員】コンピュータ系は難しいところがある。高校１年生～３年生には面白いことを伝えられるが、専門学校に入学すると技術者になるための基礎、プログラムを作成するといった高校生からメニューが変わる。その時のギャップがどうしても出てくる。プログラムは一番大切なところではあるが、それを出すと面白味が欠けると思う。コンピュータ系としては技術的な内容に踏み込むより、ビジネス寄りで進めた方が良いと感じる。ＩＴの力でもっとこのようなことができるといった考え方、問題解決を追求することを出していくと良いと思う。

【白井委員】設計実習などは、このプログラムで出来ないと思う。情報は、プログラミング

があり、セキュリティがあり、通信規格といった色々なものが入ってできる。データベースなどの全体像が分からない。建築も同じように、全体像が分かると説明できるが、専門学校１年生ではその世界観が分からない。世界観が分かると学習スピードも上がる。情報系と建築系は絞った内容に入り込み過ぎないことが重要で、そこは似ていると感じる。

【金井委員】データサイエンスは、インプットよりいかにアウトプットさせるかが大事だと思っている。世の中の問題をこのような方法で解決できるということをインプットはもちろんであるが、アウトプットを経験させる。将来、幅広いビジネス解決をしていくためには必要なことであり、それを専門学校に入って経験していくことは意味があると思う。大学とは違って理論だけで進めていくことなどではなく、実際の現場で活かすことが専門学校が目指すことと思っている。学生がチームで分析を進める自分事で進め、問題を解決していく考える機会を専門学校に入って経験していくことが成長につながることにもなるため、そこが一番ではないかと思う。

【園田委員】昨年、今年入学してきた１年生に対して実証授業をしてみたが、今までの学生と違って勉強してきた学生であって、どのようにしていくかは現時点ではイメージが持てないといったところが率直な感想である。

【藤原委員】本来であれば、ＩｏＴ分野は幅広いため、学習のモチベーションを保つうえでも基礎力を定着させた方が良いと思う。一定の基礎能力がないと学習してくことができない。新１年生は、高校生の時にプログラミングを勉強していないと一般的にＰＣの取り扱いに苦戦している。だが、とりあえずやってみる、体験してもらう、簡単なものでも構わないので作って、それを発表する。それを企業の方も含めた外部の方とのコラボレーションで評価してもらう。達成感を体験することが大事だと思う。ただ、それを授業で一元化することはＰＣに触れている時間や特性がバラバラなので現時点では難しい。学生のスキルや教材の達成度を見える化できるようには考えているところである。

【甲田委員】コラボレーション、広がりという意味と思われる話が出たが、専門学校１年生で行うテーマとして、自動車整備分野の学生だから自動車、ＩＴ分野の学生だからＩＴのテーマ―でやらなければいけないといったことではないと思う。

【影山事務局責任者】３年前のテーマで「暮らし」といった上流にあることをテーマにして、それに向けて各学科で学んでいることで何ができるのか。それを学科横断で考えるのも一つあり得ることかなと思う。

【甲田委員】自動車整備分野とＩｏＴ分野の学生同士が自動運転のことをディスカッションすることで、自分たちが学習している先が色々なつながりになっていることが見える。世界観が見えてくるのではないか。以外に自分たちがやらないといけない、身につけないといけないスキルや技術に気づきを与えることになり、それがモチベーションや意欲向上につながるのではないか、なぜ一生懸命勉強しているのかといったところに使命感を与えるものになるのではないと思う。このような考え方も一つとは思う。

【佐藤事業責任者】メニューに偏っているような感じがする。ワクワクやリアルといった高校生の一つのパーソナリティーがどのように変わっていくのかではないか、高校生のときに

は、職業や自分が就職するといったことを考えていないが、専門的なものに触れることによってワクワクにつながり、実際に仕事という視点で実際に企業に伺って感じる。専門学校の学びの中の一部を教えてもらい、それに対して興味を持つ、というような形で、高校生がどんどん成長していき、職業人になっていくということを５年一貫教育と位置付けていると思う。今検討している専門学校１年生向けには、高校３年生の際に専門学校から模擬授業を受けて興味を持って専門学校に入学した。その１年生がどのような状況なのかという位置づけと思われる。やはり、専門学校１年生と２年生の差はとても大きい。途中で就職先が決まるということもあって大人になるからという考えもある。

ただ、専門学校１年生の内に、急にまじめにはなれないが、意外とまじめに取り組んでいる。毎日の授業が何となく面白い、知らないことが分かるようになる、自分ができなかったことができるようになると実感しているから。だから休まず学校に来ている。これが専門学校１年生の姿と思う。その姿を一番リアルに表現できる、あるいは数値化できるといった形として見出すことができるとした場合、高校３年生でやっている学びの動機付けの部分を専門学校１年生が高校３年生に教えるということでやると、今までは教えられていた立場が、教える立場になっていると実感が得られるのではないか、その差は非常に大きいと思う。テーマについては色々な問題はあるかもしれないが、位置づけ的には専門学校１年生が高校生に教えるというこの大きな変化を明らかにしていくという事務局からの提案が良いと思う。

（３）今年度のテーマと方向性について意見交換が行われた

【影山事務局責任者】色々なご意見を伺いながら改めて整理した感じですが、ワクワク、リアル、動機付けの次の今年のテーマは、今学んでいることの意味付けではないだろうかと思いました。ただ、その意味付けのさせ方がそれぞれの分野で違うと思いました。例えば、自動車系は工具の使い方やタイヤ交換などできることが日々増えている。

【園田委員】少しずつではあるが、学生ができることは増えている。

【影山事務局責任者】自分ができることが増えていることを、その経験がない高校生と一緒に学ぶことで自覚でき、学んでいることの意味付けになる。これが自動車系の話になると思う。建築系は、学んでいることが設計のようなところから入っているが、実は学んでいることで自分のキャリアが拡がる、職種が拡がるといったことを知ることで、自分が学んでいる意味付けがステップアップする。情報系は、あくまでプログラミングにはなるが、社会課題を解決するといったことが学んでいること意味付けになる。大きなテーマとしては、学びへの意味付けとしたときに、そこへのアプローチは学科によって異なると感じました。すべて同じ作り方をする必要もなく、それぞれの分野にあったやり方、テーマ設定で考えていければと思っていますがいかがでしょうか。

【井坂委員】分野毎にアプローチが違うやり方、それぞれのテーマに沿ったやり方という視点はいいと思う。

【白井委員】確かに、分野によってアプローチの仕方が違うと思うが、バラバラになり過ぎると良くないと思うため、少しまとめかたを考えていきたいと思う。

【野上委員】何をやらせるのか、どのタイミングで行うかといったメニューを考えると、例えば、夜間の卒業生を数年経って呼んで職業体験の話をする場を設けている。卒業してから１５年経った当校の留学生の卒業生を呼んで、転職しながら日本と母国をつなぐといった話をしたときに、転職して良かったこと。設計をしたかったが、結果的にはそこに進まなくて良かった。ということや、他の卒業生においても社内で色々な部署異動によるキャリアアップができるといった感じはどうか。昨年は卒業してから２～３年の卒業生に高校生に向けて勉強が役に立つインタビュー動画をしたが、１０年、１５年長くその分野で働いていて、転職や社内異動といったことで楽しかったこと、苦労したことなどのリアルな体験談を話してもらうと、就職を見据えていく上で、視野が広がると思う。就職に対する考え方も柔らかくなっていくのではないかと思う。建築に入ってくる学生は、就職を考えることなく、設計で入学してきている。

ただ、１年生の後半になると設計に向いていないと感じる学生がいる。ここでモチベーションが下がる。そこに設計がすべてではないということが分かれば、モチベーションの下げ幅は少なくなると思う。別の道があることが分かるということができると学生にとっても幅広くとらえることができて良い影響を与えると思う。リアルな経験談を話してもらうと学生に響くと思う。２年生では進路先を決める段階なので、１年生の内にやると効果が出るのではないかと思う。

【影山事務局責任者】学科横断という考え方についてはどのように思われますか。

【野上委員】冬休みや春休みの時期を活かして１～２日程度で、テーマを与え、色々な学科の学生と触れ合い、一緒に考えていくというやり方であれば盛り上がると思う。短い期間だからこそ効果があると思う。

【井坂委員】学科横断が難しい理由としては、カリキュラムありきか、問題を発見して解決していくことで学科横断としていくのかになると思う。初めから学科横断とするならば、カリキュラムがある程度固まっているのであれば、学科横断はできると思う。ただ、その内容をどのように組んでいくのかが難しいところではある。学科によって成果の偏りを無くすようにしなければならない。

【甲田委員】当校独自の授業であるセミナー授業（ＲＪＰ）のようなやり方で、自分の分野では何ができて、それが何と何を掛け合わせるとこれができるといったやり方になると思われる。

【影山事務局責任者】来年の最終年度のゴールとしては、探求に関わるようなテーマを作って、興味がある、学んでいる学生を集めて解決するにはどうしていくのかといったディスカッションをし、アウトプットしていく。卒業生などから学んでいくというやり方のパッケージ化ができればと考えています。

【野上委員】専門学校生にとっては苦手な分野ではないかと思う。専門学校は研究機関ではない。リアルな数字を教えている、新しい技術の取得や研究するといったことに対して苦手な学生が多い。例えば、梁の太さはどれぐらいかといったことにこだわる学生はいるが、どこまで薄くできるかといった発想ではない。安全のためには、どれほどの太さが必要かとい

うことを聞いてくる学生が多い。大学みたいに自分たちで調べて、先端技術を調べて学んできて話を聞いてということではなく、現実的なことをしている。高校生と一緒に専門的なことを話すとなるとハードルがかなり高くなると思う。
【影山事務局責任者】思考によるところに偏るとそうなると思っています。我々は、そこを技術によって良い方向に導いていくということになるので、テーマの設定が大事になると考えています。そこには様々なアプローチの仕方やレベル感があると思います。成長が実感できるようなものにしていきたいと考えています。
【佐藤事業責任者】専門学校に入学することによって、高校とは違う空間、様々な情報が入ってくる、自分に何ができるのか、その先のことも考える必要はあるが、まずステージが切り替わったことを感じられることが専門学校１年生の段階ではないかと思う。
【影山事務局責任者】高校から専門学校に入学したことで、学びの意味付けを専門学校１年生に与えていきたい。アプローチとして社会人との接点を増やす、小さくても社会的な問題解決、自分が何をできるようになったかという技術の習得の実感など分野によってもやり方が違ってくると思われます。今回の会議内容を整理し、今月の企画推進委員会会議で委員の方々に伺っていきたいと思います。等

３．その他（連絡事項等）
　特になし

４．閉　会
【影山事務局責任者】本日は、お忙しい中ありがとうございました。本日の会議はこれで終了となります。引き続き、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

＜ 会　議　録 ＞

事業名	令和７年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証　工業系分野における高専連携の５年一貫教育プログラム開発・実証事業
会議名	第１回企画推進委員会会議
開催日時	令和７年７月１１日（金）　１０：００～１２：００
場　所	ホスト：専門学校東京工科自動車大学校
出席者	【オンライン会議】 委員： 佐藤康夫、古藤一弘、掛本寿雄、釼持利治、藤澤洋平、小林健人、 安部泰起、三浦勝寛、嶋田章二、坂田安永、経塚真裕、岡村慎一、 白井雅哲、甲田竜雄、園田幸祐、井上真一、金井伸也、藤原瑞卿 （計１８名） 事務局： 影山裕介（事務局責任者）、石川道子、都留菜々子、和泉明日香（計４名） （合計２２名）

【 議 事 内 容 】

【 目　的 】

本事業の振り返りと令和７年度取り組み内容の共通認識を行うことを目的とした会議を開催した。

【 次　第 】

１_ １０：００　開　会
２_ １０：０５　委員自己紹介
３_ １０：１５　議　事
（１）令和６年度までの取り組み共有
（２）令和７年度の計画共有
４_ １１：５０　その他（連絡事項等）
５_ １２：００　閉　会

＜配布資料＞

【資料１】議事次第
【資料２】事業概要（ＰＰＴＸ）

【 内　容 】

以下、次第に沿って会議が進められた

＜ 会　議　録 ＞

１．開　会

【影山事務局責任者】小山学園の影山です。本年度５年目となります。皆さま、お忙しい中会議ご出席いただきまして誠にありがとうございます。本会議では、これまでの振り返りと本年度の取り組みにつきまして、皆さまと共有していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【佐藤事業責任者】皆様おはようございます。大変お世話になっております。各高校の校長先生、各企業の皆様はじめ、本事業にご協力いただいております皆様、お忙しい中にも関わらず本事業の会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。本事業は、複数年にわたる事業で若者が~~複数年~~成長していく各段階において、どのような教育や情報を受けて、成長していくかということについて、単年度ではなく、連続していく形で継承していくようなイメージで取り組んでいます。本年度は、専門学校に入学した学生対象に向けた取り組みとなります。是非とも、皆様からの貴重なご意見を賜りながら取り組んでいきたいと思います。よろしくお願いいたします。等

２．委員自己紹介

【岡村委員】ＹＩＣ学院の岡村と申します。よろしくお願いいたします。

【三浦委員】リクルート進学総研の三浦と申します。今年度もよろしくお願いいたします。

【掛本委員】堀越高校校長の掛本と申します。生徒たちがどのような選択肢があって、どのような学びをしていくのかということをしっかりと理解した上でそれぞれの学校に進学できればと思っています。今年度もよろしくお願いいたします。

【藤澤委員】ケーユーホールディングスの藤澤と申します。自動車ディーラーの会社で採用担当をしています。受け入れ先ということでどのような環境を用意する必要があるのかということがございます。今年度から参加させていただいています。よろしくお願いいたします。

【釼持委員】六郷工科高校校長の釼持と申します。本事業開始当初から参加させていただいています。今年度も引き続き、よろしくお願いいたします。

【古藤委員】蔵前工科高校校長の古藤と申します。今年度で２年目の参加となります。よろしくお願いいたします。

【嶋田委員】東京スバルの嶋田と申します。採用と人事評価関係の取りまとめをしています。今年度も、よろしくお願いいたします。

【坂田委員】今年４月から多摩工科高校の校長をしています坂田と申します。今年度から参加させていただいています。よろしくお願いいたします。

【安部委員】東京商工会議所中野支部の安部と申します。昨年度から参加しております。今年度もよろしくお願いいたします。

【経塚委員】ソフト開発をしておりますソフトヒューベリオンの経塚と申します。今年度もよろしくお願いいたします。

【小林委員】ＮＰＯフュージョン長池の小林と申します。日常的に環境教育を専門的に取り組んでいますので、そのような視点でご協力できればと思っています。よろしくお願いいた

します。
【白井委員】東京テクニカルカレッジ校長の白井と申します。日本の教育は、学校と仕事が分離していると感じます。職業観を持って若者が育っていくことが重要と思いますので、高校の先生方、私ども専門学校、企業様が一体となって教育を考えていくことはすごく重要と考えています。本事業がそのような機会であればと思います。引き続き、よろしくお願いいたします。
【甲田委員】東京テクニカルカレッジの甲田と申します。よろしくお願いいたします。
【金井委員】東京テクニカルカレッジ データサイエンス・ＡＩ科科長の金井と申します。今年もよろしくお願いいたします。
【藤原委員】東京テクニカルカレッジＩｏＴ・ＡＩ科科長の藤原と申します。よろしくお願いいたします。
【園田委員】東京工科自動車大学校中野校副校長の園田と申します。よろしくお願いいたします。
【井上委員】東京工科自動車大学校世田谷校副校長の井上と申します。今年度もよろしくお願いいたします。
【石川事務局】小山学園広報の石川と申します。広報の視点からお手伝いできればと思います。よろしくお願いいたします。
【都留事務局】昨年に引き続き事務局担当をします都留と申します。よろしくお願いいたします。
【和泉事務局】今年度から事務局担当となりました小山学園ＨＲＤ事業部の和泉と申します。よろしくお願いいたします。等

３．議　事
（１）令和６年度までの取り組み共有と（２）令和７年度の計画共有について以下の説明と意見交換が行われた。
【影山事務局責任者】初年度からご参加いただいている委員の方々には何度も同じお話になってしましますが、本事業は６年間の事業として採択されています。今年度は、５年目にあたります。それぞれ何を行うかについてですが、資料でお示ししています概要図をご覧いただければと思います。高校３年間と専門学校入学後の２年間を足した５年間を連携させた一貫的な教育プログラムを開発するものです。様々な動画作成や実証授業を協力していただいています高校と連携して卒業後に各分野の企業で活躍できる技術職人材育成教育プログラム開発を目的として行っています。今年度も多くの教育機関や企業、団体様に参加していただいております。ここで、振り返りをしつつ、本年度の方向性含めて共有できればと思います。本事業でなぜ皆様にご協力いただいているかという目的の部分についてご説明したいと思います。世の中的に技術職が非常に渇望されていますが、その一方で若者の技術職離れがございます。技術職人材の不足が自動車分野を例に挙げていますが、ＩＴ分野、建築分野、環境分野、その他の分野でも同じです。このような状況の中で、高校から魅力を引き出し、

高校と専門学校との連携で技術をしっかりと身につけた人材を育成・社会に輩出する取り組みの事業となります。生徒・学生、業界、高校にとって様々な目的がございます。その目的に対して積み上げながら進めている取り組みをしています。今年は、６年事業の５年目にあたります。１年目はヒアリングなどを含めた仕込みの段階で、２年目は高校１年生向け、３年目に高校２年先生向け、４年目は高校３年生向けの高校生を対象としたプログラム開発をしてきました。昨年度は、専門学校に進学予定の高校３年生向け、専門学校０年生向けとして動画を活かした導入教材・教育的な知る型、体験方の教育コンテンツ・プログラム開発と実証を６分野行いました。導入教材の動画では、専門学校教育の中で社会に出てどのようなシーンや授業科目が役に立ったか、推し授業動画を作成しました。実証授業については、専門学校の学びに入る前に身に周りのもので作成しました。過去３年含めて、皆様の意見を参考に取り組んできたものが、受講生アンケートでも好評でした。それに伴い、高校と専門学校の連携を行う上で、メニューブックとしてまとめて作成しました。高校生を対象としたプログラムは終了とし、今年度は専門学校に入学した学生を対象としてどのような意味付け必要なのかという取り組みを行います。今年度は、専門学校１年生を対象としたものになります。ここで、皆様と意見交換できればと思います。お示ししている概要図は、５年前の計画段階のもので、近年の技術のスピードに伴う変化が起きていると思います。この５年間で様々な変化が起きていると思われます。そこで、事業環境の変化、社員、生徒、学生の喧嘩、業務内容、指導内容の変化、各社、各校の設備やツール、ＡＩの利活用の変化などについてご意見を伺いたいと思います。

【三浦委員】５年前はアバター教材を作るという方向性が多くあったが、２年前ほどからアバターの利活用が極端に減少した。アバター教材は厳しい状況になっている。ただし、キャリア教育方面では復活してきている。先生や親と面と向かって相談できないという中学生高校生が多くいる。そのような生徒に活用できるアバター＋ＡＩの仕組みができている。いくつか見てみたが、非常によくできている。今後は、このようなものを活用した上で本事業のような活動をしていくと考えられる。文部科学省の学校教育法改正で来年４月１日から専門学校教育も変わってくる。その中で特に専攻科、今は、高校３年、専門学校２年となっているが、来年度からは専攻科を考えると専門学校２年＋２年、３年＋１年と考えられるため、その辺りを踏まえた上でのカリキュラム開発も視界に入ってくるのではないかと思う。

【嶋田委員】自動車整備士の人材不足が進んでいる。さらに外国籍の力が必要となってきている。外国籍の方の比率が増えてきている。受け入れる側としては、受け入れた後の教育、社内環境・体制を含めて急速に進めていかなければならない。

【経塚委員】ＩＴ業界では、新人から生成ＡＩを使っていいのかという声があり、そのような流れになってきている。学生時代から生成ＡＩが使えるようになっている新人がいる。Ｃｈａｔ ＧＰＴを使ってもいいですかという声はあるが、新人研修のときはＮＧにしている。自分で理解する能力、最初からＣｈａｔ ＧＰＴから答えをもらえる能力ではなく、研修期間は自分で見つけ出す能力、身に付ける能力をさせたいため、生成ＡＩやＣｈａｔ ＧＰＴとは真逆に時代の変化で生成ＡＩを使いこなせないとワーカーになってしまう。会社として

生成ＡＩの研修を取り入れて使いこなせるエンジニアに育てているところが、５年前とは全く違っている時代である。生成ＡＩを使いこなせるＩＴエンジニアでないと生き残れないと感じている。

【小林委員】環境という視点では、サーキュラーエコノミーや脱酸素、ネイチャーポジティブといった言葉が国際的にも大きくなっている。学校教育においても、当然のように学習する。環境意識が高い学生は、すごく増えてきている。どのような業界に就職したとしても、おそらく環境に対して、技術者としてできることを考えていかなければならない。その辺りの基本的な部分を理解、自覚した上で社会に出てきけるような環境人材を育てていかなければならないと思っている。

【古藤委員】５年前までは生徒一人一台端末がなかった、一人一台端末は４年目となった。それにより、それを活用した授業を取り入られるようになった。先生に対しても同じで、今は授業で活用できる状況となった。学校の授業でもこのような変化が生まれた。一方、入学してくる生徒の学力が低下してきている、そこが顕著に表れてきている。

【釼持委員】東京都では工業高校改革が令和４年に発表されて、１９校の内、５校が学科改編を行った。今年度当校でも学科名が変わった。それぞれの工業高校であった学校が、魅力あるようにするため、色々な設備を変える、ＩＴ・ＤＸ関係をもっとしっかりと取り組んでいく、それと探求の学習もしっかりと取り組んでいくところである。ＡＩについても当初は使用不可であったが、今は使う指導となってきている。自動車系の教員人材の発掘、東京都には外国籍の生徒が増えている。外国籍に関しては、当校でも外国人枠があって想定より多く入学してきており、学校全体で２割といった割合になる。外国籍の生徒の進路や就職先をどのようにするのかが課題になっている。

【坂田委員】ＮＥＸＴ工業プログラムが２０２２年から始まり、工業高校が工科高校に２０２３年から変わってきた。今までの工業高校は、伝統的な工業技術を学ぶ内容が、工科高校になったときには、デジタル技術や様々な学科改変が行われていく中で、ロボティクスやＩＴ、防災、食品サイエンスといったＳｏｃｉｅｔｙ５．０に対応した先端技術に対応していく改革が行われた。一人一台端末は、小中学校でも行われていたが、工科高校では、一人一台、パソコンやｉＰａｄを持って授業に活用していこうという流れできている。東京都においては、学科改変が大きく行われた高校があった。工科高校では募集倍率が落ちているところが大きな課題である。東京都全体の流れはグローバル化で、海外に生徒を連れていくという流れがこの５年間で非常に進んだと思っている。

【掛本委員】キャリア教育は取り組んでいるが、保護者からの要望などで早い段階から色々な進路の選択肢を教えてほしいという要望の声が年々早まっている気がする。以前、高校２年生で行っていたプログラムを高校１年生で行うといった動きがある。大学や専門学校の説明会に置くと、自分の専門を研究し極めていくことが学校本来の意味合いと個人的には思っているが、就職するための予備校的、即戦力となり得る教育プログラムで教えているという学校が増えてきている。学校本来の姿が変わってきたということが、ここ１～２年で特に感じている。人は人の中で育っていくことは変えられない、ＡＩに育てられるものではない、

ＡＩやＤＸ化に乗り遅れないのは分かるが、人と人とのつながりを大切にするところは残しながらＤＸ化に進んでいかなければならない。そのあたりのバランスを考えているところ。

【安部委員】東京商工会議所では、２０２３年７月に中小企業のための生成ＡＩの活動ガイドを作成した。現在第６版で作成を重ねているが、２０２４年５月に１，０００社に活用しているか聞いてみたところ、２０２３年では５％、２０２４年は１１．７％と活用数が増加している。ＡＩ活用に前向きな企業が増えてきている。厳しい人手不足が続いているため、事業者にとっては業務効率化や競争力を上げる、生産性向上につながっていく効果につながると期待できるという流れは止められないと感じている。中小企業の経営者も個人でも活用をしている方が多いので、今後もこの流れは続いていくと思われる。一方、セキュリティに関する不安、費用面で全社員に使わせるところまでは踏み込めない会社はある。ここ１～２年でこのような会社も変わると思う。

【岡村委員】東京都の高校の先生からの発言の中で、高校にも外国籍の生徒が入ってきているという状況ということで、これから地方もそのようになってくるということを実感しました。東京と地方の専門学校は、あり方や企業・地域から求められているのが微妙に違うということは感じている。先ほど、ご意見がございました就職予備校ではないが、企業から求められているものに対して、いかに速く地元に輩出していくかが、近々の課題である。若者の流出を含め、人材不足によって倒産もあり得る状況である。そこに応えることが地方の専門学校の役割と思う。

【白井委員】５年前はコロナ禍であった。多様化になっていると思う。専門学校は、日本人の高校生が多数在籍していたが、今は留学生の入学者数が増えている。リカレント層の在籍も増えている。ここ最近では、通信制高校からの入学者が増えてきている。対象となる学生が多様化してきている。また、学びの多様性も増えてきており、コロナ前はリアル授業がメインであったが、オンライン授業の導入による教育手法が定着してきた。ノートの代わりのタブレット化、ＡＩの浸透で宿題がきれいにまとまっている。ＰＣの試験では、Ｃｈａｔ ＧＰＴに流し込んで答える。試験中の制限をどこまでかけるかが課題になっている。授業中のコードを書くことにおいても、先生に聞かなくてもＡＩがアドバイスするといった状況である。学生にしても、学びの手法にしても多様化してきている５年間であると思う。

【佐藤事業責任者】多く感じるのが、高校生そのものというより社会の変化によるものと思う。社会が職業教育に関する機会であったり、大学と専門学校の差が無くなってきていたりして学校教育の環境変化が生じている。高校生を受け入れる学びの選択肢が広がってきていたり、複雑化してきたりしているところが大きな違いだと思う。社会ニーズとしては、技術者の減少しているため、社会としては技術に目を向けてほしいということがある。高校生が自分探しということで、将来思い描くような時代があったが、それが学校の仕組み、教育の仕組み、社会の体制によって高校生の選択肢がだんだんと見える化している。ただ、見えることによって複雑化してきているため、高校生が何を選んでよいのか困惑している状況となっていると感じる。自動車分野も変化してきており、学校の履修は、必ず学校内でやらなければならないと続いていたが、講義についてはオンライン授業が許されるように公布され

た。今後の勉強の仕方の選択肢が増えていくという変化が起きている。ここ数年で急激に変化してきていると感じる。

【影山事務局責任者】ありがとうございます。変化をとらえて取り組んでいかなければならないと感じています。当初の計画時点の考えから手法を変えながら取り組んでいかなければならないと感じています。端末による教育のツールであったり、進路選択時期の変化であったり、昨年度高校３年生を専門学校０年生といったコンセプトチェンジしたりと様々な情報やご意見を伺って取り組んでいきたいと思います。あとは、本事業の汎用化という点において、どのような広がりを持った地域特性といったことも非常に重要なキーワードになると思っています。

今年度の授業の方向性についてですが、具体的な内容はこれから詰めていきますが、昨年度までの取り組みで高校３年間のパッケージができました。高校１年生は分野ごとのワクワク感、高校２年生は仕事のリアル感の体験、高校３年生では専門の学びの動機付けということで開発しました。高校生向けとしてパッケージ化ができたので、今年度の取り組みの一つとして汎用化のフェーズに入れていきたいと考えています。もう一つが、今年度と来年度が専門学校生向けの内容となりますので、今年度は専門学校１年生は学びへの意味付け（Ｆｅｅｌ）のプログラム開発を考えています。スタンスとして５年一貫の教育プログラムを地域中核人材として育成し、活躍してもらう内容とする。その中で５年一貫のサイクルづくりの取り組みを考えています。例えば、ある高校の高校生が本事業の教育プログラムを受講して、当校に入学してきた際に、卒業した高校、母校の高校生に教えの経験として行き、自分の成長を実感する、高校生は憧れ感を抱くといったイメージで考えています。母校でなくても良いと考えています。分野によって考え方も違うと思いますが、アウトプットの機会として高校との連携強化につながるのではと思っています。これからの２年間で専門学校１年生、２年生の単年教育プログラムと５年一貫の教育プログラムサイクル構築の検討をしていきたいと思います。

【園田委員】学びの意味付けということについては、出口のところで活躍することを中心に考えているので、技術力を身に付けるといった部分なる。ただ、学生自身が教えに行く、成長の実感を持つことも意味付けになると思う。両方の視点を持つことは良いと思う。

【井上委員】Ｆｅｅｌ感じるという意味において、学校の授業、学びは見て、聞いて勉強するのが座学の授業であるが、それができると思っていたが、やはり何かに触って、分解して組み立てしないとできるようにはならない。体感する感じるといったことが重要で、それでできるようになってくると思う。成長を実感させる取り組みは良いと思う。

【甲田委員】感じるということにおいては実感は大切と思う。自分がステップアップしているという実感が大切なことでこれが学びの意味付けになると思う。専門学校で学ぶということは、できるようになっていく。できるというところにしっかりとフューチャーして一つ一つ学習の意味を付けられると良いと思う。

【金井委員】データサイエンスは、アウトプットすることが意味付けになると思う。色々な引出しを作って、その引き出しをどの問題に当てはめていくのかということができると勉強

してきた実感をすることができると思う。模擬的なものでも良いと思う、問題に対して学んできたことを適用してこのようなことが分かった、できるようになったというようにできると良いと思う。
【藤原委員】自分の実現、キャリアの形成を実感して自分の学びや知識を最終的にどのように活用していくか、社会に役立つかを意識させて自覚させていければと思う。等

４．その他（連絡事項）
　特になし

５．閉　会
【佐藤事業責任者】長時間にも関わらず、皆様からのご意見を頂戴いたしまして、誠にありがとうございます。本年度の本格的な取り組みはこれからとなりますが、引き続き、よろしくお願いいたします。
【影山事務局責任者】本日の会議は以上となります。皆様、本日は、お忙しい中会議ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。順次退出願います。本年度もよろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

＜ 会　議　録 ＞

事業名	令和７年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証　工業系分野における高専連携の５年一貫教育プログラム開発・実証事業
会議名	第２回プログラム開発ＷＧ会議
開催日時	令和７年８月２０日（水）　１０：００～１１：３０
場　所	ホスト：専門学校東京工科自動車大学校
出席者	【オンライン会議】 委員： 野上和裕、髙山寿一郎、金井伸也、藤原瑞卿（計４名） 事務局： 影山裕介（事務局責任者）、都留菜々子、和泉明日香（計３名） （合計７名）

【 議 事 内 容 】

【 目　的 】

建築、インテリア、データサイエンス、ＩｏＴの４分野において実証実験の方向を検討することを目的とした会議を開催した。

【 次　第 】

１_ １０：００　開　会

２_ １０：０５　議　事

（１）建築・インテリア分野の実証実験の方向性について意見交換

（２）データサイエンス・ＩｏＴ分野の実証実験の方向性について意見交換

３_ １１：２０　その他（連絡事項等）

４_ １１：３０　閉　会

＜配布資料＞

【資料１】議事次第

【資料２】建築分野・インテリア分野・情報（ＩＴ／ＩｏＴ）分野・ＩＴ／ＤＸ（データサイエンス）分野の方向性について（ＰＰＴＸ）

【 内　容 】

以下、次第に沿って会議が進められた

１．開　会

【影山事務局責任者】本日は、建築分野とインテリア分野の実証実験において、専門学校１年生に向けた教育プログラム開発の方向性について、ご意見を伺いたいと思います。よろし

くお願いいたします。
２．議　事
【影山事務局責任者】本年度のテーマは学びの意味付けで、当校１年生を対象に進めたいと思っています。実際に学校教育と仕事がどのようにつながっているのかイメージできるような内容を実証実験に落とし込んでいきたいと思います。また、文科省委託事業ということで、何度もお話していますが、わが校のみが使えるものではなく、他の学校も使用できる汎用性のある内容で進めていきたいと思います。実証実験は、１０月～１２月で行いたいと考えています。そこで、どのような内容を取り入れたら学生が仕事のイメージを持つのかお聞きしたいと思います。まずは、建築分野とインテリア分野からご意見をいただきたいと思います。
【野上委員】先生というよりは、歳が近いＯＢ・ＯＧが良いと思う。昨年の推し授業動画ぐらいの年齢層が良いと思う。
【影山事務局責任者】年齢層は、昨年の推し授業にお願いした卒業生のＯＢ・ＯＧを呼んで、どのような形が望ましいと思われますか。
【髙山委員】講話か座談会といった形で学生に話をしてもらうのが仕事のイメージにつながると思うので良いと思う。
【野上委員】講話か座談会を開くのは良いと思う。
【影山事務局責任者】講話か座談会で進めるとした場合、お話をしていただく卒業生の候補者はいますか。
【野上委員】建築科では、留学生で中規模の企業に就職した卒業生はどうか、最初に就職した企業が中規模であったため、幅広い経験ができたこと、中小規模だからこその経験談は学生に刺さると思う。
【髙山委員】インテリア科では、就職後に実際にできる仕事の範囲などの実際のリアルなものを伝える機会にしたい。例えば、リフォーム会社といっても仕事の幅は会社によって様々である。就職活動ストーリーや入社後の気持ちの変化を語ってもらうのはどうか。１年生の１期でどのような仕事があるのか学ぶ授業があるため、その延長的なものとして良いかもしれない。
【野上委員】建築科とインテリア科に向けた会社紹介のイベントがある。今回のテーマに近いと思うがどうか。
【影山事務局責任者】どのような内容でしょうか。
【野上委員】毎年１２月頃に色々な建築関係の企業の方が、８分という時間の中でローテーションしながら仕事の内容について話してもらうもの。また、学生の現状としては「この授業が楽しいからこの分野の仕事をしたい」というようにつながる学生はいるが少ない。楽しいを仕事にするのは難しい、これもリアルにある。
【髙山委員】会社紹介のイベントを実証として考えるのは学生への刺激にもなるため、良いと思う。ＯＢ・ＯＧの座談会も入れて、この二つをしても良いと思う。
【影山事務局責任者】ありがとうございます。では、建築とインテリアは、この方向で検討を進めていきたいと思います。お話ししていただくＯＢ・ＯＧの選定は、先生方にお願いし

たいと思います。次に、ＩｏＴ分野とデータサイエンス分野についてお聞きしたいと思います。学びの意味付けとしてどのような内容がよろしいと思いますか。
【金井委員】データサイエンスとしては、一つ目は、企業で働く社員の方の講話を聴いたり、オフィス見学できたりが同じ日でできる機会があると良いと思う。実際の仕事の現場において、データサイエンティストはどんな仕事でどのようにやっているのかを実際に見せる。データサイエンスは色々な業種で使えるといったことも伝えられる内容はどうか。二つ目は、データサイエンティスト協会主催のシンポジウムへの参加も面白いと思う。朝から夕方までその場に滞在して、様々なデータサイエンティストの話が聞くことができて刺激になると思う。同行する先生は有料だが、学生は参加費無料ということもあるが、行く価値は十分あると思う。
【藤原委員】ＩｏＴで考えられるのは、Ａｍａｚｏｎの物流の拠点ツアーやトヨタＬ＆Ｆの拠点ツアーはどうか。Ａｍａｚｏｎは２時間程度でガイドの方がいる。トヨタＬ＆Ｆでは、もうすでに６月に１年生は授業の一環で見学に行き、学生にも好評で仕事のイメージができるようになっていたので、来年度の１年生向けができるのであればと思う。単なる会社説明会よりも、技術と仕事のつながりがわかるような社会にどのような形で貢献しているのかといったところのもう一歩踏み込んだものがあると良いと思う。
【影山事務局責任者】就職活動についての動きはどのようになっていますか。
【金井委員】１年生からはじまっている。
【藤原委員】同じである。
【影山事務局責任者】お話があったもう一歩踏み込んだ社会貢献的なものを与える機会とした実証実験の方向性でお願いしたいと思います。データサイエンスは企業見学とシンポジウムの二本柱、ＩｏＴは企業見学で進めていきたいと思います。企業見学では、その会社の社員の話が聴けるとこころを見つけるようにお願いします。次に、文部科学省委託事業ということに縛られるというより、授業も同じですが、取り組むにあたり、単なる見学会で終わらせるわけにはいきません。テスト形式や感想といったどのような意識変化があったのかという効果を見せる形のものが必要です。アンケートもその一環で実施しますが、どのような形がよろしいと思いますか。
【髙山委員】テスト形式はなしで、どのような変化があったのかを書かせるのが良いと思う。
【金井委員】同じで、ただ、書かせる内容をどのようにするのかを考える必要がある。受講後に書かせて意識の変化を見るものにするのか。
【野上委員】アンケートとのつながりがないと意味がないと思うため、そこはどのように考えているのか。
【影山事務局責任者】現段階では、感想文的なものというかワークシートを用意して受講前と受講後でそれぞれ学生に書いてもらう。アンケートもこの高専連携事業は期待値というか、気持ちの変化を学生に数値化してもらい、実証実験の効果を見られるようにしているので、そのやり方で進めようと考えています。受講前と後のアンケートの比較は教える側にとっても学生のモチベーションが分かるのでその方法で進めたいと思っています。

【藤原委員】それぞれ違う内容で取り組むが、学生にワークシートを書かせるにしても自由記述にするのか。
【影山事務局責任者】現段階では、まだ考えが定まってはいません。
【金井委員】アンケートと連動していないと意味がないと思うので、ワークシートとアンケート項目は事務局からの提案がほしい。
【影山事務局責任者】受講前と後で、ワークシートとアンケートの項目をそれぞれ事務局から提案します。それに対してご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。また、卒業生のＯＢ・ＯＧへの声掛けや企業見学などは、先生方にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。等

３．その他（連絡事項等）
　特になし

４．閉　会
【影山事務局責任者】本日は、お忙しい中ありがとうございました。本日の会議はこれで終了となります。今後、個別でご相談していく形になるかと思いますが、引き続き、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

＜ 会　議　録 ＞

事業名	令和７年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証　工業系分野における高専連携の５年一貫教育プログラム開発・実証事業
会議名	第３回プログラム開発ＷＧ・第１回実証実験ＷＧ合同会議
開催日時	令和７年９月３日（水）　１０：００～１１：３０
場　所	ホスト：専門学校東京工科自動車大学校
出席者	【オンライン会議】 委員： 園田幸祐、今野祐二（計２名） オブザーバー： 甲田竜雄（計１名） 事務局： 影山裕介（事務局責任者）、都留菜々子、和泉明日香（計３名） （合計６名）

【 議 事 内 容 】

【 目　的 】

自動車整備士と環境分野において実証実験の方向を検討することを目的とした会議を開催した。

【 次　第 】

１_ １０：００　開　会

２_ １０：０５　議　事

（１）自動車整備分野の実証実験の方向性について意見交換

（２）環境分野の実証実験の方向性について意見交換

３_ １１：２０　その他（連絡事項等）

４_ １１：３０　閉　会

＜配布資料＞

【資料１】議事次第

【資料２】自動車整備士分野・環境分野の方向性について（ＰＰＴＸ）

【 内　容 】

以下、次第に沿って会議が進められた

１．開　会

【影山事務局責任者】本日は、自動車整備士分野と環境分野の実証実験で専門学校１年生を

対象にどのような教育プログラム開発をすれば良いのか、その方向性についてご意見を伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

２．議　事

【影山事務局責任者】本年度のテーマは学びの意味付けで、専門学校１年生を対象とした内容で進めたいと思っています。実証実験の参加者は当校１年生で進めたいと思っています。実際に学校教育と仕事がどのようにつながっているのかイメージできるような内容を実証実験に落とし込んでいきたいと思います。また、文科省委託事業ということで、何度もお話していますが、わが校のみが使えるものではなく、他の学校も使用できる汎用性のある内容で進めていきたいと思います。実証実験は、１０月～１２月で行いたいと考えています。そこで、どのような内容を取り入れたら仕事のイメージにつながるのか、専門学校１年生に対してどのようなことを実感してほしいのかご意見を伺いたいと思います。はじめに自動車ではそのように考えていますか。

【園田委員】自動車では、自分の成長を実感してほしい。出口は自動車整備士という明確な目標があるため、そこに向かって勉強をしているが、高校の時とどこが違っているのかを実感してほしい。内容は、タイヤ交換かロビンエンジンの組み立てのどちらかを考えている。

【影山事務局責任者】文科省委託事業の計画では、自動車整備士を目指す当校の１年生が高校生に教えるということを考えていますが、そこは可能でしょうか。これまで学んできた技術を実習の場で講師となって教えることで成長の実感が味わえるというようなイメージですが。

【園田委員】１年生に自分の成長の場を与える機会があるのは、これからの学習意欲にもつながるため、良いと思う。ロビンエンジンの組み立ては、高校生に向けて色々やっているので、タイヤ交換が良いと思うがどうか。

【影山事務局責任者】タイヤ交換ではどのようなことを指導させるのでしょうか、イメージはありますか。

【園田委員】自動車整備作業は、安全と段取り、確認をする習慣が常に求められている。その視点から、タイヤ交換とタイヤローテーションの重要性について、安全面、走行性能、タイヤ寿命の観点から正しい知識を身に付けさせることにつなげたいと思う。伝える、教える立場になって自分の理解度と成長度合いを客観的に見られると思う。

【影山事務局責任者】学生主導でできそうでしょうか。

【園田委員】補助は必要だが、できると思う。

【影山事務局責任者】ありがとうございます。では次に環境ではいかがでしょうか。

【今野委員】前提として環境は幅広く、自動車みたいに何に対してという明確な目標を定めづらく、生き物が住むにはどのようにしたらよいのだろうという漠然的なものに陥りがちになる。そこで水ｉｎｇさんがカードを使った体験型教育をしているので、それで学生には学習と社会貢献の意味について実感してもらいたいと思う。１年生は環境全体のことやＳＤＧｓ全体のことについては学んでいるため、その学習の意味付けとして取り入れたいと思う。

【影山事務局責任者】その体験型研修の内容と時間はどれほど要するのでしょうか現時点で分かりますか。
【今野委員】企業さんのオリジナル教材であるから。内容は詳しくは聞いてみないと分からないが、ＳＤＧｓの理解から地方創生という考え方を持つ体験型の内容である。講義とグループワークで行う構成。時間はグループワークが長いため１日フルに使うイメージである。
【影山事務局責任者】企業さんへご協力の働きかけは大丈夫でしょうか。
【今野委員】連絡は可能である。
【甲田オブザーバー】学校として校長と一緒に企業さんに相談すると良いと思う。
【影山事務局責任者】ありがとうございます。では企業さんのご協力をいただくのはその方向で進めてください。また、ご提案の体験型教育がどのようなものであるか、事務局側に教えていただき、実際に実証実験につなげることができるか、打ち合わせを重ねていきたいと思います。次に、内容がある程度固まっている自動車ですが、実際に高校生を教えるとなるとどの高校さんにお願いできると思いますか。
【園田委員】どのような高校が良いのか。
【甲田オブザーバー】色々な高校さんと連携授業をしているが、その高校の卒業生が当校に入学しているところが良いと思う。
【影山事務局責任者】卒業生が当校に入学している高校さんにお願いしたいと考えています。本事業に協力いただいている中でございますか。
【園田委員】練馬工科さんの卒業生がいるので、そこが良いのではないか。
【影山事務局責任者】では、そこに声掛けをお願いしたいと思います。あと時期的なところですが、いつ頃でできそうですか。
【園田委員】１１月頃が調整しやすいため、その時期でお願いしたいと思う。
【影山事務局責任者】では、その方向で実証実験の準備を進めてください。事務局と打ち合わせしながらお願いします。また、学生さんには、前回、建築、インテリア、ＩｏＴ、データサイエンスの４分野会議でワークシートとアンケート項目について議論がありましたが、事務局からご提案します。そこから先生方と一緒に詰めていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。　等

３．その他（連絡事項等）
　特になし

４．閉　会
【影山事務局責任者】本日は、お忙しい中ありがとうございました。本日の会議はこれで終了となります。今後、個別でご相談していく形になるかと思いますが、引き続き、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

《MEMO》

本「成果報告書」は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、≪学校法人小山学園 専門学校東京工科自動車大学校≫が実施した令和７年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

令和７年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証

工業系分野における高専連携の５年一貫教育プログラム開発・実証　成果報告書

令和 ８年 ２月発行

発行所・連絡先

学校法人小山学園 専門学校東京工科自動車大学校
〒164-0001 東京都中野区中野 6-21-16
TEL 03-3360-8824　FAX 03-3360-8805
https://car.ttc.ac.jp/

本書の内容を無断で転記、転載することを禁じます。

専門学校
東京工科自動車大学校